# 東京大学大学院工学系研究科日本語教室

# 2020 年度　報告書

# Japanese Language Class Annual Report

***2020.4-2021.3***

***Japanese Language Class***
***School of Engineering***
***The University of Tokyo***

## はじめに

東京大学では、2020 年 3 月 18 日に五神総長による新型コロナウイルス感染拡大防止対策に係る表明があり、4 月 3 日にその対応と今後の方針が出され、4 月 5 日から他大学に先駆けてオンライン授業を開始することになった。日本語教室はその方針に従い、わずか 3 週間で対面授業とはまったく異なるオンライン授業を導入し、各教員に相当な準備と負担を求めることになった。この大転換が一気に実現できたことは、教職員が学生たちの学びを止めないという強い想いと、ICT スキルの習得に向けた多大な努力のたまものであり、心から敬意と感謝を表したい。

同期型のオンライン授業は、これまでの授業風景を一変させた。当初、緊急避難的に導入したオンライン授業は、その具体的な実施方法、教科書などの著作権、試験実施、評価などの難題が次々に押し寄せた。わずかのスタッフでこれらの問題解決に試行錯誤を繰り返した。そして、時間の経過とともに教職員全員の力で最初のハードルを乗り越えると、少しずつオンライン授業の長所が見え始めた。2020 年 7 月に日本語教室で行ったアンケート調査で、次学期の授業形態の希望を尋ねると、「対面授業」23%、「オンライン授業」37%、「対面授業とオンライン授業の併用」40% であり、12 月に実施した調査では、「対面授業」22%、「オンライン授業」41%、「対面授業とオンライン授業の併用」37%となった。12 月の結果では「オンライン授業」の希望者の割合が最も多かった。また、7 月および 12 月の同調査では、オンライン授業に 9 割以上の学生が満足していることも分かった。この結果は、学生がオンライン授業であれば、地理的、空間的、時間的制約から解放されるだけでなく、効率的に知識を習得するのに有効であることを体感したからではないだろうか。

一方、気をつけなければいけない点は、学生と教員間、学生間、教員間のコミュニケーションが希薄になることである。オンラインだけでは、教育や仕事を進めるのに不可欠な人間関係の構築、信頼関係や共感を醸成することが困難である。また、障害のある学生への合理的配慮についても対面授業と同様、検討すべきであろう。さらに留学生に特化した問題として、異なる文化、言語環境の中で孤立しがちな来日直後の留学生への対応がある。留学生の不安をすくい取り、必要な情報を速やかに提供する環境づくりが大切である。

今後はポストコロナを見据えて、新たな日本語教育モデルを探求していかなければならない。オンライン授業が継続する場合、教育の質保証と留学生支援の仕組みをしっかりと整えていく必要がある。そして、対面に適した要素やオンラインで提供できる要素の最適なバランスを考慮したハイブリッド型授業方法を検討し、その教材作成などを積極的に推し進めていきたい。

2021 年 3 月

工学系研究科国際工学教育推進機構　国際教育部門　日本語教室
古市由美子

# 目　　次

はじめに
第1章　日本語教室の概要 …… 1
1.1　運営と目的 …… 1
1.2　受講対象者および教職員 …… 2
1.3　学内日本語教育関連組織との連携 …… 3
1.4　年間スケジュール …… 5
第2章　日本語教育の実践と運営 …… 6
2.1　概要 …… 6
2.2　コースデザインの特徴 …… 7
2.3　コースの履修プロセス …… 9
2.4　日本語教育コースのシラバスおよび報告 …… 9
2.5　受講者と修了者 …… 95
2.6　日本語教室のコース評価 …… 106
2.7　言語使用実態調査 …… 119
第3章　日本文化事情・文化体験 …… 128
3.1　S1S2 日本文化体験 …… 128
3.2　A1A2 日本文化体験 …… 128
第4章　国際交流支援 …… 129
4.1　学生授業ボランティア …… 129
4.2　多言語交流会：International Lounge …… 132
第5章　海外協定校とのネットワークの構築と連携 …… 135
5.1　海外体験活動 …… 135
5.2　米国世界展開強化事業 …… 135
第6章　研究活動・教材作成 …… 140
6.1　日本語教室関連の研究活動と成果 …… 140
6.2　日本語教育の専門分野における実践・研究 …… 141
6.3　日本語教室関連の教材作成 …… 141
第7章　今後の課題 …… 144
7.1　日本語教育および日本文化事情教育 …… 144
7.2　留学生と日本人学生の国際交流支援、日本人学生の国際化教育の促進 …… 145
7.3　実践研究および教材開発 …… 145

---

巻末資料
2020S1S2/A1A2 概要・時間割 …… 146
受講者・修了者データ …… 154
Can Do Statements …… 162
言語背景調査・コース評価 …… 163
ポスター（学生授業ボランティア、International Lounge） …… 167

# 第１章　日本語教室の概要

## 1.1　運営と目的

工学系研究科日本語教室は 1981 年に設置され、2011 年度からは工学系研究科国際工学教育推進機構国際事業推進センター下に配置された。2020 年４月、国際工学教育推進機構の組織変更があり、日本語教室は国際教育部門に配置された。そして、六川修一教授の下で日本語と日本文化の教育実践を行っている。日本語科目は、2015 年度に工学部・工学系研究科の教育問題検討会で審議、承認されて以来、単位付与の科目として実施されている。

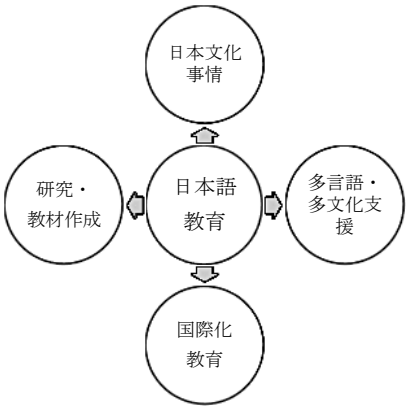



図１　日本語教室の目的

日本語教室は、留学生・研究員を取り巻く環境づくりの一環として、円滑な研究生活および日常生活の実現のための日本語教育・日本文化事情教育を提供することを目標としている。

また、近年、日本語教育の分野は、国際化教育の観点から留学生と日本人学生の両方を対象とした多文化理解教育、すなわち、国際感覚を鍛え、世界の多様な人々と共に生きるための力を育成する教育へと領域を拡大しつつある。当日本語教室でも、留学生が様々な背景を持つ他者と国籍、専攻を超えて関係を構築し、多文化理解を深めることを目標とするのに加え、本教室で日本語を学ぶ場が留学生の居場所になるだけでなく、留学生が持つ文化を日本人学生などに発信する場になることも目指している。

2020年度は新型コロナウィルスの影響により、対面ではなく、オンラインを通じての言語教育や交流の場を提供することとなった。

以下の5つは、本日本語教室が目指す具体的な目標である。

１　留学生・研究員などに対する研究・生活支援としての日本語教育
２　留学生・研究員などに対する日本文化事情教育
３　留学生・日本人の交流および多言語・多文化支援
４　国際化推進の一環として、日本人学生の国際化教育
５　工学系に特化した専門日本語教育の実践研究と教材開発

1. To provide Japanese language education to support academic life and life in Japan of international students and researchers.
2. To provide Japanese cultural education to international students and researchers.
3. To promote and develop friendship and understanding amongst multi-lingual and multi-cultural group of people.
4. To broaden Japanese students' knowledge and understanding of other cultures as a

part of internationalization.

5. To conduct research on Japanese language education especially for science and engineering area, and to develop new learning materials.

### 1.2　受講対象者および教職員

当日本語教室の対象者は、工学系研究科、情報理工学系研究科および新領域創成科学研究科の修士、博士、交換留学生（学部、大学院）、研究生、研究員、インターンシップ生とその配偶者である。2014 年度から全学交換留学生（USTEP）の受け入れを開始、また、他研究科の修士、博士、交換留学生、研究生も受け入れている。

日本語教室の教職員は、今年度9月より特任准教授の牛山和子が加わり、現在教授1名、特任准教授1名、特任助教2名、非常勤講師11名、職員2名である。（各職位の氏名は下記の通り）。

教授：古市由美子

特任准教授：牛山和子（2020年9月から）

特任助教：岡葉子・金瑜眞

非常勤講師：猪狩美保・内田あゆみ・大西由美・片岡さゆり・米谷章子・佐藤瑞恵・藤井明子・中村亜美（2020年9月から）・ハワード文江・宮瀬真理・山口真紀

職員：早坂美和子・山畑めぐみ

## 1.3　学内日本語教育関連組織との連携

### 1.3.1　東京大学内の日本語教育プログラム

東京大学には 3 つのキャンパスで多様な日本語教育プログラムが開講されている（図 2 参照）。

本郷キャンパスでは、日本語教育センター、工学系研究科・工学部、人文社会系研究科・文学部、薬学系研究科・薬学部で日本語教育プログラムが開講されている。日本語教育センターは、所属を問わず、全留学生、研究者、配偶者の日本語教育を担当している。工学系研究科・工学部、人文社会学系研究科・文学部日本語教室は、所属留学生、研究者、配偶者を主な対象者とし、全留学生を定員の範囲内で受け入れている。薬学研究科・薬学部は所属の留学生、研究者、配偶者の日本語教育を担当している。

工学系研究科内には、当教室のほかに、4 つの専攻日本語教室がある。当日本語教室は工学系研究科、報理工学系研究科、および新領域創成科学研究科の留学生、研究生、研究員、USTEP(全学交換留学生)、配偶者などを対象にしているのに対し、専攻日本語教室は専攻の留学生が主な対象である。専攻日本語教室は、設立年度順に社会基盤学日本語教室（1982 年）、都市工学日本語教室（1987 年）、システム創成系日本語教室（1989 年）、IME 大学院特別コース（2001 年）の 4 つで、各々が独立し、日本語教育を行っている。

駒場 I キャンパスでは、①PEAK（専門を主に英語で学ぶ正規課程プログラム）、②KOMSTEP （総合文化研究科・教養学部交換留学）と USTEP(全学交換留学)、③前期課程日本語（専門を主に日本語で学ぶ正規課程生の基礎（外国語科目）、④補講（単位取得のできないコース）の日本語科目が提供されており、駒場 II キャンパスでは、「駒場リサーチキャンパス日本語教室」で日本語コースを開講している。

柏キャンパスでは、新領域創成科学研究科国際交流室日本語教室で日本語プログラムが提供されている。

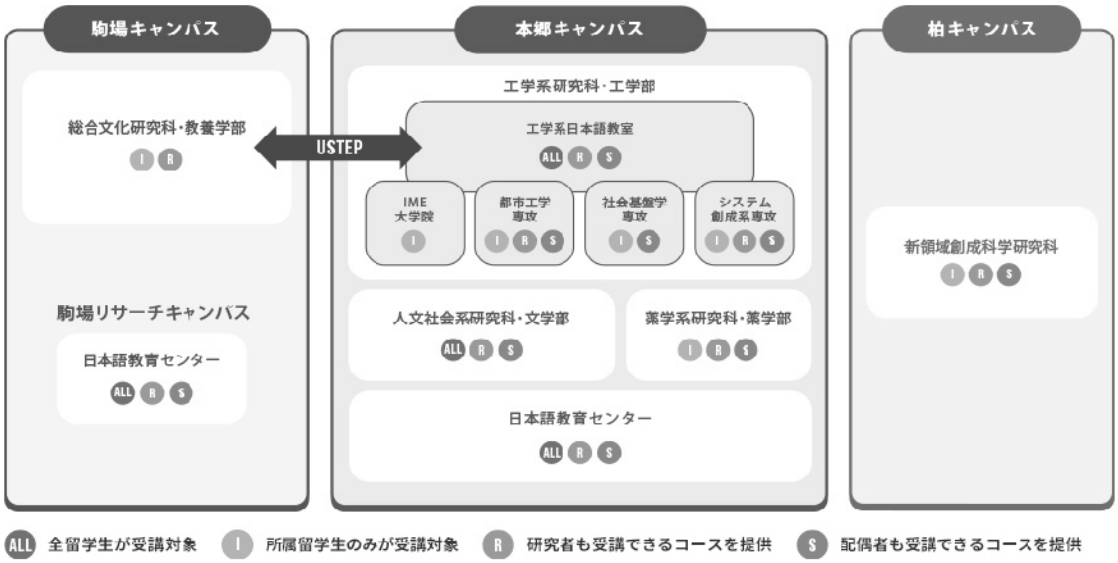



図 2 東京大学の日本語教育の概要（https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/jle/ja/index.html）

1.3.2　東京大学内および工学系研究科内日本語教室との連携

今年度は日本語教育連携企画室主催の日本語教員連絡会が年 2 回開催された。第 1 回目（2020 年 7 月 30 日）は、本郷キャンパス内の日本語教育センター、工学系研究科日本語教室、人文社会系研究科日本語教室の日本語教員がオンラインで会議を実施し、S1S2 のオンライン授業に関する工夫や課題について報告を行った。第 2 回（2020 年 11 月 12 日）の連絡会では、本郷キャンパスに加えて、駒場キャンパスの日本語教員が加わり、A1A2 のオンライン授業、将来的なハイブリッド授業の取り組み等、各日本語教室の活動状況と課題を共有し、その解決に向けて議論した。

2021 年 3 月 5 日に第 20 回工学系研究科日本語教室年次報告会をオンラインで実施した。当教室及び 4 つの専攻日本語教室は、カリキュラム、活動内容、課題などについて報告を行った。今年度は主にオンライン授業における課題とその解決について質疑が行われた。2016 年度から都市工学日本語教室、システム創成系日本語教室が STAR（Student Tools for Access and Review）を共有することによって、3 教室のレベルが統一され、定員内であれば他専攻の学生も受け入れることができるようになった。また、当教室とシステム創成系日本語教室、社会基盤学日本語教室が初級テキストを同一にすることによって、教室間の学生移動が容易になった。今後も年次報告会などで議論を重ね、教室間の交流と連携を強化していきたい。

### 1.4　年間スケジュール

2020 年度の日本語教室のスケジュールは、以下の通りである。

[2020 年]

4 月　新入生オリエンテーション（工学系・情報理工学系研究科）
S1S2 学期授業開始≪オンライン≫（4 月 3 日-7 月 22 日）
授業ボランティア受け入れ
第 1 回工学系研究科日本語教室連絡会

6 月　S2 入門コース開始≪オンライン≫（6 月 2 日-7 月 22 日）
第 2 回工学系研究科日本語教室連絡会

7 月　工学系・情報理工学系新規留学生のための合同ガイダンス（留学生チーム主催）
令和 2 年第 1 回日本語教員連絡会（日本語教育連携企画主催）
S1S2 授業終了

8 月　工学系研究科日本語教室教師会≪オンライン≫
2020 年度 A1A2 学期時間割・概要を HP に掲載、登録開始

9 月　A1A2 学期授業開始≪オンライン≫（9 月 25 日-1 月 22 日）

10 月　新入生オリエンテーション（工学系・情報理工学系研究科）
体験活動授業ボランティア受け入れ
ビジターセッション自由会話をオンラインにて実施（60 分・全 7 回）
第 3 回工学系研究科日本語教室連絡会

11 月　A2 入門コース開始≪オンライン≫（11 月 19 日-1 月 22 日）
令和 2 年第 2 回日本語教員連絡会（日本語教育連携企画主催）
第 4 回工学系研究科日本語教室連絡会

12 月　冬休み（12 月 28 日-1 月 3 日）
第 5 回工学系研究科日本語教室連絡会

[2021 年]

1 月　A1A2 授業終了
工学系研究科日本語教室教師会≪オンライン≫

2 月　カリフォルニア工科大学 COIL 型教育の実施(2 月 11 日- 3 月 25 日）

3 月　第 20 回工学系研究科日本語教育年次報告会
2021 年度 S1S2 時間割・概要を HP に掲載、登録開始（STAR システム開始）

# 第２章　日本語教育の実践と運営

## 2.1　概要

日本語科目は、留学生を対象としており、2015年度に単位化されて以来、原則1コマ2単位が付与されている。

レベルは、初級1から上級2まで7レベルに分かれており、総合、会話、聴解、読解、文章とその他のコース（専門語彙・漢字、多文化理解プロジェクト[1]、日本組織事情）がある。

開講日程は、工学系研究科と同様で、4月からS1S2（14週間）、9月からA1A2（14週間）としている。各学期の時間割、概要、シラバスは、当日本語教室のホームページに掲載されている（http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/）。

授業は1コマ105分で、1限目8時30分～10時15分、2限目10時25分～12時10分、3限目13時～14時45分、4限目14時55分～16時40分である。

日本語教室のオフィスは工学部8号館1階128B号室、非常勤講師室は2階88S室である。当教室は、8号館第一講義室（123号室）に加え、2階88M室、88L室で授業を行っている。また、324室（B,C）、701室、722室を借用している。さらに、第一会議室（132号室）、第二会議室（130号室）も、必要に応じて教室として使用しているが、学期を通して使用できないという制限がある。

2020年度は新型コロナウィルスの影響により、オンラインビデオ会議アプリケーションであるZOOMを用いて授業を全てオンラインで実施したほか、オフィスZoomを運用し、オンライン上で学生対応やコンサルテーション等を行った。

表１　工学系日本語教室　レベル別コース

| ｽｷﾙ／ﾚﾍﾞﾙ | 総合 | | | 聴解 | 会話 | 読解 | 文章 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | レギュラー | インテンシブ | | | | | | |
| 初級Ⅰ | 初級１（3） | ｲﾝﾃﾝｼﾌﾞ 初級Ⅰ（5） | ＊入門（3） | | | | | |
| | 初級２（2） | | | | | | | |
| 初級Ⅱ | 初級３（2） | ｲﾝﾃﾝｼﾌﾞ 初級Ⅱ（4） | | | | | | |
| | 初級４（2） | | | | | | | |
| 中級１ | 総合(2) | | | 聴解(1) | 会話(1) | 専門読解(1) | 文章(1) | |
| 中級２ | 総合(1) | | | 聴解(1) | 会話(1) | 読解(1) | 文章(1) | 専門語彙・漢字(1) |
| 中級３ | 総合(1) | | | 聴解(1) | 会話(1) | 専門読解(1) | 文章(1) | 多文化理解ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ(1) |

[1] 「多文化理解プロジェクト」は、日本人学生も例外的に受け入れて留学生と日本人学生で協働的学習を進めてきたが、2020 年度は新型コロナウィルスの影響により開講しなかった。

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 上級 | 総合(1) | | 聴解<br>(1) | 会話<br>(1) | 読解<br>(1) | 文章<br>(1) | 日本組織事情<br>(1) |
| 上級２ | 総合（1） | | | 会話<br>(1) | | 文章<br>(1) | |

＊入門はS2/A2に開講　（　）内はコマ数

### 2.2　コースデザインの特徴

当日本語教室では、多様な初級コースを提供している。また、工学系および情報理工学系の大学院生が主な対象者であることを踏まえ、中上級レベルでは、工学系に特化した日本語教育を実施している。さらに、専門分野の講義・実験と並行して、日本語科目が選択できるように、コース選択のバリエーションや時間割設定上で工夫をしている。以下に、日本語科目のコースデザインの特長をまとめた。

（1）バリエーション豊かな初級日本語コース

工学系研究科では、研究活動に用いる言語は主に英語であるが、日本社会での生活には、やはり基礎的な日本語の運用力が必要となる。そこで、さまざまな留学生のニーズに合わせた多様な初級日本語コースを提供している。日本語未習学者を対象とするコースは次の通りである。

・レギュラーコース　　：週２回　全２コマ（初級１は全３コマ）
・インテンシブ初級Ⅰコース：週３回　全５コマの集中コース
・入門コース　　：S2/A2 から開始する週２回　全３コマ

レギュラーコースは、初級１、２、３、４に分かれており、修士・博士の学生が専門科目との両立を目指しながら日本語を習得するコースである。インテンシブコースは、集中的かつ効率的に基礎的な日本語を習得するコースで、インテンシブ初級Ⅰはレギュラーコースの初級１と２の内容、インテンシブ初級Ⅱは、レギュラーコースの初級３と４の内容をS1S2／A1A2 で修了する。入門コースは S2 および A2 に開講され、基礎的な日本語の口頭表現に焦点を絞って習得するコースである。このように、学習時間数、開講日にバリエーションを設け、多様なニーズを持つ留学生が学習目的や学習状況によって日本語を学べるよう工夫している。

（2）スキル別の中級・上級日本語コース

中級 1～3 および上級レベルは、総合コースの他、聴解、会話、読解、文章のコースを 1 コマずつ設け、スキル別に日本語が学べるコースデザインにしている。スキル別にすることにより、多忙な留学生が実験や専門授業の合間に伸ばしたいスキルのコースを選択的に受講することができるようになっている。上級レベルについては、以前より課題として指摘されていた中級 3 を修了した学生と新規に上級レベルと判断された学生とのレベル差に対応

するために、2020 年度 S1S2 に上級 2 を新設[2]し、2019 年度までの上級は上級 1 に変更した。

（3）工学系に特化した専門日本語教育

当日本語教室は、工学系研究科、情報理工学系研究科および新領域創成科学研究科の学生などを対象としていることから、生活で使われる日本語だけでなく、研究室でよく用いられる専門的な語彙や表現の指導も行っている。そのコースの一つである「中級 1 専門読解」コースでは、東京大学工学部の広報誌『Ttime!』の記事に基づいた東京大学オリジナルのオンライン読解教材を大学総合教育研究センターと共同で開発した。この教材は東京大学の研究内容に関する文章の読解、語彙、文型、表現の習得を目指している。「中級 2 専門語彙・漢字」では、コーパス研究チームで調査・研究した結果をもとに、専門語彙、漢字教育を行っている。「中級 3 専門読解」では、中級 1 専門読解と同様に、『Ttime!』の記事をもとに作成した工学系の研究内容に関する文章を読み、専門分野に関する語彙力、読解力の育成を目指している。このように、当日本語教室で工学系に特化したオリジナル教材を作成し、日本語教育を実施している。

（4）多文化理解教育

中級 3 レベル以上を対象とする「多文化理解プロジェクト」では、多様な背景を持つ留学生がそれぞれの文化などを発信する「多文化理解ワークショップ」を日本の小学校・中学校で実施することで、地域社会への多文化理解に貢献している。この多文化理解プロジェクトは、学部・大学院の共通科目として開講され、留学生だけでなく日本人学生も履修し、単位が取得できる。2020 年度は、新型コロナウィルスの影響により開講しなかった。

（5）就職支援

「日本組織事情」は、日本で就職を希望する留学生を対象とし、ビジネスマナーや就職活動のための知識や実践力を養うものである。優秀な外国人人材が日本の産業界などで活躍できる道が広がることが期待できる。日本企業のグローバル化や経済の活性化など社会的な波及効果が見込まれる。

---

[2] 2020 年度は、上級 2 の総合、会話、文章コースを開講した。その準備として，2019A1A2 では、この 3 コースの 2 セクションにレベル差をつけて実施した。

## 2.3　コースの履修プロセス

コースの履修登録のプロセスは、次の通りである（図1参照）。開講1か月前に日本語教室のHPに時間割・概要・シラバスを掲載し、各専攻事務室に周知した後、STAR(Student Tools for Access and Review)システムを通したオンラインコース登録を開始する。

日本語教室で運営するコース履修を希望する学生は、レベル判定のためのプレイスメントテストを受ける。まず、「Can Do Statements（巻末資料参照）」に基づいて作成した日本語レベルを自己評価し、そのレベルに基づき、スキル別（文法、読解、聴解、作文）のテストを受ける。その判定結果に応じて表示される履修可能なコースから希望科目を選び、登録する。

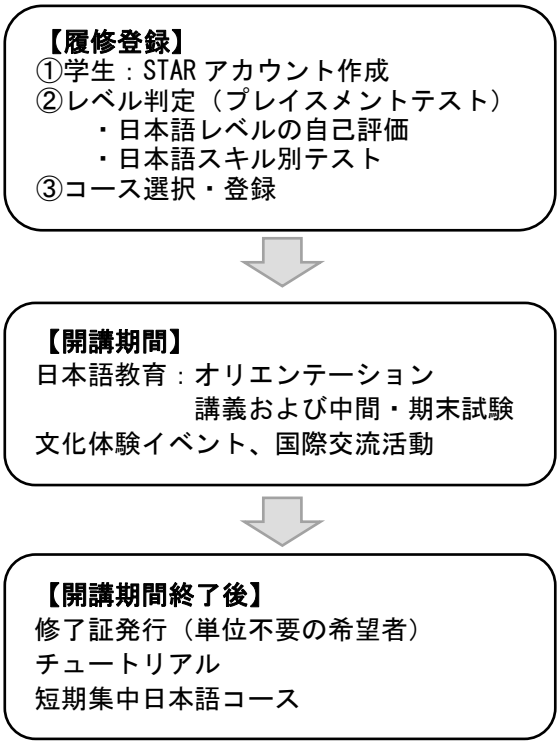



図１　コース履修のプロセス

このように、オンライン上で登録が可能なため、渡日前に日本語コースを決定することができる。

各コースの第1週目はオリエンテーション・ウィークである。教師はオリエンテーション・ガイドに沿ってコースのレベルや内容、スケジュールの説明を行う。その一方で、履修登録をした留学生がそのコースのレベルに合っているかどうかを確認し、レベル変更を希望する留学生に対応する。

開講期間中には、日本語の講義の実施以外に、文化体験として、生け花や茶道体験、着付け体験などの文化的なイベントの企画と実践、シニアボランティアとの自由会話を行うビジターセッションやInternational Lounge （IL）、日本人学生の授業ボランティアの実施など、日本人と留学生の交流支援を行う。2020年度は、新型コロナウィルスの影響により、A1A2学期にオンラインで実施した。

開講期間終了後、単位を必要とせず、規定の要件を満たした学生には、希望に応じて修了証を発行する。

## 2.4　日本語教育コースのシラバスおよび報告

本節では、今年度に実施した各コースの実践とシラバスおよびチュートリアル[3]について報告する。

[3]日本語教室では、2015 年度より、週に 1 回（一人 45 分）「チュートリアルセッション」の時間を設け、授業内容の復習や研究計画書・エントリーシート等の添削など、授業では対応できない個々のニーズに合わせた日本語学習支援を行っている。2020 年度は夏休みと冬休みのそれぞれにおいて約 2 週間に渡り「チュートリアルセッション」を実施した。

# 入門

2020年度S1S2

| | | |
|---|---|---|
| レベル | : | 入門 |
| スキル | : | 総合 |
| 開講期間 | : | 2020/ 06/ 02 - 2020/ 07/ 22 |
| 時間 | : | 13:00 - 14:45 火曜日<br>14:55 - 16:40 火曜日<br>13:00 - 14:45 木曜日 |
| 場所 | : | 工学部8号館　123教室 |
| 学習目標 | : | 初級前半の文型を習得し、日常生活での基本的なコミュニケーションができる。<br>カタカナ、ひらがなの認識ができる。 |
| 対象 | : | はじめて日本語を勉強する人。短期滞在者対象。 |
| テキスト | : | 『Basic Japanese for Students はかせ1』（スリーエーネットワーク）<br>まるごと　プラス　Learning Japanese　http://www.marugotoweb.jp/ |
| 評価 | : | 教室活動5%、課題10%、かなクイズ15%、語彙クイズ15%、中間試験20%、 学期末試験20%、学期末口頭発表15%<br>・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。<br>1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験<br>・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%<br>・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。 |
| その他 | : | 1. 単位3認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院3799-901-1, 学部FEN-JL4m01L1.<br>2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。<br>3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。<br>4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。<br>5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。<br>6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。<br>7. Zoom address 火曜日 https://zoom.us/j/92866709814 木曜日　https://zoom.us/j/94167340459 |
| 担当 | : | 金（キム）ユジン KIM Youjin, 山口 真紀 YAMAGUCHI Maki<br>nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826 |

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 6/ 2 | 火 | オリエンテーション, L1 |
| 2 | 6/ 2 | 火 | カタカナ（ア～サ行） |
| 3 | 6/ 4 | 木 | L2, 語彙クイズL1, カタカナ（タ～ハ行） |
| 4 | 6/ 9 | 火 | L3, L4, 語彙クイズL2 |
| 5 | 6/ 9 | 火 | カタカナ（マ～ワ行） |
| 6 | 6/ 11 | 木 | L4, 語彙クイズ L3, カタカナ（特殊音), 課題1配布 |
| 7 | 6/ 16 | 火 | L5, 語彙クイズL4 |
| 8 | 6/ 16 | 火 | カタカナ復習, 課題1締切 |
| 9 | 6/ 18 | 木 | 語彙クイズL5, カタカナクイズ, 中間試験, 課題2配布 |
| 10 | 6/ 23 | 火 | L6, L7 |
| 11 | 6/ 23 | 火 | ひらがな（あ～さ行), 課題2締切 |
| 12 | 6/ 25 | 木 | L8, 語彙クイズ L6&L7, ひらがな（た～は行), 中間試験Feedback, 課題3配布 |
| 13 | 6/ 30 | 火 | L9, L11(形容詞導入）, 語彙クイズ L8 |
| 14 | 6/ 30 | 火 | ひらがな（ま～わ行）, 課題3締切, 課題4配布 |
| 15 | 7/ 2 | 木 | L12, 語彙クイズL9&L11, ひらがな（特殊音）, 課題4締め切り,課題5配布 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 16 | 7/ 7 | 火 | L13, 語彙クイズL12, ひらがな（復習）, 課題5締切 |
| 17 | 7/ 7 | 火 | 学期末口頭発表準備(Intro,Title) |
| 18 | 7/ 9 | 木 | L14, 語彙クイズ L13, ひらがなクイズ, 口頭発表 first draft 締切 |
| 19 | 7/ 14 | 火 | 【休講】補講期間のため |
| 20 | 7/ 14 | 火 | 【休講】補講期間のため |
| 21 | 7/ 16 | 木 | 期末試験、口頭発表 first draft 返却 |
| 22 | 7/ 21 | 火 | 学期末口頭発表準備(Second draft, PPT, Rehearsal) |
| 23 | 7/ 21 | 火 | 学期末口頭発表, 期末試験 Feedback |

# 入門

報告者：金 瑜眞・山口 真紀

## 1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

このコースは、日本語ゼロ初級の学習者、特に、新学期開始以降に来日した学習者や、スケジュール及び日本語レベルや進度の関係で初級１コースの履修が難しい学習者を対象に、日常生活において必要な表現・語彙を教えることを目的としている。6 月 2 日に開講し、週 3 コマ、7 週間の授業を行った。教科書は『はかせ１』（スリーエーネットワーク）を用い、授業は主に 1）新出語彙の導入、2）文型の導入、3）会話練習やインフォーメーションギャップなどによる応用練習の流れで行った。

【授業の内容】

7 週間という短い授業期間のため、『はかせ１』の L1～9 及び L11～14 を扱った。教科書のトピックに沿って授業を進め、挨拶、数字、時刻、動詞、形容詞などを学び、その定着をはかった。使用教科書はローマ字が併記されているものであったが、文字において、カタカナとひらがなの導入を行い、基本的な文字習得ができるように指導した。導入が終わった時点で、それぞれカタカナとひらがなのクイズを実施し、定着を図った。

## 2. その他

本コースでは、上記のカタカナ・ひらがなクイズに加え、中間試験、期末試験、語彙クイズ、課題、期末口頭発表も評価に入れた。語彙クイズは復習型で各課終了後に実施した。課題は学期を通して 5 回、宿題としてプリントを配布した。短期滞在の学習者が文字に親しみを持てるよう、メニューなどからカタカナのことばをさがす「カタカナハンティング」や習った表現を使用した「日記」などを課題とした。

## 3. まとめ・今後の課題

今学期は、新型コロナウィルスの影響で、交換留学生などの短期滞在の学生数が減少したことにより、受講者は１名のみであったが、毎回の授業に熱心に取り組んでいた。しかし、学期末、本業の研究が多忙になり、修了には至らなかった。また、本コースでは、漢字指導は行わないが、7 週間という短期間で、文型と文字の導入を行うため、学習量に負担を感じたという受講者からの声があった。単位取得が可能であることを考慮すればこれ以上学習量を減らすことは困難であるため、今後は、学期始めから予習・復習の重要性を学習者に確認したいと考える。

# インテンシブ初級 I

2020年度S1S2

**レベル** : **初級1 レベル**

**スキル** : **総合**

**開講期間** : 2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22

**時間** : 08:30 - 10:15 **火曜日**
10:25 - 12:10 **火曜日**
08:30 - 10:15 **水曜日**
10:25 - 12:10 **水曜日**
10:25 - 12:10 **金曜日**

**場所** : **工学部8号館** 88L**室**

**学習目標** : **入門レベルから初級前半**(L1-22)**の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。ひらがな・カタカナが書けるようになる。日本語能力試験**N5**相当の漢字を**110**字習得する。日常生活での基本的なコミュニケーションができる。**

**対象** : **はじめて日本語を勉強する人**

**テキスト** : **『大地1 メインテキスト』(スリーエーネットワーク)**
**『大地1 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)**
**『にほんごチャレンジ　かんじ**N4-5**』（アスク）**

**評価** : **教室活動**5%**、中間試験**20%**、学期末試験**20%**、学期末口頭発表**10%**、語彙クイズ**15%**、漢字クイズ**10%**、かなクイズ**5%**、文法クイズ**5%**、課題**10%

**・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。**
1) **出席率**70%**以上**　2) **学期末試験もしくは課題を受験**
**・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。**A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
**・中間・学期末試験の追試は実施日から**1**週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の**80%**が成績に反映される。クイズの追試は行わない。**

**その他** : 1. **単位**10**認定**　(**ただし、単位が不要な学生も履修可**) UTAS **コード：大学院** 3799-910-1**、学部** FEN-JL4m12L1**。** 2. **修了証は成績が**C**以上の**noncredit**の学生で希望者にのみ発行される。**3. **コーススケジュールは工学系研究科の学年暦に準じる 。** 4. 30**分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。**3**回の遅刻または早退は**1**回の欠席とみなす。** 5. **第**1**週目はオリエンテーション･ウィークのため出席数に含めない。** 6. **授業内容と教室は変わる可能性がある。**7.Zoom address:
**火曜日：**https://zoom.us/j/644298722 **水曜日：**https://zoom.us/j/128198319 **金曜日：**https://zoom.us/j/495566088

**担当** : **宮瀬 真理** MIYASE　Mari , **金（キム）ユジン** KIM Youjin, **ハワード　文江** HOWARD Fumie

nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 3 | 金 | **オリエンテーション**, **はじめましょう**, Japanese Writing System |
| 2 | 4/ 7 | 火 | L1, **ひらがな**1 |
| 3 | 4/ 7 | 火 | L1 |
| 4 | 4/ 8 | 水 | L2, **ひらがな**2 |
| 5 | 4/ 8 | 水 | L2 |
| 6 | 4/ 10 | 金 | **応用練習**（L1&L2) |
| 7 | 4/ 14 | 火 | L3, **ひらがな**3 |
| 8 | 4/ 14 | 火 | L3 |
| 9 | 4/ 15 | 水 | L4, **ひらがな**4 |
| 10 | 4/ 15 | 水 | L4 |
| 11 | 4/ 17 | 金 | **応用練習**（L3&L4), **ひらがな**1-4**まとめ** |
| 12 | 4/ 21 | 火 | L5, **カタカナ**1 |
| 13 | 4/ 21 | 火 | L5 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 14 | 4/ 22 | 水 | L6, カタカナ2 |
| 15 | 4/ 22 | 水 | L6 |
| 16 | 4/ 24 | 金 | まとめ1, カタカナ3 |
| 17 | 4/ 28 | 火 | L7, 語彙クイズL7, カタカナ4 |
| 18 | 4/ 28 | 火 | L7 |
| 19 | 4/ 29 | 水 | 祝日 |
| 20 | 4/ 29 | 水 | 祝日 |
| 21 | 5/ 1 | 金 | 応用練習（L7）, ひらがなクイズ, 漢字（1-5） |
| 22 | 5/ 5 | 火 | 祝日 |
| 23 | 5/ 5 | 火 | 祝日 |
| 24 | 5/ 6 | 水 | 祝日 |
| 25 | 5/ 6 | 水 | 祝日 |
| 26 | 5/ 7 | 木 | 【水曜授業】L8, L8語彙クイズ, カタカナクイズ, 漢字（6-10), 作文課題①配布（提出締切5/8） |
| 27 | 5/ 7 | 木 | 【水曜授業】L8 |
| 28 | 5/ 8 | 金 | 応用練習（L8）,漢字クイズ(1-10),作文課題①回収 |
| 29 | 5/ 12 | 火 | L9, L9語彙クイズ, 漢字（11-15), 作文課題②配布（提出締切5/13） |
| 30 | 5/ 12 | 火 | L9 |
| 31 | 5/ 13 | 水 | L10, L10語彙クイズ, 漢字（16-20),作文課題②回収 |
| 32 | 5/ 13 | 水 | L10 |
| 33 | 5/ 15 | 金 | 応用練習（L9＆L10）,漢字クイズ(11-20) |
| 34 | 5/ 19 | 火 | L11, L11語彙クイズ, 漢字（21-25） |
| 35 | 5/ 19 | 火 | L11 |
| 36 | 5/ 20 | 水 | L12, 語彙クイズL12, 漢字(26-30）, 作文課題③配布（提出締切 5/27) |
| 37 | 5/ 20 | 水 | L12 |
| 38 | 5/ 22 | 金 | 【休講】補講期間のため |
| 39 | 5/ 26 | 火 | 応用練習(L11-L12), 漢字クイズ(21-30) |
| 40 | 5/ 26 | 火 | まとめ2, 復習（L1-L12), 漢字(31-35) |
| 41 | 5/ 27 | 水 | 中間発表導入,作文課題③回収 |
| 42 | 5/ 27 | 水 | 中間試験(L1-L12) |
| 43 | 5/ 29 | 金 | 【休講】補講期間のため |
| 44 | 6/ 2 | 火 | L13, L13語彙クイズ, 漢字（36-40） |
| 45 | 6/ 2 | 火 | L13 |
| 46 | 6/ 3 | 水 | L14, L14語彙クイズ, 漢字クイズ（31-40), 作文課題④配布（提出締切6/9） |
| 47 | 6/ 3 | 水 | L14 |
| 48 | 6/ 5 | 金 | 応用練習(L13&L14) |
| 49 | 6/ 9 | 火 | L15, L15語彙クイズ, 辞書形クイズ, 中間試験FB, 漢字（41-45）,作文課題④回収 |
| 50 | 6/ 9 | 火 | L15 |
| 51 | 6/ 10 | 水 | L16, L16語彙クイズ, て形クイズ, 作文課題⑤配布（提出締切6/12）,漢字(46-50), 中間発表とﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ |
| 52 | 6/ 10 | 水 | L16 |
| 53 | 6/ 12 | 金 | 応用練習(L15&L16), 漢字クイズ(41-50),作文課題⑤回収 |
| 54 | 6/ 16 | 火 | L17, L17語彙クイズ, 漢字（51-55） |
| 55 | 6/ 16 | 火 | L17 |
| 56 | 6/ 17 | 水 | L18, L18語彙クイズ, ない形クイズ, 漢字（56-60） |
| 57 | 6/ 17 | 水 | L18 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 58 | 6/ 19 | 金 | 応用練習(L17&L18), 漢字クイズ(51-60) |
| 59 | 6/ 23 | 火 | た形クイズ, 復習(L13-L18), 漢字(61-65) |
| 60 | 6/ 23 | 火 | まとめ3 |
| 61 | 6/ 24 | 水 | L19，L19語彙クイズ,漢字(66-70) |
| 62 | 6/ 24 | 水 | L19 |
| 63 | 6/ 26 | 金 | 応用練習(L19)，漢字クイズ(61-70) |
| 64 | 6/ 30 | 火 | L20, L20語彙クイズ, 普通形クイズ, 漢字(71-75),<br>作文課題⑥配布（提出締切7/1），期末口頭発表導入 |
| 65 | 6/ 30 | 火 | L20 |
| 66 | 7/ 1 | 水 | L21，L21語彙クイズ, 漢字(76-80), 作文課題⑥回収, 期末口頭発表準備2(タイトルの確認・宿題1st draft 締切7/6) |
| 67 | 7/ 1 | 水 | L21 |
| 68 | 7/ 3 | 金 | 応用練習(L20&L21)，漢字クイズ(71-80) |
| 69 | 7/ 7 | 火 | L22，L22語彙クイズ, 漢字(81-85), 期末口頭発表準備3(Check the submission of 1st draft 締切7/6) |
| 70 | 7/ 7 | 火 | L22 |
| 71 | 7/ 8 | 水 | 応用練習(L22), 漢字(86-90) |
| 72 | 7/ 8 | 水 | 漢字(91-100), 期末口頭発表準備 4（1st draft返却、リライト） |
| 73 | 7/ 10 | 金 | まとめ4, 漢字クイズ（81-90） |
| 74 | 7/ 14 | 火 | 【休講】補講期間のため |
| 75 | 7/ 14 | 火 | 【休講】補講期間のため |
| 76 | 7/ 15 | 水 | 【休講】補講期間のため |
| 77 | 7/ 15 | 水 | 【休講】補講期間のため |
| 78 | 7/ 17 | 金 | 復習(L13-L22) , 漢字クイズ(91-100) |
| 79 | 7/ 21 | 火 | 学期末試験(L1-L22) |
| 80 | 7/ 21 | 火 | 漢字(101-110), 期末口頭発表準備5(リハーサル・PPT確認・発音練習) |
| 81 | 7/ 22 | 水 | 学期末口頭発表 Final draft提出, 振り返り（１学期のまとめ） |
| 82 | 7/ 22 | 水 | 漢字クイズ(101-110) |

# インテンシブ初級 I

報告者：宮瀬 真理・金 瑜眞・ハワード 文江

## 1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは、はじめて日本語を学ぶ学習者を対象とした初級のインテンシブコースである。授業は週 3 回行われ、週 5 コマである。主教材として、スリーエーネットワーク社の「日本語初級 1 大地」を使用した。学習目標として、初級前半(L1-22)の文型および語彙を学習することで、総合的な日本語の運用力を身につけることを目標としている。文字については、ひらがな・カタカナを含め、日本語能力試験 N5 相当の漢字を 110 字習得することを目標として、アスク出版の「にほんごチャレンジかんじ N4-5」を使用して指導を行った。

【授業の内容】

本コースにおける内容および進度は、概ね次の通りである。火曜日と水曜日の授業において、各一つの課を終わらせるように進め、金曜日はその週に学習した課の応用練習を行った。また、毎課のはじめに語彙クイズを実施し、その後、文型の導入、パタンプラクティス、教科書の問題や会話練習などを行った。なお、各課の終了後は、文法クイズと聴解練習等を行い、学習した内容について確認を行った。その他、作文課題を与え、文法や語彙などの添削指導などを行った。今学期は新型コロナウィルスの影響により Zoom を使用しオンライン授業を実施した。また、オンライン授業への変更に伴い、実際の授業での練習の成果や口頭発話能力をより評価するため、期末試験の作文試験は会話試験に変更して実施した。

## 2. その他

学期の中間と学期末において、口頭発表を実施した。口頭発表の目的は、これまで学習した文型を使い口頭表現能力の練習を行うことと、インプットが多い授業の中でアウトプットの練習を行うことで、学習者が自分の能力をモニターする機会を提供することである。口頭発表は、2 分間のプレゼンテーションを行った後、1 分間の質疑応答を行った。学習者には、発表の前にスクリプトを作成・提出させ、担当教員が文法や構成等についてチェックするとともに、発表の際のパフォーマンスや発音等についてフィードバックを行った。

## 3. まとめ・今後の課題

本コースでは 4 名の受講者が海外から参加した。授業は日本時間に合わせて行われたが、時差があった受講者も含め、授業内での活動だけでなく、クイズや課題にもまじめに取り組んでいた。しかし、ゼロ初級である学生を対象に文字や発音指導をオンラインで行うことには制約も多く、学生個々人に対する十分なフィードバックができなかったのは課題である。また、口頭練習や聴解練習についても十分な練習時間を確保することが難しかった。今後は、録音課題や聴解課題を活用し、受講者の学習の機会を増やしたいと考える。

# 初級1

2020年度S1S2

| | | |
|---|---|---|
| レベル | : | 初級1 レベル |
| スキル | : | 総合 |
| 開講期間 | : | 2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22 |
| 時間 | : | 08:30 - 10:15 月曜日<br>10:25 - 12:10 水曜日<br>08:30 - 10:15 金曜日 |
| 場所 | : | 工学部8号館 123(A) |
| 学習目標 | : | 入門レベルから初級前半(L1-12)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。ひらがな・カタカナが書けるようになる。日本語能力試験N5相当の漢字を50字習得する。基本的なコミュニケーションができる。 |
| 対象 | : | はじめて日本語を勉強する人 |
| テキスト | : | 『大地1 メインテキスト』(スリーエーネットワーク)<br>『大地1 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク) |
| 評価 | : | 教室活動5%、中間試験20%、学期末試験20%、学期末口頭発表10%、語彙クイズ15%、漢字クイズ10%、かなクイズ5%、文法クイズ5%、課題10%<br>・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。<br>1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験<br>・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%<br>・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。(その場合は評価の80%が成績に反映される)　・クイズの追試は行わない |
| その他 | : | 1. 単位6認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院3799-904-1, 学部FEN-JL4m20L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。<br>6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。<br>7.Zoom ID 月曜日：https://zoom.us/j/273847340　水曜日：https://zoom.us/j/625507723　金曜日：https://zoom.us/j/410895877 |
| 担当 | : | 宮瀬 真理 MIYASE　Mari , 岡 葉子 OKA Yoko, 猪狩　美保 IGARI Miho, 米谷 章子 KOMETANI　Akiko<br>nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826 |

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 3 | 金 | オリエンテーション, L0(はじめましょう), 教室内で使う日本語, オンラインサイトの紹介 |
| 2 | 4/ 6 | 月 | L1(1,2,3), ひらがな(1) あ, か, が-行 |
| 3 | 4/ 8 | 水 | L1 (4,5), ひらがな(2) さ, ざ, た, だ-行 |
| 4 | 4/ 10 | 金 | L1 ふくしゅう, ひらがな(3) な, は, ば, ぱ-行 |
| 5 | 4/ 13 | 月 | L2(1,2,3,4), ひらがな(4) ま, や, ら, わ-行 |
| 6 | 4/ 15 | 水 | L2(5,6,7) |
| 7 | 4/ 17 | 金 | L3(1,2), ひらがな(5) ひらがな特殊音 |
| 8 | 4/ 20 | 月 | L3(3,4), ひらがな復習 |
| 9 | 4/ 22 | 水 | L4(1,2), ひらがな復習 |
| 10 | 4/ 24 | 金 | L4(3,4) |
| 11 | 4/ 27 | 月 | L2&L3&L4(応用練習), カタカナ(1) ア, カ, ガ, 長音 |
| 12 | 4/ 29 | 水 | 祝日 (Showa Day) |
| 13 | 5/ 1 | 金 | L5(1,2,3), ごいクイズL5, カタカナ(2)サ, タ, ザ, ダ-行 |
| 14 | 5/ 4 | 月 | 祝日 (みどりの日) |
| 15 | 5/ 6 | 水 | 祝日 (憲法記念日　振替日) |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 16 | 5/ 7 | 木 | 【水曜授業】L5(4,5), ひらがなクイズ, カタカナ(3) ナ, ハ, バ, パ-行 |
| 17 | 5/ 8 | 金 | L6(1,2,3), カタカナ(4) マ, ヤ, ラ, ワ-行 |
| 18 | 5/ 11 | 月 | L6(4,5), カタカナ(5) カタカナ特殊音 |
| 19 | 5/ 13 | 水 | ぶんぽうクイズ(動詞の活用),L5&L6（応用練習),<br>カタカナふくしゅう, まとめ1(L1-L6) |
| 20 | 5/ 15 | 金 | ふくしゅう, かんじ L1#1-5, カタカナクイズ |
| 21 | 5/ 18 | 月 | 中間テスト (L1-L6) |
| 22 | 5/ 20 | 水 | L7(1), ごいクイズL7, かんじL1#6-10 |
| 23 | 5/ 22 | 金 | 休講　【補講日】 |
| 24 | 5/ 25 | 月 | L7(2), かんじクイズL1（#1-10）, 中間テスト FB |
| 25 | 5/ 27 | 水 | L7(3,4), かんじ L2#11-15, 中間口頭発表導入 |
| 26 | 5/ 29 | 金 | 休講　【補講日】 |
| 27 | 6/ 1 | 月 | 休講　【中休み】 |
| 28 | 6/ 3 | 水 | L8(1,2), ごいクイズL8, かんじL2#16-20 |
| 29 | 6/ 5 | 金 | L8(3,4), かんじクイズL2（#11-20） |
| 30 | 6/ 8 | 月 | L8(5), 中間口頭発表 |
| 31 | 6/ 10 | 水 | L7,L8(応用練習), かんじL3#21-25,中間口頭発表振り返りシート提出 |
| 32 | 6/ 12 | 金 | L9(1,2), ごいクイズL9, かんじL3#26-30 |
| 33 | 6/ 15 | 月 | L9(3,4), かんじクイズL3(#21-30) |
| 34 | 6/ 17 | 水 | L10(1,2), ごいクイズL10, かんじL4#31-35 |
| 35 | 6/ 19 | 金 | L10(3,4), かんじL4#36-40 |
| 36 | 6/ 22 | 月 | L9&L10(応用練習), かんじクイズL4(#31-40) |
| 37 | 6/ 24 | 水 | L11(1,2,3), ごいクイズL11, かんじL5#41-45 |
| 38 | 6/ 26 | 金 | L11(4,5), かんじL5#46-50, 期末口頭発表導入 |
| 39 | 6/ 29 | 月 | L12(1,2), ごいクイズL12, かんじクイズL5(#41-50) |
| 40 | 7/ 1 | 水 | L12(3), かんじ復習, 期末口頭発表タイトル提出 |
| 41 | 7/ 3 | 金 | L12 使いましょう、期末口頭発表準備(初稿提出) |
| 42 | 7/ 6 | 月 | L11, L12（応用練習), まとめ2(L7-L12), かんじまとめクイズ1-5(#1-50) |
| 43 | 7/ 8 | 水 | 期末口頭発表準備（原稿修正） |
| 44 | 7/ 10 | 金 | ぶんぽうクイズ(形容詞の活用),期末口頭発表準備（第2稿提出） |
| 45 | 7/ 13 | 月 | ふくしゅう２ |
| 46 | 7/ 15 | 水 | 休講 【補講日】 |
| 47 | 7/ 17 | 金 | FP3 (PPT提出), パソコンを持ってくる |
| 48 | 7/ 20 | 月 | 期末テスト(L1-12) |
| 49 | 7/ 22 | 水 | 期末口頭発表, 期末テスト FB |

## 初級１

報告者：Ａクラス　宮瀬真理・岡葉子・猪狩美保
Ｂクラス　岡葉子・米谷章子

### 1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『大地１』（スリーエーネットワーク）の前半（L1～L12）を扱い、初級前半の文法項目の定着ならびに「読む、書く、聞く、話す」の４技能をバランスよく伸ばすことを目指した。授業は、月・水・金の週３回（1 回 105 分）で同期型オンライン授業の形態で行った。文字については、ひらがなとカタカナを導入した後、『にほんごチャレンジ N4-5 かんじ』（アスク）の L5 までの 50 字を、漢字シートを配布して指導した。

【授業の内容】

各課の初めにオンラインで語彙クイズを実施し、その課の文型の導入、基本練習を行った。文型練習後、扉会話や「使いましょう」の応用練習を実施し、さらなる定着を図った。並行して、文字の導入と練習、オンラインの文法クイズを実施した。復習の日には、『文法まとめリスニング』や『大地基礎問題集』から問題を抜粋して使用した。

学期半ばには、課題の一環としてクラス内の友人を対象としたインタビューを課し、タスクシートにまとめたものをクラスで発表した。さらに、学期末には総復習として PPT を使用した期末口頭発表を実施した。

### 2. その他

今年度は、COVID-19 の影響により、ゼロ初級の学生の参加が少なかった。A,B の 2 クラス編成で授業を行ったが、各クラスとも 5～7 名の小さい規模となった。そのうち海外から受講した学生が 5 名いた。

### 3. まとめ・今後の課題

＜A クラス＞

全体的に真面目で積極的に授業に取り組む学生が多く、会話タスクなども楽しそうに行っていた。授業外でも勉強をする学生が多く、期末口頭発表もよく準備し、聞きごたえのあるものが多かった。最終的に 6 名が修了した。

＜B クラス＞

授業が進むにつれ、クラス内でレベル差が開き、授業の進度についてくることが困難な学習者が見られ、3 名が途中で脱落し、最終的に 2 名しか終了できなかった。来学期は、学習に困難が見られる学生には、教員側から早めに声がけをし、適切なサポートをしたい。

# 初級2

2020年度S1S2

| | | |
|---|---|---|
| レベル | : | 初級 II |
| スキル | : | 総合 |
| 開講期間 | : | 2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22 |
| 時間 | : | 10:25 - 12:10 月曜日<br>08:30 - 10:15 水曜日 |
| 場所 | : | 初級2A: 工学部8号館 88L(月）、123号室（水） |
| 学習目標 | : | 初級前半(L13-22)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。日本語能力試験N5相当の漢字を60字習得する。日常生活での基本的なコミュニケーションができる。 |
| 対象 | : | 日本語を40時間程度勉強した人、初級1の修了者、ひらがな・カタカナの読み書きができる人 |
| テキスト | : | 『大地1 メインテキスト』(スリーエーネットワーク)<br>『大地1 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク) |
| 評価 | : | 教室活動5%、中間試験20%、学期末試験20%、学期末口頭発表10%、語彙クイズ15%、漢字クイズ10%、文法クイズ10%、課題10%<br>・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。<br>1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験<br>・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%<br>・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。 |
| その他 | : | 1. 単位4認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院3799-905-1、学部FEN-JL4m30L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。 3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない 。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。7.Zoom address: 月曜日 :https://zoom.us/j/987851865 水曜日:https://zoom.us/j/262420957 |
| 担当 | : | 金（キム）ユジン KIM Youjin, 岡 葉子 OKA Yoko, 藤井　明子 FUJII　Akiko<br>nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826 |

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 6 | 月 | オリエンテーション、レビュー＆チャレンジクイズ |
| 2 | 4/ 8 | 水 | L13(1-2) |
| 3 | 4/ 13 | 月 | L13(3-4)、Listening&Dialogue、Reading&Writing |
| 4 | 4/ 15 | 水 | L14(1-2)、漢字#51-55 |
| 5 | 4/ 20 | 月 | L14(3-4)、漢字#56-60 |
| 6 | 4/ 22 | 水 | L14(5)、L&D、R&W、課題1【配付】(締切:4/27) |
| 7 | 4/ 27 | 月 | 語彙クイズ(L15)、L15(1-3)、課題1【回収】 |
| 8 | 4/ 29 | 水 | 祝日 |
| 9 | 5/ 4 | 月 | 祝日 |
| 10 | 5/ 6 | 水 | 祝日 |
| 11 | 5/ 7 | 木 | 【水曜授業】文法クイズ（て形）、L15(4-5)、L&D、R&W、漢字#61-65 |
| 12 | 5/ 11 | 月 | 語彙クイズ(L16)、L16(1-2)、漢字#66-70 |
| 13 | 5/ 13 | 水 | 漢字クイズ(#61-70)、L16(3-4)、L&D、R&W、課題2【配付】(締切:5/18) |
| 14 | 5/ 18 | 月 | 語彙クイズ(L17)、L17(1-3)、漢字#71-75、課題2【回収】 |
| 15 | 5/ 20 | 水 | ない形クイズ、L17（4）、L&D、 R&W、 漢字76-80 |
| 16 | 5/ 25 | 月 | 漢字クイズ（#71-80）、復習(L13-17)、課題発表会の説明 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 17 | 5/ 27 | 水 | 中間試験(L13-17) |
| 18 | 6/ 1 | 月 | 【休講】中休み |
| 19 | 6/ 3 | 水 | 語彙クイズ(L18)、L18(1-3)、課題3【配付】(締切:6/15) |
| 20 | 6/ 8 | 月 | 文法クイズ（た形）、中間テストFB、L18（4）、L&D、漢字#81-85、課題発表会 |
| 21 | 6/ 10 | 水 | 語彙クイズ(L19)、L19（1）、漢字#86-90、まとめ3 |
| 22 | 6/ 15 | 月 | 漢字クイズ（#81-90）、L19(2-3)、L&D、R&W、課題3【回収】 |
| 23 | 6/ 17 | 水 | 語彙クイズ(L20)、L20(1,2-1,2-2,2-3)、課題4【配付】(締め切り:6/24) |
| 24 | 6/ 22 | 月 | 文法クイズ（普通形）、L20(2-4,2-5)、L&D、R&W、漢字#91-95 |
| 25 | 6/ 24 | 水 | 語彙クイズ(L21)、L21(1,2)、漢字#96-100、課題4【回収】 |
| 26 | 6/ 29 | 月 | 漢字クイズ(#91-100)、L21(3)、L&D、R&W、学期末口頭発表準備1（導入）（タイトル 締切:7/1) |
| 27 | 7/ 1 | 水 | 語彙クイズ(L22)、L22(1-2)、漢字#101-105、学期末口頭発表準備2（タイトル 締め切り）（First draft 締切:7/6) |
| 28 | 7/ 6 | 月 | L22(3-4)、漢字＃106-110、学期末口頭発表準備3(First draft【回収】) |
| 29 | 7/ 8 | 水 | 漢字クイズ（#101-110)、L22 L&D、R&W、まとめ４、学期末口頭発表準備4(First Draft返却&リライト）（Final draft 締切:7/13) |
| 30 | 7/ 13 | 月 | 漢字まとめクイズ(#61-110)、復習、学期末口頭発表準備5(Final draft締切) |
| 31 | 7/ 15 | 水 | 【休講】補講期間のため |
| 32 | 7/ 20 | 月 | 学期末試験(L13-22) |
| 33 | 7/ 22 | 水 | 学期末口頭発表、期末試験FB |

# 初級 2

報告者：A クラス　金　瑜眞・岡　葉子
B クラス　岡　葉子・藤井　明子

## 1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは週 2 回（1 コマ 105 分）のコースで、『大地１』（スリーエーネットワーク）の後半（L13～L22）を 1 課 2 コマのペースで扱い、既習文法を確認しつつ、新しい文法項目の定着ならびに運用力の向上を目指した。並行して、漢字学習として N5 レベルの漢字（後半）60 字を導入した。今学期は、新型コロナウィルスの影響を受け、授業初回から Zoom を用いたオンラインの同期型授業を実施した。

【授業の内容】

各課の初めに語彙クイズをオンラインで実施し、2 コマを使ってその課の文型の導入、基本・応用練習、確認を行った。また、動詞の活用等については、オンラインの文法クイズを実施し、定着を図った。授業内ではコミュニケーション力の向上に力を入れ、読解、作文については課題を出し、学習を促した。並行して、漢字の導入、練習を授業内で行い、クイズを宿題として受けさせた。

学期半ばには、作文の課題を基に口頭発表会を行った。学期末には、当該コースで学んだ文型を盛り込み、それぞれのテーマで準備したスクリプトを基に、PPT を使用した期末口頭発表をオンラインで実施した。

## 2. その他

初級 2 レベルは学生数が多かったため、A,B の 2 クラス編成で授業を行った。なお、両クラスの学習内容、レベルは同一である。

## 3. まとめ・今後の課題

＜A クラス＞

全体的に、クイズや課題にまじめに取り組み、学期末の口頭発表や試験においても、良い評価を受けた学生が多かった。一方、今学期オンラインでの実施となり、Zoom の操作などにおいて時間がかかり、リスニングや口頭練習が十分ではなかった部分は課題である。来学期は、追加の課題などを作成し、リスニングや口頭練習も積極的に取り入れたい。

＜B クラス＞

初級１コースから日本語学習を継続している学生のほか、今学期から海外在住の状態で参加する学生もいたが、みな総じて熱心に学習に取り組んでいた。ただ、クラスで学んだことを実践する機会がすくないためか、文法は頭に入っていても、言いたいことを日本語で表現する能力が伸びにくかった。練習時間の確保が来学期の課題である。

# インテンシブ初級Ⅱ

2020年度S1S2

**レベル** : 初級2 レベル

**スキル** : 総合

**開講期間** : 2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22

**時間** : 08:30 - 10:15 火曜日
10:25 - 12:10 火曜日
08:30 - 10:15 木曜日
10:25 - 12:10 木曜日

**場所** : 工学部8号館 123教室

**学習目標** : 初級後半(L23-42)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。日本語能力試験N4相当の漢字を200字習得する。さまざまな場面（研究室など）での基本的なコミュニケーションができる。

**対象** : 日本語を100時間程度勉強した人、初級2またはｲﾝﾃﾝｼﾌﾞ 初級Ⅰの修了者、JLPT N5相当

**テキスト** : 『大地2 メインテキスト』(スリーエーネットワーク)
『大地2 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク)
『にほんごチャレンジ　かんじN4-5』（アスク）

**評価** : 教室活動5%、中間試験20%、学期末試験20%、学期末口頭発表10%、語彙クイズ15%、漢字クイズ10%、文法クイズ10%、課題10%
・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験
・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。

**その他** : 1. 単位(8)認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院 3799-911-1、学部 FEN-JL4n03L1
2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。
5. 第1週目はオリエンテーション･ウィークのため出席数に含めない。
6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
7. 授業のスピードが速いため、十分な予習と復習が必要である。
8. Zoom ID 火曜日：ミーティングID 609-098-442　木曜日：ミーティングID 895-723-508

**担当** : 内田 あゆみ UCHIDA Ayumi, 山口 真紀 YAMAGUCHI Maki
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 7 | 火 | オリエンテーション　レベルチェック　復習　L23(1) |
| 2 | 4/ 7 | 火 | L23(1)　漢字L1(111 - 120) |
| 3 | 4/ 9 | 木 | L23(2,3) |
| 4 | 4/ 9 | 木 | L23(2,3)　漢字L2(121 - 130) |
| 5 | 4/ 14 | 火 | L24　課題① |
| 6 | 4/ 14 | 火 | L24　漢字L3(131 - 140) |
| 7 | 4/ 16 | 木 | L25　課題①提出 |
| 8 | 4/ 16 | 木 | L25　漢字L4(141 - 150) |
| 9 | 4/ 21 | 火 | L26 |
| 10 | 4/ 21 | 火 | L26　漢字L5(151 - 160) |
| 11 | 4/ 23 | 木 | L27 |
| 12 | 4/ 23 | 木 | L27　まとめ5 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 13 | 4/ 28 | 火 | L28　語彙クイズL28 |
| 14 | 4/ 28 | 火 | L28　漢字復習L1-15　漢字クイズL5　漢字L6(161 - 170) |
| 15 | 4/ 30 | 木 | L29　語彙クイズL29　課題② |
| 16 | 4/ 30 | 木 | L29　漢字クイズL6　漢字L7(171 - 180) |
| 17 | 5/ 5 | 火 | 祝日 |
| 18 | 5/ 5 | 火 | 祝日 |
| 19 | 5/ 7 | 木 | 【休講】水曜授業振替のため |
| 20 | 5/ 7 | 木 | 【休講】水曜授業振替のため |
| 21 | 5/ 12 | 火 | L30　語彙クイズL30　課題②提出 |
| 22 | 5/ 12 | 火 | L30　漢字クイズL7　漢字L8(181 - 190) |
| 23 | 5/ 14 | 木 | L31　語彙クイズL31　意向形クイズ |
| 24 | 5/ 14 | 木 | L31　漢字クイズL8　漢字L9(191-200) |
| 25 | 5/ 19 | 火 | L32　語彙クイズL32 口頭発表導入 |
| 26 | 5/ 19 | 火 | L32　漢字クイズL9　漢字L10(201 - 210) |
| 27 | 5/ 21 | 木 | まとめ6 漢字クイズL10　漢字L11(211-220) |
| 28 | 5/ 21 | 木 | まとめ6 漢字復習L6-L10 |
| 29 | 5/ 26 | 火 | 中間試験（L23-L32） |
| 30 | 5/ 26 | 火 | 漢字まとめクイズL1-L10　口頭発表 |
| 31 | 5/ 28 | 木 | L33　語彙クイズL33 |
| 32 | 5/ 28 | 木 | L33　漢字クイズL11　漢字L12(221 - 230) |
| 33 | 6/ 2 | 火 | L34　語彙クイズL34　条件形クイズ |
| 34 | 6/ 2 | 火 | L34 漢字クイズL12　漢字L13(231-240) 中間試験フィードバック |
| 35 | 6/ 4 | 木 | L35　語彙クイズL35 |
| 36 | 6/ 4 | 木 | L35　漢字クイズL13　漢字L14(241 - 250) |
| 37 | 6/ 9 | 火 | L36　語彙クイズL36　課題③ |
| 38 | 6/ 9 | 火 | L36　漢字クイズL14　漢字L15(251 - 260) |
| 39 | 6/ 11 | 木 | L37　語彙クイズL37　受身形クイズ　課題③提出 |
| 40 | 6/ 11 | 木 | L37　漢字クイズL15　漢字L16(261 - 270) |
| 41 | 6/ 16 | 火 | まとめ７　漢字復習L11-L15 |
| 42 | 6/ 16 | 火 | まとめ７　漢字クイズL16　漢字L17(271 - 280) |
| 43 | 6/ 18 | 木 | L38　語彙クイズL38　漢字まとめクイズL11-L15 |
| 44 | 6/ 18 | 木 | L38　漢字クイズL17　漢字L18(281 - 290) |
| 45 | 6/ 23 | 火 | L39　語彙クイズL39　命令形・禁止形クイズ |
| 46 | 6/ 23 | 火 | L39　漢字クイズL18　漢字L19(291 - 300) |
| 47 | 6/ 25 | 木 | L40　語彙クイズL40 |
| 48 | 6/ 25 | 木 | L40　学期末口頭発表導入 |
| 49 | 6/ 30 | 火 | L41(1-4) 語彙クイズL41　使役形クイズ　口頭発表題名提出 |
| 50 | 6/ 30 | 火 | L41(1-4) 漢字クイズL19　漢字L20(301 - 310) |
| 51 | 7/ 2 | 木 | L41(5, 6) 学期末口頭発表準備　書き直し　第一稿提出 |
| 52 | 7/ 2 | 木 | L41(5, 6) 漢字クイズL20　漢字復習L16 - L20 |
| 53 | 7/ 7 | 火 | L42 語彙クイズL42　尊敬語クイズ　口頭発表第2稿提出 |
| 54 | 7/ 7 | 火 | L42 |
| 55 | 7/ 9 | 木 | まとめ8　謙譲語クイズ 学期末口頭発表準備 |
| 56 | 7/ 9 | 木 | まとめ8　復習　学期末口頭発表準備 |
| 57 | 7/ 14 | 火 | 【休講】補講期間のため |
| 58 | 7/ 14 | 火 | 【休講】補講期間のため |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 59 | 7/ 16 | 木 | 学期末試験 |
| 60 | 7/ 16 | 木 | 学期末口頭発表リハーサル　PPT提出 |
| 61 | 7/ 21 | 火 | 学期末口頭発表 |
| 62 | 7/ 21 | 火 | 学期末試験フィードバック　漢字まとめクイズL16-L20 |

# インテンシブ初級 II

報告者：内田あゆみ　山口真紀

## 1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

授業では、『大地 II メインテキスト』、『大地 II 文型説明と翻訳』を使用し、基本的に２コマで 1 課を扱う形で進行した。漢字学習には『にほんごチャレンジ　かんじ』を使用し、日本語能力検定試験Ｎ４レベルの漢字を学習した。

【授業の内容】

授業では、各課のはじめに語彙クイズを行った後、文型導入、基本練習、補助教材を使用して応用練習、会話の練習などを行い、文型の定着を図った。課題として、「日本へ来てできるようになったこと、できなくなったこと」、「私の国にある有名なもの」など４つのテーマについて作文練習を行った。学期後半では、読解、聴解などの活動も適宜取り入れた。漢字は意味と読み方に重点を置き、漢字学習を行った。また、文型や「つかいましょう」から発展させ、日本の文化的・社会的な内容についての話し合いも適宜取り入れた。

## 2. その他

毎回授業の冒頭で語彙クイズを行った。語彙クイズは予習型で１課に１回実施した。文法の復習テストは、５課に１回のペースで合計７回行った。従来、漢字クイズを実施していたが、今学期はオンライン授業になったため、これを課題として実施した。また、期末口頭発表への準備として、中間口頭発表を行なった。学期末には、「子どもの頃の習い事」、または「私の国にある有名なもの」について口頭発表を行った。発表で使用する表現、構成などを指導した後、学習した文型・語彙を使用しスクリプトを書かせ、PPT のスライドを作成させ、練習をし、発表を実施した。

## 3. まとめ・今後の課題

オンライン授業は初めての経験で、手探りの状態であったが、対面授業を想定したシラバスに、実情に合わせた変更を適宜加えつつ進めることで、おおむね予定通りの学習内容を扱うことができた。授業では、学生に「離れていても授業に参加している感覚」を持ってもらえるよう、共同作業を多く設定し、学生間のコミュニケーションを積極的に促した。クラスは、非常に和やかな雰囲気で、休み時間にも日本語で会話する、歌や楽器演奏を披露する等、交流を楽しむ姿が見られた。しかし、課題も多く残った。学生アンケートによると、２コマをオンラインでつなぎ続ける授業スタイルは、負担であったようだ。また、漢字の書きの指導や、手書きのチェックも十分にできなかった。今後は、非同期の活動を効果的に組み合わせ、課題の内容を再考するなどし、よりオンラインに授業に適した授業デザインをしたい。

# 初級3

2020年度S1S2

| | | |
|---|---|---|
| レベル | : | 初級 II |
| スキル | : | 総合 |
| 開講期間 | : | 2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22 |
| 時間 | : | 08:30 - 10:15 火曜日<br>08:30 - 10:15 金曜日 |
| 場所 | : | |
| 学習目標 | : | 初級後半(L23-32)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。日本語能力試験N4相当の漢字を100字習得する。さまざまな場面（研究室など）での基本的なコミュニケーションができる。 |
| 対象 | : | 日本語を100時間程度勉強した人、初級2またはｲﾝﾃﾝｼﾌﾞ初級 I の修了者、JLPT N5相当 |
| テキスト | : | 『大地2 メインテキスト』(スリーエーネットワーク)<br>『大地2 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク) |
| 評価 | : | 教室活動5%、中間試験20%、学期末試験20%、学期末口頭発表15%、語彙クイズ10%、漢字クイズ10%、文法クイズ10%、課題10%<br><br>・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。<br>1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験<br>・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%<br>・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。 |
| その他 | : | 1. 単位4認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院(3799-908-1)、学部(FEN-JL4n10L1),<br>2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。<br>3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。<br>4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。<br>5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。<br>6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。<br>7. Zoom ID 火曜日：（ID 247-425-233）<br>金曜日：（ID 946-0699-7337)(Password 086047) |
| 担当 | : | 山口 真紀 YAMAGUCHI Maki, 片岡　さゆり KATAOKA Sayuri<br>nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826 |

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 3 | 金 | Review&Challengeクイズ, オリエンテーション, L23ごい, かんじ(#111-115) |
| 2 | 4/ 7 | 火 | L23.1 Dic.&Te&NaiFormふくしゅう, かんじ(#116-120) |
| 3 | 4/ 10 | 金 | L23.2-3, Listening&Dialogue, Reading&Writing, かだい1(L23)イントロ |
| 4 | 4/ 14 | 火 | L24.1-2, かんじ(#121-125), かだい1(L23)しめきり |
| 5 | 4/ 17 | 金 | L24.3-4, L&D, R&W, かんじ(#126-130) |
| 6 | 4/ 21 | 火 | L25.1-2 |
| 7 | 4/ 24 | 金 | L25.3-4, L&D, R&W, かんじ(#131-135) |
| 8 | 4/ 28 | 火 | ごいクイズL26, L26.1-2, かんじ(#136-140) |
| 9 | 5/ 1 | 金 | かんじクイズL3(#131-140), L26.3, L&D, R&W, かんじ(#141-145), かだい2(L25&26)イントロ |
| 10 | 5/ 5 | 火 | 祝日 |
| 11 | 5/ 8 | 金 | ごいクイズL27, L27.1-2, かんじ(#146-150), かだい2(L25&26)しめきり |
| 12 | 5/ 12 | 火 | かんじクイズL4(#141-150), L27.3, L&D, R&W, かんじ(#151-155), かだい3(L27)イントロ |
| 13 | 5/ 15 | 金 | まとめ5(p31-32), 基礎問題集, かんじ(#156-160), かだい3(L27)しめきり |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 14 | 5/ 19 | 火 | かんじクイズL5(#151-160), 基礎問題集, かんじ(#161-165), 基礎問題集解答配布 |
| 15 | 5/ 22 | 金 | 【休講】補講期間のため |
| 16 | 5/ 26 | 火 | 中間試験(L23-27) |
| 17 | 5/ 29 | 金 | 【休講】補講期間のため |
| 18 | 6/ 2 | 火 | ごいクイズL28, 中間試験F.B, L28.1-2, かんじ(#166-170) |
| 19 | 6/ 5 | 金 | かんじクイズL6(#161-170), L28.3-4, L&D, R&W, かんじ(#171-175) |
| 20 | 6/ 9 | 火 | ごいクイズL29, L29.1-2, かんじ(#176-180) |
| 21 | 6/ 12 | 金 | かんじクイズL7(#171-180), L29.3-4, L&D, R&W, かんじ(#181-185) |
| 22 | 6/ 16 | 火 | ごいクイズL30, L30.1-2, かんじ(#186-190) |
| 23 | 6/ 19 | 金 | L30意向形クイズ, かんじクイズL8(#181-190), L30.3, L&D, R&W, かだい4(L30)導入 |
| 24 | 6/ 23 | 火 | ごいクイズL31, L31.1-3, 期末発表イントロ, かんじ(#191-195), かだい4(L30)しめきり |
| 25 | 6/ 26 | 金 | FP:タイトルしめきり, L31.4-5, L&D, R&W, かんじ(#196-200) |
| 26 | 6/ 30 | 火 | ごいクイズL32, FP:げんこう①しめきり, L32.1-2 |
| 27 | 7/ 3 | 金 | かんじクイズL9(#191-200), 書き直し指示, L32.3, L&D, R&W, かんじ(#201-205) |
| 28 | 7/ 7 | 火 | まとめ6(p63-64), かんじ(#206-210),　基礎問題集&解答配布 |
| 29 | 7/ 10 | 金 | かんじクイズL10(#201-210), FP:PPTしめきり, リハーサル, れんしゅう |
| 30 | 7/ 14 | 火 | 【休講】補講期間のため |
| 31 | 7/ 17 | 金 | 期末試験(L23-32) |
| 32 | 7/ 21 | 火 | 期末発表　げんこう②しめきり　期末試験F.B |

# 初級３

報告者：片岡さゆり　山口真紀

## 1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは、週２回（1 コマ 105 分）展開のコースで、『大地 II メインテキスト』、『大地 II 文型説明と翻訳』を使用し、前半の L23～32 を扱った。漢字学習としては、Ｎ４レベルの単漢字 100 字とそれを含む語彙の学習を行った。

授業は、１）語彙クイズ、文法クイズ　２）文型導入・練習　３）応用練習・会話練習　４）モデル会話の聞き取り・練習　５）漢字導入　の順で実施した。

【授業の内容】

授業では、各課の文型や、「国の四季」、「健康のためにしていること」等のトピックを題材に自分の経験や社会文化内容について話す発展的な会話の機会を積極的に設け、受講者間の交流を促しながら文型の定着を図るとともに、異文化理解を深めた。学期後半では、読解の活動も取り入れた。漢字は意味と読み方に重点を置き、導入を行った。

期末口頭発表では、対面授業でテーマとして設定されていた「日本に来てできるようになったこと、できなくなったこと」から、「私の大学」にテーマを変更し、発表を行った。原稿作成、PPT 作成、口頭練習と、段階を踏んで準備を行い、よりよい発表を目指した。コロナ禍で日本社会と接触する機会が得られない受講者にとって、より取り組みやすいテーマであったと考えられる。発表会は、どの受講者も十分な準備をして臨み、質疑応答も活発に行なわれ、学習の総括として充実したものとなった。学期の最後に大きな達成感を得る機会となったと考えられる。

## 2. その他

対面授業で、毎回授業の冒頭に実施していた語彙クイズは、オンライン授業への移行に伴い、学期後半からの実施となった。また、最後の２回は授業時間確保の関係から授業外に実施した。同様に、対面授業で行っていた漢字クイズは、課題として実施した。

## 3. まとめ・今後の課題

海外受講者を含む全ての受講者が継続的に出席し、協力的かつ熱心に授業に参加していた。授業では、受講者に「離れていても授業に参加している感覚」を持ってもらえるよう、共同作業を多く設定し、コミュニケーションを積極的に促した。クラスは、非常に和やかな雰囲気で、日本語を介して交流を楽しむ姿が見られた。今後の課題としては、まず、文型練習、漢字学習にあてる時間の確保があげられる。さらに、受講者の受講環境に配慮した授業デザイン、オンライン授業に適した評価基準の見直しも必要である。今後、検討していきたい。

# 初級4

2020年度S1S2

| | | |
|---|---|---|
| レベル | : | 初級2 レベル |
| スキル | : | 総合 |
| 開講期間 | : | 2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22 |
| 時間 | : | 10:25 - 12:10 火曜日<br>10:25 - 12:10 金曜日 |
| 場所 | : | 工学部8号館　132教室 |
| 学習目標 | : | 初級後半(L33-42)の文型と語彙を習得し、総合的な日本語運用力を身につける。日本語能力試験N4相当の漢字を100字習得する。さまざまな場面（研究室など）での基本的なコミュニケーションができる。 |
| 対象 | : | 日本語を150時間程度勉強した人、初級3の修了者、JLPT N5相当 |
| テキスト | : | 『大地2 メインテキスト』(スリーエーネットワーク)<br>『大地2 文型説明と翻訳』(スリーエーネットワーク) |
| 評価 | : | 教室活動5%、中間試験20%、学期末試験20%、学期末口頭発表10%、語彙クイズ15%、漢字クイズ10%、文法クイズ10%、課題10%<br><br>・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。<br>1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験<br>・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%<br>・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。 |
| その他 | : | 1. 単位4認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院3799-909-1、学部FEN-JL4n20L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション･ウィークのため出席数に含めない 。6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。7.Zoom address: (火) https://zoom.us/j/98536993　(金) https://zoom.us/j/207756615 |
| 担当 | : | 金（キム）ユジン KIM Youjin, 猪狩　美保 IGARI Miho<br>nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826 |

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 3 | 金 | Orientation, Review & Challenge Quiz, L23-32 Review, L33 Vocabulary introduction |
| 2 | 4/ 7 | 火 | L33.1(1-1〜1-7) |
| 3 | 4/ 10 | 金 | L33.1(1-8)&2, Listening & Dialogue, 漢字（211-215） |
| 4 | 4/ 14 | 火 | L34.1&2, 漢字（216-220） |
| 5 | 4/ 17 | 金 | L34.3&4, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字（221-225） |
| 6 | 4/ 21 | 火 | L35.1&2, 漢字(226-230) |
| 7 | 4/ 24 | 金 | L35.3&4, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(221-230), 漢字(231-235), 課題1配布 |
| 8 | 4/ 28 | 火 | L36.1&2, L36 Voca quiz, 漢字(236-240), 課題1締切 |
| 9 | 5/ 1 | 金 | L36.3&4, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(231-240), 漢字(241-245), 課題2配布 |
| 10 | 5/ 5 | 火 | 祝日 |
| 11 | 5/ 8 | 金 | L37.1&2, L37 Voca quiz, 文法クイズ2（受身形), 漢字(246-250), 課題2 締切 |
| 12 | 5/ 12 | 火 | L37.3, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(241-250), 漢字(251-255), まとめ7配布 |
| 13 | 5/ 15 | 金 | まとめ7 Feedback, Review, 漢字(256-260) |
| 14 | 5/ 19 | 火 | Mid-term Exam(L33-37) |
| 15 | 5/ 22 | 金 | 【休講】補講期間のため |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 16 | 5/ 26 | 火 | L38.1&2, L38 Voca quiz, 漢字クイズ（251-260） |
| 17 | 5/ 29 | 金 | 【休講】中休み |
| 18 | 6/ 2 | 火 | Mid-term Exam FeedBack, L38.3&4, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字(261-265), 課題3配布 |
| 19 | 6/ 5 | 金 | L39.1&2, L39 Voca quiz, 文法クイズ3（命令禁止形）, 漢字（266-270）, 課題3 締切 |
| 20 | 6/ 9 | 火 | L39.3, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(261-270), 漢字(271-275) |
| 21 | 6/ 12 | 金 | L40.1&2, L40 Voca quiz, 漢字（276-280) |
| 22 | 6/ 16 | 火 | L40.3&4, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ(271-280)、漢字(281-285), Presentation introduction |
| 23 | 6/ 19 | 金 | L41.1&2&3, L41 Voca quiz, 文法クイズ4（使役形), Kanji(286-290), Presentation Title & Outline Deadline |
| 24 | 6/ 23 | 火 | L41.4&5&6, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字クイズ（281-290）, 漢字（291-295), 課題4配布, Presentation Outline Return |
| 25 | 6/ 26 | 金 | L42.1&2, L42 Voca quiz, 文法クイズ5(尊敬動詞）, 漢字(296-300), 課題4締切, Presentation 1st Draft Deadline |
| 26 | 6/ 30 | 火 | L42.3, Listening & Dialogue, Reading & Writing, 漢字(301-305), 漢字クイズ(291-300)，Presentation 1st Draft Return & Rewrite 2nd Draft |
| 27 | 7/ 3 | 金 | Review, 文法クイズ6（謙譲動詞）, 漢字（306-310）, まとめ8 配布 |
| 28 | 7/ 7 | 火 | Review, まとめ8 Feedback, 漢字クイズ（301-310）, Presentation 2nd Draft |
| 29 | 7/ 10 | 金 | Presentation Practice(Rehearsal), PPTcheck |
| 30 | 7/ 14 | 火 | 【休講】補講期間のため |
| 31 | 7/ 17 | 金 | Final Exam (L38-42) |
| 32 | 7/ 21 | 火 | Final Presentation, Final Exam Feedback |

# 初級４

報告者：金　瑜眞、猪狩美保

## 1. 授業の方法と内容

### 1-1. 授業の方法

本コースでは、『大地２』（スリーエーネットワーク）を主教材として使用し、L33～42の初級後半部分を授業範囲とした。文法項目と様々な言語表現やその背景知識を習得しながら、聴解、作文練習などの教室活動を通し、総合的な日本語能力の向上を目指した。また、『にほんごチャレンジ』（アスク）を用いて、N4 相当の単漢字 100 字と対象漢字を含む語彙学習も行った。授業は、1)語彙クイズ、2)文型の導入・練習、3)応用練習・会話練習、4)漢字導入という流れで実施し、必要に応じて主教材の扉会話を使った聴解練習や文型を応用した短作文の練習などを行った。

### 1-2. 授業の内容

本コースでは、各課の初めに語彙クイズを実施し、2 コマを使ってその課の文型の導入、基本・応用練習およびその確認を行った。また、動詞の活用等については、文法クイズを実施し、受身形、使役形、尊敬動詞、謙譲動詞などの定着を図った。授業内ではコミュニケーション力の向上に力を入れ、ペアワークを積極的に取り入れた。また、授業では十分に時間が取れない書く力の育成では、随時作文課題を課し、総合的な運用能力の向上を目指した。並行して、漢字の導入、練習、確認クイズを実施した。

## 2. その他（特記事項）

学期末口頭発表は、前学期の内容を踏襲し、本コースで学習した文型を盛り込み、意見文のスクリプトを作成し、PPT を使用したプレゼンテーションを実施した。複数の根拠を示し、予想される聞き手の反論も考慮に入れながら主張することが求められる課題であったが、受講者は全員しっかりと準備をし、質疑応答時には活発な意見交換が見られた。

## 3. まとめ・今後の課題

受講者はまじめに活動に取り組み、クラスの雰囲気もよかった。コース開始時登録していた 16 名中 12 名が修了したことから、従来より多くの受講者が修了することができた。今学期は、新型コロナウィルスの影響により、自宅で参加した学生が多く、出席率が比較的高かったことが影響したと考えられる。一方、オンラインで授業を実施したことにより、Zoom の操作などに時間がかかり、個別の学習者に対する発話能力の確認や発音のフィードバックを十分に行うことができなかった。また、聴解練習についても、一部の課においては、練習に必要な時間を十分に確保することができなかった。こうした問題点を改善すべく、来学期は、録音課題や聴解課題を取り入れ、学習の機会を増やしたいと考える。

# 中級1　総合

2020年度S1S2

| | | |
|---|---|---|
| レベル | : | 中級1 レベル |
| スキル | : | 総合 |
| 開講期間 | : | 2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22 |
| 時間 | : | 10:25 - 12:10 月曜日<br>10:25 - 12:10 木曜日 |
| 場所 | : | 工学部8号館 123(月）、88L(木) |
| 学習目標 | : | 日常生活における場面で対応可能な日本語運用力を身につけることを目指す。<br>授業では、身近な話題を取り上げ、初中級レベルの文型・語彙を用いながら、読む 、聞く、書く、話すの４技能をバランスよく習得できる活動を行う。 |
| 対象 | : | 初級4、インテンシブ初級 II コースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当 |
| テキスト | : | 『中級へ行こう 日本語の文型と表現55 第2版』（スリーエーネットワーク） |
| 評価 | : | 教室活動20%、中間試験20%、学期末試験20%、その他40%（クイズ10%、作文15%、学期末口頭発表15%）<br>・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。<br>1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験<br>・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%<br>・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。 |
| その他 | : | 1. 単位4認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院3799-921-1、学部FEN-JL4o01L1　2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない 。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。<br>月曜日 :https://zoom.us/j/790987369<br>木曜日 :https://zoom.us/j/95848439439?pwd=dDB0VWZmVFNsdVdZZnpVR09EMnRGQT09　PW:827196 |
| 担当 | : | 宮瀬 真理 MIYASE　Mari , 藤井　明子 FUJII　Akiko , 大西由美　ONISHI　Yumi, 佐藤瑞恵 SATO Mizue　nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826 |

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 6 | 月 | オリエンテーション, レベルチェック |
| 2 | 4/ 9 | 木 | 第1課①（文型1,2) |
| 3 | 4/ 13 | 月 | 第1課②（文型3,4）, 本文読解 |
| 4 | 4/ 16 | 木 | 第2課①（文型1,2,3) |
| 5 | 4/ 20 | 月 | 第2課②（文型4,5）, 本文読解 |
| 6 | 4/ 23 | 木 | 第3課①（文型1,2,3) |
| 7 | 4/ 27 | 月 | 語彙クイズ（L1）, 第3課②（文型4,5,6）, 本文読解 |
| 8 | 4/ 30 | 木 | 語彙クイズ（L2）, 復習（L1,2,3), 作文1 |
| 9 | 5/ 4 | 月 | 祝日 |
| 10 | 5/ 7 | 木 | 休講 |
| 11 | 5/ 11 | 月 | 語彙クイズ（L3）,第4課①（文型1,2,3) |
| 12 | 5/ 14 | 木 | 第4課②（文型4,5）, 本文読解 |
| 13 | 5/ 18 | 月 | 語彙クイズ（L4）, 第5課①（文型1,2,3) |
| 14 | 5/ 21 | 木 | 第5課②（文型4,5,6）, 本文読解 |
| 15 | 5/ 25 | 月 | 語彙クイズ（L5）, 復習（L4,5), 作文2 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 16 | 5/ 28 | 木 | 中間試験（L1-5） |
| 17 | 6/ 1 | 月 | 中休み |
| 18 | 6/ 4 | 木 | 第6課①（文型1,2,3,4) |
| 19 | 6/ 8 | 月 | 作文発表会,　第6課② 本文読解、中間試験FB |
| 20 | 6/ 11 | 木 | 語彙クイズ（L6）, 第7課①（文型1,2,3,4) |
| 21 | 6/ 15 | 月 | 第7課②（文型5,6,7）, 本文読解, 作文3 |
| 22 | 6/ 18 | 木 | 語彙クイズ（L7）, 復習（L6,7) |
| 23 | 6/ 22 | 月 | 第8課①（文型1,2,3), 学期末口頭発表導入 |
| 24 | 6/ 25 | 木 | 第8課②（文型4,5,6）, 本文読解 |
| 25 | 6/ 29 | 月 | 語彙クイズ（L8）, 第9課①（文型1,2,3), 学期末口頭発表準備 |
| 26 | 7/ 2 | 木 | 第9課②（文型4,5,6), 本文読解 |
| 27 | 7/ 6 | 月 | 語彙クイズ（L9）,第10課①（文型1,2,3） |
| 28 | 7/ 9 | 木 | 第10課②（文型4,5,6）,本文読解 |
| 29 | 7/ 13 | 月 | 語彙クイズ(L10), 復習（L8,9,10) ,学期末口頭発表準備 |
| 30 | 7/ 16 | 木 | 学期末試験(L6-10) |
| 31 | 7/ 20 | 月 | 学期末口頭発表 |

## 中級１　総合

報告者：Ａクラス　宮瀬真理・藤井明子
Ｂクラス　大西由美・佐藤瑞恵

### 1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『中級へ行こう　中級前期　日本語の文型と表現 55』(スリーエーネットワーク、第２版)を使用し授業を行った。授業は 2 コマで 1 課を扱う形で進行し、第１～10 課までを 1 学期間で終了した。各課については、トピックについての話し合い、本文の概略を読みとる、文型導入・練習、本文の内容の理解と話し合いの順番で学習を進めた。また、語彙クイズを各課の復習で行い、漢字及び聴解練習も適宜行った。

学期中、作文課題を 2 回出し、教科書のトピックに関連した題で作文を書いた。また、課題作文をもとに中間試験後に作文発表会を行い、さらに、期末試験後に期末発表会を行った。

【授業の内容】

2020 年度はオンライン授業であったが、授業ではこれまで同様、文型と表現 55 の習得と総合的な日本語能力の向上を目指すことを目指した。初級文法の復習も行いながら、中級レベルへと進むため文型の練習と定着を図り、できるだけ学生同士で学び合えるよう授業を進めた。

復習のコマを設け、学生が小グループで学習内容を振り返ることができるようにした。その際、日本語を積極的に使うよう促した

### 2. その他

語彙クイズ、定期試験には google form を用いて出題した。

また、期末発表は、今回はオンラインアンケートを各学生が行い、その後、オンラインでプレゼンテーションスライドを作成、そこに音声も録音するという形式で行った。学生同士のフィードバックもオンライン上で行い、これはオンデマンド型（学生は各自、自分の都合のよい時にクラスメートの発表を聞いてコメントする）で行った。

### 3. まとめ・今後の課題

コロナウィルス感染拡大を受けて急遽オンライン授業となり、準備期間が短かったため、これまでの対面授業の内容はそのままに、同期型で授業を行った。例えばＡクラスは学期当初から最後まで 20 名前後と学生数が多かった、クイズの実施などに時間がかかるなどがあり、小グループに分かれての口頭練習の時間が十分に取れなかったというのが最も大きな問題だった。

語彙クイズ、定期試験には google form を用い、受験に関して学生から使いにくさなどは

聞かれなかったが、オンライン授業用の試験の内容については検討が必要である。

　またオンライン授業である利点を生かして、期末発表をオンライン上のプレゼンテーションとしたが、これは学期途中での方針転換であったので、担当の負担が重かったように感じる。学期前に十分検討し準備ができていればもう少しバランスよく授業内容を精査し、手順などについても計画できたと思われるので、この点を今後の課題としたい。

# 中級1　聴解

2020年度S1S2

| | | |
|---|---|---|
| レベル | : | 中級1 レベル |
| スキル | : | 聴解 |
| 開講期間 | : | 2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22 |
| 時間 | : | 08:30 - 10:15 木曜日 |
| 場所 | : | 工学部8号館　88M教室 |
| 学習目標 | : | 初級文法を復習しながら、聴解・会話能力の向上を目指す。授業では、聴解問題、グループ活動、ディスカッションを行う。 |
| 対象 | : | 初級4、インテンシブ初級 II コースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当 |
| テキスト | : | 『日本語集中トレーニング』(アルク) |
| 評価 | : | 教室活動20%、中間試験20%、期末試験20%、その他40%（課題20%、クイズ20%)<br>・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。<br>1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験<br>・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%<br>・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。 |
| その他 | : | 1. 単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院3799-922-1、学部FEN-JL4o10L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション･ウィークのため出席数に含めない 。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。<br>Zoom ID:https://zoom.us/j/253666205 |
| 担当 | : | ハワード　文江 HOWARD Fumie<br>nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826 |

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 9 | 木 | レベルチェックテスト、オリエンテーション |
| 2 | 4/ 16 | 木 | L2 出張の報告をする |
| 3 | 4/ 23 | 木 | L5 郵便局で荷物を送る, クイズ, |
| 4 | 4/ 30 | 木 | L6 不動産屋でマンションを探す, クイズ |
| 5 | 5/ 7 | 木 | 水曜授業のため休講 |
| 6 | 5/ 14 | 木 | L7 体験を話す, クイズ、中間準備 |
| 7 | 5/ 21 | 木 | L8 日本の習慣をたずねる, クイズ |
| 8 | 5/ 28 | 木 | 中間プレゼンテーション |
| 9 | 6/ 4 | 木 | L9 パック旅行を申し込む, クイズ |
| 10 | 6/ 11 | 木 | L11 温泉につれていってもらう, クイズ |
| 11 | 6/ 18 | 木 | L12 しつけについて話す, クイズ |
| 12 | 6/ 25 | 木 | L13 困ったできごとを話す, クイズ |
| 13 | 7/ 2 | 木 | L14 セミナーの準備をする, クイズ |
| 14 | 7/ 9 | 木 | L15 先生の研究室をたずねる, クイズ |
| 15 | 7/ 16 | 木 | 期末試験 |

# 中級１　聴解

報告者：　ハワード　文江

## １. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『日本語集中トレーニング』（アルク）を使用し、毎回の授業で１課ずつリスニングに焦点を当てて授業を行った。授業の進め方は、ストーリーピクチャーを見ながら会話 CD を聞く→文法・表現を学習→ナレーション CD を聞く→インタビューCD を聞きながらシャドーイングの順番で行った。その後、会話の練習、実践的な場面のロールプレイを行うことにより語彙や表現を会得してもらう授業構成とした。

【授業の内容】

「荷物を送る」「不動産屋で部屋を探す」「先生の研究室をたずねる」など、留学生にとって身近なテーマの課を取り上げた。語彙の拡充や文型・表現の確認と定着を図るため、2 課毎にその課の単語と表現を使用した会話の作成を宿題として課し、又 2 課毎にその課の単語クイズを行った。更に自然なイントネーションの自律的な学習定着の為にシャドーイングも取り入れた。

## ２. その他

中間試験では「聞き取りにくかった日本語フレーズ」について、自ら調べ、レポートにまとめ発表する課題を課し、その発表を聞いた学生からの質疑応答を課した。聞き取れなかった時の対処法など、学生間のストラテジーの共有に役立った。期末試験では学期中に学習した表現に加え、同様の表現を使用したリスニングの試験を課したが、聞き取り能力の向上が結果として現れていた。

## ３. まとめ・今後の課題

今学期は文法が得意でない学生が多く、各課の文法・表現の学習、更に語彙の確認に時間を取られることが多く、又 Zoom での授業ということも加わり、教師側からの説明が長くなる傾向にあった為、シャドーイングの時間が十分には取れなかった。来学期もオンライン授業が既に決定しているため、学生の発言時間を多く取れるよう、語彙や文法・表現の学習は事前学習にするといった工夫をしたい。又 ZOOM での授業では 20 名近くの学生全員がシャドーイングの練習を効果的にできているかの確認も困難であったことも今後の課題である。学生間のコミュニケーションも取れるように自己紹介などを促したが、取り辛かったとのアンケート結果であった為、手段を用意するだけではなく、こちらから積極的に学生間でコミュニケーションが図れるように、ペアでロールプレイを録音させるなどの課題を課すといった工夫をしていきたいと思う。

# 中級1　会話

2020年度S1S2

| | | |
|---|---|---|
| レベル | : | 中級1 レベル |
| スキル | : | 会話 |
| 開講期間 | : | 2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22 |
| 時間 | : | 08:30 - 10:15 月曜日 |
| 場所 | : | 工学部8号館　88L教室 |
| 学習目標 | : | 初級文法を復習しながら、日常生活場面での会話運用能力を向上させる。授業内外で積極的に会話実践を行う。 |
| 対象 | : | 初級4、インテンシブⅡコースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当。 |
| テキスト | : | 『会話に挑戦　中級前期からの日本語ロールプレイ』(スリーエーネットワーク) |
| 評価 | : | 教室活動20%　中間試験20%　期末試験20%　その他40%（課題20%、スピーチ10%、クイズ10%）<br>・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。<br>1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験<br>・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%<br>・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。 |
| その他 | : | 1. 単位２認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院3799-923-1、学部FEN-JL4o20L1　2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。 3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない 。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。7.Zoom address : https://zoom.us/j/987851865 |
| 担当 | : | 金（キム）ユジン KIM Youjin<br>nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826 |

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 6 | 月 | オリエンテーション, 自己紹介, レベルチェックテスト |
| 2 | 4/ 13 | 月 | L3, 課題① |
| 3 | 4/ 20 | 月 | L4, クイズL3, 課題①提出 |
| 4 | 4/ 27 | 月 | L8, クイズL4 |
| 5 | 5/ 4 | 月 | 祝日 |
| 6 | 5/ 11 | 月 | L9,クイズL8 |
| 7 | 5/ 18 | 月 | L11, クイズL9, 課題② |
| 8 | 5/ 25 | 月 | 中間試験 |
| 9 | 6/ 1 | 月 | 【休講】中休み |
| 10 | 6/ 8 | 月 | L12, 中間試験F.B, 課題②提出, 課題③ |
| 11 | 6/ 15 | 月 | L13, クイズL12, 課題③提出 |
| 12 | 6/ 22 | 月 | L15, クイズL13, 課題④ |
| 13 | 6/ 29 | 月 | L17, クイズL15, 課題④提出 |
| 14 | 7/ 6 | 月 | L21, クイズL17 |
| 15 | 7/ 13 | 月 | クイズL21, 期末試験1 |
| 16 | 7/ 20 | 月 | 期末試験2 |

# 中級１　会話

報告者：金　瑜眞

## 1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは週 1 回（1 コマ 105 分）のコースで、『会話に挑戦！中級前期からの日本語ロールプレイ』（スリーエーネットワーク）を教科書として使用した。主にロールプレイによる会話練習を中心として授業を行い、初級レベルで学習した文型・表現の口頭練習や日常生活場面における日本語を使った会話運用動力の向上を目指し、実践的な会話練習を行った。

【授業の内容】

本コースでは、教科書から「日にち変更の許可を求める」、「医者に状況を説明する」、「ゴミの出し方を注意されて謝る」などの 10 課を選択し、授業で取り上げた。授業開始時に語彙リストを配付し、各課における新出語彙の意味や読み方を学習してもらい、各課で取り上げた重要な表現についてクイズで確認を行った。また、毎回の授業で２～3 名ほどの学生に「私の好きなもの、好きなこと」というテーマで３分程度のショートスピーチをしてもらい、発表と質疑応答の練習を行った。さらに課題（計４回）では、各課で勉強した表現を応用し、学生各自にオリジナルのスクリプトを作成させた。今学期は新型コロナウィルスの給付金の申請など、現在の情勢を反映したトピックにも取り組んでもらった。会話表現の指導においては、発話場面や相手と話者間の上下・親疎関係等による使い分けが必要であることや日本社会の中で慣習的に好まれる相槌や非言語行動、発話意図に応じたイントネーションの区別等についても練習を行った。

## 2. その他

中間・期末試験は、学生同士で会話のペアを組み、ロールプレイの形式で会話試験を実施した。授業で取り上げたロールカードの内容を一部改変したものを用意し、ランダムで選んでもらった。選んだロールカードについて、会話を行ってもらい、会話内容とパフォーマンスを評価した。評価内容は、流暢性、適切性（各課で取り上げた重要表現を適切に使用できているか）、正確性（文法のミス、丁寧語と普通形の使い分け）、単音の発音とイントネーション、相手の発話に対する理解や反応等であり、各項目について 4 段階で評価した。

## 3. まとめ・今後の課題

今学期は、授業開始の時点で受講生の人数が最大 24 名と非常に多かったため、一人ひとりの学生のパフォーマンスを教員が確認する上で限界があった。さらに、Zoom を使いオンラインで授業を実施したため、学生のペアを組む作業や教員が見回る上でも、Zoom の操作に時間がかかっていた。来学期は、A・B セクションへの実施が決定されたことから、個別の学生のパフォーマンスのフィードバックをより充実させたい。

# 中級1　専門読解

2020年度S1S2

| | | |
|---|---|---|
| レベル | : | 中級Ⅰ |
| スキル | : | 読解 |
| 開講期間 | : | 2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22 |
| 時間 | : | 08:30 - 10:15 金曜日 |
| 場所 | : | 工学部8号館　701教室 |
| 学習目標 | : | 科学技術分野の読解力向上と、専門的な語彙・表現の習得を目指す。前半は科学の話題を素材にした文章、後半は『T time!』(東京大学工学部広報誌)の記事を読み、内容理解、ディスカッションを通して、読解力を養う。また、理工系の専門用語の語彙力、漢字力を向上させる。 |
| 対象 | : | 初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当 |
| テキスト | : | オリジナル教材 |
| 評価 | : | 教室活動20%　中間試験20%　期末試験20%　漢字クイズ15%　語彙クイズ15%　発表10%<br>・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。<br>1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験<br>・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%<br>・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。 |
| その他 | : | 1.単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院 3799-924-1、学部 FEN-JL4o30L1,　2.修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。3.コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4.30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5.第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6.授業内容と教室は変わる可能性がある。<br>https://zoom.us/j/796093319 |
| 担当 | : | 古市 由美子 FURUICHI Yumiko<br>nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826 |

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 3 | 金 | オリエンテーション、レベルチェック |
| 2 | 4/ 10 | 金 | ニュースを読もう:3Dプリンターでマスクを作る |
| 3 | 4/ 17 | 金 | ニュースを読もう：5Gを利用できるスマートフォンのサービスが始まる |
| 4 | 4/ 24 | 金 | ニュースを読もう：天気予報 |
| 5 | 5/ 1 | 金 | ニュースを読もう |
| 6 | 5/ 8 | 金 | ニュースを読もう |
| 7 | 5/ 15 | 金 | 中間試験 |
| 8 | 5/ 22 | 金 | Ttime!　人型ロボット　語彙・漢字クイズ |
| 9 | 5/ 29 | 金 | 休講 |
| 10 | 6/ 5 | 金 | 休講 |
| 11 | 6/ 12 | 金 | Ttime!　道路の渋滞予測目的地へより早く!　語彙・漢字クイズ |
| 12 | 6/ 19 | 金 | Ttime!　快適な建築物の隠れた工夫　語彙・漢字クイズ |
| 13 | 6/ 26 | 金 | Ttime!　スマートグラスで道案内　語彙・漢字クイズ |
| 14 | 7/ 3 | 金 | Ttime!　味と食 感を決める酵素　語彙・漢字クイズ |
| 15 | 7/ 10 | 金 | Ttime!　料理を作りながらスマートフォンの充 電ができる?　語彙・漢字クイズ |
| 16 | 7/ 17 | 金 | 期末試験 |

## 中級１　専門読解

報告者：古市由美子

### 1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

工学系分野の研究内容を中心とした文章の読解力を養成すること、その基礎的な専門語彙や表現の使い方を養成することを目的として開発した「中級１専門読解_SPOC（Small Private Online Course)」を利用して授業を行った。また、「やさしい日本語ニュース（NHK)」のスクリプトを読み、コロナ禍で各自が日本のニュースから情報を得ることを目的とした。毎回の授業までに、本文を読み、内容クイズをすること、本文の語彙を確認すること、前回の授業で習った文型の短文作成を課題とした。また、学期に１回、ニュースを発表することとした。授業では、ニュースの発表、その後、提出された宿題のフィードバックを行い、語彙クイズ、本文のテーマに関するディスカッション、文型・表現練習、本文精読、内容確認の順で行った。

【授業の内容】

工学部広報誌（『Ttime!』）の記事に基づいた中級１専門読解の SPOC 教材の内容は、「人型ロボット：スムーズに動かすためには？」「道路の渋滞予測：目的地へより早く！」「快適な建築物の隠れた工夫」「スマートグラスで道案内」「味と食感を決める酵素」「料理を作りながらスマートフォンの充電ができる？」などのテーマだった。授業では、テーマと専門分野が近い学習者に内容について補足してもらったりした。

ニュースは、「新しいコロナウイルスで夏の高校野球の大会が中止になる」「売り場がなくなった野菜をバスで運んでコンビニが売る」など、各自の興味に基づいたニュースを選択したため、幅広いテーマのニュースを読むことができた。

### 2. その他

今学期はオンライン授業に変更になったため、オンライン教材が必要になった。SPOC の本文は、東京大学における工学系全般の新しく、かつ幅広い研究内容が網羅された当教室オリジナルで、オンライン上で共有した。Web 上にある「やさしい日本語ニュース」も、各自が自由に読むことができるため、毎週読みコメントする学生もいた。

### 3. まとめ・今後の課題

工学系分野の読解教材ではあったが、他研究科の学生も興味を持って読解に取り組んだ。イラスト動画は、多忙な学生が自律的に「読む」ことを促し、授業では、ディスカッションによって本文の内容を学習者同士で意味を確認し合ったり、各国の現状について説明したりしながら理解を深めることができた。一方、本文語彙だけでなく、練習問題の語彙がやや難解なため、理解に時間がかかるという意見があった。また、初級文型の中には、似ている表現との違いがわからないものもあり、授業で予想以上に説明が必要になり、やや文型重視型の教育になってしまった。その改善が今後の課題である。

# 中級1　文章

2020年度S1S2

| | | |
|---|---|---|
| レベル | : | 中級1 レベル |
| スキル | : | 文章 |
| 開講期間 | : | 2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22 |
| 時間 | : | 08:30 - 10:15 火曜日 |
| 場所 | : | |
| 学習目標 | : | 趣味、旅行など、身近なトピックに沿った文章を書くことにより、中級前半レベルでの書く技術を養成する。また、それに必要な漢字学習を行う。 |
| 対象 | : | 初級4、インテンシブ初級 II コースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当 |
| テキスト | : | みんなの日本語　初級第2版　やさしい作文 （スリーエーネットワーク) |
| 評価 | : | 教室活動5%、クイズ20%、課題作文35%、中間試験20%、期末試験20%<br>・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。<br>1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験<br>・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%<br>・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。 |
| その他 | : | https://zoom.us/j/93145878043 Email instructor for password（工学部8号館、８８M教室）<br><br>1.単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院3799-925-1、学部FEN-JL4o40L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない 。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 |
| 担当 | : | 米谷　章子 KOMETANI　Akiko<br>nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826 |

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 7 | 火 | レベルチェックテスト、オリエンテーション、Unit1 自己紹介 |
| 2 | 4/ 14 | 火 | Unit3 私の国/町 & Unit5 週末 |
| 3 | 4/ 21 | 火 | Unit7 プレゼント & 8 旅行、漢字クイズ3&5、作文3/5 |
| 4 | 4/ 28 | 火 | Unit9 もし私が二人いたら & 10 趣味、漢字クイズ7&8、作文7/8 |
| 5 | 5/ 5 | 火 | 祝日（こどもの日） |
| 6 | 5/ 12 | 火 | Unit11 楽しい一日 & 12 日本でびっくりしたこと、漢字クイズ9&10、作文9/10 |
| 7 | 5/ 19 | 火 | Unit13 私の夢 & 14 隣の人に一言、漢字クイズ11&12、作文11/12 |
| 8 | 5/ 26 | 火 | 中間試験 |
| 9 | 6/ 2 | 火 | Unit15 手紙、中間試験フィードバック |
| 10 | 6/ 9 | 火 | Unit16 国との比較①悪い点、漢字クイズ15、作文15 |
| 11 | 6/ 16 | 火 | Unit17 国との比較②いい点、漢字クイズ16、作文16 |
| 12 | 6/ 23 | 火 | Unit18 スマートフォン必要？不必要？、漢字クイズ17、作文17 |
| 13 | 6/ 30 | 火 | Unit19私の周りの最近のニュース、漢字クイズ18、作文18 |
| 14 | 7/ 7 | 火 | Unit20 私の国の有名な人、漢字クイズ19、作文19 |
| 15 | 7/ 14 | 火 | 休講（補講日） |
| 16 | 7/ 21 | 火 | 期末試験 |

## 中級１　文章

報告者：米谷章子

### 1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『みんなの日本語初級　第２版　やさしい作文』（スリーエーネットワーク）に沿って授業を進めた。前半は１コマで２課、後半は１コマで１課を扱い、毎回身近なトピックに沿った文章を書くことにより、中級レベルの書く力の養成と向上を目指した。授業では作文の構成や必要な表現について学習した後、課題の作文を提出し、それに対しフィードバックを行った。また、教科書各課の語彙や漢字についても学習し、毎回クイズを実施することで文章を書く際に必要な語彙や漢字を学べるよう進めた。

【授業の内容】

毎回の授業では、語彙・漢字クイズ、モデル作文の確認、作文のポイントや文型・表現の練習、トピックについての話し合い、という流れで進めた。コースの前半のトピックは今まで初級レベルでよく扱われる趣味や旅行など身近なものであったが、中級レベルに適した文章量や構成、表現に配慮するよう指導した。後半は、あるトピックについての比較や肯定・否定意見をまとめるなどの活動を通して応用力を養った。作文に取り組むための導入として、意見交換できるディスカッションの時間を設けた。作文を毎週割り当て、細やかに添削後、採点しコメントを付けてフィードバックした。

### 2. その他

今学期の完全同期型オンライン授業では、クイズの漢字は書く問いを出題せず、読みのみ扱うなど、通常のクイズ形式を修正したが、コースの評価割合や授業形式は変更せず実施した。対面授業時以上に、受講者を飽きさせないように配慮し、細かく活動を分け、授業を進めた。

毎週のクイズ、課題、および定期試験には LMS として GoogleClassroom を使用し、点数通知と作文のフィードバックを行った。教員のフィードバックに対する受講者からの質問にも容易に対応できた。

### 3. まとめ・今後の課題

本授業の修了率は大変高く、修了者の出席率もほぼ 100％であった。学習意欲も高く、ディスカッションや課題にも積極的に取り組んでいた。例年より受講者数が多く、またオンライン授業であったにもかかわらず、よい雰囲気を保ちながら学習を進められたのは大きな成果であった。授業外でも交流できるように工夫しつつ、時代と受講者のニーズに合わせ、パソコンツールを活かした授業内容と教材づくりに今後も努めたい。

# 中級2　総合

2020年度S1S2

| | | |
|---|---|---|
| レベル | : | 中級2 レベル |
| スキル | : | 総合 |
| 開講期間 | : | 2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22 |
| 時間 | : | 08:30 - 10:15 水曜日 |
| 場所 | : | 工学部8号館 132教室 |
| 学習目標 | : | 大学や日常生活における様々な場面で対応可能な日本語運用力を身につけることを目指す。授業では、一般的な事柄を取り上げ、中級前半レベルの文型・語彙を用いながら、読む、聞く、書く、話すの４技能をバランスよく習得できる活動を行う。 |
| 対象 | : | 中級Ｉ総合コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当 |
| テキスト | : | 『中級を学ぼう　日本語の文型と表現56　中級前期　第２版』<br>（スリーエーネットワーク）<br>※テキストは緑色の表紙です。 |
| 評価 | : | 教室活動10％　授業参加度10%　クイズ20%　課題20%　中間試験20％　期末試験20％<br>・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。<br>1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験<br>・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%<br>・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。 |
| その他 | : | 1. 単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可 UTAS コード：大学院3799-931-1、学部FEN-JL4p01L1.<br>2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。<br>3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。<br>4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。<br>5. 第1週目はオリエンテーション･ウィークのため出席数に含めない。<br>6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。<br>https://zoom.us/j/412772642　PW:miyase |
| 担当 | : | 宮瀬 真理 MIYASE　Mari , 大西　由美 ONISHI　Yumi<br>nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826 |

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 8 | 水 | オリエンテーション、レベルチェッククイズ |
| 2 | 4/ 15 | 水 | L2 |
| 3 | 4/ 22 | 水 | L2 |
| 4 | 4/ 29 | 水 | 祝日 |
| 5 | 5/ 6 | 水 | 祝日 |
| 6 | 5/ 7 | 木 | 【水曜授業】L3、クイズ(L2)、課題①提出 |
| 7 | 5/ 13 | 水 | L3、L4 |
| 8 | 5/ 20 | 水 | L4、クイズ(L3)、課題②提出 |
| 9 | 5/ 27 | 水 | 中間試験（L2,3,4） |
| 10 | 6/ 3 | 水 | L6、中間試験フィードバック |
| 11 | 6/ 10 | 水 | L6 |
| 12 | 6/ 17 | 水 | L7、クイズ(L6)、課題③提出 |
| 13 | 6/ 24 | 水 | L7 |
| 14 | 7/ 1 | 水 | L8、クイズ(L7)、課題④提出 |
| 15 | 7/ 8 | 水 | L8 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 16 | 7/ 15 | 水 | 【休講】補講期間のため |
| 17 | 7/ 22 | 水 | 学期末試験（L6,7,8） |

# 中級２　総合

報告者：　大西由美・宮瀬真理

## 1.　授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは、『中級を学ぼう　日本語の文型と表現 56　中級前期（第２版)』(スリーエーネットワーク）を使用して授業を行った。2020 年度は新型コロナウィルス感染拡大を受けてオンライン授業となり、Zoom を繋いで同期型授業を行った。

授業はテキストに沿って、１）課で扱うテーマについてのディスカッションや各国毎の情報のシェア　２）ことばの練習　３）CD で聴解後、内容の大意取り　４）新出文型・表現の学習　５)本文の読解　６）聴解・ディクテーション という流れで行った。新出文型・表現と漢字・語彙は各課が終わるごとにクイズを実施して定着を図った。また、作文も各課が終わるごとに宿題として課した。

【授業の内容】

スケジュールの都合上、授業では教科書の全８課のうち、２課、３課、４課、６課、７課、8 課の６つの課を扱い、１課を２回の授業に分けて進んだ。授業では中級前半レベルの文型・語彙を学習しながら、四技能の総合的な力を伸ばすことを目指した。進出文型・表現については、文法練習のみにとどまらないよう、各課のテーマに関連付けて、自らの経験や自国について、また自国と日本との違いなどをペアやグループで話す時間を設けた。学習者同士の相互理解、学び合いを通して産出能力を高めることを心がけた。

## 2.　その他

各課終了後に実施したクイズでは、新出文型を用いた短作文、漢字・語彙の意味と読みの確認を通して定着を図った。今年度はオンライン授業だったため、Google forms を用いて実施した。

## 3.　まとめ・今後の課題

準備期間も短くオンライン授業になったため、対面授業の内容のまま同期型で行なったが、小グループに分かれての口頭練習やグループ活動での学生の様子や反応が見えにくく、時間も十分に取れたとは言えない。週１コマという限られた授業時間をどう効果的に使って総合的な力を付けていくかを考えていく必要がある。また、大学生活に必要なプレゼンテーションやディスカッションなどに必要な日本語力を身に付けるための活動の取り入れ方も今後の課題である。

# 中級2　聴解

2020年度S1S2

| | | |
|---|---|---|
| レベル | : | 中級 II |
| スキル | : | 聴解 |
| 開講期間 | : | 2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22 |
| 時間 | : | 08:30 - 10:15 木曜日 |
| 場所 | : | 工学部8号館　722教室 |
| 学習目標 | : | 大学や日常生活における様々な場面で対応可能な中級の日本語運用力を身につけることを目指す。 授業では主に大学での講義や会議、 研究発表を聞く力を養う練習を行い、聞くだけでなく、聞いたことをまとめたり要約したりする活動を行う 。 |
| 対象 | : | 中級I聴解コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPTN3相当 |
| テキスト | : | 『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解［中級］』（スリーエーネットワーク） |
| 評価 | : | 教室活動20%, クイズ30%, 課題10%, 中間試験20%, 期末試験20%<br>・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。<br>1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験<br>・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%<br>・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。 |
| その他 | : | 1.単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院 3799-932-1, 学部 FEN-JL4p10L1, 2.修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。3.コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4.30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5.第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。6.授業内容と教室は変わる可能性がある。<br>7.Zoom address: https://zoom.us/j/818580319 |
| 担当 | : | 金（キム）ユジン KIM Youjin<br>nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826 |

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 9 | 木 | オリエンテーション、レベルチェッククイズ、L2信号の話 |
| 2 | 4/ 16 | 木 | L1富士山 |
| 3 | 4/ 23 | 木 | L3隠れキリシタン、L1クイズ |
| 4 | 4/ 30 | 木 | L4水族館、L3クイズ、課題①L５ |
| 5 | 5/ 7 | 木 | 休講【水曜授業】 |
| 6 | 5/ 14 | 木 | L6東京の温泉、L4クイズ |
| 7 | 5/ 21 | 木 | L7失敗学、L6クイズ |
| 8 | 5/ 28 | 木 | 中間試験 |
| 9 | 6/ 4 | 木 | L8 札幌のお祭り、課題2L10 |
| 10 | 6/ 11 | 木 | L9 津軽三味線、L8クイズ |
| 11 | 6/ 18 | 木 | L11 アクセント、L9クイズ |
| 12 | 6/ 25 | 木 | L12からくり人形、L11クイズ、課題③L15 |
| 13 | 7/ 2 | 木 | L13四つ葉のクローバー、L12クイズ |
| 14 | 7/ 9 | 木 | L14長寿の理由、L13クイズ |
| 15 | 7/ 16 | 木 | 期末試験 |

## 中級２　聴解

報告者：金 瑜眞

### 1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは、主教材として『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解（中級)』（スリーエーネットワーク）　を使用し授業を行った。主教材は、大学での勉学に必要なアカデミック・ジャパニーズ、特に講義や口頭発表を聞く能力の向上を意識した作りになっている。本コースでは、主教材に沿って授業を進め、各課の内容を把握するための〇×形式問題や、問題を聞き短い文で解答する問題、話の構成を整理ノートでまとめる問題、要約を書く問題などを通して、話を聞き大切な部分を聞き分けるとともに、その内容を整理する練習を包括的に行った。

【授業の内容】

授業では、主教材の 15 課中 12 課を授業で取り上げた。授業では大学の講義や口頭発表の音声を聞いたり、スライド形式の映像を見て、聴解の練習を行った。また、関連する映像がある場合は、授業内で一緒に確認し、その課のテーマや関連する話題について、4～5 名のグループで意見交換をし、さらに全体で共有するなどの活動を行った。主教材の問題については、まず受講者が自分で解答するようにし、その後、クラス全員に解答の確認を行った。その他、毎回授業のはじめに、前回の授業で学習した語彙や文章についてディクテーション形式のクイズを実施し、語や文を正確に聞き取る練習を行った。特に促音や長音等の特殊拍が含まれている語や文を選択し、日本語の拍感覚に慣れるための聞き取り練習を行った。また、毎回の授業の後で教科書の問題に答えた解答シートを提出させ、担当教員である筆者がフィードバックを行うとともに教室活動の点数として反映した。

### 2. その他

コースの日程上、15 課をすべて授業で取り上げることができなかったため、授業で扱えなかった 3 課（5 課、10 課、15 課）については、課題として与えた。課題は、授業同様、教科書の該当する課の話を自分で聞き、その問題に答えることとした。聞く回数については、制限を設けず、繰り返し聞いて解答しても良いことにした。提出物は、担当教員である筆者がチェックし、フィードバックを行った。

### 3. まとめ・今後の課題

新型コロナウィルスの影響により、授業をオンライン(Zoom)で実施した。オンラインは初めての試みであったが、聴解の授業は対面に類似した形式で概ね問題なく進めることができた。一方で、今学期は、不正行為防止等のために、クイズを実施する際、ディクテーションのみとしたが、今後は意味理解についても確認できる改善案を考えていきたい。

# 中級2　会話

2020年度S1S2

| | | |
|---|---|---|
| レベル | : | 中級2 レベル |
| スキル | : | 会話 |
| 開講期間 | : | 2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22 |
| 時間 | : | 10:25 - 12:10 火曜日 |
| 場所 | : | |
| 学習目標 | : | 大学や日常生活における様々な会話において対応可能な中級の運用能力（聞く・話す）を身につけることを目指す。授業では主にロールプレイ練習を中心に、自然な日本語を使ったコミュニケーション能力を養う活動を行う。 |
| 対象 | : | 中級Ｉ会話コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当 |
| テキスト | : | 『新版ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話』(凡人社) |
| 評価 | : | 教室活動5%, 授業参加度20%, 中間試験30%, 期末試験30%, 課題15%<br>・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。<br>1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験<br>・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%<br>・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。 |
| その他 | : | https://zoom.us/j/93145878043<br>Email instructor for password(工学部8号館 88M)<br>1. 単位２認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院(3799-933-1)、学部(FEN-JL4p20L1)，2 . 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる 。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5．第1週目はオリエンテーション･ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 |
| 担当 | : | 米谷　章子 KOMETANI　Akiko，佐藤　瑞恵 SATO Mizue<br>nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826 |

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 7 | 火 | オリエンテーション、L１、レベルチェックテスト |
| 2 | 4/ 14 | 火 | L2, 課題①（締め切り:4/21) |
| 3 | 4/ 21 | 火 | L2-3, 課題①締め切り |
| 4 | 4/ 28 | 火 | L3 |
| 5 | 5/ 5 | 火 | 祝日(こどもの日) |
| 6 | 5/ 12 | 火 | L4, 課題②（締め切り: 5/19) |
| 7 | 5/ 19 | 火 | L4, 課題②締め切り |
| 8 | 5/ 26 | 火 | 中間口頭試験（ロールプレイ発表L1-4） |
| 9 | 6/ 2 | 火 | L5, 課題③（締め切り: 6/9) |
| 10 | 6/ 9 | 火 | L5, 課題③締め切り |
| 11 | 6/ 16 | 火 | L6 |
| 12 | 6/ 23 | 火 | L6,課題④（締め切り: 6/30) |
| 13 | 6/ 30 | 火 | L7,課題④締め切り |
| 14 | 7/ 7 | 火 | L7 |
| 15 | 7/ 14 | 火 | 休講（補講日） |
| 16 | 7/ 21 | 火 | 期末口頭試験（ロールプレイ発表L5-7） |

## 中級２　会話

報告者：米谷章子・佐藤瑞恵

### 1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本授業は教科書『【新版】ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話』（凡人社）から、受講者が実際に遭遇すると考えられる場面のロールプレイを選び、1 コマ（105 分）で 3 つ程度のロールプレイを実施した。教材が「タスク先行型」のロールプレイ学習を採用していることから、授業でもまず受講者がロールプレイをペア練習し、全体で発表後、その会話に必要とされる表現・文型・語彙などを導入し、練習、定着を促した。その後、CD のモデル会話のディクテーションを用いた復習や応用練習も適宜実施した。

【授業の内容】

授業で扱った内容は、「友だちとキャンプ」、「アパートの隣人に苦情」、「ゼミ旅行とアルバイト」、「自国の料理」、「映画やスポーツ」、「友だちの悩み」、「たばこと健康」など、受講者が身近に感じられるロールプレイを取り上げた。日本語独特のあいづちやフィラーなどの使い方を指導するとともに、誤用の多い文末のイントネーションや終助詞なども重ねて練習し、より自然な日本語の習得を目指した。また、状況に応じて丁寧な言い方とカジュアルな言い方を使い分けられるように働きかけた。

### 2. その他

1 課から 4 課までを中間試験、5 課から 7 課までを期末試験の範囲とし、1 週間前にペアをランダムで決め、当日は課題のロールプレイを無作為に選ぶため、くじ引きをし、当たったロールプレイを 3 つ実施し評価した。定期試験以外に、学期を通して 4 つの課題を出し、ロールプレイのスクリプト作成や、料理の説明やスピーチなど、個人の興味に合わせた音声録音も課した。

### 3. まとめ・今後の課題

今学期、受講者は周囲の日本人とコミュニケーションをとる機会が殆どなく、習得した日本語を試せる場が失われてしまった。しかし、修了した受講者は非常に前向きな姿勢でオンラインの会話授業に取り組んでいた。

本会話授業は毎週 105 分間、完全同期型で行なったが、会話のように相手の存在が必要とされるスキルの向上には、他者とのリアルタイムでの繋がりが欠かせない。来学期もオンラインで授業を実施するにあたり、引き続き同期型を基本に、工夫を凝らし、効果的な授業を展開していきたい。

# 中級2　読解

2020年度S1S2

| | | |
|---|---|---|
| レベル | : | 中級2 |
| スキル | : | 読解 |
| 開講期間 | : | 2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22 |
| 時間 | : | 10:25 - 12:10 金曜日 |
| 場所 | : | |
| 学習目標 | : | 多面的な読みの力を身につけるため、様々なジャンルの文章を読む。学習した文法の復習と、語彙の強化をはかり、読解能力の向上を目指す。 |
| 対象 | : | 中級１読解の修了者、日本語を300時間程度勉強した人、又はJLPT N3相当。 |
| テキスト | : | 『留学生のための読解トレーニング（読む力がアップする15のポイント）』(凡人社) |
| 評価 | : | 教室活動20%　クイズ25%　課題15%　中間試験20%, 期末試験20%<br>・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。<br>1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験<br>・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%<br>・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。 |
| その他 | : | ID 946-0699-7337 (Password 086047)＊10:20から入室可能<br>1. 単位(2)認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可)<br>UTAS コード：大学院3799-934-1,学部 FEN-JL4p30L1,<br>2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。<br>3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。<br>4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。<br>5. 第1週目はオリエンテーション･ウィークのため出席数に含めない。<br>6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 |
| 担当 | : | 片岡　さゆり KATAOKA Sayuri<br>nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826 |

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 3 | 金 | オリエンテーション、レベルチェック、語彙・多読イントロ |
| 2 | 4/ 10 | 金 | L1語のまとまりをとらえましょう p.2、漢字① |
| 3 | 4/ 17 | 金 | L1語のまとまりをとらえましょう p.2, L2p.8 |
| 4 | 4/ 24 | 金 | L2「する・される」の関係をつかみましょう」 p.8, L3 「文の構造をとらえましょう」p.21、漢字クイズ② |
| 5 | 5/ 1 | 金 | L3「文の構造をとらえましょう」p.21, L4「前件と後件の関係をつかみましょう」p.24、漢字クイズ③ |
| 6 | 5/ 8 | 金 | L4「前件と後件の関係をつかみましょう」 p.24, p.29-31、漢字クイズ④ |
| 7 | 5/ 15 | 金 | 中間試験 |
| 8 | 5/ 22 | 金 | 【休講】補講期間のため |
| 9 | 5/ 29 | 金 | 【休講】補講期間のため |
| 10 | 6/ 5 | 金 | L6「省略されているものが何か考えましょう」 p.44 |
| 11 | 6/ 12 | 金 | L6「省略されているものが何か考えましょう」 p49<br>漢字クイズ⑤ |
| 12 | 6/ 19 | 金 | L7「関連のある言葉を探しましょう」p.52 漢字クイズ⑥ |
| 13 | 6/ 26 | 金 | L7「関連のある言葉を探しましょう」p.52 |
| 14 | 7/ 3 | 金 | L8「文末に注目して筆者の意見を見抜きましょう」 p.67, 漢字クイズ⑦ |
| 15 | 7/ 10 | 金 | 多読のビブリオバトル |
| 16 | 7/ 17 | 金 | 期末試験 |

## 中級２　読解

報告者：片岡さゆり

### 1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースはオンライン双方向授業で行われた。テキストは『留学生のための読解トレーニング：読む力がアップする 15 のポイント』（凡人社）を使用し、全 15 課のうち、1-9 課を学習した。さまざまなジャンルの文章を読むことに慣れ、ストラテジーを用いたより正確な読解力を養成することを目的とする。まず、事前学習として語彙の意味を調べてくることとした。授業は 1)語彙の確認、文法表現の学習 2)各課の読解ストラテジーの習得、練習問題で確認 3)読解　4)音読 の順序で進めた。またテーマについてペアワークで関連情報を調べる、クラスでディスカッションを行う、などコミュニケーションを重視した活動を行った。

さらに自由な読書としてオンライン読み物から各自が選んで読み、読書記録を付ける「多読」を取り入れた。

【授業の内容】

各課の読書ストラテジーを習得し、読解に応用することを目標とし、練習問題などを通して「読むこと」への認識を深めた。語彙表現は復習クイズ行って定着を図った。多読は、1)簡単なものから 2)原則として辞書を使わない 3)進まなくなったら途中で止めて次の本を読む、というルールで行った。学期末には読んだ本の中から 1 冊を選んでクラスで紹介し、投票でチャンプ本を選ぶビブリオバトルを開催した。また、学期最後の授業では、日本の詩歌を読み、俳句作りに挑戦する機会を持った。

期末試験は、テキストの「発展問題」（未習）を指定し、「要約・自分の意見を書く」、「学習したストラテジーをふまえて自分で設問を作って答える」などの課題提出とし、これを評価した。

### 2. その他

オンライン授業で行われたが、海外からの受講者も継続して参加していた。社会・文化に関する話題について積極的に意見交換が行われた。

テキストはボリュームがあり、各課に「まずは挑戦」「基本問題」「発展問題」の文章が載せられている。クラスで全セクションは扱わなかったが、自主的に興味のある文章を選んで読んでいる学生も見られた。

### 3. まとめ・今後の課題

テキストの読解ストラテジーについてより理解を深めるため、各国語訳の当該箇所を読むことを事前課題としたい。

# 中級2　文章

2020年度S1S2

| | | |
|---|---|---|
| レベル | : | 中級2 レベル |
| スキル | : | 文章 |
| 開講期間 | : | 2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22 |
| 時間 | : | 10:25 - 12:10 木曜日 |
| 場所 | : | 工学部8号館 701教室 |
| 学習目標 | : | 表記のしかた、書きことばと話しことばの違いなどの作文の基礎知識をはじめ、文章を書くための文法、表現を学ぶ。段落内および段落間の構成を考えて、毎回400字程度の作文を書く。学期中に1200字程度の文章を書くことをコースの目標とする。 |
| 対象 | : | 中級１<文章>の修了者、日本語を300時間程度勉強した人、又はJLPT　N3相当。 |
| テキスト | : | 『改訂版 大学・大学院留学生の日本語２　作文編 』(アルク) |
| 評価 | : | 教室活動10%　授業参加度10%　中間試験20%　期末試験20%　提出物40% ・以下の条件を満たしたものについて、コース修了とみなす。<br>1) 出席率70%以上　2)学期末試験もしくは課題を受験<br>・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%<br>・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。 |
| その他 | : | 1.単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院3799-931-1、学部FEN-JL4p01L1　2.修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。<br>3.コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4.30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5.第1週目はオリエンテーション･ウィークのため出席数に含めない。<br>6.授業内容と教室は変わる可能性がある。<br>Zoom URL: https://zoom.us/j/429173430　ミーティングID: 429-173-430 |
| 担当 | : | 内田 あゆみ UCHIDA Ayumi<br>nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826 |

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 9 | 木 | オリエンテーション, レベルチェッククイズ, L1 作文の基本 |
| 2 | 4/ 16 | 木 | L2 書き言葉 |
| 3 | 4/ 23 | 木 | L2 フィードバック（FB） |
| 4 | 4/ 30 | 木 | L3　段落 |
| 5 | 5/ 7 | 木 | 【休講】水曜授業のため |
| 6 | 5/ 14 | 木 | L3 FB |
| 7 | 5/ 21 | 木 | L4 「は」と「が」 |
| 8 | 5/ 28 | 木 | 中間試験　L4 FB |
| 9 | 6/ 4 | 木 | L5 テーマを述べる |
| 10 | 6/ 11 | 木 | L5 FB |
| 11 | 6/ 18 | 木 | L6 理由・経過を述べる |
| 12 | 6/ 25 | 木 | L6 FB |
| 13 | 7/ 2 | 木 | L7 定義をする |
| 14 | 7/ 9 | 木 | L7 FB |
| 15 | 7/ 16 | 木 | 期末試験 |

# 中級 2　文章

報告者：内田あゆみ

## 1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは「だ・である体」を習得し、話し言葉と書き言葉の違いを理解し、作文の基礎知識を身につけ、専門的な文章を書くために必要な表現・文法を学ぶことを目標とした。テキストは『改訂版 大学・大学院 留学生の日本語 ②作文編』（アルク）を使用し、基本的に 1 回の授業で 1 課ずつ進めた。今学期はオンライン授業であったため、Zoom を使用し、同期型授業を行った。

【授業の内容】

本コースでは、上記テキストの前半部分である第 1 課から第 7 課を扱った。授業ではまず課題のフィードバックをし、その後、テキストを用いて作文技術や文法・表現を学び、練習問題や短作文作成問題などを行った。授業内の活動は個別作業とグループワークを適宜組み合わせて行った。個別作業の際には学生の集中力や体力を考慮し、カメラをオフにして取り組ませる時間も取り入れた。グループワークでは、作文を発表し合ったり、課題の内容について意見交換を行ったり、協力して練習問題に取り組んだりさせた。

各課の最後にある 400 字程度の作文問題は毎回課題とした。課題は事前に提出させ、コメントや訂正コードをつけ返却し、次の授業ではフィードバックをしたり、課題の中にあった誤用について全体で考えたりした。その後各自修正をさせ、再提出させた。

## 2. その他

上記テキスト以外に、研究室の先生へのメールの書き方や履歴書の書き方なども取り上げ、日本で生活する上で必要な書類の書き方も学習した。試験はテキストに準拠した形で行った。各課の文法・表現問題に加え、400 字~600 字程度の作文問題もあった。オンライン試験であったため、作文問題は持ち込み可とした。

## 3. まとめ・今後の課題

オンライン授業であったが、学生は積極的に授業に参加し、課題の提出率も高く、真面目に取り組んでいる学生が多かった。また、授業後に実施したアンケートではオンライン授業に対して好意的な意見が多かった。一方、作文のコースではあるが、グループワークやクラスメートと交流する機会がもっと欲しかったという意見もあった。今後はオンライン授業でも学生同士の交流を深めることができるような活動などを工夫して取り入れていきたい。

# 中級2　専門語彙・漢字

2020年度S1S2

| | | |
|---|---|---|
| レベル | : | 中級2 |
| スキル | : | その他 |
| 開講期間 | : | 2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22 |
| 時間 | : | 08:30 - 10:15 火曜日 |
| 場所 | : | 工学部8号館　701教室 |
| 学習目標 | : | 日本の生活で必要な語彙、研究生活全般で使用されるアカデミックな語彙に加え、工学系の学生が研究するうえで必要な専門分野の語彙を勉強する。旧日本語能力試験2ー3級の漢字を中心に選んだ語彙の意味を理解するとともに語彙を用いて文を作成できるようにする。 |
| 対象 | : | 中級Ｉ総合コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当 |
| テキスト | : | 自主教材 |
| 評価 | : | 教室活動20%、課題15%、クイズ25%、中間試験20%、学期末試験20%<br>・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上　2) 学期末試験と課題を受験<br>・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。 |
| その他 | : | 1.単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院 3799-936-1、学部 FEN-JL4p50L1,　2.修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。3.コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4.30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。5.第1週目はオリエンテーション･ウィークのため出席数に含めない。6.授業内容と教室は変わる可能性がある。7.Zoom ID https://zoom.us/j/772986932 |
| 担当 | : | 岡　葉子 OKA Yoko<br>nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826 |

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 7 | 火 | オリエンテーション　レビュー＆チャレンジクイズ |
| 2 | 4/ 14 | 火 | 第1課：漢字1-5　短文作成 |
| 3 | 4/ 21 | 火 | 第2課：漢字6-10　短文作成　1課漢字クイズ　課題① |
| 4 | 4/ 28 | 火 | 第3課：漢字11-15　短文作成　2課漢字クイズ |
| 5 | 5/ 5 | 火 | 祝日 |
| 6 | 5/ 12 | 火 | 第4課：漢字16-20　短文作成　3課漢字クイズ |
| 7 | 5/ 19 | 火 | 第5課：漢字21-25　短文作成　4課漢字クイズ　課題② |
| 8 | 5/ 26 | 火 | 中間試験（L.1-L.5） 第6課：漢字26-30 |
| 9 | 6/ 2 | 火 | 第7課：漢字31-35　短文作成　6課漢字クイズ |
| 10 | 6/ 9 | 火 | 第8課：漢字36-40　短文作成　7課漢字クイズ |
| 11 | 6/ 16 | 火 | 発表 |
| 12 | 6/ 23 | 火 | 第9課：漢字41-45　短文作成　8課漢字クイズ |
| 13 | 6/ 30 | 火 | 第10課：漢字46-50　短文作成　9課漢字クイズ |
| 14 | 7/ 7 | 火 | 第11課：漢字51-55　短文作成　10課漢字クイズ　課題③ |
| 15 | 7/ 14 | 火 | 休講　【補講】 |
| 16 | 7/ 21 | 火 | 学期末試験（L.6-L.12) |

# 中級２専門語彙漢字

報告者：岡葉子

## 1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは「理工学系話し言葉コーパス」の研究を応用実践したコースの一つである。日本語能力試験の旧 3，4 級レベルの単漢字をベースに、日常生活で使われる語彙のほか、研究室内で話されているアカデミックな語彙や工学系分野に特有な語彙も学習する。

教材は、前任者作成の自主教材で「理工学系話し言葉コーパス」をもとに、7 つの専攻（「化学システム工学」「建築学」「社会基盤学」「情報理工・電子情報学」「電気系工学」「都市環境工学」「都市計画」）に共通する頻出語彙を中心に旧 3 級レベルの漢字を 60 字程度選んだものである。

【授業の内容】

1 コマの授業で 5 つの単漢字を導入し、各語彙を用いた例文を紹介した。さらに、当該漢字を含む 2 級以上の語彙も必要に応じて導入し、共起することばやゼミで使う表現なども学習した。その後、学習者は習った語彙、あるいは辞書などで新たに調べた語彙を使った用例を作成し、Google ドキュメント上に書き込んで他の学習者と共有した。授業内で全ての漢字の短作文は確認できないため、毎回タスクシートを作成させ、提出させた。翌週には、授業のはじめに、前回学習した漢字のクイズを行った。

## 2. その他

課題として、「私の専門」「私の趣味」「〇〇〇で知った漢字（例：病院、ポスターなど）」の 3 つのテーマから 1 つを選び、教室外で知った語彙、興味を持った部首、関連表現などについての発表を行った。今学期は、新型コロナウィルスのため全て Zoom で実施した。

## 3. まとめ・今後の課題

漢字圏と非漢字圏の学習者が混在していたが、レベル差はほとんど見られず、授業をスムーズに進めることができた。理由としては、もともと、このクラスの受講者の傾向として、漢字学習に対して前向きでクイズや試験で高得点を取る学習者が多いことのほか、前任者の作成した復習プリント等の副教材の充実も考えられる。クラス登録者は 6 名だったため、人数に余裕があり短作文の個別フィードバックも可能であった。

課題の発表では、自分の研究に関する発表も見られた一方で、「相撲」「経済に関する語彙」「『容疑者 X の献身』に出てくる単語」などバラエティに富んでいた。学生達は、クラスメイトの発表に刺激を受けている様子であった。

# 中級３　総合

2020年度S1S2

| | | |
|---|---|---|
| レベル | : | 中級3 レベル |
| スキル | : | 総合 |
| 開講期間 | : | 2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22 |
| 時間 | : | 10:25 - 12:10 火曜日 |
| 場所 | : | 工学部8号館　722教室 |
| 学習目標 | : | 大学や日常生活における様々な場面で適切に対応できる日本語運用力を身につけることを目指す。授業では、抽象的なテーマを取り上げ、中級後半レベルの文型・語彙を用いながら、情報を正しく理解し、適切に表現する力を習得するための活動を行う。 |
| 対象 | : | 中級2総合コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当 |
| テキスト | : | 『中級を学ぼう　日本語の文型と表現82　中級中期』<br>(スリーエーネットワーク)<br>※テキストは水色の表紙です。 |
| 評価 | : | 教室活動10%　参加度10%　中間試験20%　期末試験20%　クイズ20%　課題20%<br><br>・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。<br>1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験<br>・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%<br>・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。 |
| その他 | : | 1. 単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院 3799-941-1、学部 FEN-JL4q01L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない 。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。https://zoom.us/j/99417034027 |
| 担当 | : | 猪狩　美保 IGARI Miho, ハワード　文江 HOWARD Fumie<br>nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826 |

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 7 | 火 | オリエンテーション、レベルチェックテスト　第1課① |
| 2 | 4/ 14 | 火 | 第1課② |
| 3 | 4/ 21 | 火 | 第1課② クイズ(L1)　課題1 |
| 4 | 4/ 28 | 火 | 第2課① |
| 5 | 5/ 5 | 火 | 祝日 |
| 6 | 5/ 12 | 火 | 第2課②　クイズ(L2)　課題2【締切5月18日】 |
| 7 | 5/ 19 | 火 | 第3課①　クイズ(L3) |
| 8 | 5/ 26 | 火 | 中間試験 |
| 9 | 6/ 2 | 火 | 第3課② 課題3【締切6月8日】　中間試験フィードバック |
| 10 | 6/ 9 | 火 | 第4課① |
| 11 | 6/ 16 | 火 | 第4課② クイズ(L4)　課題4【締切6月22日】 |
| 12 | 6/ 23 | 火 | 第5課① |
| 13 | 6/ 30 | 火 | 第5課②　クイズ(L5)　課題5【締切7月6日】 |
| 14 | 7/ 7 | 火 | 第6課　クイズ(L6)　課題6【締切7月14日】 |
| 15 | 7/ 14 | 火 | 【休講】補講期間のため |
| 16 | 7/ 21 | 火 | 学期末試験 |

## 中級３　総合

報告者：Ａクラス　猪狩　美保・Ｂクラス　ハワード　文江

### 1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『中級を学ぼう　日本語の文型と表現 82　中級中期』（スリーエーネットワーク）を使用して授業を進めた。主に１）その課のトピックについての導入、２）学習項目の理解および練習、３）本文読解と内容の確認、４）聴解を含む応用練習という流れで行った。学習項目の練習では、文型練習の他、テキスト内の「読もう」「「聞こう」「話そう」などを適宜取り上げ、総合的に学べるよう進めた。また、語彙に関しては事前学習として各自取り組んでもらい、課ごとに語彙クイズを実施し定着を図った。各課が終わった段階で課題を出し、文型の復習に加え、課のトピックに関する自分自身の意見を文章としてまとめるなど、書く練習も併せて行った。

【授業の内容】

授業ではテキストの１～６課を扱い、各課を２回に分けて進めた。各課のトピックは「色」「ユーモア・ジョーク」、「制服」、「算数」など学生が関心を持ちやすいトピックとなっており、クラスでは学生自身の知識や経験の振り返りを促し、理解を深められるよう工夫した。オンライン授業であったため制約もあったが、できる限り学生同士の意見交換やクラス内で活発なコミュニケーションが行われるような授業を心がけた。授業内で扱えなかった内容については、適宜課題として取り組み、フィードバックすることで補った。

### 2. その他

Ｂクラスではオンライン授業の利点を活かし、語彙以外にも文法項目の学習を事前課題とし、授業までに課題のフィードバックを行い、共通して誤りが多かった項目に関しては再度全体でも確認を行い、定着を図った。又 2 週間で 1 課のペースで進めるスケジュールであった為、中間試験後は各課のトピックの導入は学生同士で行えるようにクラスのリーダーを全員で分担してもらい、補足説明や確認が必要な個所のみ教師が声を掛ける形で行った。多くの学生がこの形を取ったことで授業中の発話の機会が増えたと肯定的な意見であった。

### 3. まとめ・今後の課題

オンラインによる授業となり、開講時の登録者数も多かったことから急遽２セクションの開講となった。初の試みとなるオンライン授業において、効果的な授業の進め方を試行錯誤した学期であった。テキストの内容も多く、語彙学習や作文、文型練習など、学生が授業時間外で進める学習の割合が対面時に比べ増えたことが今後の課題として残された。クラスでのコミュニケーションを取りながら進める学習と、各自が授業外で行う学習との相乗効果で、着実に中級レベルの力が身につけられるよう、今後の授業の進め方や学生への働きかけについても考えていきたい。

# 中級３　聴解

2020年度S1S2

| | | |
|---|---|---|
| レベル | : | 中級III |
| スキル | : | 聴解 |
| 開講期間 | : | 2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22 |
| 時間 | : | 10:25 - 12:10 水曜日 |
| 場所 | : | 工学部8号館　132教室 |
| 学習目標 | : | 大学や日常生活における様々な場面で対応可能な中上級の日本語運用力を身につけることを目指す。授業では主に大学での講義や会議、研究発表を聞く力を養う練習を行い、聞くだけでなく、聞いたことをまとめたり要約したりする活動を行う。 |
| 対象 | : | 中級Ⅱ＜聴解＞コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当 |
| テキスト | : | 留学生のためのアカデミックジャパニーズ聴解（中上級）スリーエーネットワーク |
| 評価 | : | ・教室活動5%, 参加度15%, クイズ30%, 課題10%, 中間試験20%, 期末試験20%<br>・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。<br>1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験<br>・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%<br>・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。 |
| その他 | : | 1. 単位2認定(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTASコード：大学院(3799-942-1)、学部(FEN-JL4q10L1).<br>2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。<br>3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。<br>4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。<br>5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。<br>6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。<br>https://zoom.us/j/364646999 PW:miyase |
| 担当 | : | 宮瀬 真理 MIYASE　Mari<br>nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826 |

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 8 | 水 | オリエンテーション、L1掃除、レベルテスト |
| 2 | 4/ 15 | 水 | L2本屋 |
| 3 | 4/ 22 | 水 | L3新幹線のおでこ, L2クイズ |
| 4 | 4/ 29 | 水 | 祝日 |
| 5 | 5/ 6 | 水 | 祝日 |
| 6 | 5/ 7 | 木 | 【水曜授業】L4体験プレゼント, L3クイズ, 課題①L５そば屋ののれん |
| 7 | 5/ 13 | 水 | L6犬の肥満, L4クイズ |
| 8 | 5/ 20 | 水 | L7卵かけご飯, L6クイズ |
| 9 | 5/ 27 | 水 | 中間試験 |
| 10 | 6/ 3 | 水 | L8女性専用車両, 課題②L9剣道 |
| 11 | 6/ 10 | 水 | L10落語, L8クイズ |
| 12 | 6/ 17 | 水 | L11そばをすする音, L10クイズ |
| 13 | 6/ 24 | 水 | L12将棋, L11クイズ, 課題③L15虚偽の自白 |
| 14 | 7/ 1 | 水 | L13南極, L12クイズ |
| 15 | 7/ 8 | 水 | L14明治神宮の森, L13クイズ, |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 16 | 7/ 15 | 水 | 【休講】補講期間のため |
| 17 | 7/ 22 | 水 | 期末試験 |

# 中級３　聴解

報告者：宮瀬真理

## 1.　授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースでは、『留学生のためのアカデミックジャパニーズ聴解（中上級)』(スリーエーネットワーク）を使用し授業を行った。2020 年度は新型コロナウィルス感染拡大を受けてオンライン授業となり、Zoom を繋いで同期型授業を行った。

授業はテキストに沿って１課を１コマ(105 分)で扱った。1）前回の内容のディクテーションクイズ　2）課の内容を予想させるような話し合いやアンケート　3）全体の聞き取りをして大意取り　4）語彙や表現の確認　5）内容確認の質問に対する答えの確認　6）内容に対する話し合い　という流れで行った。

【授業の内容】

教材は「体験プレゼント」「犬の肥満」「卵かけご飯」「女性専用車両」「そばをすする音」など日本の現代社会を扱ったトピックを、講義や発表に近い形で練習できるよう工夫されている。未習の単語や細かい例にとらわれず、全体として話者が伝えたいことを捉えることを意識させた。スライド資料を見ながら聞くなど、実際に近い形で練習し、実践的な聴解力の養成を目指した。

## 2.　その他

実施したディクテーションクイズでは、前回既習の表現、キーワード、漢字・語彙の意味と読みの確認を行った。今年度はオンライン授業だったため、Google forms を用いて実施した。

また、授業内で扱うことのできなかった 3 課分は課題として出し、教科書全てを終了し、達成感が得られるよう努めた。

## 3.　まとめ・今後の課題

対面授業の内容のままオンライン授業を同期型で行ったが、効率的な聴解力の養成に重きを置きすぎてしまい、学習者同士の交流を深められなかった。ペアワークや小グループに分かれての話し合いにもっと時間を割き、学習者同士の活発な意見交換を促す必要を強く感じた。聴解クラスであっても、オンラインクラスであっても、授業の前後に雑談ができるような一体感のあるクラス運営を今後心がけていきたい。

# 中級３　会話

2020年度S1S2

**レベル** : **中級III**

**スキル** : **会話**

**開講期間** : 2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22

**時間** : 08:30 - 10:15 **水曜日**

**場所** :

**学習目標** : **日常生活のやや複雑な場面において自分の意思を伝え、相手とコミュニケーションが取れるようになる。また、そのために必要な待遇表現を学ぶ。抽象的なテーマについての発表、ディスカッションを通して、アカデミックな場面で必要な 口頭表現能力を身につける。**

**対象** : **中級2会話コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当**

**テキスト** : **授業内でプリント配付**

**評価** : **教室活動5%　参加度15%　中間試験25%　期末試験25%　ショートスピーチ10%、ディスカッション10%　ディベート10%**
**・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。**
1) **出席率70%以上**　2) **学期末試験もしくは課題を受験**
**・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。**A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
**・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。**

**その他** : ID 918-3672-5449 (Password: kataoka3 )

1. **単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可)** UTAS **コード：大学院**3799-943-1、**学部** FEN-JL4q20L1 , 2. **修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。** 3. **コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。** 4. 30**分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。**3**回の遅刻または早退は**1**回の欠席とみなす。** 5. **第**1**週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない 。** 6. **授業内容と教室は変わる可能性がある。**

**担当** : **片岡　さゆり** KATAOKA Sayuri

nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 8 | 水 | オリエンテーション、自己紹介のショートスピーチ |
| 2 | 4/ 15 | 水 | 敬語、ショートスピーチ① ピアフィードバック |
| 3 | 4/ 22 | 水 | ショートスピーチ② ピアフィードバック |
| 4 | 4/ 29 | 水 | 祝日 |
| 5 | 5/ 6 | 水 | 祝日 |
| 6 | 5/ 7 | 木 | ロールプレイ① フィードバック、ディスカッション |
| 7 | 5/ 13 | 水 | ロールプレイ② フィードバック、ディスカッション |
| 8 | 5/ 20 | 水 | ロールプレイ③ フィードバック、ディスカッション |
| 9 | 5/ 27 | 水 | 中間試験(会話試験) |
| 10 | 6/ 3 | 水 | ディベートのテーマを決める、話し合いの表現を学ぶ |
| 11 | 6/ 10 | 水 | ディベート①　フィードバック |
| 12 | 6/ 17 | 水 | ディベート②　フィードバック |
| 13 | 6/ 24 | 水 | ディベート③　ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ、期末発表準備、テーマの検討 |
| 14 | 7/ 1 | 水 | 期末発表準備① |
| 15 | 7/ 8 | 水 | 期末発表準備② |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 16 | 7/ 15 | 水 | 【休講】補講期間のため |
| 17 | 7/ 22 | 水 | 期末発表 |

## 中級３　会話

報告者：片岡　さゆり

### 1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは、オンライン双方向授業で行われた。オリジナル教材を使用し、1)様々な状況に適した表現でやり取りを行い、円滑な人間関係構築を図ること、2)ディベートおよび口頭発表において、自分の意見を整理し分かりやすく簡潔に話す能力を身に付けること、を目標とし、ロールプレイ、スピーチ、小グループディスカッション形式で授業を進めた。ロールプレイではピア活動を取り入れ、よりよい会話を形成するためには何が必要なのかを考え、各自の課題への気づきを促した。ディベートにおいては、準備段階のグループディスカッションを重視し、情報収集、役割分担と調整、グループ戦略などを行う時間を十分に確保した。

【授業の内容】

まず、授業開始時に 2、3 人ずつショートスピーチを行った。新型コロナ流行の影響により、一人で過ごす時間が多くなったため、日々をどのように過ごしているか、写真や実物を見せながら紹介する 2-3 分のスピーチとした。孤立しがちな生活の中で、クラスメンバーと互いに知り合い、情報交換できる機会となった。次に、学期前半は「忙しい先生を飲み会に誘う」など、身近な場面を設定し、交渉や譲歩など複雑な状況に対応する会話練習をおこなった。待遇表現については、継続的に学習する必要がある。また、「面接」では、インターンシップ面接の場面で自己紹介や志望動機などごく初歩的な質疑応答を学んだ。

学期後半では、ディベートの方法・表現を学び、テーマを選定した後、グループワークで準備を進め、ディベート大会（2 回）を行った。論題の例：「オリンピック開催国になることは良い」「動物カフェは禁止すべきである」「オンライン授業は対面授業より良い」。

### 2. その他

ペアワークでは、物理的に巡回指導が難しく、特に待遇表現、発音指導が十分に行えなかったことは残念である。これに対してディベートのグループ活動は、準備からディベート大会の運営に至るまで滞りなく行うことができた。学生は学期を通して熱心に取り組んだ。

### 3. まとめ・今後の課題

オンラインの双方向授業においては、ペア活動の場合、同時に全体を見渡すことができないため、対面授業に比して個人指導が行き届きにくいと思われる。

今後は、グループワークで使用できるツールを導入するなど、その利点を生かした授業デザインを行いたい。

# 中級3　専門読解

2020年度S1S2

**レベル** : **中級3 レベル**

**スキル** : **読解**

**開講期間** : 2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22

**時間** : 08:30 - 10:15 **木曜日**

**場所** : **工学部8号館　701教室**

**学習目標** : **自然科学分野の語彙、表現を学ぶことにより、科学技術日本語の読解力を養成する。『T time!』(東京大学工学部広報誌)の記事を読み、東大における最新の研究内容を知り、理工系の専門用語の語彙力を向上させる。**

**対象** : **中級Ⅱ読解コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人またはJLPT N2相当**

**テキスト** : **自主教材**

**評価** : **教室活動**10% **クイズ**20% **課題**25% **発表**5% **中間試験**20% **期末試験**20%
**・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。**
1) **出席率**70%**以上**　2) **学期末試験もしくは課題を受験**
**・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。**A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% **・中間・学期末試験の追試は実施日から**1**週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の**80%**が成績に反映される。クイズの追試は行わない。**

**その他** : 1. **単位**2**認定**　(**ただし、単位が不要な学生も履修可**) UTAS **コード：大学院** 3799-944-1,**学部** FEN-JL4q30L1, 2. **修了証は成績が**C**以上の**noncredit**の学生で希望者にのみ発行される。** 3. **コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。** 4. 30**分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。**3**回の遅刻または早退は**1**回の欠席とみなす。** 5. **第**1**週目はオリエンテーション･ウィークのため出席数に含めない。**
6. **授業内容と教室は変わる可能性がある。**
Zoom URL: https://zoom.us/j/838629319　ID: 838-629-319

**担当** : **内田 あゆみ** UCHIDA Ayumi

nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 9 | 木 | オリエンテーション、レベルチェッククイズ、読解①次世代社会の基幹デバイス～リチウムイオン電池～（化学システム） |
| 2 | 4/ 16 | 木 | 読解①次世代社会の基幹デバイス～リチウムイオン電池～（化学システム） |
| 3 | 4/ 23 | 木 | 読解②計算機で地震に挑む（社会基盤）、漢字クイズ1 |
| 4 | 4/ 30 | 木 | 読解③機械工学を社会に広く役立てる（機械工学）、漢字クイズ2 |
| 5 | 5/ 7 | 木 | 【休講】水曜授業振替のため |
| 6 | 5/ 14 | 木 | 読解④多様性が鍵～高齢者にも優しい仮設住宅への取り組み～（建築）、漢字クイズ3 |
| 7 | 5/ 21 | 木 | 復習、漢字クイズ4 |
| 8 | 5/ 28 | 木 | 中間試験 |
| 9 | 6/ 4 | 木 | 読解⑤ロボットに意思は持てるか（情報学境） |
| 10 | 6/ 11 | 木 | 読解⑥未来の航空機設計最前線！（航空宇宙）、漢字クイズ5 |
| 11 | 6/ 18 | 木 | 読解⑦次世代インターネット実現へ～右手に研究、左手に運用を～(電子情報工学)、漢字クイズ6 |
| 12 | 6/ 25 | 木 | 復習、発表の説明 と準備、漢字クイズ7 |
| 13 | 7/ 2 | 木 | 発表 |
| 14 | 7/ 9 | 木 | 発表 |
| 15 | 7/ 16 | 木 | 期末試験 |

## 中級３　専門読解

報告者：内田あゆみ

### 1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

東京大学工学部の広報誌『Ttime!』のインタビュー記事をもとに作成された読解教材を使用し、科学技術日本語の読解力を養成することを目的とした。授業では、漢字クイズ、読解内容に即したディスカッション、本文の精読、内容の確認、表現文法や語彙の練習、本文に関連したウェブサイトの参照などを行った。また、授業と同時進行で学生自身が『Ttime!』の中から記事を選び、読解教材を作成し、発表を行った。今学期はオンライン授業であったため、Zoom を使用し、同期型授業を行った。

【授業の内容】

東京大学工学部の広報誌『Ttime!』の記事を元に作成された読解教材は、東京大学大学院工学系研究科日本語教室の講師、あるいは過去に本授業を受講した学生が作成したものである。工学系の様々な分野の記事を読むことで工学系分野に関する語彙力と読解力を高め、同時にその分野の知識を深めた。

授業と同時進行で行った読解教材作成は、3 週目から課題を出し、課題 1 で記事と使用箇所決め（約 800 字）、課題 2 でその記事を選んだ理由と要約、課題 3 で内容確認問題の作成、課題 4 で語彙リストやその他の問題の作成、と段階的に進めていった。発表の前には授業内で教材作成をする時間を設け、個別にフィードバックを行った。

### 2. その他

クイズは復習型で実施し、専門用語の定着を図った。また、記事の内容に関連したウェブサイトを読む課題を自由課題として適宜出し、読解練習をする機会を増やした。読解教材作成は、教材完成後に、その記事の内容と面白さを発表し、お互いに記事を読み合い、質問に答えたり、話し合ったりした。

### 3. まとめ・今後の課題

オンライン授業であったが、積極的に授業に参加し、熱心に取り組む学生が多かった。教材作成に関しては一つの記事を長期間に渡り読み、教材を作成していくことがその分野の理解と語彙の習得に効果的だったという声があった。また、授業後に実施したアンケートではオンライン授業に対して好意的な意見が多かった。

今後は、オンライン授業の利点を活かし、対面授業ではより読解内容についての理解を深めたり、ディスカッションを行ったりすることができるように、事前学習の内容の充実を図りたい。

# 中級３　文章

2020年度S1S2

| | | |
|---|---|---|
| レベル | : | 中級3 レベル |
| スキル | : | 文章 |
| 開講期間 | : | 2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22 |
| 時間 | : | 10:25 - 12:10 木曜日 |
| 場所 | : | 工学部8号館　88M教室 |
| 学習目標 | : | 日本語でレポート、研究計画書などを書くために必要な表現技術や文章力を習得する。必要に応じたメール文の書き方を学ぶ。 |
| 対象 | : | 中級Ⅱ文章コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当 |
| テキスト | : | 大学・大学院　留学生の日本語②作文編　アルク |
| 評価 | : | 教室活動10%　参加度10%　課題作文40%　中間試験20%　期末試験20%<br>・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。<br>1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験<br>・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%<br>・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。 |
| その他 | : | 1. 単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院 3799-945-1、学部 FEN-JL4q40L1　2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない 。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。<br>https://zoom.us/j/253666205 |
| 担当 | : | ハワード　文江 HOWARD Fumie<br>nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826 |

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 9 | 木 | レベルチェック、オリエンテーション |
| 2 | 4/ 16 | 木 | 第8課　判明していることを述べる①　フォーマルなEメール１　課題１ |
| 3 | 4/ 23 | 木 | 第8課　判明していることを述べる②　フォーマルなEメール２ |
| 4 | 4/ 30 | 木 | 第9課　問題点を述べる①　フォーマルなEメール３　課題２ |
| 5 | 5/ 7 | 木 | 水曜授業振替のため休講 |
| 6 | 5/ 14 | 木 | 第9課　問題点を述べる② |
| 7 | 5/ 21 | 木 | 第10課　引用する　課題３ |
| 8 | 5/ 28 | 木 | 中間試験 |
| 9 | 6/ 4 | 木 | 第11課　解決策を述べる①　課題４ |
| 10 | 6/ 11 | 木 | 第11課　解決策を述べる② |
| 11 | 6/ 18 | 木 | 第12課　手順を述べる　課題５ |
| 12 | 6/ 25 | 木 | 第13課　指示詞を使う |
| 13 | 7/ 2 | 木 | 第14課　研究計画書を書く①　課題６ |
| 14 | 7/ 9 | 木 | 第14課　研究計画書を書く② |
| 15 | 7/ 16 | 木 | 期末試験 |

## 中級３　文章

報告者：　ハワード　文江

### 1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『大学・大学院 留学生の日本語②作文編』（アルク）を主教材として用い授業を行った。当教室では中級２文章でこの教材の１課から７課を扱っている為、当授業ではその後半の８課から 14 課を扱い、大学で必要なレポートの書き方や研究計画書を書く為の中級で必要な文章能力を総合的に仕上げることを目標とした。又授業前半では、目上の人に対するメール文の書き方を合わせて扱い、お詫びのメール、お願いのメールなど、改まったメールの書き方も習得することを目標とした。

【授業の内容】

オンライン授業の利点を活かし、隔週で交互にテキストの練習課題と作文課題を宿題として出し、適切な表現になるよう授業前までに提出・フィードバックを行うことにした。授業では重要な表現や誤りが多かった表現を中心に改めてフィードバックを行い、更に学生同士でディスカッションをしてもらった。

### 2. その他

教科書前半で既に扱われたはずの内容、特に書き言葉と話し言葉の違いや、連用中止形の書き方などが身に付いていない学生が多く、毎回それらのフィードバックに多くの時間を取られることがあり、既にその部分が身に付いている学生にとっては無駄な時間になってしまっていたので、力が足りていない学生の底上げには限界があることを感じた。

### 3. まとめ・今後の課題

今学期は急遽オンライン授業に対応するために、授業中での課題のフィードバックではなく、授業前に行うように変更したことで、授業中は１人の学生に教員が対応し、他の学生は孤独に黙って作文を書くという作業を避けることできた。授業前に課題を提出・フィードバックが一通り終了していることで、授業中は他の学生が書いたものをできるだけ多く見て、それに対してディスカッションを行ってもらうことで、発話の機会を増やすことができた。個々の作文能力が大きく違っていた為、個別の対応にはいつでも答えられる様、教員はオンラインでの質問を受け付け、適宜回答して行った。ただ、課題が増えてしまったことと、日本語でのタイプに不慣れな学生からは、毎回の課題が多く、定期試験でも時間が不足したとの意見もあった。しかし大多数の学生からは今回の形式には肯定的な意見が多かった。来学期もオンラインでの授業が決まっている為、教員も学生もオーバーワークにならない為の工夫を考えることが今後の課題である。

# 上級1　総合

2020年度S1S2

| | | |
|---|---|---|
| レベル | : | 上級1 |
| スキル | : | 総合 |
| 開講期間 | : | 2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22 |
| 時間 | : | 08:30 - 10:15 金曜日 |
| 場所 | : | 工学部8号館　88L教室 |
| 学習目標 | : | 大学や日常生活のあらゆる場面で適切に対応できる上級レベルの文型・語彙を用いながら上級の４技能（特に産出の話すと書く）を身につけることを目指す。自分の意見や主張を適切に発信する力を習得する活動（ディスカッションや発表など）を行う。授業では、様々な時代・ジャンル（歴史・経営・芸術・文学・マンガ／アニメ・スポーツ・政治・学者）の著名人の物語を通して、日本の文化、日本人の考え方や価値観を知り、異文化理解を深める。 |
| 対象 | : | 中級Ⅲ＜総合＞コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当 |
| テキスト | : | The Great Japanese 30の物語　中上級　-　人物で学ぶ日本語（くろしお出版） |
| 評価 | : | 参加度20%, クイズ10%, 課題30%, 中間試験20%, 期末試験20%<br><br>・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。<br>1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験<br>・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%<br>・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。 |
| その他 | : | 1. 単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院(3799-926-1)、学部 (FEN-JL4r02L1), 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション･ウィークのため出席数に含めないが、本コースの履修を決めている場合は、初日に出席することが強く期待される。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。<br>https://zoom.us/j/495566088 |
| 担当 | : | ハワード　文江 HOWARD Fumie<br><br>nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826 |

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 3 | 金 | レベルチェック、オリエンテーション、30の物語、担当割り当て |
| 2 | 4/ 10 | 金 | 担当決定、課題、30の物語 5、発音クリニック、OJAD |
| 3 | 4/ 17 | 金 | 30の物語 1,11,21 |
| 4 | 4/ 24 | 金 | 30の物語 15,25 |
| 5 | 5/ 1 | 金 | 30の物語 10,20,30 |
| 6 | 5/ 8 | 金 | 30の物語 2,12,22 |
| 7 | 5/ 15 | 金 | 中間試験 |
| 8 | 5/ 22 | 金 | 補講期間の為休講 |
| 9 | 5/ 29 | 金 | 補講期間の為休講 |
| 10 | 6/ 5 | 金 | 30の物語 6,16,26 |
| 11 | 6/ 12 | 金 | 30の物語 9,19,29 |
| 12 | 6/ 19 | 金 | 30の物語 3,13,23 |
| 13 | 6/ 26 | 金 | 30の物語 8,18,28 |
| 14 | 7/ 3 | 金 | 30の物語 7,17,27 |
| 15 | 7/ 10 | 金 | 30の物語 4,14,24 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 16 | 7/ 17 | 金 | 期末試験 |

# 上級１　総合

報告者：　ハワード　文江

## １.授業の方法と内容

【授業の方法】

『The Great Japanese 30 の物語―人物で学ぶ日本語』（くろしお出版）を教科書として使用し、その人物の物語から発展する問題に対して意見交換をすることで、総合的な力を養うことを目標に授業を行った。毎回の授業の進め方は、オンライン授業の利点を有効に生かすため、各課の語彙と文法、更に物語の導入問題は自習課題とし、又本文の CD も事前に聞いてくることとした。授業中は本文の内容確認と事前課題のフィードバックを行った後、グループに分かれ各課のディスカッションを行った。更に学生には自ら気になる人物の物語を選んでもらい、学期末に発表を課し、上級の４技能、特に産出の話すことと書くことを習得してもらうことを目指した。

【授業の内容】

授業では、毎回の授業で２つの物語を扱った。語彙学習は教科書巻末の訳語を自習したものをクイズで確認し、文法・表現学習は同じく教科書巻末の用法を自習後、単文作成で理解度を確認した。物語のジャンルは「歴史」「経営」「芸術」「文学」「漫画/アニメ」「政治」「学者」と幅が広く、その人物の考え方や業績について、自国の文化や具体的な事例と比較しながらディスカッションをしてもらった。期末発表は録画での発表を課し、各自の日本語の発話を客観的に捉え、自律的な学習へと繋げてもらえるように図った。録画前には発音は OJAD（オンライン日本語アクセント辞書）を利用し、より自然な日本語で発表できるように準備してもらった。又他学生の発表へもピア評価を課すことで総合的な自律学習の定着を図った。

## ２.その他

定期試験では各課で学習した文法・表現を使用した作文と、各課でディスカッションした問題を意見文として書く試験を課した。文法・表現のセクションでは短作文では難なく文章を作成出来ていた学生も、段落文で使用するには困難が伴っていた。意見文のセクションではディスカッションで話しあったことが十分に生かされた意見文が書かれていた。

## ３.まとめ・今後の課題

今学期はコロナウイルス感染拡大防止の為、十分な準備期間が無く突然のオンライン授業となり、オンライン授業の利点を生かした授業となるよう反転授業が出来る個所を熟考し、事前課題を設けた。学生の専門の研究の妨げとならないよう、日本語の課題を余り多く与えることが無いよう、課題の量に十分気を配ったが、まだ多過ぎたのではないかとの懸念もあった。しかし、多くの学生が課題の量は適切であったとアンケートで答えていた。今後は課題の量を増やさずに文法の定着が進むように更に工夫をしていきたい。

# 上級1　聴解

2020年度S1S2

**レベル** : 上級 1

**スキル** : 聴解

**開講期間** : 2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22

**時間** : 10:25 - 12:10 水曜日

**場所** :

**学習目標** : 日本の社会や文化に関するニュースやスピーチを視聴し、背景知識や語彙を学習して聞き取れるようにする。上級レベルで求められる聴解ストラテジーを身につける。

**対象** : 中級3 聴解コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当

**テキスト** : 『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解（上級）』スリーエーネットワーク

**評価** : 教室活動10%、参加度10%、課題20%、クイズ10%、中間試験25%、期末試験25%
・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験
・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。

**その他** : ID 918 3672 5449 (Password: kataoka3) * 10:20 入室可能

1. 単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院3799-927-1、学部FEN-JL4r11L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。

**担当** : 片岡　さゆり KATAOKA Sayuri

nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 8 | 水 | オリエンテーション、レベルチェッククイズ、ニュース聴解 |
| 2 | 4/ 15 | 水 | L1 |
| 3 | 4/ 22 | 水 | L2 |
| 4 | 4/ 29 | 水 | 祝日 |
| 5 | 5/ 6 | 水 | 祝日 |
| 6 | 5/ 7 | 木 | L3、語彙クイズ（L2） |
| 7 | 5/ 13 | 水 | L4、語彙クイズ（L3） |
| 8 | 5/ 20 | 水 | L6、語彙クイズ（L4） |
| 9 | 5/ 27 | 水 | 中間試験 |
| 10 | 6/ 3 | 水 | L8、語彙クイズ（L6） |
| 11 | 6/ 10 | 水 | L9、語彙クイズ（L8） |
| 12 | 6/ 17 | 水 | L10とL13、語彙クイズ（L9） |
| 13 | 6/ 24 | 水 | L11、語彙クイズ（L10&13） |
| 14 | 7/ 1 | 水 | L12、語彙クイズ（L11） |
| 15 | 7/ 8 | 水 | L14、語彙クイズ（L12） |
| 16 | 7/ 15 | 水 | 【休講】補講期間のため |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 17 | 7/ 22 | 水 | 学期末試験 |

# 上級１　聴解

報告者：片岡　さゆり

## 1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは、オンライン双方向授業形式で行われた。テキストは『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解［上級］』（スリーエーネットワーク）を使用した。

トピックから内容を予測するなど多様な聴き方を取り入れ、講義、発表を聞く力を養成するとともに、社会・文化的背景知識を習得することも重視した。また、テキストの語彙表現について復習クイズを実施し、定着を図った。さらにラジオニュースの聴解を行い、タイムリーな話題にアプローチするための方法を学んだ。

テキスト聴解、ニュース聴解ともにペアワーク、小グループワークを行って受講者相互のコミュニケーションを図るとともに、発展的な意見交換を行った。

【授業の内容】

テキスト全 15 課のうち、12 課を扱った。テーマは様々な分野から構成され、受講者が関心を持って取り組めるものであった。スライドが付いている課もあり、スライドを見ながら講義や研究発表を聞くための実践的な練習ができた。毎回要約を課題とし、添削を行った。またクラスで内容について意見交換を行うなど、ディスカッションの場を設けた。

ラジオニュース（5-6 分）聴解では、「新型コロナ」、「地震」、「大雨」など、生活の安全に関するニュースを扱い、情報にアクセスするためのストラテジーを学ぶとともに、「震度」「降雨量」など基本的事項については、ペアワークで調査し発表する活動を行い、知識として習得した。

## 2. その他

オンラインでの双方向授業であったため、通信環境の影響が懸念されたが、幸い授業に支障が出るような問題は起こらなかった。受講者は常に熱心な態度で授業に参加し、積極的に意見交換が行う場を作ることができた。

## 3. まとめ・今後の課題

今後は語彙表現の課題に留まらず、「予測、推測」などのストラテジーを確認する練習を課題として位置付けたい。オンライン授業に関しては、授業内容を向上させ得る情報を取得し、積極的に取り入れたい。

# 上級1　会話

2020年度S1S2

| | | |
|---|---|---|
| レベル | : | 上級　レベル |
| スキル | : | 会話 |
| 開講期間 | : | 2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22 |
| 時間 | : | 08:30 - 10:15 水曜日 |
| 場所 | : | |
| 学習目標 | : | 様々な社会問題についてのディスカッション、インタビュー調査、発表プレゼン、日本人学生との会話等様々な活動を通して、さらなる口頭表現の技術を習得することを目指す。 |
| 対象 | : | 中級3レベル会話コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当 |
| テキスト | : | 日本語超級話者へのかけはし　きちんと伝える技術と表現（スリーエーネットワーク） |
| 評価 | : | 教室活動5%、参加度25%、クイズ20%、中間会話試験25%、期末口頭発表25%<br>・以下の条件を全て満たしたものについて、コース修了とみなす。　1) 出席率70%以上　2) 期末試験もしくは課題を受験<br>・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。 A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%<br>・中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。 |
| その他 | : | https://zoom.us/j/95349304333 Email instructor for password.（工学部8号館 88M教室）<br><br>1. 単位(2)認定　（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院 3799-928-1, 学部 FEN-JL4r21L1.<br>2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。<br>3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。<br>4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。<br>5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。<br>6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。 |
| 担当 | : | 米谷　章子 KOMETANI　Akiko<br>nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826 |

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 8 | 水 | オリエンテーション、レベルチェックテスト、自己紹介スピーチ |
| 2 | 4/ 15 | 水 | 第１課　好きなシーンを紹介しよう |
| 3 | 4/ 22 | 水 | 第２課　母国の行事を紹介しよう、スピーチ、生教材、言葉クイズ第1課 |
| 4 | 4/ 29 | 水 | 祝日（昭和の日） |
| 5 | 5/ 2 | 土 | 第３課　困った状況を伝えて交渉しよう、スピーチ、生教材、言葉クイズ第２課 |
| 6 | 5/ 6 | 水 | 祝日(憲法記念日振替休日) |
| 7 | 5/ 13 | 水 | 第４課　不満に対処しよう、スピーチ、生教材、言葉クイズ第３課 |
| 8 | 5/ 20 | 水 | 第６課　グラフや表を説明しよう、スピーチ、生教材、言葉クイズ第４課 |
| 9 | 5/ 27 | 水 | 中間試験（会話試験） |
| 10 | 6/ 3 | 水 | 第７課　ステレオタイプを打ち破ろう、スピーチ、生教材、言葉クイズ第６課 |
| 11 | 6/ 10 | 水 | 第９課　働くことの意義について討論しよう、スピーチ、生教材、言葉クイズ第７課 |
| 12 | 6/ 17 | 水 | 第１０課　環境問題について話そう、スピーチ、生教材、言葉クイズ第９課 |
| 13 | 6/ 24 | 水 | 第１１課　犯罪傾向から現代社会を語ろう、スピーチ、生教材、言葉クイズ第１０課 |
| 14 | 7/ 1 | 水 | 第１2課　マスコミの功罪について討論しよう、スピーチ、生教材、言葉クイズ第１１課 |
| 15 | 7/ 8 | 水 | 生教材 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 16 | 7/ 15 | **水** | **休講(補講日)** |
| 17 | 7/ 22 | **水** | **期末試験（会話試験）** |

# 上級１　会話

報告者：米谷章子

## 1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

主に『日本語超級話者へのかけはし　きちんと伝える技術と表現』（スリーエーネットワーク）に沿って授業を進めた。本授業では、各課の話題に応じて、上級話者が超級話者になるための口頭表現の技術の習得を目指した。具体的には、一面的ではなく多面的な視点から意見を述べること、抽象的な考え方と具体的な事実の両面から論理的に意見を述べること、話題や場面、相手に応じて適切な表現や話し方を用いることを目標とした活動を行った。授業はできる限り多くの発話練習と発表の機会を設け、習った語彙や表現、技術と談話構成が使えるよう組み立てた。話す技法と聴く技法においても、活動や意見交換の振り返りを通し、円滑にコミュニケーションをとるためのストラテジーについての理解を深めた。

【授業の内容】

主教材より「困った状況を伝えて交渉しよう」、「ステレオタイプを打ち破ろう」、「働くことの意義について討論しよう」など身近な話題の課を抜粋し、授業で扱った。毎回の授業では、前回の授業内容（語彙、漢字、表現、練習内容）を問うクイズ、各課の話題についての導入と経験の共有、活動に必要な上級レベルの談話構成、語彙、擬態語、慣用句、表現の確認、これらを使い実際にペアやグループで話す、その後全体で発表、振り返りと話す技法と聴く技法の確認、という流れで１課を２コマで進めた。

事前学習として教科書の漢字・語彙、表現は予習を課し、中級修了直後の受講者も積極的に参加でき、会話練習と振り返りの時間が確保できるよう構成した。

## 2. その他

GoogleClassroom を活用し、クイズの実施、グループ活動、定期試験（会話試験）のフィードバックを行った。特に定期試験の細やかなフィードバックや今後のためのアドバイスと、GoogleSlides を使ったグループ活動は非常に好評であった。これらは対面授業時でも活用できるため、継続して取り入れたい活動である。

## 3. まとめ・今後の課題

上級レベルのオンライン会話授業であったが、当初から受講者が大変多かったため、授業内での発言機会と細かいフィードバックの不足が懸念された。しかし、全体としては学習意欲も高く、修了者の出席率も非常に高かった。ディスカッションや会話練習にも積極的に取り組み、大人数であることを活かし、多様な意見交換と交流ができていた。

# 上級1　読解

2020年度S1S2

| | | |
|---|---|---|
| レベル | : | 上級 |
| スキル | : | 読解 |
| 開講期間 | : | 2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22 |
| 時間 | : | 08:30 - 10:15 木曜日 |
| 場所 | : | 工学部8号館　88L教室 |
| 学習目標 | : | 新聞・エッセイ・小説など日本社会にいてのさまざまな文章を通して、クリティカル・リーディング力を身につける |
| 対象 | : | 中級Ⅲ読解コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相 当 |
| テキスト | : | 自主教材 |
| 評価 | : | 教室活動 20% 中間試験 20% 期末試験 20% クイズ10% 課題30% ・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。 1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験 ・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。 A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0% ・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。 その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。 |
| その他 | : | 1. 単位２認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院3799-929-1、学部FEN-JL4r31L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者に のみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席と みなす。 5. 第1週目はオリエンテーション･ウィークのため出席数に含めない 。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。<br><br>https://zoom.us/j/99426298418?pwd=ZzVHNkdJOWZpanRrZXJWVVZtTk5Ydz09<br>パスワード: 766347 |
| 担当 | : | 藤井　明子 FUJII　Akiko<br><br>nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826 |

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 9 | 木 | オリエンテーション、新聞記事 |
| 2 | 4/ 16 | 木 | エッセイ① |
| 3 | 4/ 23 | 木 | エッセイ②、課題1 |
| 4 | 4/ 30 | 木 | 小説①、ことばクイズ①、課題2 |
| 5 | 5/ 7 | 木 | 水曜授業振替のため |
| 6 | 5/ 14 | 木 | 自主教材① |
| 7 | 5/ 21 | 木 | 自主教材①、ことばクイズ②、課題3 |
| 8 | 5/ 28 | 木 | 中間試験 |
| 9 | 6/ 4 | 木 | 中間試験フィードバック、自主教材②、課題4 |
| 10 | 6/ 11 | 木 | 自主教材③、課題5 |
| 11 | 6/ 18 | 木 | クリティカル・リーディングセッション、課題6 |
| 12 | 6/ 25 | 木 | 新聞記事2、課題7 |
| 13 | 7/ 2 | 木 | 小説③、課題8 |
| 14 | 7/ 9 | 木 | 小説③、課題9 |
| 15 | 7/ 16 | 木 | 期末試験 |

# 上級１　読解

報告者：藤井明子

## 1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

自主教材を使用し授業を行った。日本人・日本文化に関するエッセイ 2 本、日本語の短編小説 2 本、日本社会に関する評論とレポート 4 本を読んだ。授業の終わりに教材を配布して次週までに読み物を読んで内容理解問題に対する答えを STAR に提出してもらった。授業では、ペアで問題の答え合わせと、発展問題として読み物について話し合いをしてもらった。コース前半はことばテストを実施し、後半はブックレポートをまとめてもらった。

【授業の内容】

各学生が日本語を読む速度が違うことから、授業中に黙って個々に学生が文章を読むことを減らし、できるだけ授業中は読んで理解した内容について話し合いをしてもらうことを心がけた。事前に読んできた学生達は、基本的な読み取りはできており、授業中の話し合いに参加できていた。また、クラスでの全体の話し合いでは、提出してもらった答えを画面共有しながら、話し合いの内容を深め、また自分の答えを振り返ってもらえるようにした。

## 2. その他

ことばテストは 2 回行ったが、学生はいずれもよく準備していた。

中間試験後、ブックレポートのプロジェクトを始め、今回は「青空文庫」から文章を選んでもらってテーマの決定、アウトライン、下書き、フィードバック、清書と進めた。

## 3. まとめ・今後の課題

今回は急遽オンライン授業となり、履修希望の学生には基本的に受講してもらうということで授業を開始した。授業で読む文章は、対面授業のときよりもやや量を減らして準備した。ことばテストは基本的には対面授業のときと同じ問題形式で実施した。

オンライン授業だったが、学生達は授業前によく準備してきており、ほとんどが読解問題の課題を提出してから授業に参加していた。しかし、大学全体のコースで課題が多いという問題があったこともあり、途中で課題提出が間に合わなくなり脱落してしまった学生がいた。また、読解文を読まずに授業に出席していた学生がおり、この学生はグループでの話し合いに全く参加できず、結局最終評価で合格点が取れなかった。

さらに、ブックレポートの下書きでほとんど原文のコピー＆ペーストのレポートを提出した学生がおり、注意を与えた。

今学期の最大の問題は、学生の全体のレベルで、中級 3 と同程度のレベルの学生ばかりだったため生教材を読む準備ができていなかった点である。このため今後は教材のレベルをもう少し低く設定することにした。

# 上級1　文章

2020年度S1S2

| | | |
|---|---|---|
| レベル | : | 上級　レベル |
| スキル | : | 文章 |
| 開講期間 | : | 2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22 |
| 時間 | : | 08:30 - 10:15 火曜日 |
| 場所 | : | 工学部8号館　722 |
| 学習目標 | : | 日本語のレポートや論文の表現や構成を学び、書けるようになることを目指す。 |
| 対象 | : | 中級３文章コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当 |
| テキスト | : | アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』（アルク） |
| 評価 | : | 教室活動10%　参加度10%　中間試験20%　期末試験20%　課題40%<br>・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。<br>1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験<br>・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%<br>・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。 |
| その他 | : | 1. 単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院3799-930-1、学部FEN-JL4r41L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション･ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。https://zoom.us/j/211056618 |
| 担当 | : | 猪狩　美保 IGARI Miho<br>nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826 |

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 7 | 火 | オリエンテーション／レビュー＆チャレンジクイズ |
| 2 | 4/ 14 | 火 | 剽窃について／ 第1課「作文の基本1」 第2課「作文の基本2」 パラフレーズトレーニング1（書き言葉） 課題1 |
| 3 | 4/ 21 | 火 | 第3課「課題の提示」 パラフレーズトレーニング2（和語漢語） 課題2 |
| 4 | 4/ 28 | 火 | 第4課「目的の提示」 パラフレーズトレーニング3（名詞化） 課題3 |
| 5 | 5/ 5 | 火 | 祝日 |
| 6 | 5/ 12 | 火 | 第5課「定義と分類」 第6課「図表の提示」 課題4 |
| 7 | 5/ 19 | 火 | 第7課「変化の形容」 パラフレーズトレーニング4（ジャンルによる使い分け） 課題5 |
| 8 | 5/ 26 | 火 | 中間試験 |
| 9 | 6/ 2 | 火 | 第8課「対比と比較」 パラフレーズトレーニング5（長い文、複数の文） 中間試験フィードバック 課題6 |
| 10 | 6/ 9 | 火 | 第9課「原因の考察」 パラフレーズトレーニング6（上位概念） 課題7 |
| 11 | 6/ 16 | 火 | 第10課「列挙」 第11課「引用」 課題8 |
| 12 | 6/ 23 | 火 | 第12課「同意と反論」 パラフレーズトレーニング7（簡潔な表現） 課題9 |
| 13 | 6/ 30 | 火 | 第13課「帰結」 パラフレーズトレーニング8（含意／解釈） 課題10 |
| 14 | 7/ 7 | 火 | 第14課「結論の提示」 |
| 15 | 7/ 14 | 火 | 【休講】補講期間のため |
| 16 | 7/ 21 | 火 | 学期末試験 |

# 上級１文章

報告者：猪狩美保

## 1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

『改訂版　大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』（アルク）を使用し、授業を行った。テキストに沿って日本語のレポートや論文の構成、文型・表現を学習し、練習および課題の作成を行った。授業では序論、本論、結論の書き方を段階的に学び、練習問題に取り組んだ。テキストの課題については、取り上げられている内容についてクラス全体で確認し、話し合う時間を取った。それに基づき学生は各自課題に取り組み、教師によるフィードバックを行った。また、副教材として『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』（スリーエーネットワーク）を使用し、レポート・論文にふさわしい文体に書き換える練習を適宜行った。

【授業の内容】

テキストは毎回 1 課または 2 課進み、「課題の提示」「目的の提示」「図表の提示」など、論文の序論・本論・結論に含まれる構成要素や展開パターン、文型・表現について学習し、その練習を行った。適宜テキストの「文型・表現集」「例文集」も参照しながら、さまざまな表現について幅広く学べるよう促した。課題作成の前には、トピックについて話し合い、理解を深める時間を取ることにより、課題に取り組みやすいよう工夫した。また、課題については各学生にフィードバックを行った上で、クラス内でも間違いやすい点や理解しにくい部分について共有し、書き言葉に関する知識が広がるよう努めた。

## 2. その他

課題ではテキストで取り上げられているトピックに加え、自分が関心を持っている時事問題や現在の研究テーマについて作成しても良いこととした。自主的にトピックやデータを選択する中で、結果として課題作成にも積極的に取り組んでいる様子が見られた。

## 3. まとめ・今後の課題

オンラインによる開講となり、文章クラスの効果的なオンライン授業の在り方を模索した学期であった。さまざまな制約がある中での授業となったが、熱心な学生が多く、文章作成スキルの向上も見られた。開講当初は、授業内で課題作成の時間が取れるのではないかと予想していたが、実際にはクラス内で確保することはできず、学生たちは授業時間外に課題を作成していた。今後研究活動が忙しい状況に戻った場合、どのようにクラスを進めるのが効果的か、今後の課題として考えていきたい。

# 上級2　総合

2020年度S1S2

| | | |
|---|---|---|
| レベル | : | 上級 2 |
| スキル | : | 総合 |
| 開講期間 | : | 2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22 |
| 時間 | : | 10:25 - 12:10 水曜日 |
| 場所 | : | 工学部8号館　701教室 |
| 学習目標 | : | 大学や日常生活のあらゆる場面で適切に対応できる上級レベルの文型・語彙を用いながら上級の４技能を身につけることを目指す。自分の意見や主張を適切に発信する力を習得する活動（ディスカッションや発表など）を行う。授業では、日本の文化、日本人の考え方や価値観を知り、異文化理解を深める。 |
| 対象 | : | 上級＜総合＞コースの修了者、日本語を900時間以上勉強した人、またはJLPT N1レベル以上 |
| テキスト | : | 自主教材 |
| 評価 | : | 教室活動5%, 参加度15%, 課題30%, 中間試験20%, 期末プロジェクト10%, 期末試験20%<br><br>・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。<br>1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験<br>・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%<br>・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。 |
| その他 | : | 1. 単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院(3799-946-1)、学部 (FEN-JL4r013L1), 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる 。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めないが、本コースの履修を決めている場合は、初日に出席することが強く期待される。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。<br>Zoom URL:<br>https://zoom.us/j/95468289344?pwd=bzN5SjBJOHJNZUFvWnIFSnInOHNtUT09<br><br>PW:208392 |
| 担当 | : | 藤井　明子 FUJII　Akiko<br><br>nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826 |

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 8 | 水 | オリエンテーション、新聞記事を読む |
| 2 | 4/ 15 | 水 | 読解１、ディスカッション |
| 3 | 4/ 22 | 水 | 読解２、ショートスピーチ、課題1 |
| 4 | 4/ 29 | 水 | 祝日 |
| 5 | 5/ 6 | 水 | 祝日 |
| 6 | 5/ 7 | 木 | リスニング１、ディスカッション、言葉クイズ1 |
| 7 | 5/ 13 | 水 | 読解３、ディスカッション、言葉クイズ２ |
| 8 | 5/ 20 | 水 | 読解4、ショートスピーチ、課題2 |
| 9 | 5/ 27 | 水 | 中間試験 |
| 10 | 6/ 3 | 水 | 読解5、ディスカッション、 |
| 11 | 6/ 10 | 水 | 読解6、ディスカッション、期末発表の準備,<br>言葉クイズ3 |
| 12 | 6/ 17 | 水 | ディスカッション、言葉クイズ4、期末発表の準備 |
| 13 | 6/ 24 | 水 | リスニング２、ディスカッション、、期末発表の準備 |
| 14 | 7/ 1 | 水 | 読解７、期末発表の準備 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 15 | 7/ 8 | 水 | 読解7、期末発表 |
| 16 | 7/ 15 | 水 | 【休講】補講期間のため |
| 17 | 7/ 22 | 水 | 期末試験 |

# 上級２　総合

報告者：藤井明子

## 1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

自主教材を使用し授業を行った。授業では、読解教材８本、聴解教材 2 本を扱った。読解聴解それぞれの教材を事前に学習し、問題に答えて解答を提出、授業中は答え合わせと話し合いを行った。また、コース全体を中間試験前と後の２つに分け、読解教材３本、聴解教材１本をまとめて 1 つのテーマを設定し、このテーマについてディスカッションとその結果を踏まえて作文を書くという構成で行った。読解教材についてはそれぞれ復習のことばテストを実施した。また、期末発表を行った。

【授業の内容】

授業で扱った内容だが、教材の大きな 2 つのテーマは「科学のこころ」と「日常生活」で、理系の学生にも興味が持てる前半の内容と、日本で暮らしている学生が日本と出身地との比較を行う後半の内容を設定した。

オンライン授業のため全般的にどの科目も課題が多いという問題が指摘されていたため、事前に課題を提出してもらうときもあれば、授業中に課題を各学生が行うときもあるというように、学生の様子を見ながら柔軟に対応した。しかし、ほとんどの学生は事前に課題を提出しており、授業中にはほかのクラスメートと答え合わせをしたり意見交換したりして授業に参加していた。

聴解については教材も試験問題も TED トークを中心に選んだが、学生はよく理解しており、語彙の点でも問題がなかった。

## 2. その他

各テーマについてディスカッションしてもらったが、日本語で話し続けるのは得意でも、相手の話を聞いて意見を交換する練習をしたことがない学生が多かった。この点については 1 回目のディスカッションでは評価基準を共有しなおし、再度実施、フィードバックしたところ改善され、2 回目のディスカッションではうまく意見交換を行うことができた。

期末発表の準備を授業中に十分時間をとって行うことができなかったが、自分の専門分野について入門的な紹介をしてくれた学生達の発表は大変興味深く、すばらしい発表だった。

## 3. まとめ・今後の課題

学生は熱心に学習に取り組んでいた。教材のレベルもちょうどよく、毎回大変楽しい授業だった。学生同士のグループでの学習も大変うまくいっていたと思う。日本語が流暢な学生が多かったためいつも時間が足らずもっと話したかったということであった。

# 上級2　会話

2020年度S1S2

**レベル** : 上級 2

**スキル** : 会話

**開講期間** : 2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22

**時間** : 10:25 - 12:10 金曜日

**場所** : 工学部8号館 88M教室

**学習目標** : 様々な社会問題についてのディスカッション、インタビュー調査、発表プレゼン、日本人学生との会話等様々な活動を通して、さらなる口頭表現の技術を習得することを目指す。

**対象** : 上級会話コースの修了者、日本語を900時間以上勉強した人、またはJLPT N1レベル以上

**テキスト** : 自主教材

**評価** : 教室活動 10% 参加度 10% ショートスピーチ10%　中間口頭発表 25% 期末口頭発表 30% 課題 15%
・以下の条件を全て満たしたものについて、コース修了とみなす。　1) 出席率70%以上　2) 期末試験もしくは課題を受験
・コース修了者には以下の基準で成績を付与する。 A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・中間・期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。

**その他** : 1. 単位(2)認定　（ただし、単位が不要な学生も履修可）UTAS コード：大学院 3799-948-1, 学部 FEN-JL4r22L1.
2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。
3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。
4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。
5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。
6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
7. Zoom ID: https://zoom.us/j/872079930

**担当** : 岡 葉子 OKA Yoko

nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 3 | 金 | オリエンテーション、レベルチェック、自己紹介 |
| 2 | 4/ 10 | 金 | 身の回りのことを説明する1 |
| 3 | 4/ 17 | 金 | 身の回りのことを説明する2 |
| 4 | 4/ 24 | 金 | 社会文化的なことについて話す |
| 5 | 5/ 1 | 金 | 中間試験説明、準備 |
| 6 | 5/ 8 | 金 | 中間試験(口頭発表）前半 |
| 7 | 5/ 15 | 金 | 中間試験(口頭発表）後半 |
| 8 | 5/ 22 | 金 | 休講　【補講】 |
| 9 | 5/ 29 | 金 | 休講　【補講】 |
| 10 | 6/ 5 | 金 | 中間試験フィードバック　ディスカッションのしかた |
| 11 | 6/ 12 | 金 | ディスカッション（トピック1) |
| 12 | 6/ 19 | 金 | ディスカッション（トピック2) |
| 13 | 6/ 26 | 金 | 期末プレゼンテーション導入, インタビューの方法1 |
| 14 | 7/ 3 | 金 | 【金曜授業】インタビューの方法２ |
| 15 | 7/ 10 | 金 | 学期末プレゼンテーション準備 |
| 16 | 7/ 17 | 金 | 学期末プレゼンテーション |

# 上級２会話

報告者：岡葉子

## 1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

上級会話コースの修了者、日本語を 900 時間以上勉強した人を対象に、今年度から新たに設置されたコースである（ただし、授業の内容は昨年度の上級会話を基本に設計している）。この授業では、様々な社会問題についてのディスカッション、インタビュー調査等を通じて、さらなる口頭表現の技術を習得することを目指した。メインテキストは指定せず、教師作成プリントを使用した。また、クラス内で口頭発表を行う際には、評価シートを用いて学生同士で客観的な相互評価を行い、クラスメイトのいい点を積極的に取り入れるように促した。

【授業の内容】

前半は、「自分に身近な話題について正確に相手に伝わるように話す」ことを目的とし、「各国・各地域のコロナ対策」、「私の身の回りの差別・区別」をテーマにショートスピーチを行った。中間試験には「自分の研究について説明する」ことを課題とした。後半は、「働くこと」をテーマに、NHK オンデマンドの視聴、在宅ワークバランスに関する新聞記事読解を通じ、グループディスカッションを重ねた。期末試験には「自分の興味のある社会問題についてインタビュー調査を行い発表する」ことを課題とした。

## 2. その他

今年度から新たに設置されたコースである。COVID-19 のため Zoom で実施した。

## 3. まとめ・今後の課題

登録者は 8 名で、オンラインで実施しているため直接話し合うことができないという環境にも関わらず、熱心に課題に取り組んでいた。海外にいる学生も 3 名ほどいたが、特に違和感なくクラスメイトと話し合いに参加していた。期末発表では「ポリティカルコレクトネスは本当に人種差別を解決するか」「芸能人は SNS で誹謗中傷を受けてもいいか」など、時事的な問題に挑戦し、聞きごたえがあるものが多かった。最終的には 5 名が修了した。また、これまでの上級会話のクラスにおいては、クラス内のレベル差が指摘されていたが、上級レベルに 2 レベルのクラスを設置したことにより、レベル差はある程度解消したと思われる。

ただし、ディスカッションのような課題は、学生同士の対話のスピードが対面よりも遅くなる傾向があり、気軽に話し合う雰囲気作りが課題として残った。

# 上級2　文章

2020年度S1S2

**レベル** : 上級　レベル 2

**スキル** : 文章

**開講期間** : 2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22

**時間** : 10:25 - 12:10 火曜日

**場所** : 工学部8号館　701

**学習目標** : 自分が関心ある分野の論文を3本以上読み、まとまった内容の論理的文章をアカデミックな文章記述の基本的な形式に則って書けるようになる。

**対象** : 上級文章コースの修了者、日本語を900時間以上勉強した人、またはJLPT N1以上

**テキスト** : 『大学生と留学生のための論文ワークブック』（くろしお出版）

**評価** : 教室活動10%　参加度10%　中間試験20%　期末試験20%　課題40%
・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験
・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。

**その他** : 1. 単位2認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可) UTAS コード：大学院3799-950-1、学部FEN-JL4r42L1, 2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション･ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。7. Zoom ID https://zoom.us/j/732877649

**担当** : 岡 葉子 OKA Yoko

nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　　Tel:03-5841-8826

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 7 | 火 | 授業ガイダンス、自己紹介、論文の構成 |
| 2 | 4/ 14 | 火 | 剽窃について、コンセプト・マップの作成 |
| 3 | 4/ 21 | 火 | 論文のテーマ報告 |
| 4 | 4/ 28 | 火 | 序論の書き方の確認、自分なりの問題提起文を考える |
| 5 | 5/ 5 | 火 | 祝日 |
| 6 | 5/ 12 | 火 | 参考文献について報告する、問題提起文を書く |
| 7 | 5/ 19 | 火 | アウトラインを考える、序論を書く |
| 8 | 5/ 26 | 火 | 中間報告会（序論を検討する→修正）、本論を書く |
| 9 | 6/ 2 | 火 | 本論を書く |
| 10 | 6/ 9 | 火 | 本論を検討する→修正 |
| 11 | 6/ 16 | 火 | 結びを書く |
| 12 | 6/ 23 | 火 | 結びを検討する→修正 |
| 13 | 6/ 30 | 火 | 全体を書き直す |
| 14 | 7/ 7 | 火 | 論文を完成させる |
| 15 | 7/ 14 | 火 | 休講　【補講】 |
| 16 | 7/ 21 | 火 | 論文の発表と質疑応答 |

# 上級２文章

報告者：岡葉子

## 1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

本コースは、上級文章コースの修了者、日本語を 900 時間以上勉強した人を対象に、今年度から新たに設置されたコースである。授業参加者は、自分が関心ある分野の論文を 3 本以上読むこと、5000 字程度のまとまった長さの論文を作成することを目指す。授業は、火曜日 2 限に基本的には 105 分の同期型オンライン形式で実施した。

【授業の内容】

『大学生と留学生のための論文ワークブック』（くろしお出版）に沿って、論文の構成や論文に特徴的な表現などを学び、Google ドキュメントを共有して確認問題やタスクの答え合わせを随時行った。

教科書の項目が終了した時点で、テーマ設定・序論構成・本論アウトラインの作成および先行研究の考察等を課題として与え、クラス内で発表・ピア評価をさせた。第二週には剽窃に関する指導を行い、学習者それぞれが自分なりの視点を持ってテーマを設定することの重要性を認識させ、自分と他人の意見を区別し、文献やデータを適切に引用する方法を周知した。学期後半は、個別の課題を提出させるのと並行して、最終成果物の締め切り日を繰り返しアナウンスし、論文執筆を促した。授業の最後の 3 回は個別の論文フィードバックを行い、論文執筆の間はカメラオフも認めた。最終日には論文の発表会を実施し、口頭での発表と質疑応答を実施した。

## 2. その他

今年度から新たに設置されたコースである。COVID-19 のため Zoom で実施した。

## 3. まとめ・今後の課題

教科書の購入を徹底させたため、海外にいる学生は問合せの段階で受講を断念したケースもあった。登録者は 6 名であったが、中間発表（中間テスト相当）後に人数が減り、最終的な修了者は 2 名であった。残った 2 名は非常に熱心で、理系専攻であるにも関わらず、文系よりのテーマに挑戦し、先行研究もよく読み込んでいた。

学期初めの時点では、最終成果物は 8000 字と指定していたが、学生側の要望により 5000 字に減らした。人数が少なかった分、個別のフィードバックには十分な時間をかけることができた。来学期以降、人数が多くなった場合でも、丁寧な指導をすることを心掛けたい。

# 上級　日本組織事情

2020年度S1S2

レベル　：　上級

スキル　：　その他

開講期間　：　2020/ 04/ 03 - 2020/ 07/ 22

時間　：　10:25 - 12:10 木曜日

場所　：　工学部8号館　132

学習目標　：　日本の組織で就職やインターンシップをするために必要な知識、スキル、ビジネスマナーなどを実践的に養う。

対象　：　日本語 中級3を修了した人、又はJLPT N1相当、学部3年生、修士1年生・2年生、博士2年生・3年生、交換留学生、USTEP

テキスト　：　自主教材

評価　：　教室活動20%、課題45%、発表15%、期末試験20%

・以下の条件全てを満たしたものについて、コース修了とみなす。
1) 出席率70%以上　2) 学期末試験もしくは課題を受験
・コース終了時に以下の基準で成績を付与する。A:100-80% B:79-65% C:64-50% F:49-0%
・中間・学期末試験の追試は実施日から1週間以内であれば受けることができる。その場合、評価の80%が成績に反映される。クイズの追試は行わない。

その他　：　1.　単位_2_認定　(ただし、単位が不要な学生も履修可)　UT-mate コード：大学院 3799-951-1.　学部 FEN-JL4r50L1,　2. 修了証は成績がC以上のnoncreditの学生で希望者にのみ発行される。 3. コーススケジュールは、工学系研究科の学年暦に準じる。 4. 30分以上の遅刻または早退は欠席とみなす。3回の遅刻または早退は1回の欠席とみなす。 5. 第1週目はオリエンテーション・ウィークのため出席数に含めない。 6. 授業内容と教室は変わる可能性がある。
Zoom [https://zoom.us/j/678939132]

担当　：　古市 由美子 FURUICHI Yumiko, 佐野（本村） 理恵 MOTOMURA Rie

nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 9 | 木 | オリエンテーション・自己紹介 |
| 2 | 4/ 16 | 木 | 日本の就職事情 |
| 3 | 4/ 23 | 木 | エントリシートの対策１（＊自己PR） |
| 4 | 4/ 30 | 木 | エントリシートの対策２（＊学生時代頑張ったこと） |
| 5 | 5/ 7 | 木 | 【水曜日授業】 |
| 6 | 5/ 14 | 木 | エントリシートの対策３ |
| 7 | 5/ 21 | 木 | 業界研究発表１　中間試験 |
| 8 | 5/ 28 | 木 | 業界研究発表２　中間試験 |
| 9 | 6/ 4 | 木 | エントリシートの対策４（＊志望動機） |
| 10 | 6/ 11 | 木 | 面接１ |
| 11 | 6/ 18 | 木 | 面接２ |
| 12 | 6/ 25 | 木 | 面接３ |
| 13 | 7/ 2 | 木 | 内定者・OB/OGの話を聞く |
| 14 | 7/ 9 | 木 | ビジネス場面における敬語 |
| 15 | 7/ 16 | 木 | ビジネスメール・報告書書き方、＊期末試験 |

## 上級　日本組織事情

報告者：古市由美子・本村理恵

### 1. 授業の方法と内容

【授業の方法】

今学期はオンライン講座としてスタートした。就職やインターンシップのために必要な知識、スキル、ビジネスマナーなどを養うことを目的に、キャリアカウンセラーの本村理恵講師と共に実践的な授業を実施した。選考方法がオンライン化していく中、インターンシップや就職活動のための準備を進めている学生にとって、オンラインによる本コースの授業方法は良い練習の機会になった。

【授業の内容】

授業内容は、エントリーシート（ES）の書き方、業界研究発表、そして面接対応、最後に敬語やビジネスメールの書き方など実践的な授業を実施した。ES は、自己理解、自己分析を通して、職業と自身の専門性を結びつけたキャリアプランについて検討した。「自己 PR」、「学生時代頑張ったこと」を 400 字の課題とした。その後、業界・企業研究の方法を導入し、学生の発表を中間試験（課題）とした。企業研究に基づき、400 字の「志望動機」を課題にした。その後、「個人面接」「グループディスカッション」「グループ面接」の面接対策の授業を 3 回行った。最後にビジネス敬語、報告書の作成などの授業を行った。上級になっても、日常生活で敬語を使用する機会が少ないため、ビジネス場面を想定した実践的な敬語練習を行った。

### 2. その他

OG１名、内定者１名に、学生時代の就職活動を振り返ってのアドバイス、現在の仕事、メッセージなどを中心に話題提供してもらう講話会をオンラインで実施した。オンラインでの参加は、OBOG の負担が少ないため、来学期以降もオンラインで参加してもらうことを検討していきたい。

### 3. まとめ・今後の課題

オンラインによる就職活動は、留学生にとっては情報が入手しにくいことからも、本コースは留学生のニーズをカバーできるものだと考える。ただし、参加目的や語学力のばらつきや参加者数が極端に増えると、フォローが容易な対面式と比べて授業内での内容理解や達成度に差異が生じるであろう。また、オンラインでの授業は対面と比較し、受講者同士の一体感やつながりが感じられる雰囲気の醸成が困難なため、こうしたマイナス面を克服するコンテンツが必要になる。また、今学期のオンライン授業では、個別相談をする時間や機会が対面と比較して十分ではなかったので、来学期は、気軽に応じられる仕組みや機会を取り入れたい。

# ビジターセッション・日本事情

2020年度S1S2

レベル　：全レベル
スキル　：該当無し
開講期間　：2020/ 04/ 15 - 2020/ 07/ 01
時間　：13:00 - 14:45 水曜日
場所　：工学部8号館　88L
学習目標　：留学生と日本人のボランティアの方たちと共に留学生の出身地の文化、そして日本文化について様々な切り口から学ぶ。

・好きなトピックについて日本語で話す
・日本語や日本文化について知識のある人に質問する
・少人数(２～３名）のグループで会話を続ける

対象　：全レベルの学習者
テキスト　：なし
評価　：単位なし
その他　：学期の途中からでも参加できます。来られない週があっても大丈夫です。
担当　：金（キム）ユジン KIM Youjin, 早坂 美和子 HAYASAKA Miwako
nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　Tel:03-5841-8826

| No. | 日付 | 曜日 | 授業内容 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4/ 15 | 水 | 休講 |
| 2 | 4/ 22 | 水 | 休講 |
| 3 | 4/ 29 | 水 | 休講 |
| 4 | 5/ 6 | 水 | 休講 |
| 5 | 5/ 7 | 木 | 休講 |
| 6 | 5/ 13 | 水 | 休講 |
| 7 | 5/ 20 | 水 | 休講 |
| 8 | 5/ 27 | 水 | 休講 |
| 9 | 6/ 3 | 水 | 休講 |
| 10 | 6/ 10 | 水 | 休講 |
| 11 | 6/ 17 | 水 | 休講 |
| 12 | 6/ 24 | 水 | 休講 |
| 13 | 7/ 1 | 水 | 休講 |

# ビジターセッション＆日本事情

報告者：金 瑜眞、早坂　美和子

## １. 授業の方法と内容

1-1. 授業の方法

S1S2 学期においては、新型コロナウィルスの感染拡大の防止のために、近距離で会話を行う対面での自由会話および文化体験を全て中止した。A1A2 から Zoom を使用したオンラインでの自由会話の実施を計画し、7 回のセッションを行った。形式は対面時と同様、当日本語教室のボランティアの方々と留学生で少人数のグループを作成し、Zoom のブレイクアウトルームを使い、各グループで自由な会話をしてもらった。A1A2 学期においては、10 名のボランティア（秋山賢一氏、北林三枝子氏、小林桜子氏、篠崎いずみ氏、田中勉氏、寺田美奈子氏、橋本冨美栄氏、松枝文恵氏、野城ゆうこ氏、山崎佳子氏）にご協力をいただいた。留学生は、ゼロ初級から上級レベルの学生まで、全レベルにわたる学生が参加した。

1-2. 授業の内容

各セッションにおいては、毎回異なるボランティアと留学生たちをグループにし、多様な日本語母語話者と交流及び練習が可能になるように調整した。ボランティアには、様々な話題について日本語で話し合ってもらい、学生への話題提供や日本語での発話を促すために日本の文化に関する写真や簡単な初級教材をご準備いただいたこともあった。ボランティアとの会話の練習を通して、初中級の学生には、授業で勉強した文型や語彙を使った日本語の口頭表現の運用力を高める機会を提供し、上級の学生には、年長者との会話を通して敬語、ビジネス日本語などの練習の機会を提供することができたと考えられる。

さらに、今学期は、オンラインでの実施により、入国規制などで来日が難しい海外からの学生はもちろん、外出自粛で日本語母語話者との交流の機会が少なくなっている日本在住の留学生にも、日本語の会話の機会を提供することができた。

## ２. その他

2021 年においても依然として新型コロナウィルスの影響が続いているため、2021 年 2～3 月において、3 回の特別オンラインビジターセッションの実施を決定した。来日が困難である海外からの学生や外出自粛を行っている日本国内の留学生に、継続して日本語の会話の機会を提供していく予定である。

## ３. まとめ

今回もボランティアの方々には学生に丁寧に指導して頂いた。末筆ながらボランティアの方々のご尽力に心から感謝を申し上げたい。

# チュートリアルセッション

報告者:　金　瑜眞・岡　葉子

## １．概要

日本語教室では、通常の授業では対応できない学習者ごとのニーズに合わせ、教員が個別指導を実施することで、自律学習を支援している。概要は以下の通りである。

目的：　留学生の個別日本語学習支援

対象：　工学系研究科日本語教室の授業を現在受講中または過去に受講していた学生

指導内容：日本語学習全般に関する支援

・論文、レポート、研究計画書、研究概要の添削

・ビザ申請書類、履歴書等の添削や面接の練習

・日本語能力試験対策指導

・日本語学習方法アドバイス

・既習学習内容に対する復習　など

## ２．実績

2020 年度においては、学期中は実施せず、夏休み（2020 年 8～9 月）と春休み（2021 年 2～3 月）期間中に開催した。実績は以下の通りである。

開講日時：

2020 年 8 月 25 日（火）～　2020 年 9 月 4 日（金）14:00-16:00

2021 年 2 月 25 日（木）～　2021 年 3 月 11 日（木）14:00-16:00

時間：1 回 60 分

利用件数：夏休み 7 件、　春休み 12 件

指導内容：既習学習内容の復習、日本語授業の履修相談、日本語の学習方法に関する相談、日本語能力試験対策、研究概要の添削、ゼミ資料の添削、就職活動・履歴書作成に関する相談など

## ３．まとめ・今後の課題

2020 年度は新型コロナウィルスの影響により、Zoom を使いチュートリアルセッションを実施した。S1S2 学期は、オンライン授業の中では口頭練習の機会が少ないという問題が生じたため、学期中ではなく夏休みに学習相談としてのチュートリアルを実施した。既習学習内容に関する相談や日本語能力試験対策が多かったことからも、平常授業のサポートや試験対策として機能していたと考えられる。A1A2 学期は、それに加えて就職活動や研究内容に関する日本語作文添削などの相談も寄せられたため、対応した。2021 年度も新型コロナウィルスの影響を鑑み、Zoom 等を活用するなど、個別日本語学習支援に柔軟に対応したい。

## 2.5　受講者と修了者

2020 年度に実施した S1S2、A1A2 学期の受講者と修了者について報告する。尚、以下に述べる事象の内、2020 年 3 月に深刻化した新型コロナウィルス感染症の影響を受けたものが多くあることを本章の冒頭記しておく（「はじめに」参照）。
図 2 は、2011 年度から 2020 年度[1]までの年度別延べ数および実数の受講者数の推移である。

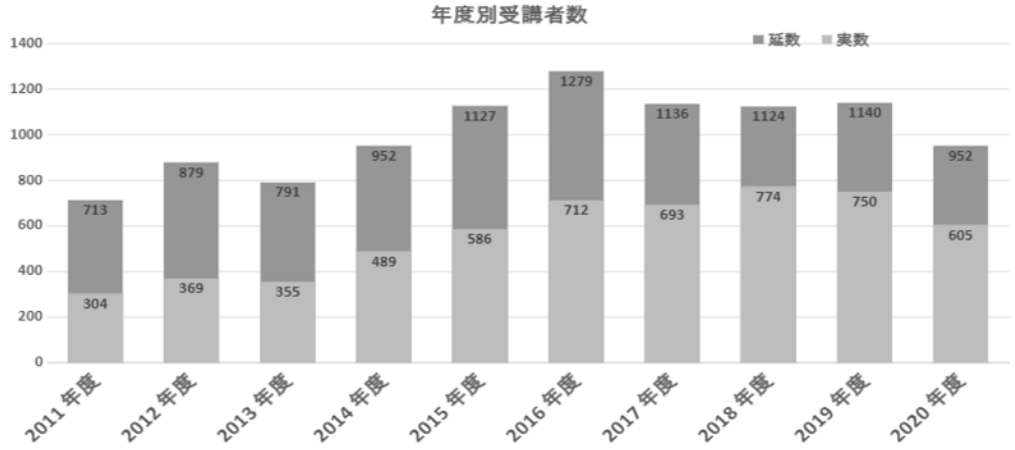



図 2　年度別受講者数推移

カリキュラムの継続的な改善と日本語科目の単位化の浸透により受講者が急増した 2015、2016 年度をピークに受講者数は若干減少しており、ここ数年は横ばいである。その背景としては、2017 年度からコースに定員制を設けたことと、同年、当教室の登録・管理システムである STAR（Student Tools for Access and Review）を都市工学日本語教室及びシステム創成系日本語教室と共有したことが挙げられ、システムを共有し、受講者のバランスを図った結果と言える。その一方で、実数はここ数年増加しており、2018 年度 774 名、2019 年度 750 名と 2011 年度と比して約 2.5 倍となった。2020 年度においては、605 名で前年度より 45 名減り、2011 年度の約 2 倍に留まったが、依然として実数が延べ数に占める割合は高い。また、2020 年度に上級 2 が新設され、それまでの 6 レベル 30 コースから 7 レベル 33 コース[2]に選択肢が拡大されたことに伴い、これまで以上に、個々の学習者が、それぞれのニーズに合わせてコースを選択していると推察される。このことも受講への意欲を喚起している一因と言えよう。

---

[1] 2020 年度より、日本語教室の所属部局名は、工学系研究科 国際工学教育推進機構 日本語教育部門から工学系研究科 国際工学教育推進機構 国際教育部門となった。
[2] 工学系日本語教室には、「多文化理解プロジェクト」というコースもあり、全 33 コースとなるが、2020 年度はコロナウィルス感染拡大に伴う措置により、「多文化理解プロジェクト」は不開講となった。そのため、本報告書では、2.5.1 章以降「7 レベル 32 コース」として報告する。

2.5.1　S1S2受講者

2020年度S1S2では、コロナウィルス感染拡大に伴う措置により不開講となった「多文化理解プロジェクト」を除く7レベル、32コースを開講した。その受講者について報告する。

1)　工学系研究科日本語教室受講者

表 2 は、研究科別の各レベルの受講生の延べ数と実数である。

表2　2020S1S2 研究科別・レベル別受講者数　（　）内は単位申請者数

| 研究科＼レベル | 初級Ⅰ | 初級Ⅱ | 中級 1 | 中級 2 | 中級 3 | 上級 1 | 上級 2 | 延べ合計 | 実数合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①　工学系研究科 | 28 | 24 | 63 | 47 | 47 | 34 | 14 | 257(48) | 150(41) |
| ②　情報理工学系 | 7 | 4 | 6 | 19 | 14 | 4 | 2 | 56(14) | 34 (13) |
| ③　新領域研究科 | 1 | 2 | 4 | 3 | 5 | 3 | 1 | 19(7) | 11(5) |
| ④　全学交換留学生 | 2 | 3 | 4 | 0 | 9 | 3 | 1 | 22(19) | 14(11) |
| ⑤　他研究科 | 10 | 5 | 32 | 17 | 11 | 19 | 13 | 107(40) | 74(34) |
| 合計①～⑤ | 48 | 38 | 109 | 86 | 86 | 63 | 31 | 461(128) | 283(104) |

全受講生（実数283名）のうち、工学系研究科の受講者（150名）が占める割合は約53%で、昨年度の48%から5ポイント増加した。近年、他研究科、全学交換留学生(以下、章内、USTEP生と略す)が増加傾向にあったが、今年度は、この内、USTEP生が14名(昨年度41名)となり、前年度の11%から6ポイント減少した。

身分別の延べ数（図 3）は、例年通り、全体（461 名）に占める修士の割合が際立って高いが、2020 年度は、博士と合わせ、本学の大学院に籍を置く受講生の割合が 66%となり、2019 年度の 52%と比べ、14 イント増となった。この数値の高さの背景には、コロナ禍の影響による学部生の減少があると言える。大学院外国人研究生は 10%(2019 年度 15%)、USTEP 生は 5%（2019 年度 12%）で、前年比で、前者は 5 %、後者は 7 %減少している。

専攻別の延べ数（図 4）を見ると、例年学生数が多い機械工学（2019 年度トップ 38 名）が 4 位（21 名）となった。電気系工学、建築学の割合は例年通り高く、電気系工学は昨年度の 36 名から 39 名に増えた。尚、2020 年度に学生数を増やしたのは、前年度 8 位、学生数 12 名だったバイオエンジニアリングで、学生数 3 位 22 名となった。また、2019 年度に学生数 4 位 28 名と学生数を伸ばしたマテリアル工学の学生は、2020 年度 S1S2 学期は学生数 6 位 17 名であった。

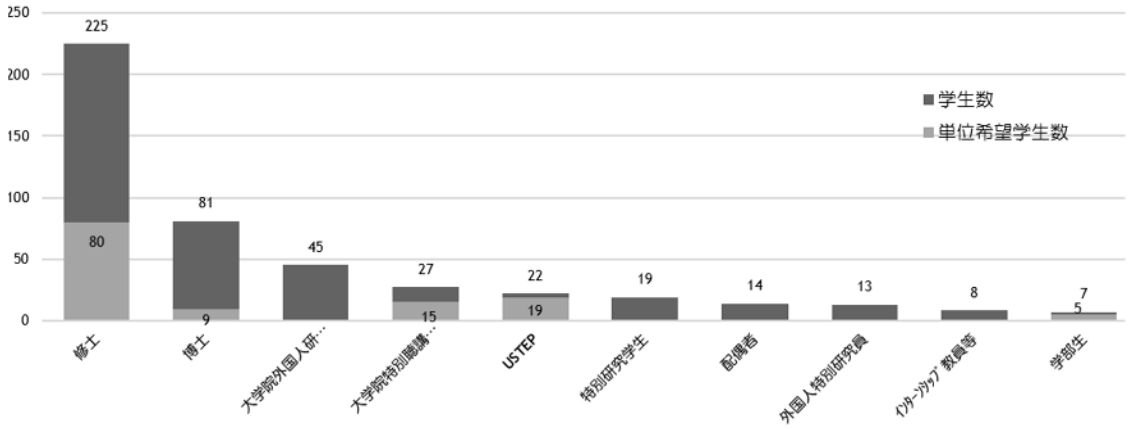



図 3　身分別受講者数　　USTEP：全学交換留学生

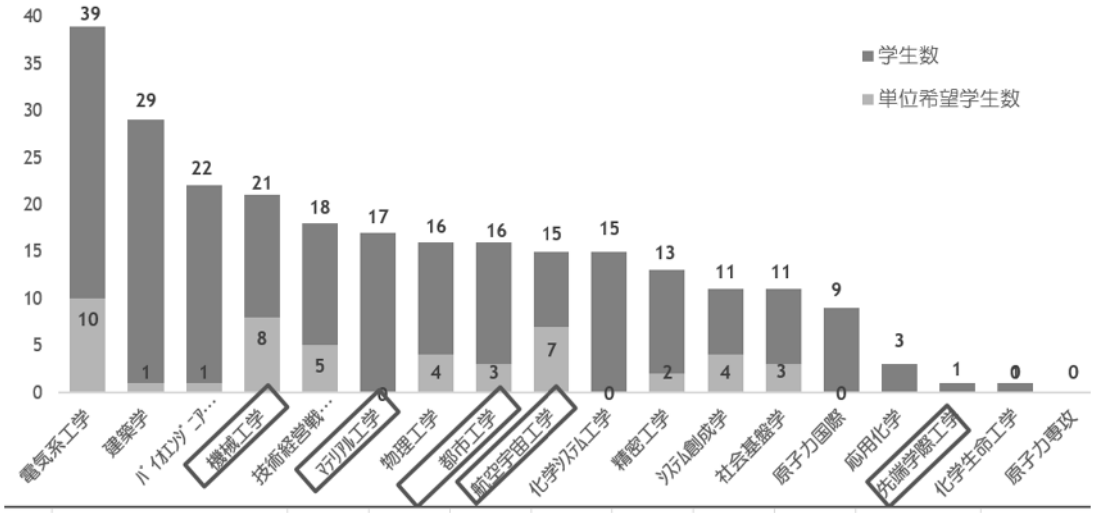



図 4　専攻別受講者数　＊ 枠囲み：日本語科目が卒業修了要件となる専攻科

国籍別受講者数（表 3）の延べ数では、合計 52 カ国のうち、例年通り中国の割合が 42%と最多であった。また、2019 年度に 2018 年度の 31 名から 19 名に減少した台湾が、今年度 S1S2 学期では 28 名まで増え、国籍別で中国に次ぐ学生数となった。逆に 2019 年度に比べて学生数が減少したのは韓国で、昨年度 S1S2 の 29 名から 5 名のみとなった。その他、アジアの中では、タイの受講者数は安定していると言える（昨年度 21 名→今年度 22 名）。また、国籍別の受講者数の第 6 位までに、昨年度、今年度とも、フランス（27 名→15 名）とドイツ（23 名→14 名）が入っている。ヨーロッパにおける深刻なコロナ禍という状況を考えると受講者は多いと言えるかもしれない。

表3　国籍別・レベル別受講者

| | レベル<br>国籍 | 初級 1<br>延べ数 | 初級 2<br>延べ数 | 中級 1<br>延べ数 | 中級 2<br>延べ数 | 中級 3<br>延べ数 | 上級 1<br>延べ数 | 上級 2<br>延べ数 | 合計<br>延べ数 | 実数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 中国 | 13 | 13 | 29 | 28 | 49 | 40 | 21 | 193 | 123 |
| 2 | 台湾 | 1 | 0 | 9 | 8 | 5 | 2 | 3 | 28 | 13 |
| 3 | タイ | 3 | 1 | 7 | 3 | 4 | 3 | 1 | 22 | 14 |
| 4 | アメリカ合衆国 | 1 | 1 | 6 | 5 | 0 | 6 | 2 | 21 | 10 |
| 5 | フランス | 4 | 4 | 2 | 1 | 3 | 1 | 0 | 15 | 14 |
| 6 | ドイツ | 1 | 0 | 3 | 6 | 2 | 2 | 0 | 14 | 7 |
| 7 位～52 位計 | | 26 | 19 | 53 | 35 | 23 | 7 | 4 | 168 | 102 |
| 合計 | | 48 | 38 | 109 | 86 | 86 | 63 | 31 | 461 | 283 |

2）専攻日本語教室受講者

表 4 は工学系内の専攻日本語教室の S1S2 の受講者である。

前述のように、工学系日本語教室は 2017 年度 S1S2 以降、都市工学日本語教室及びシステム創成系日本語教室と STAR（Student Tools for Access and Review）システムを共有して日本語コースの登録を行っており、日本語コースレベルの統一および受講者数のバランスが改善されている。今年度も、以下のように他研究科の学生も別の専攻日本語教室で学んでいる。尚、社会基盤学日本語教室の初級 1 は、4 月入学者数減少に伴い日本語レベル入門相当の該当者がいなかったため開講しなかった。

表 4　S1S2 専攻日本語教室受講者数（実数）

| レベル／専攻 | 初級 I | 初級 II | 中級 I | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 社会基盤学 | 0 | 22 | | 22 |
| 都市工学 | 都 1・工 2 | 都 3・工学 1・他 2 | 都 3・工学 1・他 1 | 都市 7・工学 4・他研究科 3 |
| システム創成系 | | | ｼｽ創 13・工 3・他 0 | ｼｽ創 13・工 3・他 0 |
| IME | | | 2 | 2 |

2.5.2　S1S2 修了者

次に2020年度S1S2修了者について報告する。

1）工学系研究科日本語教室修了者

工学系日本語教室全体の修了者は延べ 320 名、実数 208 名、単位取得者は、延べ 116 名、実数 94 名である。実数で見ると受講者実数 283 名に対する修了者実数 208 名の割合は 73%で、昨年度の 58%に比べると 15 ポイント増加した。これは 2020 年 4 月 5 日

からオンライン授業が開始された結果、移動に伴う時間が不要になり、出席率が高かったことと関係していると推測される。

研究科別では、工学系研究科の実数の修了割合が 72%(昨年度は 51%)と 21 ポイント上昇した。全学交換留学生の修了者の割合も 79%と高いが、昨年度（89%）と比べると 10 ポイントの減少に転じた。

表 5　2020A1A2 研究科別・レベル別修了者　（　）内は単位取得者

| 研究科＼レベル | 初級Ⅰ | 初級Ⅱ | 中級 1 | 中級 2 | 中級 3 | 上級 1 | 上級 2 | 延べ合計 | 実数合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①　工学系研究科 | 21 | 21 | 42 | 28 | 28 | 27 | 3 | 170(42) | 108(36) |
| ②　情報理工学系 | 5 | 4 | 6 | 16 | 9 | 3 | 1 | 44(12) | 26(10) |
| ③　新領域研究科 | 1 | 1 | 4 | 3 | 3 | 1 | 1 | 14(6) | 7(4) |
| ④　全学交換留学生 | 0 | 3 | 3 | 0 | 8 | 2 | 1 | 17(16) | 11(10) |
| ⑤　他研究科 | 8 | 4 | 26 | 12 | 11 | 10 | 4 | 75(40) | 56(33) |
| 合計①～⑤ | 35 | 33 | 81 | 59 | 59 | 43 | 10 | 320(116) | 208(94) |

2）専攻日本語教室修了者

専攻日本語教室の修了者数は、表 6 のとおりである。社会基盤学専攻は初級Ⅰと初級Ⅱが修了すると、修了要件の単位として 2 単位が付与されるが、2020 年度 S1S 2 の初級Ⅱでは全員が単位を取得している。都市工学専攻とシステム創成系専攻日本語教室は、1 コマ 2 単位が付与されるが、2019 年度はいずれも単位取得者は少なかった（都市工 13 名中 1 名、システム創成系 19 名中 3 名）。この傾向は、2020 年度においてもシステム創成系専攻日本語教室では変わらなかったが（14 名中 1 名）、都市工学専攻日本語教室においては、単位取得者が 12 名中 7 名に増えた。

表 6　専攻日本語教室修了者数（実数）　（　）内は単位取得者

| 専攻 | 初級Ⅰ | 初級Ⅱ | 中級 | 個人指導 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 社会基盤学 | 0(0) | 22(22) | | | 22(22) |
| 都市工学 | 都 1･工 1・他 0 | 都 3･工 1・他 2 | 都 3･工 1・他 0 | | 12(7) |
| | 2(1) | 6(6) | 4(0) | | |
| システム創成系 | ｼｽ創 5･工 2・他 0 | | ｼｽ創 6･工 1・他 0 | | 14(1) |
| | 7(0) | | 7(1) | | |
| IME | | | 2 | － | 2 |

### 2.5.3　A1A2受講者

次に、2020年度A1A2の受講者について報告する。

1）工学系研究科日本語教室受講者

A1A2 は 7 レベル、32 コース中、受講者は延べ数 312 名、実数 213 名であった（表 7）。昨年度の A1A2 と比較すると、延べ数は 9 名増加、実数は 3 名減少であったが、工学系日本語教室の受講者数が全体に占める割合は高く、延べ数で 74%、実数で 66%となっている。

研究科別に見ると、工学系と情報理工学系の学生が減少したほか、全学交換留学生（USETP 生）が 1 名（昨年度 68 名）となった。また、これまで増加傾向にあった他研究科は前年度 99 名（延べ数）から 85 名に減少した。受講者数は、S1S2 と合わせると延べ数 952 名で、前年度の 1,140 名から 188 名減少している。

尚、レベル別の受講者は、例年初級レベルに集中する傾向にあったが、2019 年度より中級レベルの学習者が増え（昨年度 A1A2 全受講者の 57%）、2020 年度も A1A2 学期より人数が減ったものの、中級 1~3 の受講者の合計が延べ数で 159 名おり、全受講者の 51%を占めている。来日前に母国で日本語を学んでくる学生が一定数いることも中級学習者が増えている一因であろう。

表 7　A1A2 研究科別・レベル別受講者数　　（　）単位申請者

| 研究科＼レベル | 初級Ⅰ | 初級Ⅱ | 中級 1 | 中級 2 | 中級 3 | 上級 1 | 上級 2 | 延べ数合計 | 実数合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①　工学系研究科 | 57 | 32 | 53 | 56 | 50 | 50 | 14 | 312(70) | 213(60) |
| ②　情報理工学系 | 8 | 3 | 6 | 7 | 13 | 15 | 0 | 52(18) | 34(16) |
| ③　新領域研究科 | 4 | 3 | 8 | 9 | 10 | 7 | 0 | 41(15) | 24(10) |
| ④　全学交換留学生 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1(1) | 1(1) |
| ⑤　他研究科 | 7 | 5 | 12 | 20 | 15 | 26 | 0 | 85(21) | 50(16) |
| 合計①～⑤ | 76 | 43 | 79 | 92 | 88 | 99 | 14 | 491(125) | 322(103) |

身分別（図5）では、2020年度A1A２も圧倒的に修士（283名）が多く、次いで博士（127名）、大学院外国人研究生（36名）、特別研究学生（17名）と続くが、このほか、全学交換留学生（USTEP生）、特別聴講生、配偶者、外国人特別研究員、インターンシップ教員など、受講者の身分は多様である。しかし、修士、博士はS1S2に比して、修士61名、博士46名の増加となったものの、その他の身分の学生に関しては、S1S2より減少し、特に受入れ中止となった全学交換留学生USTEP生が22名から1名[3]に、大学院特別聴講学生が27名から0名、学部生も7名から0名となった。

[3] 海外からの全学交換留学生の受け入れは中止となったが、1 名は全学交換留学生の枠内での受講が可能となった。

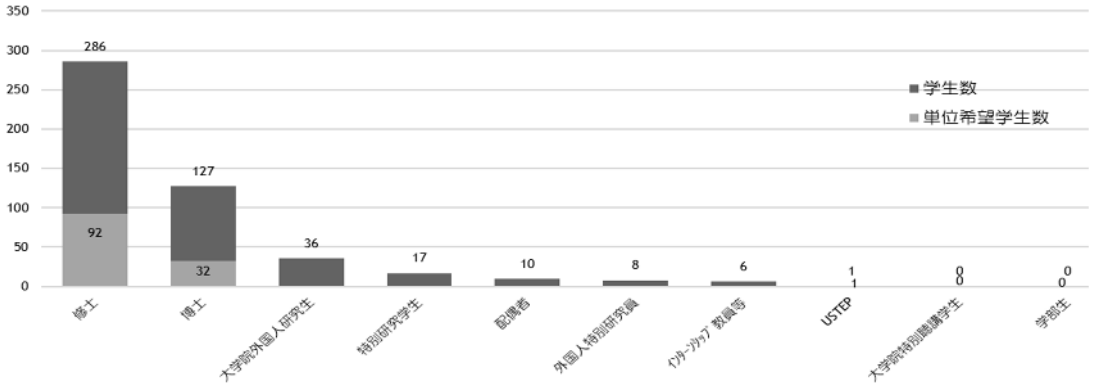



図5　身分別受講者数

専攻別学生数は、図 6 が示すように、18 専攻中、16 の専攻からの受講があったことがわかる。昨年度の A1A2 は電気系工学（50 名）、機械工学（35 名）、技術経営戦略学（32 名）の順に多かったが、今年度の A1A2 学期では機械工学（58 名）と電気系工学（47 名）の受講者数順位が入れ替わり、また、昨年度受講者数 9 番目で 17 名だったマテリアル工学が 27 名に増加した。この 3 つの専攻では、本年度 S1S2（図 4 参照）でも受講者数が増えたが、特に機械工学は S1S2 の 21 名から 58 名と大幅に増えた。

尚、単位に関しては、日本語科目の単位が修了要件として認められている機械工学、マテリアル工学、航空宇宙工学、都市工学、先端学際工学のうち、機械工学においては約半数（48%）の学生が希望しているが、その他の専攻に関しては、修了要件が単位取得希望に直結しているわけではないことが図 6 から窺える。

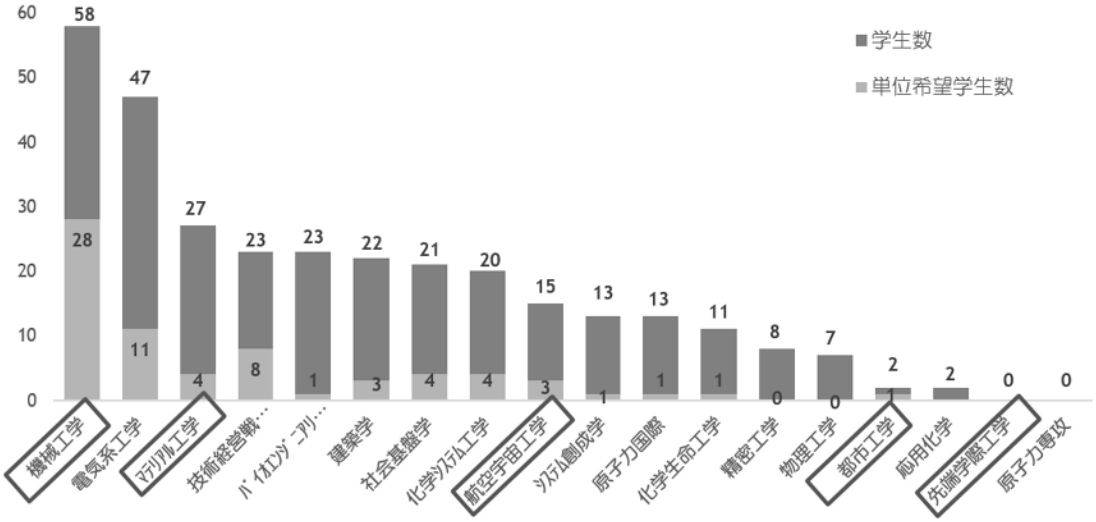



図 6 専攻別受講者数　　* 枠囲み: 日本語科目が卒業修了要件となる専攻科

次に受講者の国籍（表 8）について述べる。

表８　国籍別・レベル別受講者

| | レベル<br>国籍 | 初級１ | 初級２ | 中級１ | 中級２ | 中級３ | 上級１ | 上級２ | 合計<br>延べ数 | 実数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 延べ数 | 延べ数 | 延べ数 | 延べ数 | 延べ数 | 延べ数 | 延べ数 | | |
| 1 | 中国 | 40 | 14 | 42 | 51 | 66 | 65 | 10 | 288 | 182 |
| 2 | 台湾 | 3 | 1 | 4 | 8 | 7 | 6 | 0 | 29 | 18 |
| 3 | インド | 8 | 3 | 1 | 6 | 0 | 0 | 0 | 18 | 15 |
| 4 | タイ | 2 | 2 | 0 | 3 | 2 | 2 | 0 | 11 | 9 |
| 5 | アメリカ合衆国 | 1 | 1 | 5 | 4 | 3 | 2 | 0 | 16 | 7 |
| 6 | インドネシア | 4 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 7 | 7 |
| 7 位～47 位計 | | 18 | 20 | 27 | 20 | 10 | 24 | 3 | 122 | 84 |
| 合計 | | 76 | 43 | 79 | 92 | 88 | 99 | 14 | 491 | 322 |

合計 47 カ国のうち、例年通り、中国出身者が約半数を占める。特に中級以上のコースで中国国籍の受講者が多く、上級は中国人学生が大部分で、この傾向はここ数年顕著である。また、近年は台湾、タイ、韓国に続き、フランス、ドイツからの受講生が一定数を占めるようになっていたが、2020 年度においては韓国が S1S2、A1A2 共、上位 6 位までに入らなかった。交換留学生が多いフランスやドイツは、受け入れが中止となったため、受講者数が減少した。代わりに受講者が増加したのは、インド、アメリカ、インドネシアで、この中には既に来日している学生とオンラインで受講した学生が含まれる。

2）専攻日本語教室受講者

S1S2 の説明でも述べたが、2017 年度より都市工学、システム創成系日本語教室は、工学系日本語教室のオンライン登録システム「STAR」（Student Tools for Access and Review）を共有して使用しており、それによって、専攻日本語教室における工学系の受講者が増加した。しかし、2020 年度は、システム創成系日本語教室は 19 名（昨年度 15 名）と微増したものの、都市工学の受講者は 23 名（昨年度 32 名）に留まった。尚、社会基盤学専攻日本語教室も 15 名（昨年度 33 名）に減少、IME は、昨年度は中級で 3 名の受講者がいたが、2020 年度は中級 2 名、上級 2 名、計 4 名の受講であった。都市工学及び社会基盤学専攻日本語教室で受講者数が減った背景には、本章冒頭で述べたように、新型コロナウィルス感染拡大の影響も考えられる。

表 9　A1A2 専攻日本語教室受講者数（実数）　　（）内は単位希望者

| 専攻 | 初級Ⅰ | 初級Ⅱ | 中級 | 上級 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 社会基盤学 | 15（14） | — | — | — | 15(14) |
| 都市工学 | 都 11･工 1･他 0 | 都 3･工 2･他 0 | 都 4･工 1･他 1 | — | 23(18) |
| | 12(10) | 5(3) | 6(5) | | |
| システム創成系 | ※ｼｽ創 5･工 0 他 0 | — | ｼｽ創 9･工 4･他 1 | — | 19(3) |
| | 5(1) | | 14(2) | | |
| IME | — | — | 2 | 2 | 4 |

※1 システム創成系の初級は 3 月まで開講

2.5.4　A1A2 修了者

次に 2020 年度 A1A2 の修了者について報告する。

1）工学系研究科日本語教室修了者

工学系日本語教室全体の修了者は、表10にあるように、延べ366名、実数247名、単位取得者は延べ116名、実数94名であった。実数で見ると受講者実数（322名）に対する修了者実数247名の割合は77%であり、昨年度の65%から12ポイント増加した。

当教室のA1A2の修了者数（表10）は、延べ数241名、実数163名であった。受講者数（延べ数312名、実数213名）に占める修了者の割合は、延べ数、実数とも77%となり、昨年度の59%、64%より、延べ数で18ポイント、実数で13ポイント増加した。これは、コロナ禍を受けてS1S2開講時より始まった完全オンライン授業により、通学時間がなくなり、受講の継続が容易になったこととも関連する（2.6章 日本語教室のコース評価を参照）。ただ、単位取得者数は53名（33%）（昨年度70名 50%）に留まった。

修了者の割合は他の研究科でも高く、情報理工学系66%、新領域研究科69%、他研究科67%であった。単位取得者数は表10に見られるように、情報理工学系が14名（52%）、新領域研究科が9名（45%）、他研究科が16名（44%）であった。

表10 研究科別・レベル別修了者　　（ ）は単位取得学生数

| レベル／研究科 | 初級 1 | 初級 2 | 中級 1 | 中級 2 | 中級 3 | 上級 1 | 上級 2 | 延べ合計 | 実数合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①工学系研究科 | 42 | 24 | 48 | 48 | 38 | 38 | 3 | 241(66) | 163(53) |
| ②情報理工学系 | 8 | 2 | 3 | 5 | 10 | 13 | | 41(15) | 27(14) |
| ③新領域研究科 | 4 | 2 | 6 | 8 | 6 | 3 | | 29(12) | 20(9) |
| ④全学交換留生 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | | 1（1） | 1（1） |
| ⑤他研究科 | 5 | 3 | 9 | 14 | 6 | 17 | | 54(22) | 36(16) |
| 合計①～⑤ | 59 | 31 | 66 | 75 | 60 | 72 | 3 | 366(116) | 247(93) |

ここで、当教室の昨年度と今年度を比較した際の特徴的な数値をまとめて紹介する。表11は、2019年度と2020年度のレベルごとの受講者数、修了者数、及び延べ数、実数における修了者の割合を示したものである。

表11 工学系研究科日本語教室のレベル別学生数 2019年度・2020年度の比較 ()単位申請・取得者

| | 学期 | | 入門<br>初級1 | 初級<br>2 | 中級<br>1 | 中級<br>2 | 中級<br>3 | 上級<br>1 | 上級<br>2 | コース数 | 延べ合計 | 実数合計 | 延べ修了者数 | 実数修了者数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2019年度 | S1S2 | 受講者 | 95 | 51 | 109 | 101 | 106 | 113 | _ | 30 | 575(198) | 362(134) | 52.7% | 58.3% |
| | | 修了者 | 60 | 25 | 60 | 66 | 41 | 51 | _ | | 303(170) | 211(120) | | |
| | A1A2 | 受講者 | 110 | 54 | 103 | 111 | 107 | 80 | _ | 30 | 565(194) | 388(150) | 59.1% | 64.9% |
| | | 修了者 | 77 | 30 | 66 | 67 | 52 | 42 | _ | | 334(180) | 252(146) | | |
| 2020年度 | S1S2 | 受講者 | 48 | 38 | 109 | 86 | 86 | 63 | 31 | 32 | 461(128) | 283(104) | 69.4% | 73.5% |
| | | 修了者 | 35 | 33 | 81 | 59 | 59 | 43 | 10 | | 320(116) | 208(94) | | |
| | A1A2 | 受講者 | 76 | 43 | 79 | 92 | 88 | 99 | 14 | 32 | 491(125) | 322(103) | 74.5% | 76.7% |
| | | 修了者 | 59 | 31 | 66 | 75 | 60 | 72 | 3 | | 366(116) | 247(93) | | |

表内の情報については既にふれた点もあるので、詳述はさけるが、注目すべき点は、「実数修了者数」の割合である。この数値は例年60%前後となることが多いが、2020年度においては、修了者実数が、S1S2で73.5%、A1A2で76.7%となった。これは、先に述べたように、オンライン授業がもたらした数値とも考えられる。オンライン授業導入前は、移動に伴う時間的、精神的負担のほか、研究のため、授業についていけないなどの理由により、学期途中で受講を断念する学生が一定数いたが、オンライン授業により、学習を継続することが容易になったと考えられる。

2）専攻日本語教室

表 12 は専攻日本語教室の修了者数（実数）である。

表 12　A1A2 専攻日本語教室修了者(実数)　（　）内は単位取得者

| 専攻 | 初級Ⅰ | 初級Ⅱ | 中級 | 上級 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 社会基盤学 | 13(13) | — | — | — | 13(13) |
| 都市工学 | 都 10･工 1･他 0 | 都 3･工 1･他 0 | 都 4･工 2･他 0 | — | 21(16) |
| | 11(9) | 4(2 ) | 6(5) | | |
| システム創成系 | ※ｼｽ創 5･工 0 | — | ｼｽ創 9･工 4･他 1 | — | 19(3) |
| | 5(1) | | 14(2) | | |
| IME※2 | | — | 2 | 2 | 4 |

※1 システム創成系の初級は 3 月まで開講

※2IME・個人指導は利用者数の延べ人数、修了者数は対象外

社会基盤学専攻は初級Ⅰと初級Ⅱが修了すると、修了要件の単位として 2 単位が付与されるが、2020 年度 A1A2 では受講者全員が単位を取得している。都市工学専攻とシステム創成系専攻日本語教室は 1 コマ 2 単位が付与されるが、2020 年度 A1A2 学期において、都市工学では約半数の学生が単位を取得し、増加傾向が見られる。

以上をもって、2020 年度の受講者及び修了者数に関する報告を終える。今年度は、新型コロナウィルス感染拡大の影響を受け、工学系日本語教室全体にとって大変厳しい年度となった。受講者の学習意欲及び教育の機会を提供し続けたいという教職員の思いに支えられた一年であったと言えよう。

## 2.6　日本語教室のコース評価

日本語教室では、2013 年度冬学期よりオンラインコース評価を学期末に実施している。2020 年度 S1S2 学期は、下記の通り実施した。

### 2.6.1. 2020 年度 S1S2 学期オンラインコース評価概要

実施期間　：2020 年 7 月 2 日～2020 年 7 月 31 日
対象者　　：日本語教室在籍の研究生、修士、博士、研究員、交換留学生、配偶者
回答者　　：計 204 名（初級 52 名・中級 117 名・上級 35 名）
実施言語　：英語
質問項目　：

１．回答者身分
２．コースの目標は明確だった
３．授業のスピードは適切だった
４．講義内容は分かりやすかった
５．授業の課題の量はどうだったか
６．担当教員は熱意を持って授業を行っていた
７．当該コースの授業を受けて学習意欲が高まった
８．当該コースの内容は自分にとって将来、役に立つと思う
９．当該授業科目の予習復習に毎週どのぐらい時間を使ったか
１０．当該コースに出てできるようになったこと
１１．当該コースについての自由記述（Zoom 接続環境、受講生数、テスト、宿題、試験、印象に残ったことなど）
１２．オンライン授業に満足しているか
１３．質問１２で「満足していない」と答えた場合、その理由
１４．2020A1A2 学期の授業形態は、対面授業、オンライン授業、または対面とオンライン授業のミックスのどちらがいいと思うか
１５．オンライン授業の形式はどれがいいと思うか
１６．オンライン授業で困っていることは何か
１７．質問１６で「その他」と答えた場合、その理由
１８．オンライン授業のいい点は何か
１９．質問１８で「その他」と答えた場合、その理由
２０．履修登録の手続きは分かりやすかった
２１．質問２０の理由
２２．プレイスメントテストの結果、適切なレベルのコースを履修することができた
２３．質問２２のプレイスメントテストに関するコメント

２４．日本語教室（JLCSE）の オフィス Zoom を利用したか
２５．質問２４で「利用した」と答えた場合、どんなことに利用したか
２６．質問２５で「その他」と答えた場合の具体的な内容
２７．質問２４で「利用しなかった」と答えた場合、どうして利用しなかったか
２８．質問２７で「その他」と答えた場合の具体的な内容
２９．日本語教室に期待していること
３０．質問２９で「その他」と答えた場合の具体的な内容

回答方法　：上述の質問 1、5、9、12、14～16、18、24、25、27、29 は、各々に選択肢を設け、2～4、6～8、20、22 は、質問文に続き、「1.まったく思わない、2.あまり思わない、3.そう思う、4.強くそう思う」の 4 件法で回答を求めた。また、10、11、13、17、19、21、23、26、28、30 は自由記述形式で回答を求めた。

### 2.6.2. 結果の概要

以下では、(1)授業内容について、(2)履修登録について、(3)その他　の 3 点について、受講生全体の傾向と初級・中級・上級のレベル別の傾向に着目した結果の概略を報告する。

(1) 授業内容について

授業内容に関連する質問 2～19 について述べる。まず、これらのうち 4 件法（「1.まったく思わない、2.あまり思わない、3.そう思う、4.強くそう思う」）で回答を求めた 2～4、6～8 の 6 つの質問項目の結果を述べる。質問 2～4、6～8 は、質問 2「コースの目標は明確だった」や質問 3「３．授業のスピードは適切だった」のような肯定的な内容に対し回答を求めているため、点数が「強くそう思う」の 4 点に近いほど、受講生は授業内容に満足していると解釈できる。初級・中級・上級のレベル別に 6 つの質問（質問 2～4、6～8）における回答の平均値を算出した。表 1 に、質問 2～4、質問 6～8 における平均比と標準偏差を示した。表 1 に示したように、初級・中級・上級のすべてのレベルにおいて 3.41～3.62 点の結果が示された（表 1)。この結果から、本教室の受講生は、レベルによらず、概ね授業内容や形式に満足していると考えられる。また、質問 6 の「担当教員は熱意を持って授業を行っていた」については、全レベルで平均値が 3.5 以上と高い数値が得られており、本教室の教員が熱心に授業を行っていると受講生から高い評価が得られていることが示唆された。

表 1　レベル別の授業内容に関する項目の平均値と標準偏差

| 質問 / レベル | 質問 2 コースの目標は明確だった | 質問 3 授業のスピードは適切だった | 質問 4 講義内容は分かりやすかった | 質問 6 担当教員は熱意を持って授業を行っていた | 質問 7 当該コースの授業を受けて学習意欲が高まった | 質問 8 当該コースの内容は自分にとって将来役に立つと思う | 授業総合満足度 (質問 2～4, 6～8 の平均) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 初級 | 3.58 (0.74) | 3.38 (0.71) | 3.37 (0.79) | 3.56 (0.84) | 3.31 (0.75) | 3.63 (0.68) | 3.47 |
| 中級 | 3.41 (0.64) | 3.36 (0.72) | 3.38 (0.66) | 3.59 (0.67) | 3.27 (0.70) | 3.42 (0.66) | 3.41 |
| 上級 | 3.57 (0.55) | 3.63 (0.59) | 3.60 (0.60) | 3.77 (0.42) | 3.49 (0.55) | 3.66 (0.47) | 3.62 |
| 初級、中級、上級の平均 | 3.52 (0.08) | 3.46 (0.12) | 3.45 (0.11) | 3.64 (0.09) | 3.36 (0.09) | 3.57 (0.11) | 3.50 |

次に、各々選択肢を設けた質問項目について、質問項目別に結果を述べる。質問 5「授業の課題の量はどうだったか」について、図 1 にその結果を百分率（%）で示す。図 1 から、初・中・上級のレベルによらず、「適切である」という回答が最も多く、いずれのレベルにおいても 85%以上であった。さらに、上級においては、97.1%の受講生が適切であると評価しており、多忙な工学系の学生に過度な負担を与えない程度の課題の量でありながら、学習を十分にサポートできる適切な量になっていると考えられる。

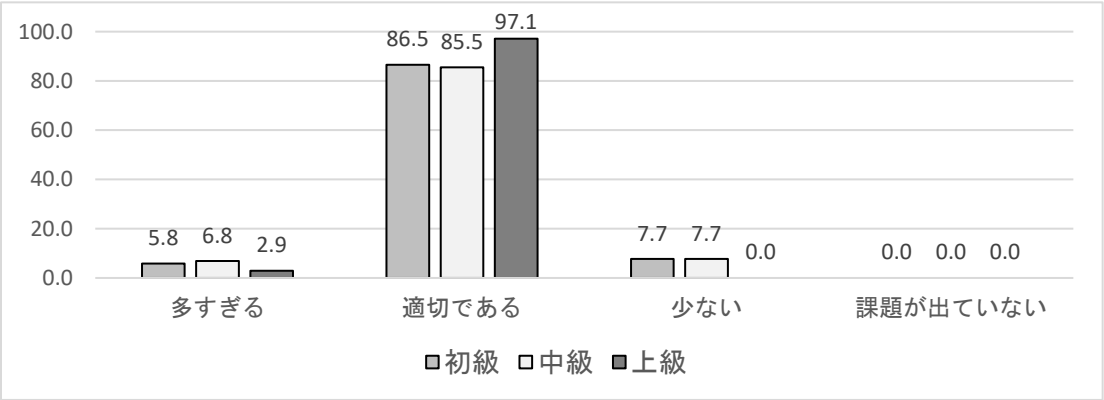



図 1　質問 5「授業の課題の量はどうだったか」に対する回答（%）

質問 9「授業の予習・復習に毎週どの程度の時間を使ったか」について、図 2 にその結果を百分率（%）で示す。図 2 を見ると、初・中・上級のレベルによらず、「1～2 時間」という回答が最も多く（初級：32.7%、中級：47.0%、上級：51.4%）、受講生にとって、過度な負担にならない程度の予習・復習時間になっていると考えられる。一方、初級の受講生の場合、「2～3 時間」という回答が 30.8%、「3~5 時間」という回答が 15.4%、「5 時間以上」と

いう回答も 13.5%であり、中級と上級の受講生より長い時間を予習・復習に使っていた。これは、初級レベルにおいて、ひらがな、カタカナ、漢字、語彙、文法クイズ類が多く含まれていることから、受講生が中級、上級より長い学習時間を自分で確保する必要があるため、比較的長い学習時間を使っていると回答したものであると考えられる。

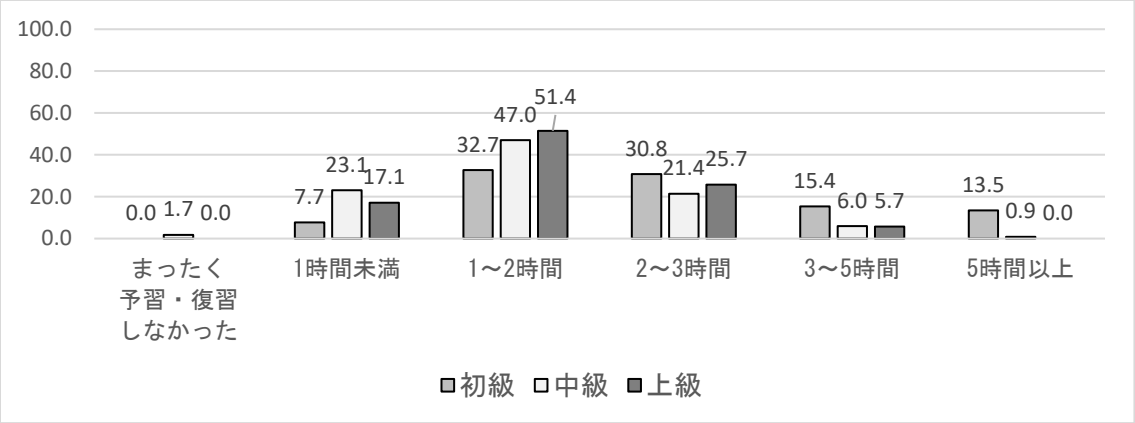



図 2　質問 9「当該授業科目の予習復習に毎週どのぐらい時間を使ったか」に対する回答（%）

さらに、2020S1S2 学期においては、新型コロナウィルスの影響によりオンライン授業を実施したことを受け、質問 12、14、16、18 においてオンライン授業に関する質問項目を設けた。以下、受講生から得られた回答について、その結果を質問別に述べる。

まず、質問 12「オンライン授業に満足しているか」について、図 3 にその結果を百分率（%）で示す。レベル別に回答を集計した結果、いずれのレベルにおいても「そこそこ満足している」と「非常に満足している」という回答を合わせると、全体の 90%以上を占めていた。また、初級においては、60%以上の受講生が「非常に満足している」と回答していた。この結果から、2020S1S2 に実施したオンライン授業は受講生から一定の満足感が得られているものと考えられる。

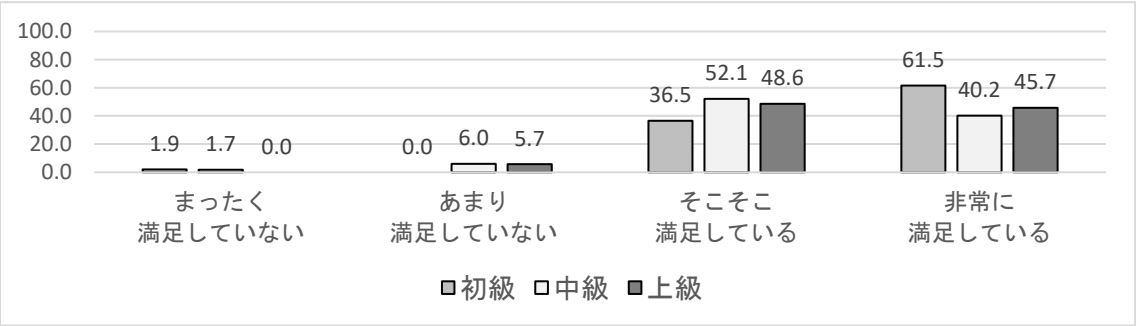



図 3　質問 12「オンライン授業に満足しているか」に対する回答（%）

次に、質問 14「2020A1A2 学期の授業形態は、対面授業、オンライン授業、または対面とオンライン授業のミックスのどちらがいいと思うか」について、図 4 にその結果を百分率（%）で示す。レベル別に回答を集計した結果、上級では、「オンライン授業」という回答が 45.7%、「対面授業とオンライン授業のミックス」という回答が 45.7%で、「対面授業」という回答は 8.6%であった。「オンライン授業」がいいという回答（45.7%）とミックス型がいいという回答（45.7%）は同じ割合であったが、それは授業の内容によってはオンライン授業で実施しても十分に効率的な授業が可能な場合と、ミックス型で実施したほうが効率的ではないかと考えている場合があるためではないかと考えられる。また、「オンライン授業」がいいという回答が他のレベルの受講生の比べて多かったが、上級の受講生においては、すでに一定の日本語の能力が定着しており、オンライン授業における教員の指示が十分に理解でき、日本語のタイピング能力も既に身についていることなど、初級や中級に比べ学生がオンライン授業に対して感じる負担が少ないため、オンライン授業を好む回答が示された可能性があると考えられる。しかし、対面授業とオンライン授業のミックスを希望しているという回答も 45.7%であったことから、授業の内容によっては、オンライン一辺倒ではなく、対面と組み合わせたほうが有効であると考えているという可能性もある。

初・中級でも、「対面授業とオンライン授業のミックス」が良いという回答が初級で 37.5%、中級で 35%であり、ミックス型がいいと考える受講生がいることが確認された。さらに、初・中級では「対面授業」がいいという回答が初級で 25.0%、中級においても 35.9%であり、対面型がいいという回答が上級に比べると多く、特に、初・中級レベルにおいて対面授業を求める声が一定数いることが示された。しかし、初級においては「オンライン授業」がいいという回答が 36.5%と「対面授業」がいいという回答より多く、また、中級においても、29.1%が「オンライン授業」がいいという回答であった。したがって、同じレベル内でも、求める授業の形態は受講生により異なる可能性も同時に示された。

今後の授業形態においては、工学系日本語教室独自で決定することは難しく、東京大学及び工学系研究科の方針に従う必要がある。一方で、感染拡大防止のために、継続してオンライン授業を行う可能性や入国規制などにより日本に来日することが困難である留学生も多いことから、こうした海外在住の受講生に対する配慮をするべく、オンライン授業を継続して行う必要もある。今後オンライン授業を継続して行う場合、可能な範囲でよりオンライン授業と対面授業の長所を生かす形で、継続して授業改善を行っていくことが求められる。

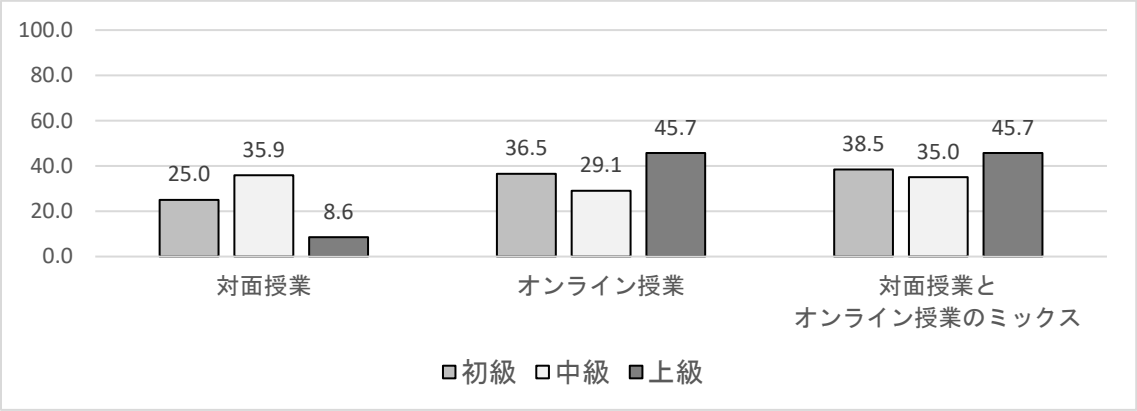



図 4　質問 14「2020A1A2 学期の授業形態は、対面授業、オンライン授業、または対面とオンライン授業のミックスのどちらがいいと思うか」に対する回答（%）

次に、質問 16「オンライン授業で困っていることは何か」について、表 2 にその結果を百分率（%）で示す。質問 16 の選択肢は、「先生に質問しにくい」「集中力が続かない」「授業支援ツールの使い方がわからない」「通信に問題がある」「授業教材がわかりにくい」「発言が少ない」「孤独感を感じる」「その他」のうちから、該当する項目をすべて選択可として回答を求めた。「その他」については自由記述の回答で具体的な回答が得られなかった場合が多いため、その結果に対する考察は割愛する。各レベルにおいては、初級で 83 例、中級で 184 例、上級で 102 例の回答が得られた。各レベルで異なる結果が得られたため、以下、レベル別の結果を示す。

まず、初級においては、「通信に問題がある」と「発言がすくない」という回答がどちらも 18.1%で最も多く、通信環境について問題を抱えている学生やオンライン授業の際、全員が同時に話すと音が混合されてしまうため、授業内で個別の学生の発言の機会が少なくなっていることなどに困難を感じている受講生が多いと言える。また、「孤独感を感じる」という回答も 16.9%あったが、オンライン授業では対面より学生同士の交流の機会などが少ないことが一因として考えられる。

中級においては、「孤独感を感じる」という回答が最も多く、20.7%であった。また、初級同様、「発言が少ない」という回答も多く、20.1%であった。さらに、「集中力が続かない」と答えた学生も 19.6%であり、長い時間、オンライン授業で集中して授業に参加することに困難を感じている学生が多いと言える。

一方、上級においては、「授業支援ツールの使い方がわからない」という回答が 42.2%であり、最も多かった。2020S1S2 学期は、Zoom や STAR の他に、各教員が選択的に google classroom など他の学習ツールを工夫して使用していた。多くの学習ツールの使用を有効に使用することは、授業の質を向上させるために有効な手段であると考えられる。今後、こうしたツールを継続して使用する際には、使い方に慣れていない学生へのフォローが必要になると考えらえる。また、上級においても、「発言が少ない」という回答が 20.6%であり、

初・中・上のいずれのレベルにおいても、オンライン授業を遂行する上で受講生の発言の機会を増やすことが喫緊の課題であると言える。

表 2　質問 16「オンライン授業で困っていることは何か」に対する回答（%）

| 回答＼レベル | 初級 | 中級 | 上級 |
|---|---|---|---|
| 先生に質問しにくい | 2.4% | 6.5% | 1.0% |
| 集中力が続かない | 12.0% | 19.6% | 14.7% |
| 授業支援ツールの使い方がわからない | 2.4% | 3.8% | 42.2% |
| 通信に問題がある | 18.1% | 16.3% | 6.9% |
| 授業教材がわかりにくい | 3.6% | 3.3% | 1.0% |
| 発言が少ない | 18.1% | 20.1% | 20.6% |
| 孤独感を感じる | 16.9% | 20.7% | 7.8% |
| その他 | 26.5% | 9.8% | 5.9% |
| 合計 | 100.0% | 100.0% | 100.0% |

次に、質問 18「オンライン授業のいい点は何か」について、表 3 にその結果を百分率（%）で示す。質問 18 の選択肢は、「先生に質問しやすい」「自分のペースで学習ができる」「教室より集中できる」「学校に行かず時間を有効に使える」「教材がわかりやすい」「IT の知識やスキルが高まる」「その他」のうちから、該当する項目をすべて選択可として回答を求めた。「その他」については自由記述の回答で具体的な回答が得られなかった場合が多いため、その結果に対する考察は割愛する。各レベルにおいては、初級で 114 例、中級で 198 例、上級で 127 例の回答が得られた。各レベルで異なる結果が得られたため、以下、レベル別の結果を示す。

初級と中級においては、ともに「学校に行かず時間を有効に使える」という回答が最も多く、初級で 41.2%、中級で 54.5%を占めていた。したがって、受講生は通学時間が減ったことで、より時間を有効に使えるという点をオンライン授業の最大の長所として認識していると言える。初級および中級では、海外からの受講生も多く、日本に入国できない状況でも、自国で日本語の学習をしているケースも多かった。新型コロナウィルスの影響が続き、今後も入国規制が継続される可能性を考慮すれば、こうした受講生への配慮としても、オンライン授業は有効な手段であると考えられる。一方、上級においても、「学校に行かず時間を有効に使える」という回答が 27.6%で、2 番目に多く、上級学習者でも、オンライン授業では通学時間をより有効に使えることを長所として認識していると言える。さらに上級では、「教室より集中できる」という回答も 42.5%で最も多く、上級の受講生はオンライン授業で集中して学習することができると認識していることが示された。

表 3　質問 18「オンライン授業のいい点は何か」に対する回答（%）

| 回答＼レベル | 初級 | 中級 | 上級 |
|---|---|---|---|
| 先生に質問しやすい | 14.9% | 5.6% | 3.9% |
| 自分のペースで学習ができる | 11.4% | 16.7% | 15.0% |
| 教室より集中できる | 7.0% | 3.0% | 42.5% |
| 学校に行かず時間を有効に使える | 41.2% | 54.5% | 27.6% |
| 教材がわかりやすい | 11.4% | 8.6% | 3.9% |
| IT の知識やスキルが高まる | 8.8% | 9.6% | 3.9% |
| その他 | 5.3% | 2.0% | 3.1% |
| 合計 | 100.0% | 100.0% | 100.0% |

(2) 履修登録について

日本語教室で日本語学習をするためには、全員が必ず STAR システムに登録をしたうえで、プレイスメントテストを受験し、履修登録を行うことが必要である（2 章 3 節参照）。履修登録についての質問項目は質問 20～23 であり、本節では、これらのうち 4 件法で回答を求めた質問 20 と質問 22 の回答結果について述べる。まず、質問 20「履修の手続きは分かりやすかった」について、得られた 204 例の回答を百分率で示す（図 5）。図 5 に示すように、「そう思う」という回答が 63%、「強くそう思う」という回答が 34%であった。したがって、全体の 97%の受講生が履修登録の手続きにおいて、特に困難を感じていないと言える。

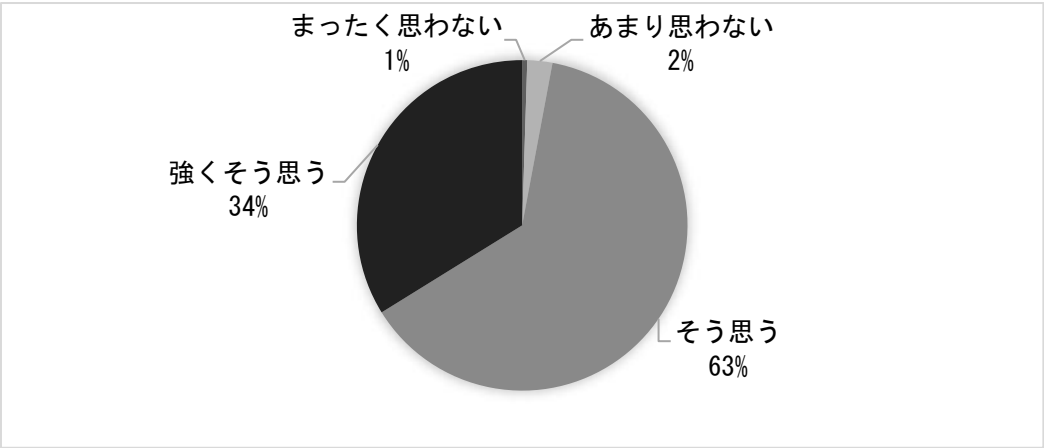



図 5　質問 20「履修登録の手続きは分かりやすかった」に対する回答（%）

質問 22「プレイスメントテストの結果、適切なレベルのコースを履修することができた」

について、得られた 204 例の回答を百分率で示す（図 6)。図 6 に示すように、「そう思う」という回答が 60%、「強くそう思う」という回答が 28%であった。したがって、全体の 88%の受講生が履修登録の手続きにおいて、プレイスメントテストの手続きによるコース選択は、概ね円滑にできていると評価していることが示された。しかし、一方で「あまり思わない」という回答が 11%、「まったく思わない」という回答も 1%見られた。「あまり思わない」と「まったく思わない」の内訳を、表 4 に示す。表 4 を見ると、「あまり思わない」と「まったく思わない」を合わせた、25 例中、中級が占める回答数が 17 例で最も多かった。以上の結果を受け、今後、特に中級レベルにおいて、プレイスメントテストの結果を受けたレベル判定の精度をさらに改善していく必要があると言える。

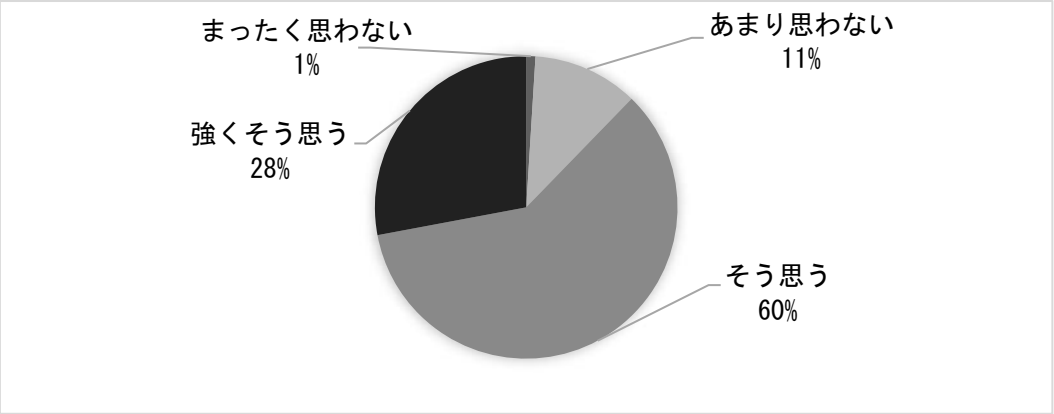



図 6　質問 22「適切なレベルのコースを履修することができた」に対する回答（%）

表 4 質問 22 における「あまり思わない」「まったく思わない」の回答数の内訳

| レベル / 回答 | 初級 | 中級 | 上級 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| あまり思わない | 4 | 16 | 3 | 23 |
| まったく思わない | 1 | 1 | 0 | 2 |
| 合計 | 5 | 17 | 3 | 25 |

(3) その他

最後に、日本語教室のオフィス Zoom の利用に関する質問項目と日本語教室へ期待していることに関する質問項目についてその結果を述べる。2020S1S2 学期においては、新型コロナウィルスの影響により、工学系 8 号館の 128B のオフィスを 2020 年 4 月から 5 月までの約 2 か月間、閉室した。また、2020S1S2 学期はオンライン授業を実施することに当たり、2020 年 4 月から日本語教室のオフィス Zoom を立ち上げ、コース登録におけるコンサルテーションや試験のフィードバックなど、学生の相談窓口として対応した。2020S1S2 のコース評価においては、こうしたオフィス Zoom の利用に関して学生に回答を求め、今後の

改善を考えていく。

まず、質問 24「日本語教室（JLCSE）の オフィス Zoom を利用したか」の回答について結果を表 5 に示す。回答した 204 名中、「利用した」という回答は 36 例、「利用しなかった」という回答は 168 例であった。この結果から、日本語教室のオフィス Zoom を利用しなかった受講生が利用した受講生より多かったという結果が示された。

表 5 質問 24「日本語教室（JLCSE）の オフィス Zoom を利用したか」に対する回答（例数）

| 回答 | 利用した | 利用しなかった | 合計 |
|---|---|---|---|
| 回答数 | 36 | 168 | 204 |

次に、質問 25 と質問 27 では、それぞれ「利用した」場合と、「利用しなかった」場合について、その理由に対する回答を求めた。質問 24「利用した」と答えた場合、どんなことに利用したか」に対する回答を表 6 に示す。

表 6 の結果と考察を述べる前に、質問 24 と質問 25 の回答数の不一致について述べる。質問 24 で「利用した」という回答は 36 名であったが、質問 25 に回答した受講生は 39 名であった。アンケートを実施した STAR では、質問 24 で「利用しなかった」を選択した場合でも、「質問 25」に答えることをシステム的に防止することができないため、回答者の選択ミスにより、36 名より多い 39 名が答えているものと考えられる。この点については、今後、STAR の管理会社と協議し、改善を図っていきたいと考える。本節では、回答数が質問 24 と質問 25 で同一ではないものの、その回答における傾向を分析することを優先し、以下その結果と考察を述べる。

表 6 に示したように、オフィス Zoom の利用においては、「コースの登録」に関わる回答が最も多く、39 例中 12 例であった。また、「試験のフィードバック」や「日本語の質問」に利用したという回答も 8 例ずつ見られた。したがって、オフィス Zoom を利用した受講生は、学期の初めのコース登録のためのコンサルテーションや定期試験のフィードバック、日本語の質問などのため、オフィス Zoom を利用していると言える。「その他」については、自由記述であり有効な回答があまり得られなかったことから、本節では割愛する。

表 6 質問 25「「利用した」と答えた場合、どんなことに利用したか」に対する回答（例数）

| 回答 | コースの登録 | 試験のフィードバック | 日本語の質問 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 回答数 | 12 | 8 | 8 | 11 | 39 |

質問 27「質問 24 で「利用しなかった」と答えた場合、どうして利用しなかったか」についての回答別の例数を表 7 で示す。質問 24 において「利用しなかった」という回答は、168

例であったが、質問 27 は必須回答ではなかったため、答えなかった場合もあることから、139 例の回答が得られた。表 7 を見ると、「質問がなかった」という回答が最も多く、139 例中 93 例であった。また、オフィス Zoom を知らなかったという回答も 37 例あった。オフィス Zoom については、学期中にメーリングリストを使い、数回周知をしたにも関わらず、知らなかった受講生も一定数いたようである。今後はオフィス Zoom に関するさらなる周知を行うことが求められる。一方で、オフィス Zoom を利用しなかった理由としては、学生自身が受講する各クラスの教員に相談する場合は、オフィス Zoom を使わなくても、個々のクラスの Zoom で相談することも可能であるため、オフィス Zoom で質問する必要がなかった可能性もある。しかし、各クラスで対応することが難しい場合もあるため、オフィス Zoom に専任教員・常勤教員が待機し、対応を行う現在の体制を維持する必要があると考えられる。また、表 6 で利用目的について、コース登録のためのコンサルテーション、定期試験のフィードバック、日本語の質問などに対しオフィス Zoom を利用したとの声も得られたことから、今後も継続してオフィス Zoom を活用し、受講生の対応に当たる必要があると考えられる。

表 7　質問 27「質問 24 で「利用しなかった」と答えた場合、
どうして利用しなかったか」に対する回答（例数）

| 回答 | 時間が合わなかった | 質問がなかった | オフィス Zoom を知らなかった | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 回答数 | 7 | 93 | 37 | 2 | 139 |

質問 29 では、「日本語教室に期待していること」について、「日本語学習」「日本文化体験」「日本人学生との交流」「留学生との交流」「大学生活･就職などの日本語支援」「その他」のうちから、該当する項目をすべて選択可として回答を求めた。レベル別の回答の合計は、初級で 185 例、中級で 340 例、上級で 107 例であった。本節では、レベル別の日本語教室への期待を分析するため、以下得られた結果をレベル別に図 7 に示す。

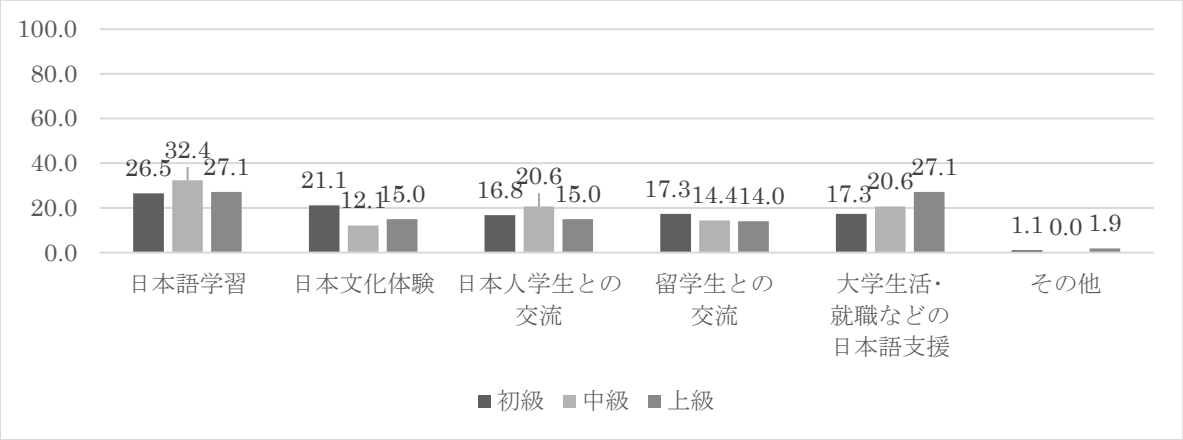



図 7　質問 29「日本語教室に期待していること」に対する回答（%）

図 7 に示すように、全レベルにおいて「日本語学習」の回答数が最多であった（初級：26.5%、中級：32.4%、上級：27.1%）。したがって、受講生は日本語レベルにかかわらず、日本語教室に対して「日本語学習」の機会や良質な授業の提供を最も期待していると考えられる。一方、その他の項目については、レベルにより期待する内容が異なることが示された。以下、レベル別に回答結果とその理由を探る。

まず、初級レベルにおいて最も回答数が多いのは「日本語学習」（26.5%）で、次いで「日本文化体験」（21.1%）であった。「留学生との交流」（17.3%）と「大学生活･就職などの日本語支援」（17.3%）が同数で続き、「日本人学生との交流」（16.8%）がそれに続く。初級レベルを受講する学生には、学習を開始してから間もない留学生が多いことから、自身の日本語学習とそれに対する支援の必要性を強く感じていることがあると考えられる。それに加え、「日本文化体験」や「留学生との交流」についても期待しているという回答が得られたことから、日本語教室がこれまでに提供しているビジターセッションや International Lounge への参加を促すことで、こうしたニーズに答えることができると考えられる。一方、「大学生活･就職などの日本語支援」を求める声も一定数いることが示されたことから、オフィス Zoom を通して、学生の声を聞き、相談が必要な場合の学生対応を継続していく必要があると考えられる。

次に、中級コースでも最も多かった回答は「日本語学習」（32.4%）で、「日本人学生との交流」（20.6%）と「大学生活･就職などの日本語支援」（20.6%）が同数で続き、「留学生との交流」（14.4%）、「日本文化体験」（12.1%）」がそれに続く。中級レベルになると、すでに自分は基礎的な日本語でのコミュニケーション能力を身につけていると認識する受講生が、習得した日本語能力を「日本人学生との交流」で活かしたいと考えていると推測できる。さらに、「大学生活･就職などの日本語支援」を期待するという回答も多く得られたことから、アカデミックな場面やビジネス場面で応用できる日本語学習を希望していると考えられる。こうした学生に対しては、日本語教室で提供している中級以上の技能別クラスの中で、アカデミックな教材を取り上げている「聴解」「文章」クラスや、日本での就職活動を希望する

学生に向けた「日本組織事情」クラスへの受講を促すことで、そのニーズに応えることができると考えられる。

さらに、上級コースにおいては、「日本語学習」（27.1%）と「大学生活･就職などの日本語支援」（27.1%）が同数で最も多かった。次いで「日本文化体験」（15.0%）と「日本人学生との交流」（15.0%）が同数で、「留学生との交流」（14.0%）がそれに続く。上級においては、中級以上に、長期間日本に滞在している留学生も多く、修了後も日本の企業への就職を希望するなど、定住志向が強い傾向があり、大学での研究生活や就職のための日本語支援への期待が高いことが考えらえる。

以上のことから、全レベルに共通する日本語学習のニーズに応える一方で、レベル別の期待に沿ったコース内容を検討していくことも必要である。さらに、これまで日本語教室が行ってきた日本文化体験や日本人学生・他国の留学生との交流活動、アカデミックな場面やビジネス場面での日本語学習の支援を継続・拡充させていくことで、より受講生の期待に応えた学習の機会や交流の場を提供することが重要であることが再確認されたと言える。

### 2.6.3. まとめ

以上のコース評価における分析結果から、留学生は全レベルにおいて、概ね日本語教室の授業に満足し、日本語学習が彼らの日常生活および研究生活に貢献していることが分かった。また、授業に対する期待については、日本語のレベルが上がるにつれて、語学中心の学習から交流や文化体験・就職支援など、日本語教室に期待する内容が多岐にわたることが示唆された。

一方で、オンライン授業を実施するにあたり、改善が必要な項目についても、浮き彫りになった。新型コロナウィルスによる影響がいつまで続くか、その予測が困難である現状を受け、今後もオンライン授業が継続される可能性もあることを踏まえ、対面だけでなく、オンライン授業における改善も、より良いコース運営のために、改善すべき課題であると言えるだろう。さらに、今後は、さらなる受講生のニーズをより詳細に把握するために、学期ごとの変更事項を反映したオンラインコース評価を継続して実施するとともに、その結果を分析・考察することで、コースの改善に役立てたいと考える。

## 2.7　言語使用実態調査

日本語教室では、留学生の研究室等における言語使用の実態を把握し、日本語がどのような状況で必要とされているのかを把握するために、毎年、オンラインによる質問紙調査を実施している。2020 年度 A1A2 学期に行った調査の概要は以下の通りである。

### 2.7.1 2020 年度 A1A2 言語使用実態調査概要

実施期間　：2020 年 12 月
対象者　：日本語教室在籍の修士、博士、研究生、研究員、交換留学生、配偶者
回答者　：計 88 名
実施言語　：日本語／英語
質問項目　：1. 専攻
2. 身分
3. 母語
4. 東大での留学期間
5. 修了後の進路
6. 日本語学習歴（母国）
7. 日本語学習歴（日本）
8. 現在取っている日本語のレベル
9～17. 研究に必要な言語使用（場面・内容・話相手）
18. 指導教員から求められる日本語能力
19. 学生自身が目指す日本語能力
20～21. 日常生活で日本語ができなくて困ること（大学内）
22～23. 日常生活で日本語ができなくて困ること（大学外）

本節においては、過去の調査報告との比較という観点から、質問項目の 3～6、9～23 について分析・報告をする。

### 2.7.2 結果の概要

(1) 学習者の母語別の割合

回答者の母語について尋ねた結果を図 8 に示す。

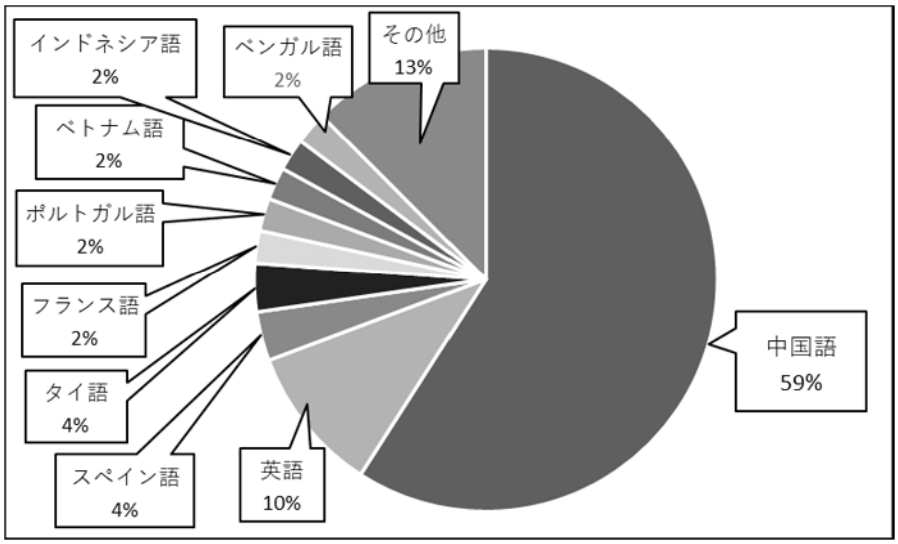



図 8　回答者の母語別の割合

図 8 から分かる通り、今年度の母語別学習者割合は中国語母語話者が 59%と最も高い。ここ数年、中国語母語話者は常に半数前後を占めている状況が続いているが、今年度も同様の傾向となった。その他の母語では、例年と同様、英語、スペイン語、タイ語母語話者が多かった。

(2) 東大での留学期間

東京大学での留学期間（予定）についての回答のグラフを図 9 に示す。

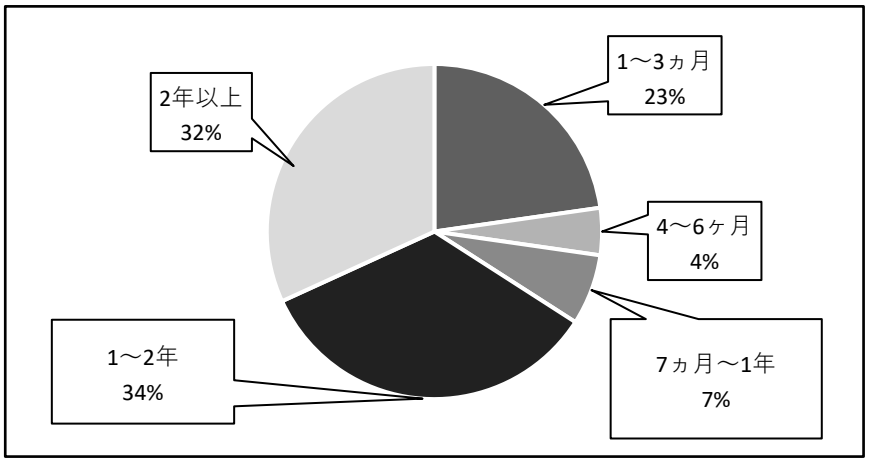



図 9　東大での留学期間（予定）

留学期間は、1~3 か月が 23%、4~6 か月が 4%となっており、半年以下の学生が全体の約 30%弱を占めることが分かる。その一方で、1～2 年の予定が 34%、2 年以上の留学予定の学生も 32%を占めている。2018 年度以降短期留学の学生と長期留学の学生の二極化が進んでいたが、2020 年度は二極化というより、様々な留学期間の学生が混在している様子が明

らかになった。

短期留学の学生は、限られた留学期間において、日本語でのコミュニケーション能力を身に付けることを望んでいると考えられる。一方、長期留学の学生は、よりアカデミックな日本語能力を身につける必要があると考えられる。

学生の留学期間が多様であることを考えると、履修科目の登録期間中に行われるコンサルテーションでは、学生の留学期間にも配慮して日本語科目の選択についてアドバイスをしていきたい。

(3) 修了後の進路

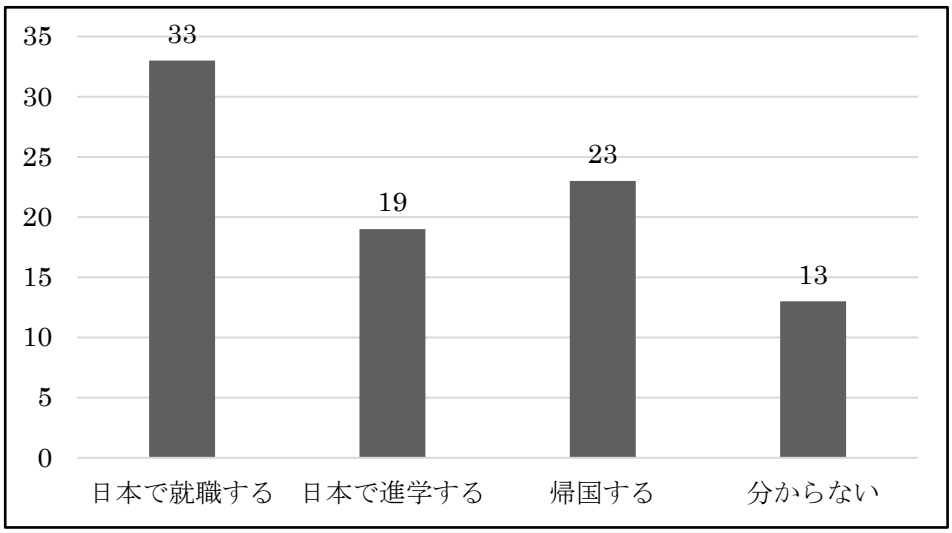



図 10　修了後の進路

図 10 は、2018 年度より新たに設けた修了後の進路についての質問に対する回答である。回答は、「日本で就職する」が 33 人（37%）と最も多く、次いで「帰国する」が 23 人(26%)、「進学する」が 19 人（21%）であった。「分からない」は 13 人（14%）であった。2018 年度では「帰国する」学生のほうが「就職する」学生よりも若干多かったが、2019 年度および今年度では「就職する」が「帰国する」を上回った。今後の調査においても「就職する」学生が増えるのではないかと考えられる。

東京大学工学系研究科は、全体の方針として「キャンパスの国際化推進と海外からの研究者・留学生の環境整備 」を掲げているが、学習者の学業修了後のキャリア形成も視野に入れたサポートおよび日本語教育を行っていくのが望ましいと思われる。現在、日本語教室では就職支援を目的とした科目を設置しているが、今後はより一層キャリア支援を進めていくことが望ましいと言えよう。

(4) 母国での日本語学習歴

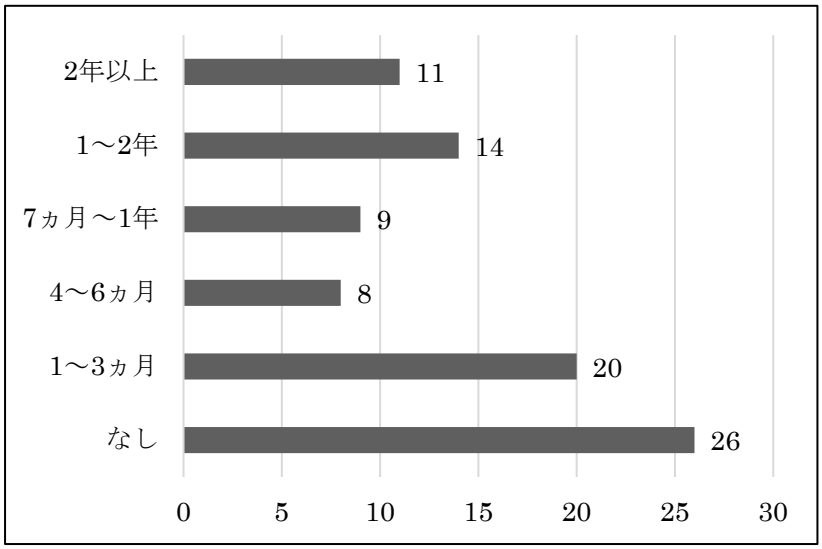



図 11　母国での日本語学習歴

2017 年度より母国での日本語学習歴を問う設問を設けている。今年度は 88 名中名中 26 名（29%）が「なし」と答えていた（図 11）。しかし、残りの 62 名、すなわち 71%の学生は何らかの形で日本語を学習していることが分かる。また、図を見ると分かるように、「なし」か「1～3 か月」の学生が多い一方で、2 年以上の学生は 11 名（12%）、1 年～2 年の学生は 14 名（15%）と、ある程度母国で日本語を学んできた学生も多い。すなわち、母国での日本語学習歴の経験は、大きく二極化していると言える。

ただし、2018 年度から継続して指摘しているように、学習形態は学生によって様々で、教育現場においては、インターネットを使って独学で日本語を学習した学習者が年々増えている実感がある。

今後は、ゼロ初級の学生を対象とした教育整備を進めると共に、様々な学習形態および学習経験を持つ学習者に対応していく必要があるだろう[1]。

(5) 研究室での使用言語

【研究に必要な言語使用の状況】

研究発表、打ち合わせ（ラボ・ミーティング）、研究に関する資料、の 3 パターンについて、言語使用状況を調査した（図 12）。

[1] 学習者の多様化に対応するために，学習歴が長く日本語能力が極めて高い学生を対象に、2020 年度より「上級 2 レベル」を総合・会話・文章の 3 科目に新たに設置した。

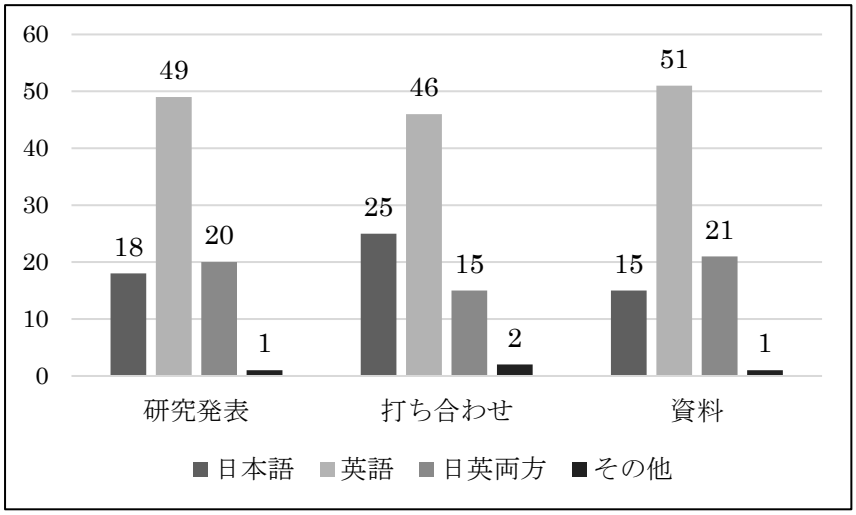



図 12　研究に必要な言語使用の状況

「研究発表」においては「英語」の使用が 49 名（55%）と多く見られるものの、「日本語」18 名（20%）、「日英両方」が 20 名（22%）と、日本語を使用する状況も少なからずあることが分かる。「打ち合わせ」においては、「英語」が 46 人（52%）に対し、「日本語」が 25 人（28%）、「日英両方」が 15 人（17%）となり、日本語が含まれる打ち合わせの比率が半数近くになっている。また、「資料」においても、「日本語」が 15 名（17%）、「日英両方」21 名（23%）となっている。以上のことから、研究に従事する上で、日本語は、話し言葉においても書き言葉においても、必要となっていることが分かる。

研究に必要な言語使用の状況は、研究室ごとに大きく異なり、英語が優勢な研究室もあれば、日本語が優勢な研究室もある。そのため、調査結果は、調査実施時における学生の所属研究室の割合に左右されると推測される。来年度以降も調査を重ね、データを蓄積していく必要がある。

【使用言語と内容および話す相手との関係】

研究室内でのコミュニケーションにおける言語使用はいかなるものであるかについても調査を行った。研究室での使用言語のうち、内容を「研究に関する会話」と「雑談」の二通り、話す相手を「指導教員」、「日本人学生」、「留学生同士」の三通りに分け、計 6 パターンの会話場面において、日本語および英語の使用状況を比較した結果、概ね例年通りとなった（図 13、14）。

①研究に関する会話

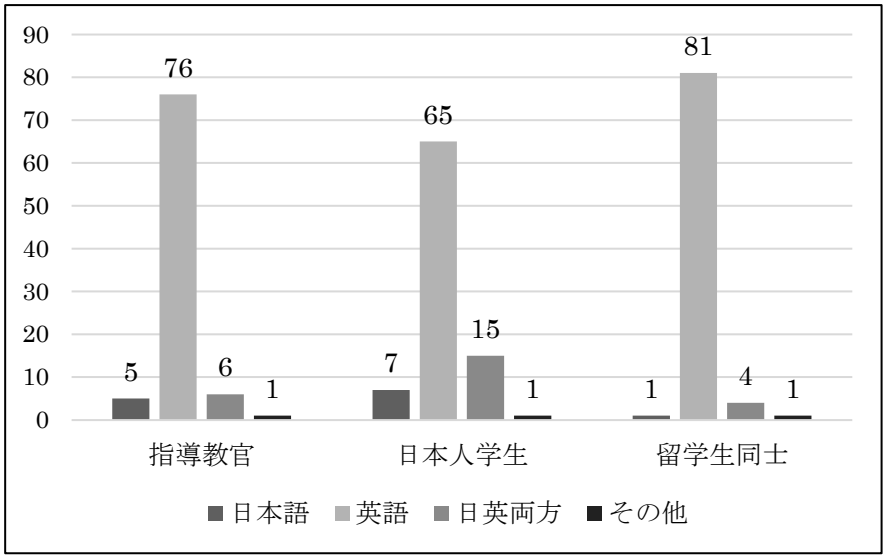



図 13　研究に関する会話

図 13 に示すように、「研究に関する会話」においては、指導教官相手に 76 名（86%）、日本人学生相手に 65 名（75%）、留学生同士で 82 名（93%）と、圧倒的に英語の使用が多い。ただ、日本人学生と話す場合は、「英語」の使用が若干減少し、その代わりに「日本語」（7 名 : 7%）、および「日英両方」（15 名 : 17%）を使うことが若干増えることが分かった。

②雑談

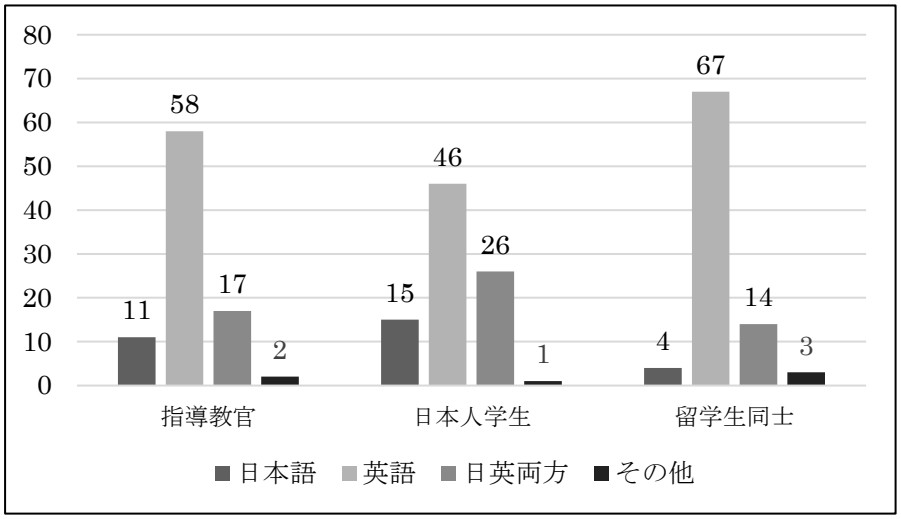



図 14　雑談

一方、「雑談」においては、話す相手いかんで、使用言語に異なりが見られた。特に、相手が日本人学生の場合、「英語」の使用が 46 名（52%）にまで減少し、代わりに「日本語」

11 名（12%）、「日英両方」が 26 名（29 %）と、日本語を交えて会話する人数が増加することが分かった。相手が指導教官の場合も、「英語」の使用が 76 名（86 %）から 58 人（65%）と減少し、「日本語」および「日英両方」の使用が増えている。留学生同士においては、「英語」が 67 名（76%）と多いが、研究に関する話題と比較すると若干少なくなり、「日本語」が 4 名（4%）、「日英両方」が 14 名（15%）と若干増えている。

以上のことから、留学生の言語使用は、「日本人学生と雑談」する場合には、日本語の使用が目立って多くなることが分かった。理工学系の研究室に配属される留学生にとって、日本語を習得しなくても研究活動そのものは遂行できるが、研究を離れて日本人学生とコミュニケーションをする場合は、日本語の運用力が必要になると考えられる。すなわち、研究室での日本語による円滑かつ適切なコミュニケーション活動を支えるような日本語教育が必要であると推測される。

(6) 求められる日本語能力・目指す日本語能力

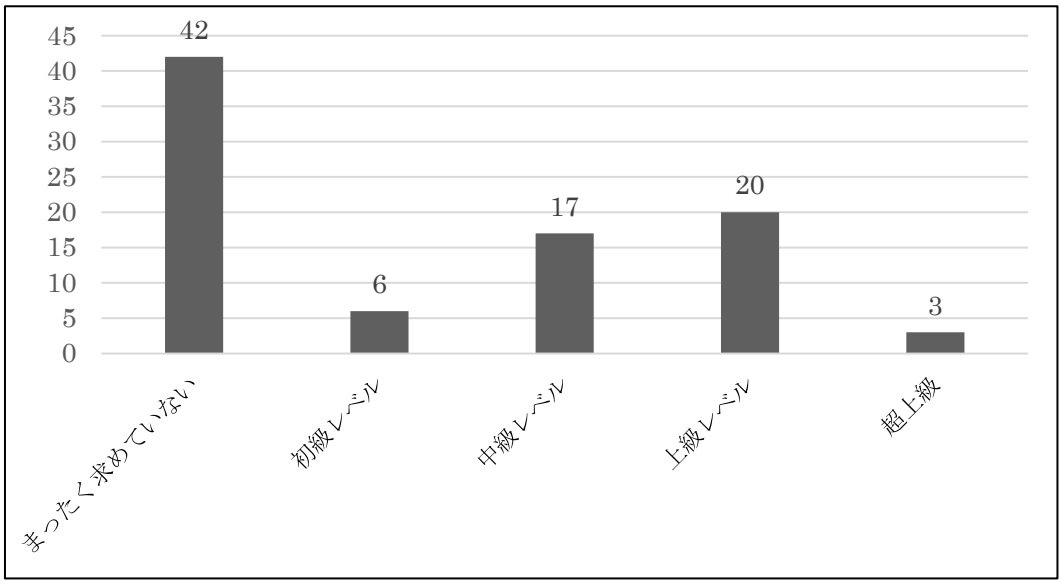



図 15　指導教官から求められる日本語能力

指導教官から求められる日本語能力と、学習者が目指す日本語能力について、図 15 と図 16 に示す。

グラフからも分かるように、指導教官から求められる日本語能力は初級から上級までさまざまであり、「まったく求めていない」という回答の割合が 42 名（47%）と半数近くを占めている。（5）の研究室での使用言語の結果でも述べたように、「打ち合わせ」や「雑談」において日本語の使用状況が多い傾向はみられるものの、「研究」においては、英語が依然必須の言語となっていることを裏付ける結果となった。

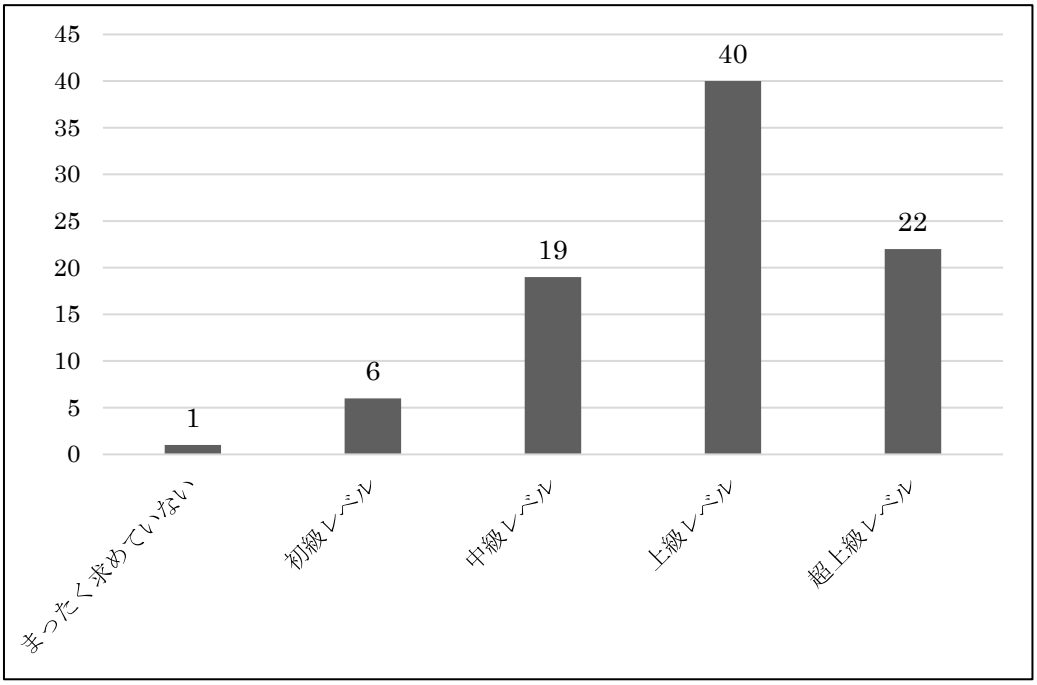



図 16　学習者が目指す日本語能力

だが、「あなたはどの程度の日本語能力を目指していますか」という質問に対する答えを見ると、上級レベルが 40 名（45%）・超級レベルが 22 名（25%）となり合計 70%の学生が上級レベル以上の日本語能力を目指していることが明らかになった。

つまり、たとえ研究生活において日本語がそれほど求められていない状況であったとしても、学習者はより高度なレベルの日本語を学びたいと望んでいるのである。自由記述においても、具体的に日本語能力試験で N2 や N3 レベルを取りたいという意見や、研究室で日本語の発表を理解したり、日本語母語話者同士の会話に参加したりしたいという意見も見られた。教育現場においては、学習者が現在所属するクラスの到達目標を明示的に伝えること、場合によってはより高度な文法事項や語彙などを適宜提示することなど、学習者の知的探求心に応えられる授業運営が必要だと思われる。

また、「日本語ができなくて困ること」についての質問では、銀行口座開設や不動産関連の手続き等といった問題に関する記述が目立ったが、履歴書作成や就職活動に関する記述も若干存在した。（3）や（6）の内容とも関連するが、留学生はいわゆるサバイバルのための日本語だけではなく、その後のキャリアを活かす手段としても日本語を捉えていることが窺える。学習者は日常生活においてより円滑なコミュニケーションを望み、さらに高レベルの日本語運用を望んでいるケースも見られるため、受け入れ側である日本人学生およびスタッフ側の意識改善も必要であろう。

### 2.7.3 まとめ

今年度の言語背景調査からは、以下の傾向が見られた。

1. 中国語を母語とする学生（漢字圏の学生）の比率が高い。
2. 日本での留学期間は様々である。
3. 学生の 4 割弱は、日本での就職を目指している。
4. 7 割の学生は来日前に日本語を学習している。
5. 研究室での言語環境は、英語が優勢であるものの、雑談時には日本語や日英併用の使用も 4 割程度見られる。
6. 指導教官から求められる日本語能力に比べ、学習者の目指す日本語能力が高い。

上記の結果に基づき、今後も引き続き、授業での漢字指導方法の工夫や、学習者の来日前の学習スタイルの把握を行い、特に独学で学んだために日本語の体系的な知識が不足している学生に対する指導を目指したい。また、学生が日常生活で困難を感じている場面を極力減らし、その先のキャリア設計が明確に描けるような授業内容等を検討していきたい。

## 第３章　日本文化事情・文化体験

日本語教室では、留学生が日本文化を体験的に学ぶことを目的に、「日本文化事情・文化体験」を実施している。茶道、華道、相撲道など日本の伝統文化について学び、日本人のものの考え方，日本の美意識、礼儀作法への理解を深めることを目指している。また、伝統的な日本の着物文化を学び、実際に浴衣や着物の着付け体験することは、留学生に大変人気がある。普段、研究や実験などで多忙な留学生が気楽に文化体験できるように、学内で実施している。

今年度も下記のイベントを開催する予定だったが、新型コロナウィルスの感染防止のため、全て中止となった。

### 3.1　S1S2 日本文化体験

(1)生け花ワークショップ（5 月）
(2)相撲部屋との交流（6 月）
(3)浴衣ワークショップ(6 月)
(4)茶道体験（7 月）
(5)七夕短冊飾り（7 月）

### 3.2　A1A2 日本文化体験

(1) 華道デモストレーション（10 月）
(2)茶道体験（11 月）
(3)着物体験（11 月）
(4) こけし作りに挑戦しよう！（12 月）
(5) お汁粉体験（1 月）

# 第 4 章　国際交流支援

当日本語教室(JLCSE[1])は、東京大学大学院工学系研究科国際工学教育推進機構国際教育部門に属している。この所属名が示す通り、当教室は、留学生の日本語能力の育成・向上に寄与することに留まらず、国際化社会を担う人材の育成も視野に入れた総合的な教育・文化・国際交流活動の場を提供することを目指している。そのため、教室内外で、留学生と日本人学生の対話を促す国際交流プログラムを提案し、実践を行ってきた。しかし、2020 年度は、新型コロナウィルスによる未曽有の世界的危機に見舞われ、尊い人命と共に政治・経済・文化・市民生活、そして教育の場でも、それまで当たり前のように存在していたものの多くが失われたと感じる一年であった。

日本語教室も例外ではなく、東京大学で学ぶ日本人学生[2]が日本語の授業に参加する「学生授業ボランティア」も参加者が減少した。

また、多言語交流会（International Lounge、旧 ICYou（International Cafe for You） 4.2 章参照）は、2020 年度 S1S2 においては、一時活動停止を余儀なくされた。しかし、2020 年度 A１A２では、それまで対面で行ってきた交流活動をオンラインに切り替えることで、交流活動を再開した。

## 4.1　学生授業ボランティア

2012 年度冬学期から始まった「学生授業ボランティア」は、日本語教室全 32 コースのうち、教員から希望があったクラスに日本人学生がボランティアとして参加し、留学生の日本語学習支援の一端を担ってもらうものである。と同時に日本人学生、留学生双方にとって、広い意味での異文化理解の場となる可能性も持っていると言える。また、学生ボランティアを迎える教員にとっても、授業運営その他の点で様々な視点からの学びを得る機会となっていると思われる。

### 4.1.1 募集方法

当教室では、以下の二つの方法で学生ボランティアを募集している。一つ目は学内の体験活動推進チームの体験活動プログラムを通じての募集[3]である。これは、4 月に募集を開始し、審査を経て採否を決定した学生が A1A2 からボランティア活動に参加するものである。二つ目の方法は、直接日本語教室から募集をかけるもので、学内のポスターの掲示、ウェブサイト、ポータルサイト等から応募者を募るというものであ

[1] Japanese Language Class School of Engineering The University of Tokyo.

[2] これまでに、日本人学生の他、日本語上級２レベルの留学生が授業ボランティアとして参加してくれたこともあった。

[3] 体験プログラムの日本語教室ボランティアは、2012 年のプログラム開始以来、平均して、年 10 名前後の参加者を受け入れてきたが、2018 年度は 7 名、2019 年度は 8 名と減少傾向にある。尚、2020 年度はコロナ禍の影響を受け、体験プラグラムは中止となった。

る。学生は S1S2 のみ、A1A2 のみ、または S1S2 および A1A2 の通年での参加もできる。通常、ボランティアの学生は、積極的に授業に参加してくれるが、2017 年度 A1A2 より、教員が必要に応じて学期中に数回依頼ができるボランティアも募集している。

日本語教室から募集をかける場合には、書類審査はなく、授業ボランティア参加に先立ち、説明会への参加をお願いしている。この説明会は、各学期数回開いており、2020 年度 S1S2 は 3 名、A1A2 は 11 名の参加があった。この説明会の第一の目的は、研究活動などで忙しい工学系日本語学習者を支える日本語教室の特徴、目標などを理解してもらうことにある。また、留学生、ボランティア参加学生双方にとって有益な時間を共有してほしいという思いも伝えている。

尚、ボランティア募集に際しては、2019 年度までは、学期開始前に説明会を行っていたが、2020 年 4 月より始まったオンライン授業との関連およびボランティアに応募してくれる日本人学生の履修科目が決定する時期との兼ね合いから、2021 年度は学期開始後も 3 週目終了まで応募を受け付け、随時説明会を開いた。

#### 4.1.2 活動内容

ボランティア参加者には、ボランティア説明会出席後、授業参加前に、コース担当教員とメールや Zoom でやりとりをしてもらっている。授業では、コース担当教員の協力者として、教室活動に積極的に加わり、会話練習、ペアワーク、ディスカッションなどに参加し、必要に応じて、ファシリテーター、メンターの役割も担っていただいている。単発での参加の場合は、口頭発表準備のサポート、本番での発表に対するフィードバック、グループディスカッションへの参加といったことをお願いしている。尚、毎回、参加した日の活動内容と感想を報告書に記入してくれるよう依頼している。

#### 4.1.3 参加学生数の推移

以下に示す図 1 は、2013 年 S1S2 から 2020 年 A1A2 までのボランティア参加者数の推移を示したものである。例年 S1S2 に比べて A1A2 が多いのは、前述の体験活動プログラムの応募者が加わるためであるが、2020 年度はコロナによるパンデミックのため、体験活動プログラムは中止となった。しかし、通年募集枠で、 S1S2 に 3 名、A1A2 に 11 名の学生が授業ボランティアとして参加してくれた（4.1.4 参照）。

学生ボランティアの受け入れと調整に関連する課題は、教師側の希望日時までにボランティアの人数が確保できないことである。2020 年度も前学期ボランティアに参加してくれた学生への声掛けを始め、学内掲示のポスターやホームページ、工学系情報ポータルからの呼び掛けなど、広報に努めたが、工学系の学生からの応募は少なく、2020 年度は教養学部からも数名参加してもらった。

尚、2020S1S2 にボランティア参加者が過去最低に落ち込み、A1A2 も 11 名に留まったのは、コロナウィルス蔓延に伴う学内外の活動制限の影響が大きいと考えられる。

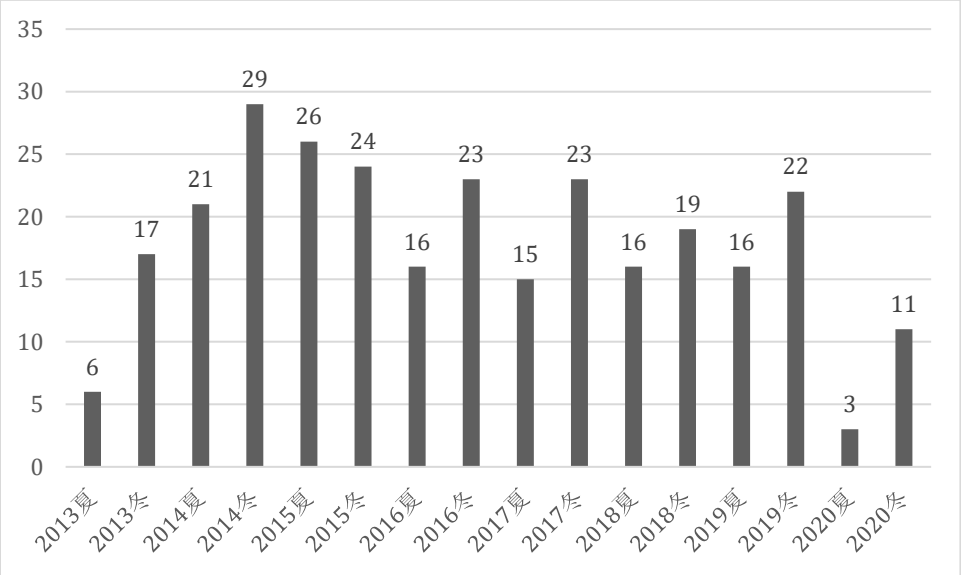



図 1　ボランティア学生数の推移　（単位:人）

4.1.4 ボランティア学生のプロフィール

オンライン授業が始まった 2020 年度 S1S2 の授業ボランティア 3 名は、いずれも学部生で、男子学生 1 名（教養学部）、女子学生 2 名（教養学部、文学部各 1 名）、参加コースは初級 1 が 2 名、中級 2 会話が 1 名であった。

2020 年度 A1A２は、オンライン授業が幾分軌道に乗ったこともあり、大学院生 5 名（男子学生 2 名、女子学生 3 名）、学部生６名（男子学生、女子学生各 3 名）、計 11 名のボランティア学生を迎えることができた。参加コースの内訳は、初級コースへの参加が 2 名、会話コースへの参加が 6 名（中級１が２名、中級 2 が 2 名、中級 3 が 1 名、上級２が 1 名）、中級 2 総合コースへの参加が 2 名、組織事情への参加が 1 名であった。

以下の図 2 は、ボランティア参加学生の所属とその割合を示すものである。今年度、院生は理学系研究科 2 名、教育学専攻 1 名、人文社会系２名、学部生は、工学系 1 名（システム創成）の他、教養学部１名、文学部から 4 名の参加があり、総じて文系の学部からの参加が多いことがわかる。今後は留学生と共通の専門を待つ工学系の学生にも積極的に参加してもらえたらと思っている。

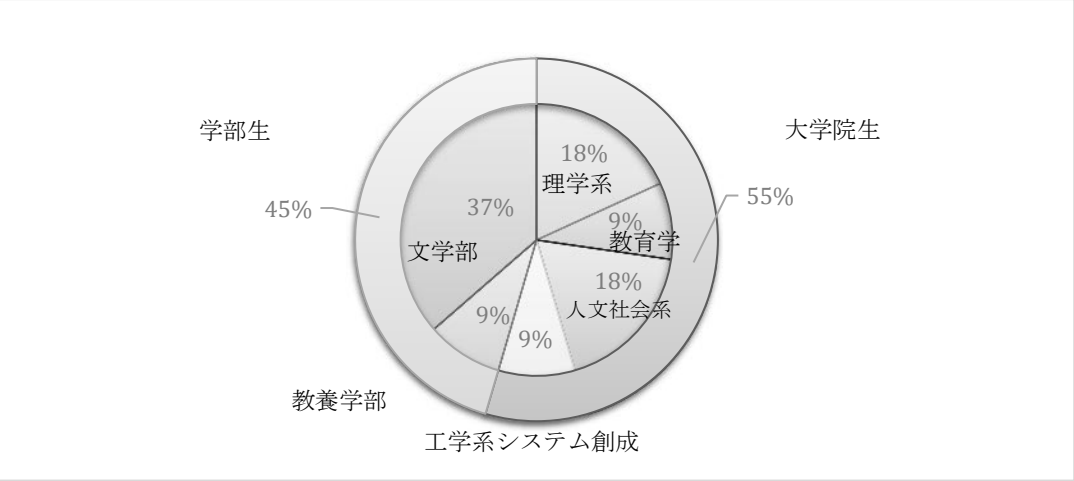



図 2　2020A1A2 ボランティア学生の所属

4.1.5　授業ボランティア参加報告書[4]

ボランティア活動に参加してくれた学生には、活動を通しての所感などを授業参加後に報告書に記入してもらった。S1S2 は 3 名から、A1A2 は 11 名中 9 名からから報告書の提出があった。（内 1 名は授業見学の感想）

報告書から読み取れるものをまとめると、大きく分けて、(1)留学生との言語および文化面での交流、(2)ボランティア活動を通じての発見・学び、(3)留学生との授業内、授業外での交流についての所感などになる。

(1)については、留学生が日本語を学ぶ上で躓く点、母語である日本語の仕組みや特徴を端的に説明することの難しさに触れたコメントが多く見られた。(２)に関しては、学習者にどのように説明すればわかってもらえるかなどの考察や気づきのほか、活動形態に関する提案などもあった。（３）に関しては、ブレイクアウトルームでの自由な会話を通しての交流、ボランティア終了時に LINE を交換するなどして、引き続き交流を続けていく意向が書かれたものなどが見られた。

上記報告書からも、コース担当教員の声からも、ボランティア学生は、全体として大変熱心に授業に参加してくれたと言える。2020 年度は 4 月から急遽オンライン授業を余儀なくされたが、対面での交流がないにも関わらず、授業ボランティアとして力を貸してくれた学生諸子に感謝したい。

## 4.2　多言語交流会 International Lounge

日本語教室では、2012 年度より、留学生の日本語能力の涵養と学内の国際交流、多文化理解の促進、国際化推進を目的とした多言語交流会を実施している。

[4] 2020 年度は学期終了後のアンケートは行わなかったが、2021 年度はアンケート実施を予定している。

2018年度まではInternational Cafe for You[5]として日本語教室が実施してきたが、2019 年度からは金曜日に実施されてきた国際化教育センター主催の国際交流活動（International Friday Lounge, IFL)と一本化し、名称も International Loungeに改めた。

2020 年度は、新型コロナウィルスの影響のため、S1S2 は実施しなかった。A1A2は、Zoomを用いてオンラインでの交流を実施した。実施要領は以下の通りである。

趣旨：リラックスした自由な雰囲気の中で、留学生・日本人学生がお互いの持つ言語的・文化的・社会的リソースを用いながら対等な立場で交流し、背景の異なる他者との相互理解のためのコミュニケーション経験を積む多言語交流の場を提供する。それによって、留学生と日本人学生が、各々の日常生活と学業生活の充実につながるネットワークやコミュニティ（仲間づくり）を生み出せるようになることを目指す。

名称　　：International Lounge（IL）
主催　　：工学系研究科国際工学教育推進機構
運営　　：国際化教育センターおよび工学系日本語教室
開催日時：週1回金曜日　12:10～13:10
　　2020S1S2：実施しなかった。
　　2020A1A2：2020年10月4日～2021年1月22日
場所　　：Zoomで実施した。

Language Assistant(LA)[6]に関しては、参加者間を取り持つファシリテーターとして、また、運営側と参加者の橋渡しの役割を果たす存在として重要であるという認識から、IL でも留学生と日本人学生に担当してもらうこととし、2020 年度は、留学生4名、日本人学生1名を採用した。

業務は、国際化教育センターと分担し、隔週で Zoom での開催、出席確認、ブレイクアウトセッションでのグループ会話の管理を行った（15 回）。2019 年度以前は、通常の活動の中で、歓迎パーティー、ハロウィン等のイベントを実施していたが、2020年度はコロナ感染の恐れがあるため、実施しなかった。

参加人数は、平均 9.4 人で、対面での実施では平均して 20～30 人参加していたことを考えると、かなり減少していると言える。周知方法は、例年通りに、キャンパス内でのポスター掲示のほか、日本語教室の HP や IL の facebook での告知を続けてい

[5] 多言語交流会は、2012 年度から 2015 年度まで、日本語を使って自由に会話する Japanese Lunch Table(JLT)として実施してきたが、2016 年度より、多言語・多文化の交流により重点を置くことにし、使用言語を日本語から多言語に切り替え、名称も International Cafe for You（以下ICYou)と改めた。

[6] IL の準備・設営等を担当する LA は、2017 年度より賃金報酬有で参加してもらっている。

たが、新規の学生参加はほとんどなかった。対面での実施だと、ILの会場に通りかかった学生が飛び入りで参加することも可能だが、オンラインだと知り合いが誰もいない状態では入りにくいことが考えられる。

最後のIL実施日にアンケートを行い、9名からの解答を得た。質問項目は身分・出身地などの属性を聞いた他、IL を知った経緯や今後の希望などの 13 項目であった。以下に簡単に概略を述べる。まず、出身地は、日本（4 名）、台湾（2 名）の他、タイ・アメリカ・マレーシアが 1 名ずつであった。中国出身の留学生が多い中、台湾の学生がこのような日本人との交流に積極的に参加していることが窺える。また、学部生から博士まで幅広い学年からの参加があったことが分かった。専門分野も工学系以外の専門（経済学・法学・医学・文学）など多岐にわたっていた。

次に、IL を知った経緯であるが、「ポスターを見た（3 名）」、「facebook を見た（2 名）」、「友だちから聞いた（2 名）」であった。このことから、キャンパス内のポスター掲示のみならず、SNS を用いた周知も有効であることが考えられる。今後も引き続き、双方向からの周知を心掛けたい。

最後に、学生からの声を紹介する。「春休みもやってほしい」という声があったことから、現在 IL は学期中しか開催していないが、長期休暇中の実施なども要望があることが分かった。また、今回はZoomを使用したが、学生から「special chat[7]を使うと面白いかも」という別のツールの提案を受けた。これを契機に 2021 年度も、引き続きオンラインでの実施を予定しているが、新型コロナウィルスの状況を注視しながら、臨機応変に実施方法を模索していくことを検討している。

[7] バーチャルラウンジに参加者が集い、ラウンジ内を自由に動きながら、会話ができるスペースである。

# 第 5 章　海外協定校とのネットワークの構築と連携

現在、東京大学大学院工学系研究科では世界各国の約 100 大学（部局間も含む）と研究者および留学生の交流を推進する協定が締結されている。日本語教室では、積極的に海外協定校と支援ネットワークを構築し、連携を深めている。2020 年度は、「新型コロナウイルス感染拡大防止のための東京大学の活動制限指針」に基づき、海外体験活動プログラム、工学系研究科サマープログラムなど海外協定校の訪問および本校への受け入れは中止となった。米国世界展開強化事業は、2021 年 2 月中旬から 3 月下旬にかけてオンラインによる活動を実施した。

## 5.1　海外体験活動

今年度、9 月 7 日から 14 日まで「スウェーデン王立工科大学(KTH)での体験活動-日本語授業サポートと企業訪問-」、2021 年 2 月 14 日から 20 日まで「インド工科大学における国際交流体験活動-インド工科大学（IIT)日本語授業サポートと企業訪問-）を実施する予定だった。しかしながら、「新型コロナウイルス感染拡大防止のための東京大学の活動制限指針」に基づき、中止した。

## 5.2　米国世界展開強化事業

本事業は、東京大学が 2018 年度に文部科学省から採択された日米の COIL 型教育を活用した先端ワールド・グローバル工学人材養成プログラム」に基づき、実施されているものである。2019 年度の活動に続き、2020 年度もカリフォルニア工科大学（Caltech）の平井律子教授の協力を得て、2021 年 2 月 11 日から 3 月 25 日まで（日本時間）を活動期間とし、「東大 - Caltech　言語交流プログラム[1]」と題して行った。東大側からは、プログラムの企画・立案を担った教室主任教員（古市）が事前打ち合わせに参加し、常勤教員２名（牛山・岡）がプログラムの実施を担当した。

このプログラムでは、Collaborative Online International Learning（以下 COIL）を活用した PBL（project/problem based learning）型授業を提供することを目標にしており[2]、学生間のピアラーニングの促進を念頭においた授業運営を目指した。2020 年度の参加者の内訳は以下の通りである。

参加学生：14 名
東大８名：修士 1 年 3 名(工学系)
　　学部生 5 名（2 年 1 名(工学系)、3 年 1 名(文学部)、4 年 3 名(文学部 1 名)

[1] 東大側の学生募集に際し、東京大学ポータルサイトに掲載したプログラム名である。
[2] 授業内容構築に際しては、次の研究を参考にした。伊集院郁子・岡葉子（2019）「『多文化間協働プロジェクト』実践報告」東京外国語大学留学生日本語教育センター(45), pp.283-297.

Caltech 学部生６名：中級[3]クラス５名(1 年生１名、3 年生２名、4 年生２名)
上級クラス１名(3 年生)

尚、本プログラムは 2021 年度に単位化を目指しており、その準備段階として 2019 年度に続き、2020 年度もパイロット授業の枠組みで実施した。

(1) 実施前準備

本プロジェクトの準備は以下のようなスケジュールで進められた。

１）東大-Caltech 教員間の事前打合せ　2020 年 12 月 7 日-2021 年 2 月 4 日

２）参加学生募集[4] 2020 年 12 月 16 日-2021 年 1 月 15 日

３）東大側参加学生向けオリエンテーション 2021 年 2 月 9 日

この事前オリエンテーションでは、自己紹介を通して、参加者同士が知り合う機会を設けると共に、文化とは何か、協同学習とは何か、異文化コミュニケーションを理解するための理論的モデルとは何か、などについてレクチャーを行い、参加学生８名と教員２名の間で異文化理解のための基本的な枠組みを共有した。

(2)活動内容

本プログラムでは、東大と Caltech の学生がペアまたはトリオでチームを組み、「バイリンガル」形式で、PBL 型の学習を Zoom を用いて行った。具体的な活動としては、それぞれの国の文化理解に役立つ映画や、インターネット上の資料、自分自身の体験などをもとに、日米の文化の共通点と相違点について学び合うという趣旨で行われた。使用言語は外国語としての英語・日本語、母語としての英語・日本語である。

本プログラムのシラバスに示された 3 つのキーワードは、COIL 及び PBL 活動の理念を背景にした「コミュニケーション能力(Communication Skill)」、「言語能力(Language Competence)、異文化理解能力(Cross Cultural Competence)である。

尚、協同学習に必要なすべての資料は、このプロジェクトのために開設された Google Classroom 上で配信された。

以下の表１は、日程と活動内容を簡潔にまとめたものである。

[3]「中級」「上級」は、Caltech の日本語クラスの学習レベルを指す。

[4] 学生募集は、主として東大情報ポータル、東大ナビへの掲載などを通して行った。

表１　東大-Caltech 言語交流プログラム　COIL - PBL 型授業の概要

| 日程 | 活動内容 |
|---|---|
| 2/10(CA) 2/11(UT) [Zoom] | オリエンテーション |
| 2/12-2/23 | チーム活動　企画書の提出　教師より FB*・コメント |
| 2/24(CA) 2/25(UT) [Zoom] | 活動報告 チーム活動　教師より FB・コメント |
| 3/4(CA)　3/5(UT)　[Zoom] | 中間報告　教師より FB・コメント |
| 3 月 6 日-3 月 23 日 | チーム活動 教師チュートリアル(メール・Zoom) |
| 3/24(CA) 3/25(UT) [Zoom] | 最終発表　質疑応答　教師より FB・コメント |

＊ FB: Feedback

Zoom を用いた合同セッションでの主な活動は以下の通りである。尚、前述したように、東大の学生には 2 月 9 日(14:00-15:00)にインタラクティブな活動を取り入れた異文化理解のためのレクチャーが行われたほか、プログラム実施中、教員は、学生の求めに応じて、メール及び Zoom を用いて、サポートを行った。

①合同セッション(1)2 月 11 日 (9:00-10:25) :この日はオリエンテーションで、授業の目的とスケジュールの紹介、各教員、学生の自己紹介(日英バイリンガル)を行った。その後、PBL 学習のためのチーム作りをし、活動のまとめ役となるリーダーを各チームで決めてもらった。また、1 週間後に提出する各チームの活動企画書についての説明も行われた。2020 年度のチーム構成は 3 名のチームが 4 組（東大 2 名-Caltech1 名が 3 組、東大 1 名-Caltech 2 名が 1 組）、2 名のチームが 1 組(東大 1 名-Caltech1 名)で、教員から提案された 6 つのテーマの内、興味が近い学生同士でチームを組んでもらった。発表テーマとして、教師側提示した 6 つのテーマから学生が選んだのは、以下の 3 つである。

・映像を使って日米の家族（や登場人物）の描かれ方を比較する（2 チーム）
・日米のソウルフードについて紹介・比較する（1 チーム）
・学校教育について紹介・比較する(2 チーム)

②合同セッション(2) 2 月 25 日 (9:45-10:25) : 第 2 回合同セッションは、サポートセッションとして追加設定されたもので、チーム活動の進捗状況報告とそれをもとにした簡単なプレゼンテーション(各チーム 10 分、質疑応答 5 分)などを行い、教員 3 名からのコメント、学生間の質疑応答などを通して、中間発表に向けて準備を進めた。

③合同セッション(3)3 月 5 日 (9:00-10:25) : 中間発表では、１チームを除く４チームが発表し、最終発表に向けての新たなコメント、助言などを交換した。残り 1 チームも企画書をもとに発表を行った。

④合同セッション(4) 3 月 25 日 (9:00-12:00) : 最終発表は、各チーム 30 分（発表 20 分、質疑応答 10 分）でパワーポイントを用いて行われ、発表テーマは「日米の映画から家族関係を比較する」、「日米の映画を比較し、異文化を経験した主人公を比較する」、「日米のソウルフード」、「日米の大学院比較」、「日本とアメリカの教育制度」であったが、時間的、距離的な制約の中、各チームとも内容のある興味深い発表を行った。

(3)活動成果

①学生作成ドキュメント

・企画書(Proposal)：各チームで作成

FB:初日レクチャー担当の教員からのコメント・アドバイス

・中間報告書(Mid-term Progress Report)：チームで作成

学生の Self-Evaluation

FB:初日レクチャー担当の教員からのコメント・アドバイス

FB:教師全員からのコメント・アドバイス

・最終発表(Final Presentation)

FB:チームごとにルーブリックを使っての評価

FB:教師３名からのコメント

（口頭および筆記）

②最終日実施アンケートに見る学生からの評価

2019 年度に続き、2020 年度も最終日に本プログラムに関するアンケートを実施し、東大、Caltech 合わせて 14 名中 13 名から回答を得た。無記名ではあるが、回答内容から東大生が 8 名(全員)、Caltech の学生が 6 名中 5 名回答してくれたことがわかった。

アンケートは、選択式・記述式合わせて 14 項目からなり、選択式の質問には、4 件法の評価スケール[5]を用いた。以下、今後の COIL-PBL 型交流活動を考えるうえで重要と思われる回答を記す。

・「このプログラムを通して、英語の能力が伸びたと思うか」、という問いに関する東大の学生 8 名の回答は[6]、「とてもそう思う」2 名、「そう思う」5 名、「あまり思わない」が 1 名で、8 名中 7 名がプログラム参加により英語力が伸びたと感じていることがわかった。また、「このプログラムを通して、日本語の能力が伸びたと思うか」、という問いに関する Caltech の学生 5 名からの回答も「とてもそう思う」3 名、「そう思う」1 名、「あまり思わない」1 名となっており、総じて、日米の学生にとって本プログラムへの参加がそれぞれの学習言語でのコミュニケーション能力の向上に役立ったと言える。

・「この授業で日本文化・アメリカ文化への理解が深まったか」という問いには、回答者 13 名中 10 名が自国の文化も含めて、文化への理解が深まったと回答している。

・「この授業でコミュニケーション力が伸びたか」、という問いに対しては、1 名を除き、12 名がそう思う・とてもそう思うと回答してくれた。

・「この授業に満足しているか」については、13 名全員がそう思う・とてもそう思うという回答であった。

・「この授業に参加してよかったこと・残念だったことに何か」という問いに対しては、前

---

5 質問内容により「全然思わない・あまり思わない・そう思う・とてもそう思う」または「全然満足していない・あまり満足していない・満足している・とても満足している」からなるスケールを用いた。

6 アンケートは無記名のため、個人の特定はできないが、項目別の回答内容から、回答者が東大の学生であるか、Caltech の学生であるかの判別はできる。これにより、回答別の数値の把握が可能となっている。

者は、言語や文化を通しての学びがあったということ、そしてそれと同等、あるいはそれ以上に交流の場がもてたという内容の回答が多く、親友を見つけたと答えた学生もいた。残念に思うこととしては、チーム以外の学生との交流の時間がほとんどなかったこと、という声が多かった。また、「強いて言うならば、単位がもらえないこと」という回答もあり、本プログラムの今後のあり方を考える上でも貴重なコメントであると捉えている。また、最後の自由コメント欄には6名から回答があり、「実際に会って交流したい」、「参加メンバー全員と交流する時間を持ちたかった」、「楽しい授業だった」、「Caltech の学生みんなで一緒に日本に行けたら嬉しい」、「今後も Zoom で会う機会があれば参加したい」などの声があった。

以上のアンケート結果及び2020年度の活動全体の振り返りを通して、単位化への方向も視野に入れつつ、COILを活用したPBL型授業の今後のあり方について考察を深めたい。

# 第 6 章　研究活動・教材作成

工学系研究科日本語教室では、当教室の活動および日本語教育分野における研究の成果を広く周知し、今後の発展のために議論することを目指している。2020 年度は前述したように、大学は「新型コロナウイルス感染拡大防止のための東京大学の活動制限指針」により、対面授業を再開することが難しく、ビデオ会議や動画配信を利用した授業を実施した。今後、ポストコロナにおいても、ICT を利用した授業が加速していくことが考えられ、オンライン教材が必要とされている。今年度、当教室では、中級 1 専門読解 SPOC（Small Private Online Course）と就職促進プログラムにおいてオンデマンド教材を作成した。

## 6.1　日本語教室関連の研究活動と成果

岡　葉子・菅谷有子・遠藤直子・白鳥智美・森幸穂・伊藤夏実（2020）「『理工学系話し言葉コーパス』における受身表現の出現傾向」（2020 年度日本語／日本語教育研究会口頭発表）

本調査では、理工系大学院の研究室における発表・質疑応答でどのような受身表現が使用されているかを分析した。対象としたのは『理工学系話し言葉コーパス（以下、コーパス）』で、大学院の理工系 7 分野のゼミにおける会話を収録したものである。コーパスの収録時間は 154 時間、延べ形態素数は約 180 万から構成されている（菅谷他 2019）。本調査においては 7 分野のうち「都市環境工学」の 215,837 語をパイロット調査の対象とした。「かれ」「がれ」「され」「ざれ」「たれ」「なれ」「ばれ」「まれ」「われ」「られ」と検索した語の中から、「可能」「自発」「尊敬」の意味を持つものを除外した 800 語が含まれる用例を対象に、受身の用法と出現位置の二つの観点から分類した。

用法は、多くの初級日本語教科書に出てくる「直接受身」「間接受身」「持ち物の受身」「非情の受身」の 4 つに分け、出現位置は、前田（2011）の「単文末」「複文末」「引用節末」「疑問節末」「連体節末」「連用節末」によって分類した（表 1）。

**表 1　コーパス（「都市環境工学」）における受身表現の用法と出現位置の分類**

| 用例 | 用法※ | 出現位置 |
|---|---|---|
| この F 特異 RNA ファージは、え、さらに、G1 から G4 の 4 つの血清型に、えー、分類されます。 | 非情 | 単文末 |
| まず、ヘンリー定数の温度影響に関してなんですけど、（中略）ヘンリー定数は温度で変化をして、このような式で表されます。 | 非情 | 複文末 |
| （前略）まあ、いろいろな微生物が含まれているだろうと考えられています。 | 非情 | 引用節末 |
| いや、そうですねって言われちゃうとさ、先生、なめられてるのかと思っちゃうよ。 | 直接 | 疑問節末 |
| ASPIRE も、えーと、締め切りは終わって、えーっと、提出はしているので、採択されることを願ってます。 | 持ち主 | 連体節末 |
| （前略）cis-DCE については、左っ側の図にありますように、えっと、添加した後に、cis-DCE が分解され、えっと、エチレンが出てくるような結果になりました。 | 非情 | 連用節末 |

※直接：直接受身、間接：間接受身、持ち主：持ち主の受身、非情：非情の受身

その結果、用法分類においては、非情の受身が多いこと、その他の受身はほとんど出現しないことが分かった。つまり、アカデミックなコミュニケーションの場においては、非情の受身の理解および産出が重要であることが示唆された。出現位置を見ると、複文末、連体節末、連用節末が多い一方で、単文末にはほとんど出現しなかった。この結果は、受身表現が単文末に出現することが少ない点で、日常会話が中心のシナリオを対象とした前田（2011）と一致した。また、動詞別に見ると、「考えられる」「見られる」のように、複数の初級教科書ではこの形では出て来ないものの、コーパスでは高頻度で出現しつつ「受身」か「可能」か「自発」か、その意味を特定しにくいものがあることが分かった。このことから、教育現場においては、既存の教科書の受身の用法以外の「-(r)areru」という形での導入も有効であると考える。

### 6.2　日本語教育の専門分野における実践・研究

本教室の教員による日本語教育の専門分野（第二言語習得研究、音声教育）に関する研究および実践の成果は下記の通りである。

Kazuko Ushiyama (2020), “D’où proviennent les erreurs des apprenants francophones dans l’expression de la condition en japonais ? Analyse contrastive d’un corpus de productions d’apprenants d’un point de vue sémantico-contextuel” dans Hiroko Oshima, Jean Bazantay et Rémy Porquier (dir.) *Apprentissage d’une langue éloignée: analyse des erreurs d’apprenants francophones*, Les Éditions Lambert-Lucas, Paris.
ISBN：978-2-35935-234 pp.211-228.　（フランス語）
日仏対照分析　日本語の条件表現の特徴、誤用分析、学習方法などの観点からの論考

金 瑜眞（2020-2022）.「韓国人学習者の日本語句末イントネーション指導要領の開発研究課題」日本学術振興会科学研究費若手研究（課題番号：20K13074）

### 6.3　日本語教室関連の教材作成

#### 6.3.1 中級１専門読解 SPOC（Small Private Online Course）

大学総合教育研究センターとの協働により、工学部広報誌（『Ttime!』）の記事に基づいた中級１専門読解のオンライン教材を開発した。このオンライン教材は、中級１レベル（N4～N3 相当）の学生を対象とし、１）工学系分野の研究内容を中心とした読解力を養成すること、２）工学系分野の基礎的な専門語彙や表現の使い方を養成すること、３）読解学習にとどまらず、「聴く」、「話す」、「書く」といった連繋した力を養うこと、４）発展的に工学系の知識を広げ、深めること、を目的としている。また、オンライン教材の特徴として、１）本文には東京大学における工学系全般の新しく、かつ幅広い研究内容が網羅されており、工学系の留学生が研究室や実験室で実際に必要な専門語彙を学ぶことができる。２）

イラスト動画を利用することによって、自律的に「読む」ことを促し、多忙な工学系の学生が効率よく学習できる反転授業を可能としている。３）インタビュー動画を利用することによって、関連したテーマについて英語のスクリプトを見ながら、新たな情報を得ることができ、本文の語彙、表現を聞き取る練習ができる。今後は、学内だけでなく海外の工学系の学習者のために、MOOC 教材として作成していきたい。また、東京大学の最新の研究内容が発信できるように、教材開発を継続して行っていく。

なお、動画作成は、大学総合教育研究センターの林瑞穂さん、小島佐和子さんにお世話になった。

企画：古市由美子、吉田塁（兼アドバイザー）

テキスト・イラスト動画作成：猪狩美穂、内田あゆみ、片岡さゆり、米谷章子、ハワード文江、宮瀬真理、古市由美子

インタビュー動画作成協力者：山本江先生、大口敬先生、上條俊介先生、伏信進矢先生、塩見淳一郎先生、春日郁朗先生、伊藤恵理先生、南部将一先生、芝内孝禎先生、山田淳夫先生、長谷川秀一先生、小芦雅斗先生

図１イラスト動画

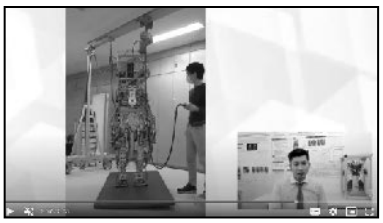


図２インタビュー動画

### 6.3.2 就職促進プログラムにおけるオンデマンド教材作成

留学生就職促進プログラムは、2020 年 11 月に文部科学省からの委託を受けた、優秀な留学生の日本社会への定着を促進する包括的キャリア形成支援教育プログラムである。この「留学生就職促進プログラム」において、「ビジネス日本語」「キャリア教育」のオンデマンド教材計 21 本を作成した。日本で就業を希望する日本語能力試験 N2 レベル相当の留学生が、自分の高めたいスキルや関心に沿って学べるオンデマンド教材となっている。ビジネス日本語教材では、就職活動に必要な日本語力の習得を目指し、語彙力の強化、社会人として必要な敬語の習得等を含む 10 本の動画と、それぞれの動画教材に 1 本ずつワークシートとクイズを作成した。留学生の自律的な学習を促すため、全ての動画教材、ワークシートにはルビを打ち、また、キャリア教育教材との関連性について具体的な説明を入れた。

キャリア教育教材では、留学生の就職活動に必要な情報提供とスキルの習得を目的に内容を精査し、日本の企業内組織や留学生の採用、就職活動に関する知識やスキルを提供する動画教材を 5 本、日本の筆記試験対策の動画教材を 6 本、計 11 本を作成した。さらに自

律的な学習を進めるために、自己理解や業界・企業研究のためのワークシート 5 本、筆記対策向けの小テストと解答解説 5 本を付帯教材として作成した。

前述した 10 本のビジネス日本語教材と相互に補完・補足しながら留学生の就職を総合的に支援するオンデマンド教材として、就職促進プログラムの HP に掲載し、2021 年度 S1S2 より利用促進のための周知を進めていく。（https://www.cdip.t.u-tokyo.ac.jp）

企画・監修：古市由美子・佐野理恵

＜ビジネス日本語教育　オンデマンド教材＞

1）業界・企業選びのことば

2）強みを表すことば

3）自己 PR の準備

4）就職活動のメール

5）インターンシップ報告／お礼

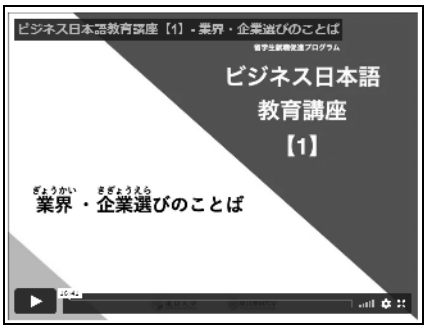
6）企業をよく知るための情報収集

7）就職活動での自己紹介

8）グループ面接の準備

9）就職活動に役立つ尊敬語

10）就職活動に役立つ謙譲語




企画・監修：佐野理恵・古市由美子

＜キャリア教育　オンデマンド教材＞

１．就職活動の流れと準備（日本企業と日本の就職活動）

1）日本の就職活動の特徴

2）働く軸と自分の強み

3）業界研究と企業研究

4）エントリーシート（ES）

5）面接とマナー

２．筆記対策　２～６には演習問題、解答解説付

1）就職筆記試験の概要

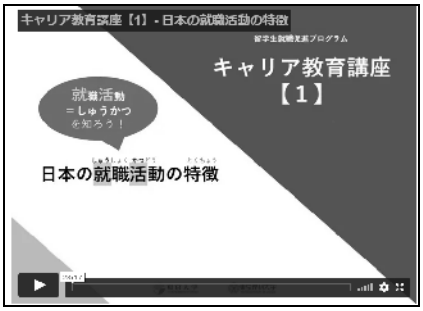
2）筆記試験対策：非言語基本問題（SPI）

3）筆記試験対策：推論

4）筆記試験対策：CAB／玉手箱

5）筆記試験対策：言語

6）筆記試験対策：一般常識・時事



# 第７章　今後の課題

日本語教室の目的は、留学生・研究員が研究生活と日常生活を円滑に行い、研究に集中できる環境づくりの一環として、1.日本語教育、 2.日本文化事情教育の提供に加え、3.留学生と日本人学生の国際交流支援、4.日本人学生の国際化教育の推進、5.実践研究・教材開発を積極的に行うことである。

上記の目的の下、2020 年度に実施した諸活動を振り返り、さらに充実した日本語教育などを実施するため、今後の課題について整理する。

## 7.1　日本語教育および日本文化事情教育

今年度、試行錯誤を繰り返しながらオンライン授業を実施し、そのメリット・デメリットを体感した。ここでは、今年度のオンライン授業における課題を記し、ポストコロナを見据えて、対面授業、ハイブリッド授業への移行に役立てたい。

１）定員制の導入の検討

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、新規留学生の渡日が不確定になり、日本語科目の履修登録が例年より遅れた。その結果、開講後コースを増設することになった。対面授業では、工学系の留学生は履修登録日までは、定員を上回っても受講を認めてきたが、今後は定員制を導入することによって、教育の質を担保するだけでなく、開講後のコースの増設を止め、担当教員への負担を減らしたい。

２）オンライン授業における定員数の検討

インターラクション活動が中心の日本語科目では、オンライン授業で対面授業と同等の教育効果を上げるため、全コースの定員数を引き下げた。また、全レベルの会話および総合コースは 2 セクション設置し、教育の質を担保した。今後は授業形態に応じた定員数の再検討が必要である。

３）オンライン授業におけるコミュニケーションの担保

これまでは、授業の前後に日本語教室のオフィスで教員への質問や学生同士、教員も雑談などの中で情報共有を行っていた。しかし、オンライン授業になり、授業時間外の情報共有の場を失った。そのため、学生だけでなく非常勤講師の質問や疑問を解決し、情報を共有できるオフィス ZOOM を立ち上げた。毎週、火曜日から金曜日の午前・午後 2 時間ずつ WEB 上にオフィスの場を提供した。

さらに、S1S2 教師会でオンライン授業の取り組み方、定期試験の実施方法、LMS（学習管理システム）などの情報を共有し、オンライン授業の共通認識を持った。A1A2 は、学期末の教師会に加え、教員間の相互コミュニケーション、情報共有、問題解決を目的とした連絡会を立ち上げ、3 回実施した。

リモート環境では、教育や仕事を進めるために、不可欠な信頼関係や共感を醸成するのは難しいため、感染対策をした上で、対面でのコミュニケーションの場、時間を確保する

ことが今後必要であろう。

４）感染症対策のガイドラインの作成

対面授業、ハイブリッド授業を実施するためには、感染症対策に関するガイドラインの作成が必要である。具体的には、スマートフォンのアプリ（COCOA、MOCHA）の利用、各講義室の定員の把握、講義室の設備、その利用方法などを理解し、教員間で情報を共有した上で実施しなければならない。工学系研究科、専攻における事例を参考にしながら、日本語教室のガイドラインを作成していきたい。

５）講義室の確保

現在、日本語教室が持っているのは 88M 講義室のみであるが、88L 講義室、123 講義室は優先的に使用できる。324B、324C 教室、第一会議室(132)、第二会議室(130)、701、722 は、他の講義や会議のない場合に借りることができる。第一会議室(132)、第二会議室(130)は、学期途中の 6 月、7 月は入試準備で使用できない。また、88L 講義室以外は比較的小規模な講義室である。対面講義の際には、大学規定の風量測定に基づいた定員数の管理を徹底し、十分な換気を保てる広い講義室を確保することが求められる。

６）授業形態に即した LMS（学習管理システム）の改修

日本語教室では STAR（Student for Access and Review）を 2010 年度に構築し、カスタマイズを進めながら、使用しているが、多様な授業形態に対応できる LMS に改修していくことが必要である。

７）日本文化事情教育の取り組みの検討

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で全く実施することができなかった。来年度は安全を確保したうえで、対面での実施を検討することに加えて、オンライン活動の可能性も探っていきたい。

### 7.2　留学生と日本人学生の国際交流支援、日本人学生の国際化教育の促進

今年度は、東京大学の「新型コロナウイルス感染拡大防止のための東京大学の活動制限指針」に基づき、海外協定校との体験活動、サマープログラム、さくらサイエンスプログラムなどは中止となった。実施できたのは、カリフォルニア工科大学とオンラインで実施した COIL 型教育のみであった。来年度は海外協定校との連携をますます強めながら危機管理を徹底し、多様な交流および国際化教育のあり方を検討し、活動を再開させたい。

### 7.3　実践研究および教材開発

オンライン授業に伴いオンラインで配信できる教材が重要になってきている。前述したように、当教室では 2020 年度、中級 1 専門読解教材、就職促進のためのビジネス日本語、キャリア教育のオンライン教材を開発した。今後は、中級 1 専門読解教材 SPOC を MOOC として再開発したい。さらに、当教室の教育目標に基づき、工学系に特化したオンライン教材も合わせて開発していきたい。

# 2020年度S1S2工学系研究科日本語教室概要

対象:工学系研究科・情報理工学研究科・新領域創成科学研究科の修士・博士・交換留学生・研究生・研究員・その配偶者，工学部学部生，全学交換留学生

授業開講期間: 2020年4月3日～2020年7月22日

登録期間: ホームページ http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/ 登録はSTARから3月6日～4月20日まで（入門コースのみ6月15日まで ）

連絡先: 113-8656東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院工学系研究科日本語教室 8号館1階128B号室
古市由美子 Eﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ: nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp 電話:03-5841-8826 FAX:03-5800-2436

単位: 1コマ2単位 *2:「入門」は1コマ1単位

| コース | 対象 | 時 間 | 担当 | 教 材 | 教室 |
|---|---|---|---|---|---|
| 入門<br>＊1コマ1単位<br>（6月2日～） | はじめて日本語を勉強する人 | 火<br>13:00-16:40<br>木<br>13:00-14:45 | 金<br>山口 | 『Basic Japanese for Students はかせ1』（スリーエーネットワーク） | |
| インテンシブ 初級Ⅰ | はじめて日本語を勉強する人 | 火・水<br>8:30-12:10<br>金<br>10:25-12:10 | 宮瀬<br>金<br>ハワード | 『大地Ⅰ メインテキスト』（スリーエーネットワーク），『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク），『にほんごチャレンジN4-5〔かんじ〕』（アスク） | |
| 初級1A<br>初級1B | はじめて日本語を勉強する人 | 月・金<br>8:30-10:15<br>水<br>10:25-12:10 | A:宮瀬・岡・猪狩<br>B:岡・米谷 | 『大地Ⅰ メインテキスト(L1-12)』（スリーエーネットワーク），『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク） | |
| 初級2A<br>初級2B | 日本語を40時間程度勉強した人、初級1の修了者、ひらがな・カタカナの読み書きができる人 | 月<br>10:25-12:10<br>水<br>8:30-10:15 | A 金・岡<br>B 岡・藤井 | 『大地Ⅰ メインテキスト(L13-22)』（スリーエーネットワーク），『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク） | |
| インテンシブ初級 Ⅱ | 日本語を100時間程度勉強した人、初級2またはｲﾝﾃﾝｼﾌﾞ初級Ⅰの修了者、JLPT N5相当 | 火・木<br>8:30-12:10 | 内田<br>山口 | 『大地II メインテキスト』『大地II 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク）『 にほんごチャレンジ N4-5［かんじ］』（アスク出版） | |
| 初級3 | 日本語を100時間程度勉強した人、初級2またはｲﾝﾃﾝｼﾌﾞ初級Ⅰの修了者、JLPT N5相当 | 火・金<br>8:30-10:15 | 山口<br>片岡 | 『大地II メインテキスト(L23-32)』『大地II 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク） | |
| 初級4 | 日本語を150時間程度勉強した人、初級3の修了者、JLPTN5相当 | 火・金<br>10:25-12:10 | 金<br>猪狩 | 『大地II メインテキスト(L33-42)』『大地II 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク） | |
| 中級1 総合A | 初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当 | 月・木<br>10:25-12:10 | 宮瀬<br>藤井 | 『中級へ行こう 日本語の文型と表現55 第2版』（スリーエーネットワーク） | |
| 中級1 総合B | 初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当 | 月 14:55-16:40<br>木 13:00-14:45 | 佐藤<br>大西 | 『中級へ行こう 日本語の文型と表現55 第2版』（スリーエーネットワーク） | |
| 中級1 聴解 | 初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当 | 木<br>8:30－10:15 | ハワード | 『Live From Tokyo 生の日本語を聴き取ろう！』(The Japan Times) | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 中級1　会話 | 初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当 | 月<br>8:30－10:15 | 金 | 『会話に挑戦！中級前期からの日本語ロールプレイ』(スリーエーネットワーク) | |
| 中級1　専門読解 | 初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当 | 金<br>8:30－10:15 | 古市 | 『科学技術の日本語』(スリーエーネットワーク)/オリジナル教材 | |
| 中級1　文章 | 初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当 | 火<br>8:30－10:15 | 米谷 | 『みんなの日本語　初級第2版　やさしい作文』(スリーエーネットワーク) | |
| 中級2　総合A<br>中級2　総合B | 中級Ⅰ総合コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当 | 水<br>8:30-10:15 | A:宮瀬<br>B:大西 | 『中級を学ぼう　日本語の文型と表現56　中級前期　第2版』(スリーエーネットワーク)<br>※テキストは緑色の表紙 | |
| 中級2　聴解 | 中級Ⅰ聴解コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当 | 木<br>8:30－10:15 | 金 | 『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解【中級】 』(スリーエーネットワーク) | |
| 中級2　会話A<br>中級2　会話B | 中級Ⅰ会話コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当 | 火<br>10:25-12:10 | A:米谷<br>B:佐藤 | 『新版ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話』　(凡人社) | |
| 中級2　読解 | 中級Ⅰ読解コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当 | 金<br>10:25-12:10 | 片岡 | 『留学生のための読解トレーニング(読む力がアップする15のポイント)』(凡人社) | |
| 中級2　文章 | 中級Ⅰ文章コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当 | 木<br>10:25-12:10 | 内田 | 『改訂版・大学・大学院留学生の日本語②作文編』 アカデミック・ジャパニーズ研究会　編著　(アルク) | |
| 中級2　専門語彙・漢字 | 中級Ⅰ総合コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当 | 火<br>8:30－10:15 | 岡 | 自主教材 | |
| 中級3　総合A<br>中級3　総合B | 中級Ⅱ総合コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当 | 火<br>10:25-12:10 | 猪狩<br>ハワード | 『中級を学ぼう 日本語文型と表現82 中級中期』(スリーエーネットワーク)<br>＊テキストは水色の表紙 | |
| 中級3　聴解 | 中級Ⅱ聴解コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当 | 水<br>10:25-12:10 | 宮瀬 | 『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解【中上級】』(スリーエーネットワーク) | |
| 中級3　会話 | 中級Ⅱ会話コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当 | 水<br>8:30-10:15 | 片岡 | 自主教材 | |
| 中級3　専門読解 | 中級Ⅱ読解コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当 | 木<br>8:30-10:15 | 内田 | 自主教材 | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 中級3　文章 | 中級Ⅱ文章コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当 | 木<br>10:25-12:10 | ハワード | 『大学・大学院留学生の日本語②作文編』 アカデミック・ジャパニーズ研究会　編著 （アルク） | |
| 上級 日本組織事情 | 中級Ⅲ総合コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当 | 木<br>10:25-12:10 | 古市/（本村） | 自主教材 | |
| 上級1　総合 | 中級3総合コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当 | 金<br>8:30-10:15 | ハワード | 『30の物語　中上級　人物で学ぶ日本語』石川智　くろしお出版 | |
| 上級1　聴解 | 中級3聴解コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当 | 水<br>10:25-12:10 | 片岡 | 『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解 【上級】』（スリーエーネットワーク） | |
| 上級1　会話 | 中級3会話コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当 | 水<br>8:30-10:15 | 米谷 | 『日本語超級話者へのかけはし　きちんと伝える技術と表現』（スリーエーネットワーク） | |
| 上級1　読解 | 中級3読解コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当 | 木<br>8:30－10:15 | 藤井 | 自主教材 | |
| 上級1　文章 | 中級3文章コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当 | 火<br>8:30－10:15 | 猪狩 | 『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』（アルク） | |
| 上級2　総合 | 上級総合コースの修了者、日本語を900時間以上勉強した人、またはJLPT N1レベル以上 | 水<br>10:25-12:10 | 藤井 | 自主教材 | |
| 上級2　会話 | 上級会話コースの修了者、日本語を900時間以上勉強した人、またはJLPT N1レベル以上 | 金<br>10:25-12:10 | 岡 | 自主教材 | |
| 上級2　文章 | 上級文章コースの修了者、日本語を900時間以上勉強した人、またはJLPT N1レベル以上 | 火<br>10:25-12:10 | 岡 | 『大学生と留学生のための論文ワークブック』（くろしお出版） | |

Cultural Exchanges and Events

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ビジターセッション・日本事情（4月15日～） | （休講） | 水<br>13:00-14:30 | 金<br>早坂 | | |
| International Lounge（4月10日～） | （中止） | 金<br>12:10-13:10 | 岡<br>山畑 | | |

*授業内容と教室は変更の可能性あり

単位：1コマ2単位 （「入門」は1コマ1単位）　初級Ⅰ（4コース：18コマ）、初級Ⅱ（3コース：8コマ） 中級1（5コース：8コマ）、中級2（6コース：8コマ）
中級3（5コース：6コマ）、上級1（6コース：6コマ）、上級2（3コース：3コマ）　計32コース、57コマ

# 2020年度S1S2工学系研究科日本語教室時間割

**対象：工学系研究科・情報理工学研究科・新領域創成科学研究科の修士・博士・交換留学生・研究生・研究員・その配偶者，工学部学部生，全学交換留学生**

**授業開講期間： 2020年4月3日～2020年7月22日**

**登録期間： ホームページ http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/ 登録はSTARから3月6日～4月20日まで（入門コースのみ6月15日まで ）**

**連絡先： 113-8656東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院工学系研究科日本語教室 8号館1階128B号室**
**古市由美子 Eﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ: nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp 電話：03-5841-8826 FAX：03-5800-2436**

**単位：1コマ2単位 （「入門」は1コマ1単位） 初級Ⅰ（4コース：18コマ）、初級Ⅱ（3コース：8コマ） 中級1（5コース：8コマ）、中級2（6コース：8コマ）中級3（5コース：6コマ）、上級1（6コース：6コマ）、上級2（3コース：3コマ） 計32コース、57コマ**

| | 8:30-10:15 | 10:25-12:10 | 13:00-14:45 | 14:55-16:40 |
|---|---|---|---|---|
| 月 | 初級1A 宮瀬 123<br>初級1B 岡 88M | 初級2A 金 88L<br>初級2B 岡 88M | | |
| | 中級1 会話<br>金 88L | 中級1 総合A<br>宮瀬 123 | | 中級1 総合B<br>佐藤 88M |
| 火 | インテンシブ初級Ⅰ<br>宮瀬 88L | | 入門 [6/2-]<br>金 123 | |
| | インテンシブ初級Ⅱ<br>内田 123 | | | |
| | 初級3<br>山口 132 | 初級4<br>金 132 | | |
| | 中級1 文章<br>米谷 88M | 中級3 総合A 猪狩<br>中級3 総合B ハワード | | |
| | 中級2 専門語彙漢字<br>岡 701 | 中級2 会話A 米谷 88M<br>中級2 会話B 佐藤 324B | | |
| | 上級1 文章<br>猪狩 722 | 上級2 文章<br>岡 701 | | |
| 水 | インテンシブ初級Ⅰ<br>金 88L | | ビジターセッション&日本事情<br>[4/15-] 金 88L -休講- | |
| | 初級2A 岡 123<br>初級2B 藤井 701 | 初級1A 岡 123<br>初級1B 米谷 88M | | |
| | 中級3 会話<br>片岡 722 | 中級3 聴解<br>宮瀬 132 | | |
| | 中級2 総合A 宮瀬 132<br>中級2 総合B 大西 324B | 上級1 聴解<br>片岡 722 | | |
| | 上級1 会話<br>米谷 88M | 上級2 総合<br>藤井 701 | | ＊古市：午前中 社会基盤 |
| 木 | インテンシブ初級Ⅱ<br>山口 123 | | 入門 [6/4-]<br>山口 123 | |
| | 中級1 聴解<br>ハワード 88M | 中級1 総合A<br>藤井 88L | 中級1 総合B<br>大西 88M | |
| | 中級2 聴解<br>金 722 | 中級2 文章<br>内田 701 | | |
| | 中級3 専門読解<br>内田 701 | 中級3 文章<br>ハワード 88M | | |
| | 上級1 読解<br>藤井 88L | 上級 日本組織事情<br>古市/（本村） 132 | | |
| 金 | 初級1A 猪狩 123<br>初級1B 岡 88M | インテンシブ初級Ⅰ<br>ハワード 88L | International Lounge [4/10-]<br>（12:10-13:10）岡<br>工11号館2F -中止- | |
| | 初級3<br>片岡 722 | 初級4<br>猪狩 123 | | |
| | 中級1 専門読解<br>古市 701 | 中級2 読解<br>片岡 722 | | |
| | 上級1 総合<br>ハワード 88L | 上級2 会話<br>岡 88M | | |

# 2020年度A1A2工学系研究科日本語教室概要

対象：工学系研究科・情報理工学研究科・新領域創成科学研究科の修士・博士・交換留学生・研究生・研究員・その配偶者，工学部学部生，全学交換留学生

授業開講期間： 2020年9月25日～2021年1月22日（冬休み：12月28日～1月3日）

登録期間： ホームページ http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/ 登録はSTARから9月7日～10月8日まで（入門コースのみ11月30日まで ）

連絡先： 113-8656東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院工学系研究科日本語教室 8号館1階128B号室
古市由美子 Eﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ: nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp 電話：03-5841-8826 FAX：03-5800-2436

単位：1コマ2単位 *2：「入門」は1コマ1単位

| コース | 対象 | 時 間 | 担当 | 教 材 |
|---|---|---|---|---|
| 入門<br>＊1コマ1単位<br>（11月19日～） | はじめて日本語を勉強する人 | 火<br>13:00-16:40<br>木<br>13:00-14:45 | 金<br>山口 | 『Basic Japanese for Students はかせ1』（スリーエーネットワーク） |
| インテンシブ 初級Ⅰ | はじめて日本語を勉強する人 | 火・水<br>8:30-12:10<br>金<br>10:25-12:10 | 宮瀬<br>金<br>ハワード | 『大地Ⅰ メインテキスト』（スリーエーネットワーク），『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク），『にほんごチャレンジN4-5〔かんじ〕』（アスク） |
| 初級1A<br>初級1B<br>初級1C | はじめて日本語を勉強する人 | 月・金<br>8:30-10:15<br>水<br>10:25-12:10 | A:岡・大西・ハワード<br>B:牛山・中村・猪狩<br>C:宮瀬・牛山・佐藤 | 『大地Ⅰ メインテキスト(L1-12)』（スリーエーネットワーク），『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク） |
| 初級2A<br>初級2B | 日本語を40時間程度勉強した人、初級1の修了者、ひらがな・カタカナの読み書きができる人 | 月<br>10:25-12:10<br>水<br>8:30-10:15 | A 岡・中村<br>B 金・藤井 | 『大地Ⅰ メインテキスト(L13-22)』（スリーエーネットワーク），『大地Ⅰ 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク） |
| インテンシブ初級 Ⅱ | 日本語を100時間程度勉強した人、初級2またはｲﾝﾃﾝｼﾌﾞ初級Ⅰの修了者、JLPT N5相当 | 火・木<br>8:30-12:10 | 内田<br>山口 | 『大地II メインテキスト』『大地II 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク）『にほんごチャレンジ N4-5［かんじ］』（アスク出版） |
| 初級3A<br>初級3B | 日本語を100時間程度勉強した人、初級2またはｲﾝﾃﾝｼﾌﾞ初級Ⅰの修了者、JLPT N5相当 | 火・金<br>8:30-10:15 | A:山口・片岡<br>B：片岡・中村 | 『大地II メインテキスト(L23-32)』『大地II 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク） |
| 初級4 | 日本語を150時間程度勉強した人、初級3の修了者、JLPTN5相当 | 火・金<br>10:25-12:10 | 金<br>猪狩 | 『大地II メインテキスト(L33-42)』『大地II 文型説明と翻訳』（スリーエーネットワーク） |
| 中級1 総合A<br>中級1 総合B | 初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当 | 月・木<br>10:25-12:10 | A:牛山・藤井<br>B:佐藤・大西 | 『中級へ行こう 日本語の文型と表現55 第2版』（スリーエーネットワーク） |
| 中級1 聴解 | 初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当 | 木<br>8:30－10:15 | ハワード | 『日本語集中トレーニング』（アルク） |
| 中級1 会話A<br>中級1 会話B | 初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当 | 月<br>8:30－10:15 | A:金<br>B:佐藤 | 『会話に挑戦！中級前期からの日本語ロールプレイ』（スリーエーネットワーク） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 中級1　専門読解 | 初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当 | 金<br>8:30－10:15 | 古市 | 自主教材 |
| 中級1　文章 | 初級4、インテンシブ初級Ⅱコースの修了者、日本語を200-250時間程度勉強した人、またはJLPT N4-N3相当 | 火<br>8:30－10:15 | 米谷 | 『みんなの日本語　初級第2版　やさしい作文』(スリーエーネットワーク) |
| 中級2　総合A<br>中級2　総合B | 中級Ⅰ総合コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当 | 水<br>8:30-10:15 | A：宮瀬<br>B：大西 | 『中級を学ぼう　日本語の文型と表現56　中級前期　第2版』(スリーエーネットワーク)<br>※テキストは緑色の表紙 |
| 中級2　聴解 | 中級Ⅰ聴解コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当 | 木<br>8:30－10:15 | 大西 | 『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解【中級】 』(スリーエーネットワーク) |
| 中級2　会話A<br>中級2　会話B | 中級Ⅰ会話コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当 | 火<br>10:25-12:10 | A:米谷<br>B:佐藤 | 『新版ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話』　(凡人社) |
| 中級2　読解 | 中級Ⅰ読解コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当 | 金<br>10:25-12:10 | 片岡 | 『留学生のための読解トレーニング(読む力がアップする15のポイント)』(凡人社) |
| 中級2　文章 | 中級Ⅰ文章コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当 | 木<br>10:25-12:10 | 内田 | 『改訂版・大学・大学院留学生の日本語②作文編』 アカデミック・ジャパニーズ研究会　編著 (アルク) |
| 中級2　専門語彙・漢字 | 中級Ⅰ総合コースの修了者、日本語を300時間程度勉強した人、またはJLPT N3相当 | 火<br>8:30－10:15 | 岡 | 自主教材 |
| 中級3　総合A<br>中級3　総合B | 中級Ⅱ総合コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当 | 火<br>8:30－10:15 | A:猪狩<br>B:佐藤 | 『中級を学ぼう 日本語文型と表現82 中級中期』(スリーエーネットワーク)<br>＊テキストは水色の表紙 |
| 中級3　聴解 | 中級Ⅱ聴解コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当 | 水<br>10:25-12:10 | 宮瀬 | 『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解【中上級】』(スリーエーネットワーク) |
| 中級3　会話A<br>中級3　会話B | 中級Ⅱ会話コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当 | 水<br>8:30-10:15 | A:片岡<br>B:牛山 | 自主教材 |
| 中級3　専門読解 | 中級Ⅱ読解コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当 | 木<br>8:30-10:15 | 内田 | 自主教材 |
| 中級3　文章 | 中級Ⅱ文章コースの修了者、日本語を600時間程度勉強した人、またはJLPT N2相当 | 木<br>10:25-12:10 | ハワード | 『大学・大学院留学生の日本語②作文編』 アカデミック・ジャパニーズ研究会 編著 (アルク) |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 上級 日本組織事情 | 中級Ⅲ総合コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当 | 木<br>10:25-12:10 | 古市/(本村) | 自主教材 |
| 上級1　総合A<br>上級1　総合B | 中級3総合コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当 | 金<br>8:30-10:15 | A:金<br>B:岡 | 『30の物語　中上級　人物で学ぶ日本語』 くろしお出版 |
| 上級1　聴解 | 中級3聴解コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当 | 水<br>10:25-12:10 | 片岡 | 『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解 【上級】』(スリーエーネットワーク) |
| 上級1　会話A<br>上級1　会話B | 中級3会話コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当 | 水<br>8:30-10:15 | A:岡<br>B:猪狩 | 『日本語超級話者へのかけはし　きちんと伝える技術と表現』(スリーエーネットワーク) |
| 上級1　読解 | 中級3読解コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当 | 木<br>8:30－10:15 | 藤井 | 『大学・大学院　留学生の日本語①読解編』アカデミック・ジャパニーズ研究会編　アルク |
| 上級1　文章 | 中級3文章コースの修了者、日本語を900時間程度勉強した人、またはJLPT N1相当 | 火<br>10:25-12:10 | 猪狩 | 『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』(アルク) |
| 上級2　総合 | 上級総合コースの修了者、日本語を900時間以上勉強した人、またはJLPT N1レベル以上 | 水<br>10:25-12:10 | 藤井 | 自主教材 |
| 上級2　会話 | 上級会話コースの修了者、日本語を900時間以上勉強した人、またはJLPT N1レベル以上 | 金<br>10:25-12:10 | 岡 | 自主教材 |
| 上級2　文章 | 上級文章コースの修了者、日本語を900時間以上勉強した人、またはJLPT N1レベル以上 | 火<br>10:25-12:10 | 岡 | 『大学生と留学生のための論文ワークブック』(くろしお出版) |

Cultural Exchanges and Events

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ビジターセッション・<br>日本事情 (10月14日～) | 全レベル対象 | 水<br>13:30-14:30 | 金<br>早坂 | |
| International Lounge | 全レベル対象 | 金<br>12:10-13:10 | 牛山・岡<br>山畑 | |

*授業内容は変更の可能性あり

単位: 1コマ2単位 (「入門」は1コマ1単位)　初級Ⅰ(4コース:21コマ)、初級Ⅱ(3コース:10コマ) 中級1(5コース:9コマ)、中級2(6コース:8コマ)中級3(5コース:6コマ)、上級1(6コース:8コマ)、上級2(3コース:3コマ)　計32コース、65コマ

# 2020年度A1A2工学系研究科日本語教室時間割

**対象：工学系研究科・情報理工学研究科・新領域創成科学研究科の修士・博士・交換留学生・研究生・研究員・その配偶者，工学部学部生，全学交換留学生**

**授業開講期間： 2020年9月25日～2021年1月22日（冬休み：12月28日～1月3日）**

**登録期間： ホームページ http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/ 登録はSTARから9月7日～10月8日まで（入門コースのみ12月3日まで ）**

**連絡先： 113-8656東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院工学系研究科日本語教室 8号館1階128B号室**
**古市由美子 Eﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ: nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp 電話：03-5841-8826 FAX：03-5800-2436**

**単位：1コマ2単位 （「入門」は1コマ1単位） 初級Ⅰ（4コース：21コマ）、初級Ⅱ（3コース：10コマ） 中級1（5コース：9コマ）、中級2（6コース：8コマ） 中級3（5コース：6コマ）、上級1（6コース：8コマ）、上級2（3コース：3コマ） 計32コース、65コマ**

| | 8:30 – 10:15 | 10:25 – 12:10 | 13:00 – 14:45 | 14:55 – 16:40 |
|---|---|---|---|---|
| 月 | 初級1A 岡<br>初級1B 牛山<br>初級1C 宮瀬 | 初級2A 岡<br>初級2B 金 | | |
| | 中級1 会話A 金<br>中級1 会話B 佐藤 | 中級1 総合A 牛山<br>中級1 総合B 佐藤 | | |
| 火 | インテンシブ初級Ⅰ<br>宮瀬 | | 入門 [11/24-]<br>金 | |
| | インテンシブ初級Ⅱ<br>内田 | | | |
| | 初級3A 山口<br>初級3B 片岡 | 初級4<br>金 | | |
| | 中級1 文章<br>米谷 | 中級2 会話A 米谷<br>中級2 会話B 佐藤 | | |
| | 中級2 専門語彙漢字<br>岡 | 上級1 文章<br>猪狩 | | |
| | 中級3 総合A 猪狩<br>中級3 総合B 佐藤 | 上級2 文章<br>岡 | | |
| 水 | インテンシブ初級Ⅰ<br>金 | | ビジターセッション&日本事情<br>金・早坂 [10/14-] | |
| | 初級2A 中村<br>初級2B 藤井 | 初級1A 大西<br>初級1B 中村<br>初級1C 牛山 | | |
| | 中級2 総合A 宮瀬<br>中級2 総合B 大西 | 中級3 聴解<br>宮瀬 | | |
| | 中級3 会話A 片岡<br>中級3 会話B 牛山 | 上級1 聴解<br>片岡 | | |
| | 上級1 会話A 岡<br>上級1 会話B 猪狩 | 上級2 総合<br>藤井 | ＊古市：社会基盤学日本語教室 10::15～ | |
| 木 | インテンシブ初級Ⅱ<br>山口 | | 入門 [11/19-]<br>山口 | |
| | 中級1 聴解<br>ハワード | 中級1 総合A 藤井<br>中級1 総合B 大西 | | |
| | 中級2 聴解<br>大西 | 中級2 文章<br>内田 | | |
| | 中級3 専門読解<br>内田 | 中級3 文章<br>ハワード | | |
| | 上級1 読解<br>藤井 | 上級 日本組織事情<br>古市/（本村） | | |
| 金 | 初級1A ハワード<br>初級1B 猪狩<br>初級1C 佐藤 | インテンシブ初級Ⅰ<br>ハワード | International Lounge<br>12:10-13:10 牛山・岡・山畑 | |
| | 初級3A 片岡<br>初級3B 中村 | 初級4<br>猪狩 | | |
| | 中級1 専門読解<br>古市 | 中級2 読解<br>片岡 | | |
| | 上級1 総合A 金<br>上級1 総合B 岡 | 上級2 会話<br>岡 | | |

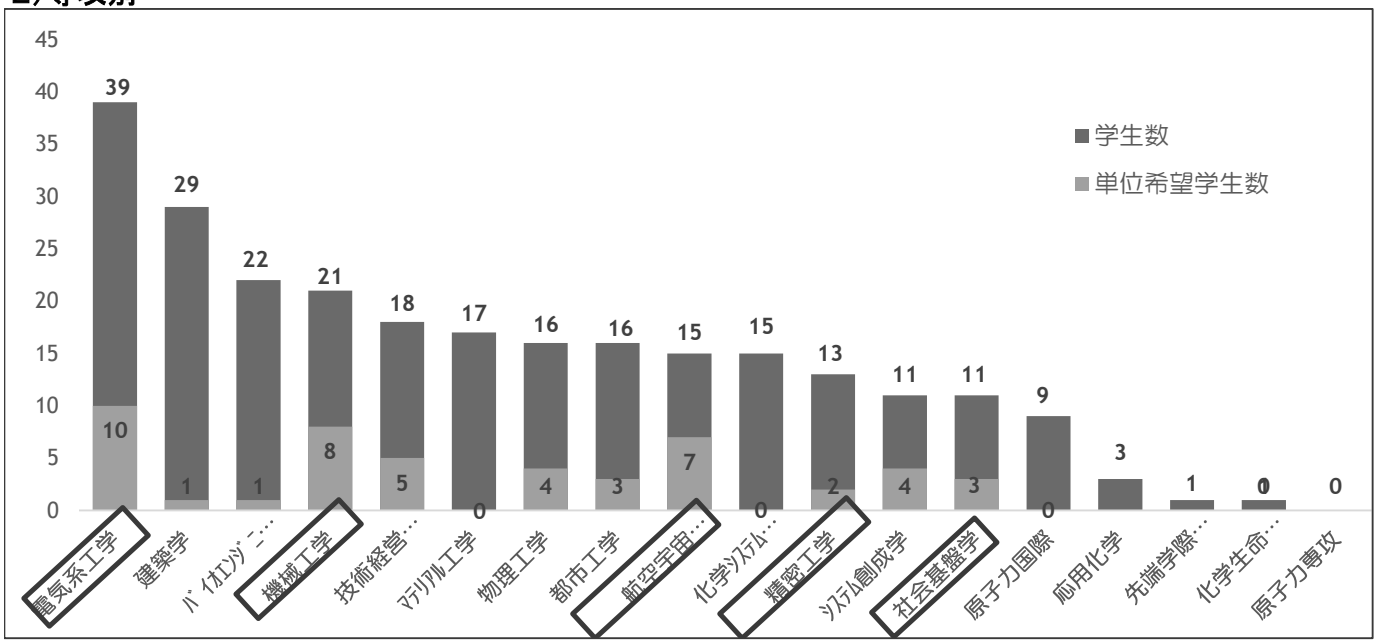
## 1．2020年度S1S2 工学系研究科日本語教室受講者数

### 1）研究科別ーレベル別

＊()は単位希望学生数

| 研究科＼レベル | | 初級1 | 初級2 | 中級1 | 中級2 | 中級3 | 上級1 | 上級2 | 延べ合計 | 実数合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①工学系研究科 | | 28 | 24 | 63 | 47 | 47 | 34 | 14 | 257(48) | **150(41)** |
| ②情報理工学系 | | 7 | 4 | 6 | 19 | 14 | 4 | 2 | 56(14) | **34(13)** |
| ③新領域創成科学研究科 | | 1 | 2 | 4 | 3 | 5 | 3 | 1 | 19(7) | **11(5)** |
| ④他研究科 | 農学生命科学研究科 | 2 | | 8 | 8 | 8 | 5 | 2 | 33(24) | 23(18) |
| | 公共政策 大学院 | 5 | 1 | 9 | 1 | 2 | 4 | 4 | 26(10) | 18(10) |
| | 理学系研究科 | | | 4 | 1 | 1 | 4 | 1 | 11(1) | 5(1) |
| | 医学系研究科 | 1 | 2 | 2 | 2 | | 1 | 2 | 10(1) | 8(1) |
| | 情報学環・学際情報学府 | 1 | | 2 | 2 | | 1 | 2 | 8(4) | 7(4) |
| | 経済学研究科 | | | 3 | | | 1 | 1 | 5 | 3 |
| | 総合文化研究科 | | 1 | 1 | | | 1 | | 3 | 3 |
| | 教育学研究科 | | | | | | 2 | 1 | 3 | 2 |
| | 地震研究所 | 1 | | 1 | 1 | | | | 3 | 2 |
| | 薬学系研究科 | | | 1 | 1 | | | | 2 | 1 |
| | 理化学研究所 | | | 1 | 1 | | | | 2 | 1 |
| | 東洋文化研究所 | | 1 | | | | | | 1 | 1 |
| | **④計** | 10 | 5 | 32 | 17 | 11 | 19 | 13 | **107(40)** | **74(34)** |
| ⑤USTEP | | 2 | 3 | 4 | | 9 | 3 | 1 | **22(19)** | **14(11)** |
| **合計①～⑤** | | **48** | **38** | **109** | **86** | **86** | **63** | **31** | **461(128)** | **283(104)** |

### 2）専攻別



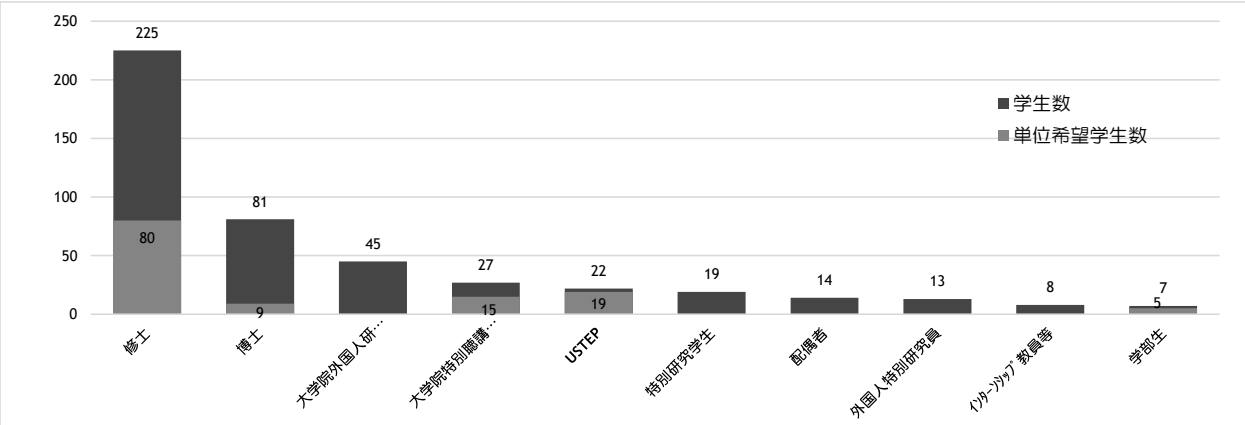

:単位が修了要件として認められている専攻

### 3）国籍ーレベル別

| | 国籍＼レベル | 初級１ | 初級２ | 中級１ | 中級２ | 中級３ | 上級１ | 上級２ | 延べ合計 | 実数合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 中国 | 13 | 13 | 29 | 28 | 49 | 40 | 21 | 193 | 123 |
| 2 | 台湾 | 1 | | 9 | 8 | 5 | 2 | 3 | 28 | 13 |
| 3 | タイ | 3 | 1 | 7 | 3 | 4 | 3 | 1 | 22 | 14 |
| 4 | アメリカ合衆国 | 1 | 1 | 6 | 5 | | 6 | 2 | 21 | 10 |
| 5 | フランス | 4 | 4 | 2 | 1 | 3 | 1 | | 15 | 14 |
| 6 | ドイツ | 1 | | 3 | 6 | 2 | 2 | | 14 | 7 |
| 7 | インド | 5 | | 5 | 2 | | | | 12 | 9 |
| 8 | ブラジル | | | 3 | 5 | 3 | 1 | | 12 | 4 |
| 9 | カナダ | | 1 | 3 | 1 | 6 | | | 11 | 7 |
| 10 | ポルトガル | | | 5 | 6 | | | | 11 | 2 |
| 11 | オーストリア | | | 7 | 3 | | | | 10 | 4 |
| 12 | フィリピン | 1 | 2 | 1 | 4 | | | | 8 | 5 |
| 13 | インドネシア | 1 | 1 | 3 | 1 | | 2 | | 8 | 5 |
| 14 | 韓国 | 1 | 1 | | | | 1 | 2 | 5 | 5 |
| 15 | スウェーデン | 1 | 1 | | | 3 | | | 5 | 3 |
| 16 | ロシア | | 1 | | 4 | | | | 5 | 2 |
| 17 | シンガポール | | | 2 | 1 | | 1 | | 4 | 4 |
| 18 | ハンガリー | | 1 | | 1 | 2 | | | 4 | 3 |
| 19 | 英国 | | 1 | 3 | | | | | 4 | 2 |
| 20 | スイス | 1 | | 3 | | | | | 4 | 2 |
| 21 | 香港 | | | | | 3 | 1 | | 4 | 2 |
| 22 | バングラデシュ | 1 | 1 | 1 | | | | | 3 | 3 |
| 23 | オーストラリア | | | 1 | 1 | | 1 | | 3 | 3 |
| 24 | メキシコ | 1 | | 2 | | | | | 3 | 2 |
| 25 | モンゴル | | 1 | 1 | 1 | | | | 3 | 2 |
| 26 | ベトナム | 1 | | 1 | | | | | 2 | 2 |
| 27 | ネパール | 1 | 1 | | | | | | 2 | 2 |
| 28 | フィンランド | | 1 | | | | | 1 | 2 | 2 |
| 29 | ノルウェー | 2 | | | | | | | 2 | 2 |
| 30 | ミャンマー | | | 1 | 1 | | | | 2 | 2 |
| 31 | トルコ | 1 | 1 | | | | | | 2 | 2 |
| 32 | ＊その他 | 8 | 5 | 11 | 4 | 6 | 2 | 1 | 37 | 21 |
| 合計 | | 48 | 38 | 109 | 86 | 86 | 63 | 31 | 461 | 283 |

＊その他(実数1名)：ｲﾀﾘｱ・ｴｼﾞﾌﾟﾄ・ｵﾗﾝﾀﾞ・ｶﾝﾎﾞｼﾞｱ・ｺﾛﾝﾋﾞｱ・ｻﾞﾝﾋﾞｱ・ｼﾘｱ・ｽﾍﾟｲﾝ・ｽﾘﾗﾝｶ・ﾁｪｺ・ﾁﾘ・日本・ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ・ﾊﾟﾅﾏ・ﾌﾞﾙｶﾞﾘｱ・ﾍﾟﾙｰ・ﾎﾟｰﾗﾝﾄﾞ・ﾏﾚｰｼｱ・ﾓﾛｯｺ・ﾗﾄﾋﾞｱ・ﾙｸｾﾝﾌﾞﾙｸ

### 4）身分別




## 2.　4専攻日本語教室受講者数（実数）

| | | 初級1 | 初級2A | 初級2B | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 社基 | 社会基盤学 | 0 | 8 | 14 | 22 |
| | 単位コース選択者 | 0 | 8 | 14 | 22 |

*初級1は4月入学者数減少に伴い日本語レベル入門相当の該当者がいなくなったため開講せず

| | | 初級Ⅰ都市総合A | 初級Ⅱ都市総合A | 中級Ⅰ都市総合A | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 都市工 | 都市工学日本語教室（学生内訳） | 都市工1/工学系2/他研究科0 | 都市工3/工学系1/他研究科2 | 都市工3/工学系1/他研究科1 | 都市工7/工学系4/他研究科3 |
| | 単位コース選択者 | 1 | 6 | 0 | 7 |

| | | 中級Ⅰ創成系総合 | 中級Ⅰ創成系読解 | 中級Ⅲ創成系総合 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| シス創 | ｼｽﾃﾑ創成日本語教室（学生内訳） | ｼｽﾃﾑ創成系6/工学系2/他研究科0 | ｼｽﾃﾑ創成系4/工学系0/他研究科0 | ｼｽﾃﾑ創成系3/工学系1/他研究科0 | ｼｽﾃﾑ創成系13/工学系3/他研究科0 |
| | 単位コース選択者 | 0 | 1 | 0 | 1 |

| | | 中級 | 個別指導 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| IME | IME日本語教室 | IME:2<br>その他工学系:0 | ― | ― |

＊個別指導は毎回希望者の申込を受けて行うため解答不能

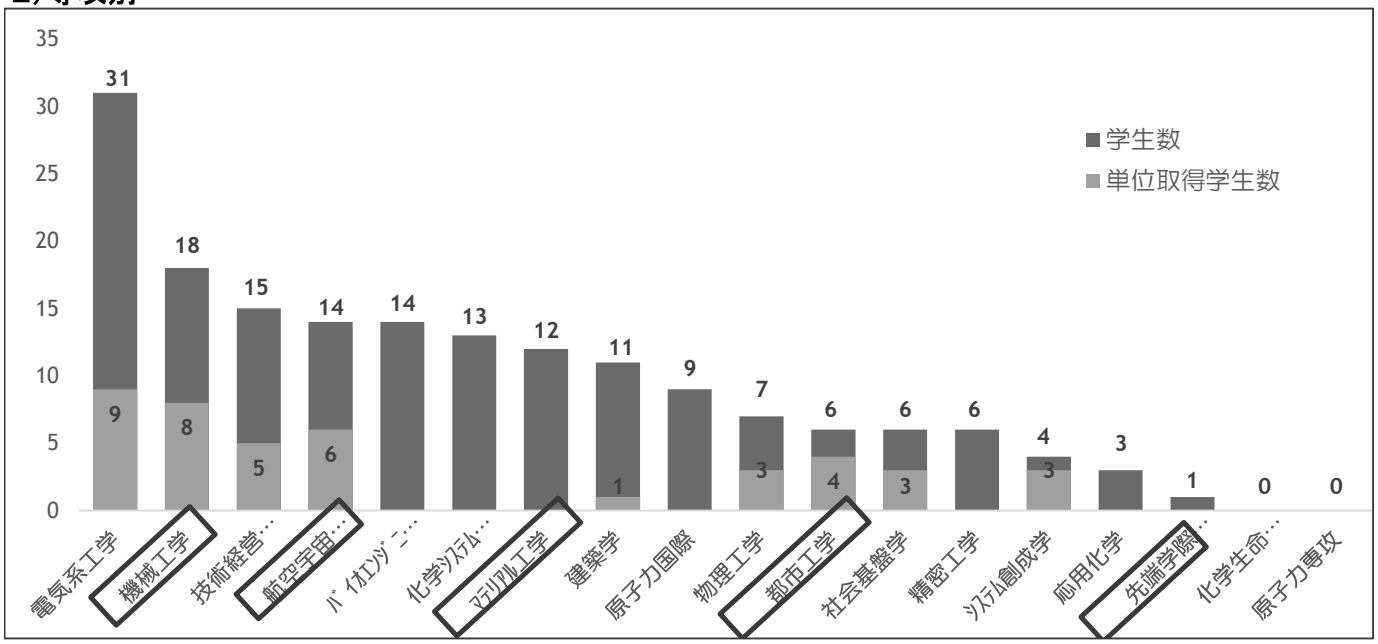
## 1．2020年度S1S2 工学系研究科日本語教室修了者数

### 1）研究科別ーレベル別

＊（）は単位取得学生数

| 研究科＼レベル | | 初級1 | 初級2 | 中級1 | 中級2 | 中級3 | 上級1 | 上級2 | 延べ合計 | 実数合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①工学系研究科 | | 21 | 21 | 42 | 28 | 28 | 27 | 3 | 170(42) | **108(36)** |
| ②情報理工学系 | | 5 | 4 | 6 | 16 | 9 | 3 | 1 | 44(12) | **26(10)** |
| ③新領域創成科学研究科 | | 1 | 1 | 4 | 3 | 3 | 1 | 1 | 14(6) | **7(4)** |
| ④他研究科 | 農学生命科学研究科 | 2 | | 8 | 6 | 7 | 3 | 2 | 28(23) | 20(17) |
| | 公共政策 大学院 | 4 | 1 | 6 | 1 | 2 | 4 | 1 | 19(11) | 15(10) |
| | 理学系研究科 | 1 | | 5 | 1 | 1 | 1 | | 9(1) | 5(1) |
| | 医学系研究科 | 0 | 1 | 1 | 3 | 1 | | | 6(1) | 5(1) |
| | 情報学環・学際情報学府 | 1 | 0 | 2 | 1 | 0 | 1 | 1 | 6(4) | 5(4) |
| | 経済学研究科 | | | 2 | | | | | 2(0) | 1(0) |
| | 総合文化研究科 | | 1 | 1 | | | 1 | | 3(0) | 3(0) |
| | 東洋文化研究所 | | 1 | | | | | | 1(0) | 1(0) |
| | 薬学系研究科 | | | 1 | | | | | 1(0) | 1(0) |
| | ④計 | 8 | 4 | 26 | 12 | 11 | 10 | 4 | **75(40)** | **56(33)** |
| ⑤USTEP | | 0 | 3 | 3 | 0 | 8 | 2 | 1 | **17(16)** | **11(10)** |
| 合計①～⑤ | | **35(12)** | **33(14)** | **81(22)** | **59(15)** | **59(24)** | **43(20)** | **10(9)** | **320(116)** | **208(94)** |

### 2）専攻別



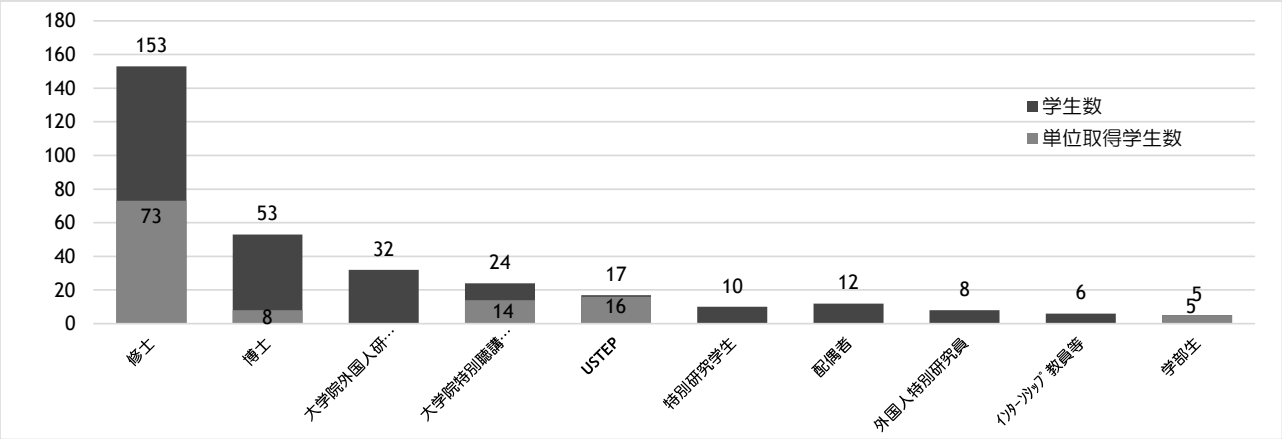

:単位が修了要件として認められている専攻

### 3）国籍ーレベル別

| | 国籍＼レベル | 初級１ | 初級２ | 中級１ | 中級２ | 中級３ | 上級１ | 上級２ | 延べ合計 | 実数合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 中国 | 9 | 11 | 25 | 21 | 30 | 23 | 7 | 126 | 85 |
| 2 | タイ | 3 | | 3 | 1 | 2 | 4 | | 13 | 10 |
| 3 | フランス | 1 | 3 | 2 | 1 | 3 | | | 10 | 10 |
| 4 | 台湾 | | | 8 | 7 | 5 | 2 | 1 | 23 | 9 |
| 5 | アメリカ合衆国 | 1 | 1 | 5 | 4 | | 5 | | 16 | 8 |
| 6 | ドイツ | 1 | | 3 | 6 | 1 | 1 | | 12 | 7 |
| 7 | インド | 5 | 1 | 5 | | | | | 11 | 7 |
| 8 | ブラジル | | 1 | 2 | 5 | 3 | 1 | | 12 | 5 |
| 9 | カナダ | | 1 | | | 6 | | | 7 | 5 |
| 10 | フィリピン | 1 | 2 | 1 | 1 | | | | 5 | 5 |
| 11 | オーストリア | | | 6 | 2 | | | | 8 | 4 |
| 12 | インドネシア | 1 | 1 | 1 | 1 | | 2 | | 6 | 4 |
| 13 | 韓国 | 1 | 1 | | | | 1 | 1 | 4 | 4 |
| 14 | シンガポール | | | 2 | 1 | | 1 | | 4 | 4 |
| 15 | スウェーデン | 1 | 1 | | | 3 | | | 5 | 3 |
| 16 | ロシア | | 1 | | 4 | | | | 5 | 2 |
| 17 | スイス | 1 | | 3 | | | | | 4 | 2 |
| 18 | 香港 | | | | | 3 | 1 | | 4 | 2 |
| 19 | トルコ | 1 | 2 | | | | | | 3 | 2 |
| 20 | ベトナム | 1 | | 1 | | | | | 2 | 2 |
| 21 | ハンガリー | | 1 | | 1 | | | | 2 | 2 |
| 22 | フィンランド | | 1 | | | | | 1 | 2 | 2 |
| 23 | ノルウェー | 2 | | | | | | | 2 | 2 |
| 24 | ＊その他 | 6 | 5 | 14 | 4 | 3 | 2 | | 34 | 22 |
| **合計** | | **35** | **33** | **81** | **59** | **59** | **43** | **10** | **320** | **208** |

＊その他（実数1名）：ｲﾀﾘｱ・ｵｰｽﾄﾗﾘｱ・ｵﾗﾝﾀﾞ・ｺﾛﾝﾋﾞｱ・ｻﾞﾝﾋﾞｱ・ｽﾍﾟｲﾝ・ｽﾘﾗﾝｶ・ﾁｪｺ・ﾁﾘ・ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ・ﾈﾊﾟｰﾙ・ﾊﾞﾝｸﾞﾗﾃﾞｼｭ・ﾌﾞﾙｶﾞﾘｱ・ﾍﾟﾙｰ・ﾎﾟｰﾗﾝﾄﾞ・ﾎﾟﾙﾄｶﾞﾙ・ﾏﾚｰｼｱ・ﾐｬﾝﾏｰ・ﾒｷｼｺ・ﾓﾛｯｺ・ﾗﾄﾋﾞｱ英国

### 3）身分別




## 2.　4専攻日本語教室修了者数（実数）

| 社基 | | 初級1 | 初級2A | 初級2B | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 社会基盤学 | 0 | 8 | 14 | 22 |
| | 単位取得者 | 0 | 8 | 14 | 22 |

*初級1は4月入学者数減少に伴い日本語レベル入門相当の該当者がいなくなったため開講せず

| 都市工 | | 初級Ⅰ都市総合A | 初級Ⅱ都市総合A | 中級Ⅰ都市総合A | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 都市工学日本語教室（学生内訳） | 都市工1/工学系1/他研究科0 | 都市工3/工学系1/他研究科2 | 都市工3/工学系1/他研究科0 | 都市工7/工学系3/他研究科2 |
| | 単位取得者 | 1 | 6 | 0 | 7 |

| シス創 | | 中級Ⅰ創成系総合 | 中級Ⅰ創成系読解 | 中級Ⅲ創成系総合 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| | ｼｽﾃﾑ創成日本語教室（学生内訳） | ｼｽﾃﾑ創成系5/工学系2/他研究科0 | ｼｽﾃﾑ創成系4/工学系0/他研究科0 | ｼｽﾃﾑ創成系2/工学系1/他研究科0 | ｼｽﾃﾑ創成系11/工学系3/他研究科0 |
| | 単位取得者 | 0 | 1 | 0 | 1 |

| IME | | 中級 | 個別指導 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| | IME日本語教室 | IME:2<br>その他工学系:0 | ― | ― |

＊個別指導は毎回希望者の申込を受けて行うため回答不可能

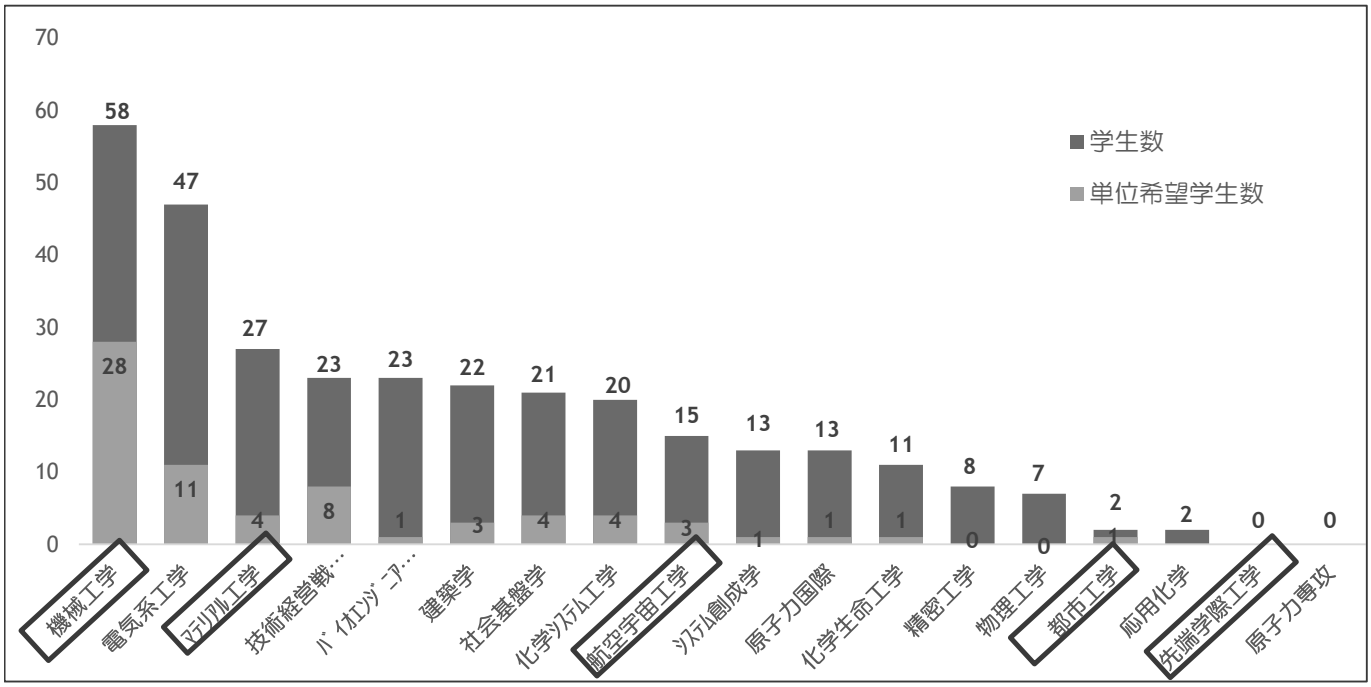
## 1．2020年度A1A2 工学系研究科日本語教室受講者数

### 1）研究科別ーレベル別

＊（）は単位希望学生数

| 研究科＼レベル | | 初級1 | 初級2 | 中級1 | 中級2 | 中級3 | 上級1 | 上級2 | 延べ合計 | 実数合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①工学系研究科 | | 57 | 32 | 53 | 56 | 50 | 50 | 14 | 312(70) | **213(60)** |
| ②情報理工学系 | | 8 | 3 | 6 | 7 | 13 | 15 | 0 | 52(18) | **34(16)** |
| ③新領域創成科学研究科 | | 4 | 3 | 8 | 9 | 10 | 7 | 0 | 41(15) | **24(10)** |
| ④他研究科 | 農学生命科学研究科 | 2 | 1 | 0 | 6 | 1 | 4 | | 14(4) | 11(4) |
| | 公共政策 大学院 | 3 | 2 | 6 | 3 | 2 | 4 | | 20(11) | 14(8) |
| | 理学系研究科 | 1 | | 1 | 2 | 1 | | | 5(0) | 3(0) |
| | 医学系研究科 | | 1 | | | | | | 1(1) | 1(1) |
| | 情報学環・学際情報学府 | | 1 | 3 | 7 | 3 | 7 | | 21(5) | 11(2) |
| | 経済学研究科 | | | | 1 | 6 | 6 | | 13(0) | 4(0) |
| | 総合文化研究科 | 1 | | 2 | 1 | | 5 | | 9(1) | 5(1) |
| | 薬学系研究科 | | | | | 2 | | | 2(0) | 1(0) |
| | **④計** | 7 | 5 | 12 | 20 | 15 | 26 | | **85(21)** | **50(16)** |
| ⑤USTEP | | | | | | | 1 | | **1(1)** | **1(1)** |
| **合計①～⑤** | | **76** | **43** | **79** | **92** | **88** | **99** | **14** | **491(125)** | **322(103)** |

### 2）専攻別



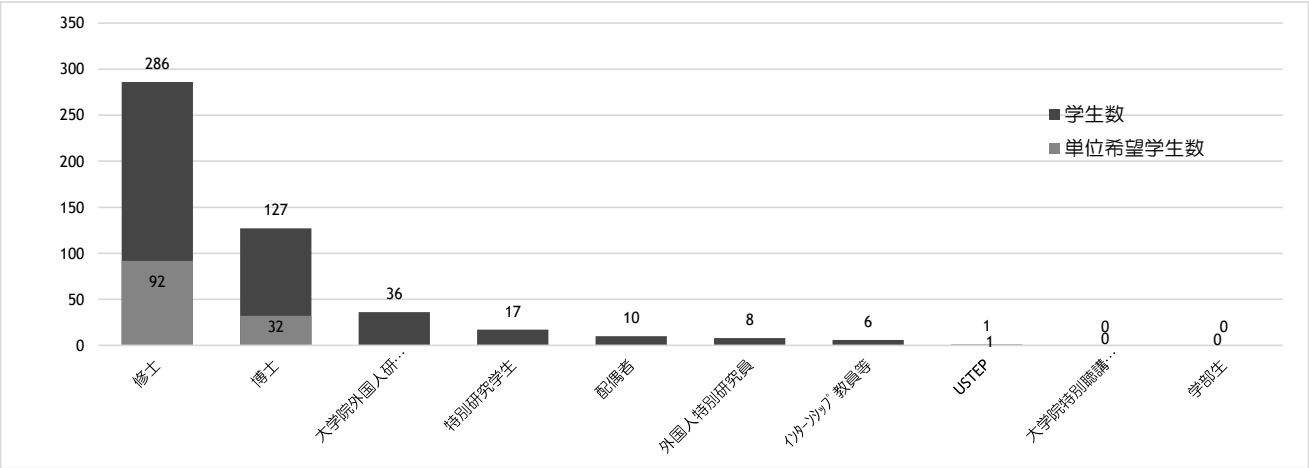

：単位が修了要件として認められている専攻

### 3）国籍ーレベル別

| | 国籍＼レベル | 初級１ | 初級２ | 中級１ | 中級２ | 中級３ | 上級１ | 上級２ | 延べ合計 | 実数合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 中国 | 40 | 14 | 42 | 51 | 66 | 65 | 10 | 288 | 182 |
| 2 | 台湾 | 3 | 1 | 4 | 8 | 7 | 6 | | 29 | 18 |
| 3 | インド | 8 | 3 | 1 | 6 | | | | 18 | 15 |
| 4 | タイ | 2 | 2 | | 3 | 2 | 2 | | 11 | 9 |
| 5 | アメリカ合衆国 | 1 | 1 | 5 | 4 | 3 | 2 | | 16 | 7 |
| 6 | インドネシア | 4 | 2 | | | | | 1 | 7 | 7 |
| 7 | ベトナム | 2 | 3 | | | | 3 | | 8 | 6 |
| 8 | ブラジル | | | 2 | 1 | 4 | 3 | 2 | 12 | 5 |
| 9 | シンガポール | | 1 | 3 | 1 | | 2 | | 7 | 5 |
| 10 | カナダ | | | | 2 | | 4 | | 6 | 5 |
| 11 | 韓国 | 3 | 2 | | | | | | 5 | 5 |
| 12 | バングラデシュ | 2 | 1 | 1 | 1 | | | | 5 | 5 |
| 13 | フランス | 1 | 1 | | 4 | | 3 | | 9 | 4 |
| 14 | マレーシア | 1 | 2 | | | | 1 | | 4 | 4 |
| 15 | ロシア | | 2 | 5 | | 2 | | | 9 | 3 |
| 16 | フィリピン | | 1 | 3 | | | | | 4 | 3 |
| 17 | ミャンマー | 1 | | 1 | 1 | | | | 3 | 3 |
| 18 | ポルトガル | | | | 4 | | | | 4 | 2 |
| 19 | コロンビア | | 1 | 3 | | | | | 4 | 2 |
| 20 | リトアニア | | 1 | | | | 2 | | 3 | 2 |
| 21 | オーストラリア | | | | 2 | | 1 | | 3 | 2 |
| 22 | トルコ | | 1 | 2 | | | | | 3 | 2 |
| 23 | ドイツ | | | 1 | | | | 1 | 2 | 2 |
| 24 | ＊その他 | 8 | 4 | 6 | 4 | 4 | 5 | | 31 | 24 |
| 合計 | | 76 | 43 | 79 | 92 | 88 | 99 | 14 | 491 | 322 |

＊その他（実数1名）：ｲﾀﾘｱ・ｲﾗﾝ・ｵｰｽﾄﾘｱ・ｶｻﾞﾌｽﾀﾝ・ｻｳｼﾞｱﾗﾋﾞｱ・ｻﾞﾝﾋﾞｱ・ｽｲｽ・ｽﾍﾟｲﾝ・ｽﾘﾗﾝｶ・ﾁｪｺ・ﾁﾘ・ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ
ﾊﾞｰﾚｰﾝ・ﾊﾟｷｽﾀﾝ・ﾊﾝｶﾞﾘｰ・ﾌﾞﾙｶﾞﾘｱ・ﾍﾟﾙｰ・ﾎﾟｰﾗﾝﾄﾞ・ﾓﾝｺﾞﾙ・ﾗﾄﾋﾞｱ・ﾙｰﾏﾆｱ・ﾙｸｾﾝﾌﾞﾙｸ・香港・日本

### 4）身分別




## 2.　4専攻日本語教室受講者数（実数）

| | | 初級1A | 初級1B | 初級2 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 社基 | 社会基盤学 | 7 | 8 | 0 | 15 |
| | 単位コース選択者 | 7 | 7 | 0 | 14 |

| | | 初級Ⅰ都市総合B | 初級Ⅱ都市総合B | 中級Ⅰ都市総合B | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 都市工 | 都市工学日本語教室（学生内訳） | 都市工11/その他工学系1/他研究科0 | 都市工3/その他工学系2/他研究科0 | 都市工4/その他工学系1/他研究科1 | 都市工18/その他工学系4/他研究科1 |
| | 単位コース選択者 | 10 | 3 | 5 | 18 |

| | | 初級 | 中級Ⅱ創成系総合 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| シス創 | ｼｽﾃﾑ創成日本語教室（学生内訳） | ｼｽﾃﾑ創成系5/その他工学系0/他研究科0 | ｼｽﾃﾑ創成系9/その他工学系4/他研究科1 | ｼｽﾃﾑ創成系14/その他工学系4/他研究科1 |
| | 単位コース選択者 | 1 | 2 | 3 |

| | | 中級 | 上級 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| IME | IME日本語教室 | IME2/その他工学系0/他研究科0 | IME2/その他工学系0/他研究科0 | IME4/その他工学系0/他研究科0 |

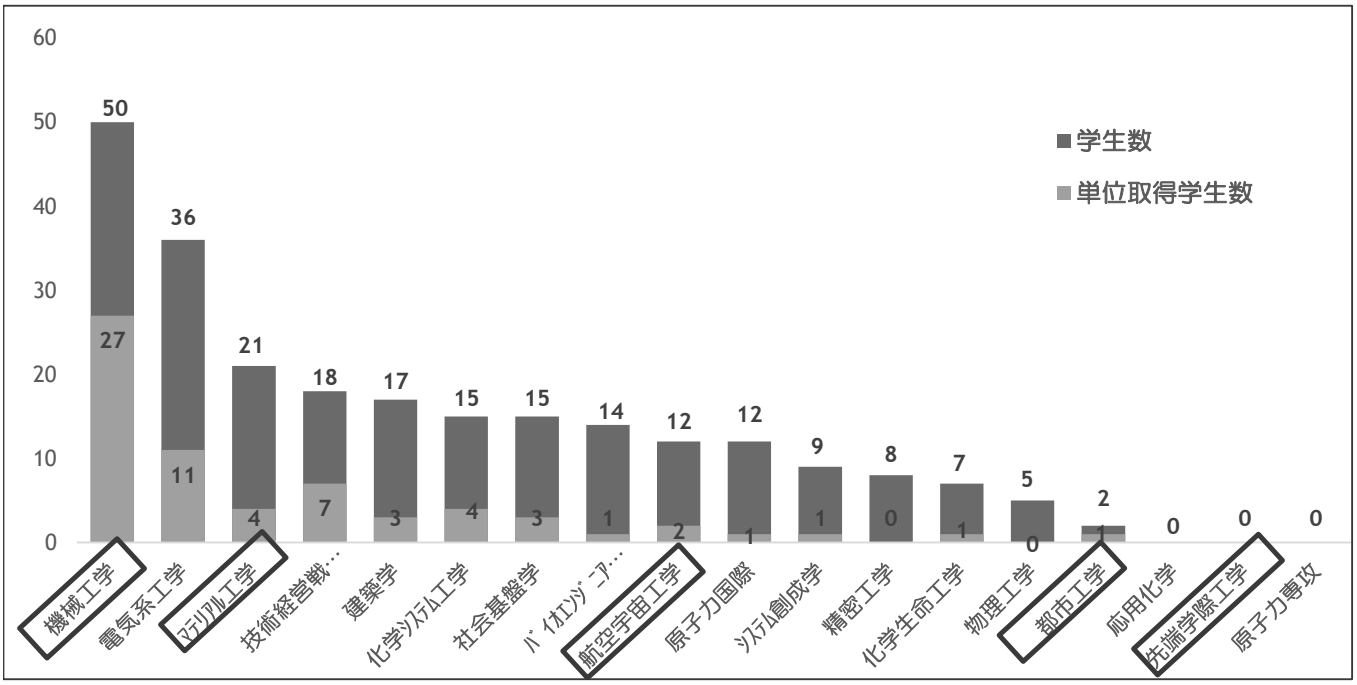
## 1．2020年度A1A2 工学系研究科日本語教室修了者数

### 1）研究科別ーレベル別

＊（）は単位申請取得学生数

| 研究科＼レベル | | 初級1 | 初級2 | 中級1 | 中級2 | 中級3 | 上級1 | 上級2 | 延べ合計 | 実数合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ①工学系研究科 | | 42 | 24 | 48 | 48 | 38 | 38 | 3 | 241(66) | **163(53)** |
| ②情報理工学系 | | 8 | 2 | 3 | 5 | 10 | 13 | | 41(15) | **27(14)** |
| ③新領域創成科学研究科 | | 4 | 2 | 6 | 8 | 6 | 3 | | 29(12) | **20(9)** |
| ④他研究科 | 農学生命科学研究科 | | 1 | | 3 | 1 | 2 | | 7(4) | 6(4) |
| | 公共政策 大学院 | 3 | 1 | 5 | 3 | 1 | 4 | | 17(11) | 13(8) |
| | 理学系研究科 | 1 | | 1 | 2 | | | | 4 | 2 |
| | 医学系研究科 | | 1 | | | | | | 1(1) | 1(1) |
| | 情報学環・学際情報学府 | | | 3 | 5 | 2 | 6 | | 16(5) | 7(2) |
| | 経済学研究科 | | | | | | 2 | | 2 | 1 |
| | 総合文化研究科 | 1 | | | 1 | | 3 | | 5(1) | 4(1) |
| | 薬学系研究科 | | | | | 1 | | | 1 | 1 |
| | 地震研究所 | | | | | 1 | | | 1 | 1 |
| | ④計 | 5 | 3 | 9 | 14 | 6 | 17 | | **54(22)** | **36(16)** |
| ⑤USTEP | | | | | | | 1 | | 1(1) | 1(1) |
| 合計①～⑤ | | **59** | **31** | **66** | **75** | **60** | **72** | **3** | **366(116)** | **247(93)** |

### 2）専攻別



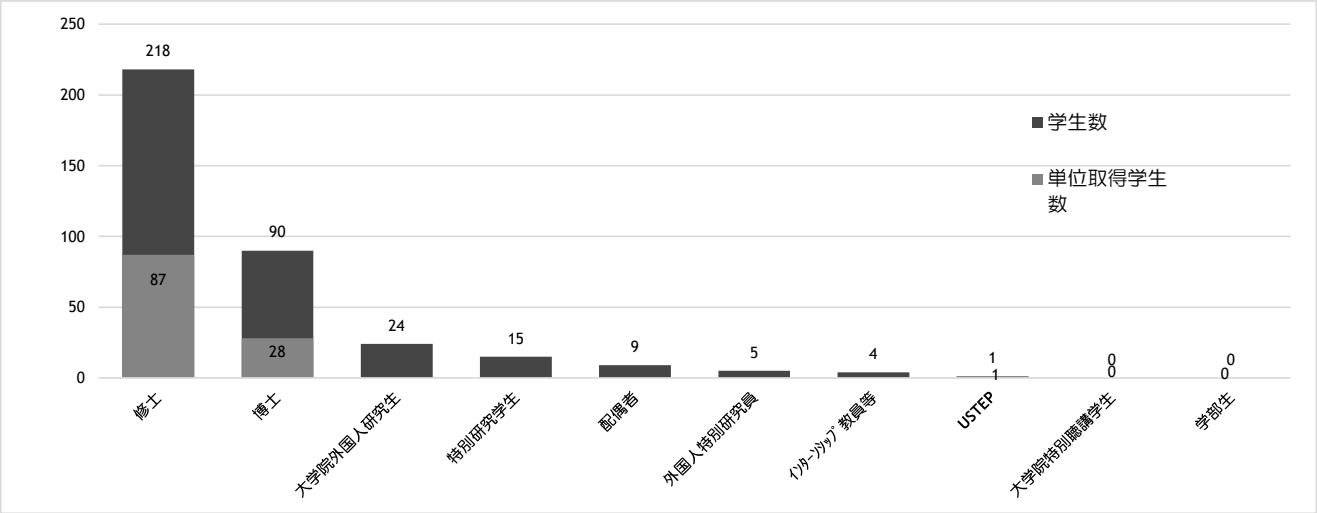

：単位が修了要件として認められている専攻

### 3）国籍ーレベル別

| | 国籍＼レベル | 初級１ | 初級２ | 中級１ | 中級２ | 中級３ | 上級１ | 上級２ | 延べ合計 | 実数合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 中国 | 34 | 10 | 36 | 35 | 44 | 49 | 3 | 211 | 141 |
| 2 | 台湾 | 3 | 1 | 4 | 8 | 6 | 3 | | 25 | 16 |
| 3 | アメリカ合衆国 | 1 | 1 | 5 | 4 | 3 | 2 | | 16 | 7 |
| 4 | インド | 4 | 1 | | 6 | | | | 11 | 8 |
| 5 | タイ | 1 | 2 | | 3 | 1 | 2 | | 9 | 8 |
| 6 | ブラジル | | | 2 | | 4 | 3 | | 9 | 3 |
| 7 | フランス | 1 | | | 4 | | 2 | | 7 | 3 |
| 8 | ロシア | | 1 | 5 | | 1 | | | 7 | 3 |
| 9 | ベトナム | 2 | 2 | | | | 2 | | 6 | 5 |
| 10 | シンガポール | | 1 | 2 | 1 | | 1 | | 5 | 5 |
| 11 | ポルトガル | | | | 5 | | | | 5 | 2 |
| 12 | インドネシア | 2 | 2 | | | | | | 4 | 4 |
| 13 | カナダ | | | | 2 | | 2 | | 4 | 4 |
| 14 | 韓国 | 2 | 2 | | | | | | 4 | 4 |
| 15 | バングラデシュ | 2 | 1 | 1 | | | | | 4 | 4 |
| 16 | コロンビア | | 1 | 3 | | | | | 4 | 2 |
| 17 | ミャンマー | 1 | | 1 | 1 | | | | 3 | 3 |
| 18 | マレーシア | | 2 | | | | | | 2 | 2 |
| 19 | ＊その他 | 6 | 4 | 7 | 6 | 1 | 6 | | 30 | 23 |
| 合計 | | 59 | 31 | 66 | 75 | 60 | 72 | 3 | 366 | 247 |

＊その他（実数1名）：ｲﾀﾘｱ・ｲﾗﾝ・ｵｰｽﾄﾗﾘｱ・ｵｰｽﾄﾘｱ・ｶｻﾞﾌｽﾀﾝ・ｻｳｼﾞｱﾗﾋﾞｱ・ｻﾞﾝﾋﾞｱ・ｽｲｽ・ｽﾍﾟｲﾝ・ﾁｪｺ・ﾁﾘ・ﾄﾙｺ
ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ・ﾊﾟｷｽﾀﾝ・ﾍﾟﾙｰ・ﾌｨﾘﾋﾟﾝ・ﾎﾟｰﾗﾝﾄﾞ・ﾗﾄﾋﾞｱ・ﾘﾄｱﾆｱ・ﾙｰﾏﾆｱ・香港・英国・日本

### 4）身分別




## 2.　4専攻日本語教室修了者数（実数）

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 社基 | | 初級1A | 初級1B | 初級2 | 合計 |
| | 社会基盤学 | 6 | 7 | 非開講 | 13 |
| | 単位取得者 | 6 | 7 | | 13 |
| 都市工 | | 初級Ⅰ都市総合B | 初級Ⅱ都市総合B | 中級Ⅰ都市総合B | 合計 |
| | 都市工学日本語教室（学生内訳） | 都市工10/その他工学系1/他研究科0 | 都市工3/その他工学系1/他研究科0 | 都市工4/その他工学系2/他研究科0 | 都市工17/その他工学系4/他研究科0 |
| | 単位取得者 | 9 | 2 | 5 | 16 |
| シス創 | | 初級 | 中級Ⅱ創成系総合 | 合計 | |
| | ｼｽﾃﾑ創成日本語教室（学生内訳） | ｼｽﾃﾑ創成系5/その他工学系0/他研究科0 | ｼｽﾃﾑ創成系9/その他工学系4/他研究科1 | ｼｽﾃﾑ創成系14/その他工学系4/他研究科1 | |
| | 単位取得者 | 1 | 2 | 3 | |
| IME | | 中級 | 上級 | 合計 | |
| | IME日本語教室 | IME2/その他工学系0/他研究科0 | IME2/その他工学系0/他研究科0 | IME4/その他工学系0/他研究科0 | |

## Can Do Statements（読む・書く） 東京大学工学系研究科日本語教室 20200131

＜記入日＞ ____年____月____日

下の項目について適切なものを選んで、0、1、2を記入してください。（0：できない 1：少しできる 2：よくできる）

| | | | 聞く |
|---|---|---|---|
| 初 | 1 | | 相手の名前・専攻・研究室が聞いてわかる |
| 1 | 2 | | 物の値段が聞いてわかる |
| | 3 | | 日常生活や大学で使う物の名前が聞いてわかる |
| | 4 | | ゼミやミーティングの日程や時間が聞いてわかる |
| 初 | 5 | | 物や建物の場所が聞いてわかる |
| 2 | 6 | | 電車の行き先や乗り換えが聞いてわかる |
| | 7 | | 友達に誘われた時、聞いてわかる |
| 初 | 8 | | 時間や場所を問い合わせた時、答えが聞いてわかる |
| 3 | 9 | | 大学の窓口で必要な説明が聞いてわかる |
| | 10 | | 駅や空港のアナウンスで必要なことが聞いてわかる |
| 初 | 11 | | 身近な話題に関する意見が聞いてわかる |
| 4 | 12 | | 身近な人からの電話の用件が聞いてわかる |
| | 13 | | 日常的な話題において出された提案が聞いてわかる |
| 中 | 14 | | 緊急放送・地震訓練放送などが聞いてわかる |
| 1 | 15 | | 天気予報が聞いてわかる |
| | 16 | | 電話の録音メッセージが聞いてわかる |
| | 17 | | 研究室・クラブ活動での指示・説明が聞いてわかる |
| | 18 | | 大学の教職員の事務的な説明が聞いてわかる |
| 中 | 19 | | 専門的なプレゼンテーションの要点がわかる |
| 2 | 20 | | 研究室のミーティングの内容が聞いてわかる |
| | 21 | | アニメ・ドラマ・映画のストーリーがわかる |
| | 22 | | 専門の授業全体の流れが聞いてわかる |
| 中 | 23 | | 研究に関する指導教員のコメントが聞いてわかる |
| 3 | 24 | | テレビのニュースやドキュメンタリーがわかる |
| | 25 | | ゼミの発表が聞いてわかる |
| | 26 | | ゼミの発表後の質疑応答の内容がわかる |
| 上 | 27 | | 就職などの面接で質問されたことがわかる |
| 1 | 28 | | 歓迎会など公式の場でのスピーチがわかる |
| | 29 | | 自分の専門分野の学会発表や講演が理解できる |
| | 30 | | 自分の専門分野での話題での議論を聞いて理解できる |
| 上 | 31 | | 抽象的で複雑な内容を聞いて要点がわかる |
| 2 | 32 | | くだけた表現から改まった表現まで幅広くスタイルが変化する話を聞いて問題なく理解できる |
| | 33 | | 専門外の分野の学会発表や講演を聞いて問題なく理解できる |
| | 34 | | 専門外の分野の話題での活発な議論を聞いて問題なく理解できる |

| | | 話す |
|---|---|---|
| 1 | | あいさつができる |
| 2 | | 名前・出身地・専攻・研究室名を言うことができる |
| 3 | | 今日の予定や昨日したことを言うことができる |
| 4 | | 自己紹介をした後の質問に答えられる |
| 5 | | 物や建物の場所を聞くことができる |
| 6 | | 日常生活・家族について話すことができる |
| 7 | | 友だちを誘ったり、誘われた時の返事ができる |
| 8 | | 大学の窓口で質問ができる |
| 9 | | 遅刻・欠席・早退の理由を話すことができる |
| 10 | | 自分の部屋や研究室、町の描写ができる |
| 11 | | 身の回りの変化について話すことができる |
| 12 | | 自分の仕事・専門・趣味について説明できる |
| 13 | | 研究室の環境、好き嫌いなどについてプレゼンテーションができる |
| 14 | | 図や表の説明ができる |
| 15 | | 自己紹介の場面で敬語が使える |
| 16 | | 授業で先生に質問ができる |
| 17 | | 実験方法や研究方法を順序だてて話すことができる |
| 18 | | 友達や教員にアドバイスを求めることができる |
| 19 | | 研究室の人や友達と雑談ができる |
| 20 | | ミーティングなどの日程に関して自分の希望を述べ調整できる |
| 21 | | 研究計画などを論理的に話すことができる |
| 22 | | 大学の教職員に質問したり、説明することができる |
| 23 | | ゼミで発表することができる |
| 24 | | ニュースの要旨を話すことができる |
| 25 | | 講義の途中や後で、教員に敬語を用いて質問ができる |
| 26 | | 初対面の人と雑談することができる |
| 27 | | 就職などの面接で質問に適切に答えることができる |
| 28 | | 歓迎会など公式の場でスピーチができる |
| 29 | | 自分の専門分野の学会でのディスカッションで意見が言える |
| 30 | | 会議や打ち合わせで意見をまとめたり進行役を務めたりできる |
| 31 | | 母語話者同士の活発な会話に積極的に参加できる |
| 32 | | 学会で口頭発表と質疑応答が適切にできる |
| 33 | | フォーマルな会議やシンポジウム等で意見をとりまとめたり進行役を適切に務めたりできる |
| 34 | | 自分の専門外の話題の議論で流暢かつ正確に意見を言うことができる |

## Can Do Statements （話す・聞く） 東京大学工学系研究科日本語教室 20200131

＜記入日＞ ____年____月____日

下の項目について適切なものを選んで、0、1、2を記入してください。（0：できない 1：少しできる 2：よくできる）

| | | 読 む |
|---|---|---|
| 1 | | ひらがなを読むことができる |
| 2 | | 日本語で書かれた自分の名前がわかる |
| 3 | | ひらがなとカタカナのメニューがわかる |
| 4 | | 日本語で書かれた自宅と大学の住所がわかる |
| 5 | | 日本語で書かれた自分の大学名・研究室名・専門がわかる |
| 6 | | スケジュール変更のお知らせがわかる |
| 7 | | 駅や食堂の券売機の表示画面がわかる |
| 8 | | 研究室・実験室の注意書きがわかる |
| 9 | | 駅・銀行・大学の案内表示がわかる |
| 10 | | カード・はがきが読んでわかる |
| 11 | | 広告・チラシがわかる |
| 12 | | 友達からのテキストメッセージが読んでわかる |
| 13 | | 自分の専門分野の論文・専門書の題名・履修科目名がわかる |
| 14 | | 易しい科学技術／専門の文章がわかる |
| 15 | | 事務からの書類が読んでわかる |
| 16 | | 身近な人からの電子メールが読んでわかる |
| 17 | | 公共料金のお知らせ、不在配達通知がわかる |
| 18 | | 漫画のストーリーがわかる |
| 19 | | 板書が見てわかる |
| 20 | | ゼミの発表資料（PPTスライド・レジュメ）がわかる |
| 21 | | 論文の要旨が読んでわかる |
| 22 | | 大学内の掲示板が見てわかる |
| 23 | | 専門に関する資料の内容がわかる |
| 24 | | ニュースレター・メールマガジンが読める |
| 25 | | 映画やテレビなどの字幕が見てわかる |
| 26 | | 研究会や会議の報告書が読める |
| 27 | | パソコンや携帯電話の説明書（マニュアル）がわかる |
| 28 | | WEBサイトや会社案内の情報がわかる |
| 29 | | 論文・専門書が読んで概ねわかる |
| 30 | | 一般的な内容の新聞・雑誌・書籍が読んで理解できる |
| 31 | | 専門外の記事や論文の概要を理解できる |
| 32 | | 専門書を含む幅広い書籍や論文を読み、その背景や意見を問題なく読み取ることができる |
| 33 | | 様々な通信文・通知文を読み、問題なく理解できる |
| 34 | | 複雑な内容の契約書、就業規則などを正確に読み取ることができる |

| | | 書 く |
|---|---|---|
| 1 | | ひらがなを書くことができる |
| 2 | | 自分の名前をカタカナで書くことができる |
| 3 | | 今日のスケジュールを書くことができる |
| 4 | | 自分の大学名・研究室名・専門を漢字で書くことができる |
| 5 | | 自宅と大学の住所を漢字で書くことができる |
| 6 | | 自分の国や自分の紹介を書くことができる |
| 7 | | 簡単なメッセージのメモを書くことができる |
| 8 | | 趣味や得意なことについて書くことができる |
| 9 | | 自分のことについて、SNSなどに書きこむことができる |
| 10 | | カード・はがきなどを書くことができる |
| 11 | | 日本語で日記を書くことができる |
| 12 | | 友達にテキストメッセージを書くことができる |
| 13 | | 打ち合わせで、メモを書きとることができる |
| 14 | | 履歴書を書くことができる |
| 15 | | 事務的な書類に必要なことを記入することができる |
| 16 | | お礼の手紙を手書きで書くことができる |
| 17 | | 奨学金の申請書類に記入することができる |
| 18 | | 身近な人に電子メールを書くことができる |
| 19 | | 講義を聞いて、ノートをとることができる |
| 20 | | ゼミの発表資料（PPスライド・レジュメ）を書くことができる |
| 21 | | 推薦状の依頼書を書くことができる |
| 22 | | 論文の要旨を書くことができる |
| 23 | | 研究計画書を書くことができる |
| 24 | | 授業のレポートを書くことができる |
| 25 | | プレゼンの発表原稿を書くことができる |
| 26 | | 状況に応じた許可願いや謝罪文を書くことができる |
| 27 | | 就職のための自己PRや志望動機などを書くことができる |
| 28 | | 研究会や会議の報告書を書くことができる |
| 29 | | 抽象的な内容についてある程度まとまった長さの意見文が書ける |
| 30 | | フォーマットにしたがって、さまざまな用途の通信文（メール等）が書ける |
| 31 | | 関心のある作品や文献の批評文が書ける |
| 32 | | 場面や受け手、内容に合わせて適切な文体を使い、フォーマルからインフォーマルまで幅広い通信文（メール等）が書ける |
| 33 | | 研究の助成金等の申請書を書くことができる |
| 34 | | 学術論文や長い論説文が書ける |

2020 言語背景調査　Language Background Questionnaire

1. 専攻：
2. 身分：□研究生　□修士　□博士　□研究員　□交換留学生　□USTEP　□学部生　□配偶者　□その他：
3. 身分で「その他」と答えた方は詳しく答えてください。
4. 母語
5. 現在の留学が終わった後の予定　　日本で就職する/日本で進学する/帰国する/分からない
6. 現在、JLCSE 以外では、どのような形態で授業をしていますか。
   □オンライン授業のみ　□オンライン授業と対面授業　□対面授業のみ　□その他
7. 「その他」と答えた方は詳しく答えてください。
8. 東京大学でどのくらい勉強する予定ですか。
   □１～３ヶ月　□４～６ヶ月　□７ヶ月～１年　□１～２年　□２年以上
9. 日本語学習歴(自国)
   □なし　□１～３ヶ月　□４～６ヶ月　□７ヶ月～１年　□１～２年　□２年以上
10. 日本語学習歴(日本)
   □なし　□１～３ヶ月　□４～６ヶ月　□７ヶ月～１年　□１～２年　□２年以上
11. 現在取っている科目のレベル
   □初級Ⅰ（入門・初級１・初級２・ｲﾝﾃﾝｼﾌﾞ初級Ⅰ）□初級Ⅱ（初級３・初級４・ｲﾝﾃﾝｼﾌﾞ初級Ⅱ）□中級１　□中級２　□中級３　□上級１　□上級２
12. 指導教員と研究について話す時、あなたは主に何語を使いますか。
   □日本語　□英語　□日英両方　□その他
13. 日本人学生と研究について話す時、あなたは主に何語を使いますか。
   □日本語　□英語　□日英両方　□その他
14. 留学生同士で研究について話す時、あなたは主に何語を使いますか。
   □日本語　□英語　□日英両方　□その他
15. 指導教官との雑談時、あなたは主に何語を使いますか。
   □日本語　□英語　□日英両方　□その他
16. 日本人との雑談時、あなたは主に何語を使いますか。
   □日本語　□英語　□日英両方　□その他
17. 留学生同士の雑談時、あなたは主に何語を使いますか。
   □日本語　□英語　□日英両方　□その他
18. 研究室での研究発表には、主に何語が使われていますか。
   □日本語　□英語　□日英両方　□その他
19. 研究室での打ち合わせには、主に何語が使われていますか。
   □日本語　□英語　□日英両方　□その他
20. 研究に関する資料は、主に何語が使われていますか。
   □日本語　□英語　□日英両方　□その他
21. 指導教員は、あなたにどの程度の日本語能力を求めていますか。
   □全く求めていない　□初級レベル　□中級レベル　□上級レベル　□超上級レベル
22. あなたはどの程度の日本語能力を目指していますか。
   □全く目指していない　□初級レベル　□中級レベル　□上級レベル　□超上級レベル
23. 具体的に、どんな日本語能力を身につけたいですか。
24. 大学のあらゆる場面において、日本語ができなくて困ることがありますか。
   □ない　□あまりない　□ある　□よくある
25. どんな場面があるか、具体的に書いてください。

26. 大学以外の日常生活で、日本語ができなくて困ることがありますか。

□ない　□あまりない　□ある　□よくある

27. どんな場面か、具体的に書いてください。

2020年度S1S2学期コース　Japanese Language Class Questionnaire
評価

**このアンケートは、日本語プログラム/コースの評価のためのものです。回答結果は、日本語教室の報告書に掲載します。回答の内容によって成績は変わりません。また個人が特定される情報は公開しません。御協力をお願いいたします。**

1. 身分　：

| | まったく思わない | あまり思わない | そう思う | 強くそう思う |
|---|---|---|---|---|
| 2. コースおよび授業内容について、質問2〜8に答えて下さい。<br>コースの目標は明確だった。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3. 授業のスピードは適切だった。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4. 授業内容は分かりやすかった。 | 1 | 2 | 3 | 4 |

| | 多すぎる | 適切である | 少ない | 課題が出ていない |
|---|---|---|---|---|
| 5. 授業の課題の量はどうですか。 | 1 | 2 | 3 | 4 |

| | まったく思わない | あまり思わない | そう思う | 強くそう思う |
|---|---|---|---|---|
| 6. 担当教員は熱意を持って授業を行っていた。 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7. このコースの授業を受けて学習意欲が高まった | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8. このコースは自分にとって将来役に立つと思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 |

9. あなたは、この授業科目の予習・復習に
毎週どれくらい時間を使いましたか。

| まったく予習・復習しなかった | 1時間未満 | 1〜2時間 | 2〜3時間 | 3〜5時間 | 5時間以上 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |

10. このコースに出て、どんなことができるようになりましたか。

11. このコースについて自由にコメントして下さい。(教室、受講者数、テスト、宿題、試験、印象に残ったことなど)

12. オンライン授業に満足していますか。

**まったく満足していない/あまり満足していない/そこそこ満足している/　非常に満足している**

13. No.12で「あまり満足していない」や「まったく満足しない」と答え人は、具体的な内容を書いてください。

14. 2020A1A2学期の授業形態は対面授業、オンライン授業、または対面とオンライン授業のミックスのどちらがいいと思いますか。

対面授業/オンライン授業/対面授業とオンライン授業のミックス

15. オンライン授業の形式はどれがいいと思いますか。

音声や映像配信を用いたオンデマンド型授業/Zoomを用いたリアルタイム型授業/オンデマンド型授業とリアルタイム型授業のミックス

16. オンライン授業で困っていることは何ですか。該当する項目をすべて選んでください。

**先生に質問しにくい/集中力が続かない/授業支援ツールの使い方がわからない/通信に問題がある/授業教材がわかりにくい/発言が少ない/孤独感を感じる/その他**

17. No.16で「その他」と答え人は、具体的な内容を書いてください。

18. 日オンライン授業のいい点は何ですか。該当する項目をすべて選んでください。

先生に質問しやすい/自分のペースで学習ができる/教室より集中できる/学校に行かず時間を有効に使える/教材がわかりやすい/IT の知識やスキルが高まる/その他

19. No.18 で「その他」と答え人は、具体的な内容を書いてください。

20. 履修登録の手続きとプレイスメントテストについて、次の項目に答えて下さい。
履修登録の手続きは分かりやすかった。

| まったく思わない | あまり思わない | そう思う | 強くそう思う |
|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 |

21. No.20 で 1 または 2 を選んだ人は、どうしてそう思うか理由を教えてください。

22. プレイスメントテストの結果、適切なレベルのコースを履修することができた。

| まったく思わない | あまり思わない | そう思う | 強くそう思う |
|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 | 4 |

23. プレイスメントテストに関するコメントがあったら書いてください。(テストの説明、時間など)

24. 日本語教室（JLCSE）の Zoom Office を利用しましたか？　利用した/利用しなかった

25. No.24 で「利用した」と答え人は、どんなことに 利用しましたか。

コースの登録/試験のフィードバック/日本語の質問/その他

26. No.25 で「その他」と答え人は、具体的な内容を書いてください。

27. No.24 で「利用しなかった」と答え人は、どうして利用しませんでしたか。

時間があわなかった/質問がなかった/Zoom office を 知らなかった/その他

28. No.27 で「その他」と答え人は、具体的な内容を書いてください。

29. 日本語教室に期待していることはなんですか。該当する項目をすべて選んでください。

日本語学習/日本文化体/日本人学生との交流/大学生活・就職などの日本語支援/その他

30. No.29 で「その他」と答え人は、具体的な内容を書いてください。

INSTITUTE FOR INNOVATION IN INTERNATIONAL ENGINEERING EDUCATION (IIIEE)

PRESENTS

# International Lounge

online インターナショナルラウンジ

**Every Friday**
**12:10-13:10**
**(A1A2 Oct 2-Jan 22)**

・Zoomを使ってオンラインで開催します。

Want to make international friends?
Want to enjoy a multilingual atmosphere?
Want to learn about other cultures?
Come join us now!

Zoom IDはこちらから！
@g.ecc.u-tokyo.ac.jpのメールアドレスでアクセスしてください。

工学系研究科国際工学教育推進機構
ilatutokyo@gmail.com

インターナショナルな友達が欲しい?
外言語交流を楽しみたい?
他文化を学びたい?
さあ今すぐILへ!

東京大学 THE UNIVERSITY OF TOKYO

SCHOOL OF ENGINEERING THE UNIVERSITY OF TOKYO

---

日本語教室で留学生と学びませんか

# オンライン 学生授業ボランティア 募集中!

工学系研究科日本語教室では、留学生の日本語学習を支援してくださる学生授業ボランティアを募集しています。工学系研究科日本語教室には、初級から上級までさまざまな日本語コースがあり留学生が日本語を学んでいます。

主　　催： 大学院工学系研究科日本語教室
活動期間： 2020年10月2日　～　2021年1月22日
活動場所： オンライン（Zoomを使用）
活動頻度： 週1コマ(105分)～
募集人数： 30名程度
活動内容： 入門～上級のオンライン日本語クラスに参加して、グループワークや会話・ディスカッションのサポートをします.詳しくは右上のQRコードからJLCSEのホームページをご覧ください。

日本語教室HP

学生授業ボランティア説明会
※右記QRコードより
参加可能な日時をお知らせください

説明会日程調整

問い合わせ：工学系研究科日本語教室 工学部8号館128B教室
✉ nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp　☎ 03-5841-8826
※説明会の日程が合わない場合は、上記連絡先までご相談下さい

**執筆・編集者**

教授　古市　由美子
特任准教授　牛山　和子
特任助教　岡　葉子
　　金　瑜眞
事務補佐員　早坂　美和子
　　山畑　めぐみ

**執筆者**

非常勤講師　猪狩　美保
　　内田　あゆみ
　　大西　由美
　　片岡　さゆり
　　米谷　章子
　　佐藤　瑞恵
　　ハワード　文江
　　藤井　明子
　　宮瀬　真理
　　山口　真紀

**東京大学大学院工学系研究科日本語教室　報告書　2020 年度**

発　行　日：2021 年 3 月 31 日
編集兼発行者：東京大学大学院工学系研究科　国際工学教育推進機構
　　国際教育部門
発 行 責 任 者：古市由美子

113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学大学院工学系研究科日本語教室
E-mail：nihongo@jlcse.t.u-tokyo.ac.jp
電話：03-5841-8826　FAX：03-5800-2436
http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/